



marantz®

AV Pre Tuner
AV8801

取扱説明書

ご使用になる前に

ご購入いただきありがとうございます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。



感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

○記号は禁止の行為であることを告げるものです。



電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。



ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
必ず実施 火災・感電の原因となります。



電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。



電源プラグの刃および刃の付近にはほこりや金属物が付着しているときは

必ず実施 電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。



内部に水などの液体や異物を入れない

禁止 機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



水滴や水しぶきのかかるところに置かない

水ぬれ禁止 雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災・感電の原因となります。



ねじを外したり、分解や改造したりしない

分解禁止 内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



雷が鳴り出したら

接触禁止 機器や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

接触禁止 使用中、使用直後は上面や高温注意マークの面には触れないでください。機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。



高温注意



乾電池は充電しない

禁止 電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。



風呂・シャワー室では使用しない

水場での使用禁止 火災・感電の原因となります。



この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

水ぬれ禁止 こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠️ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠️ 注意
付属の電源コードを使用する
 他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
 また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
🚫 禁止
 電流量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

⚠️ 必ず実施
電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない
 電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
🚫 禁止
 根元まで差し込んでゆりみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
 また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

🚫 禁止
電源コードを熱器具に近付けない
 コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

🚫 禁止
電源プラグを抜くときは
 電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

🚫 ぬれ手禁止
濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
 感電の原因となることがあります。

🔌
すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する
 電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
 万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

⚠️ 必ず実施
機器の接続は説明書をよく読んでからおこなう
 テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従っておこなってください。
 また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

⚠️ 必ず実施
電源を入れる前には音量を最小にする
 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⚠️ 必ず実施
電池を使用するときは

- 極性表示に注意し、表示のとおり正しく入れる。
- 指定以外の電池は使用しない。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 電池は火のそばや直射日光のあたるところ、暖房器具などの高温の場所に置かないでください。

🚫 禁止

- 不要になった乾電池を廃棄するときはお住まいの地域の条例に従って処理してください。間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

🚫 禁止
不安定な場所に置かない
 ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

🚫 禁止
次のような場所には置かない
 火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になる場所

⚠️ 必ず実施
壁や他の機器から少し離して設置する
 放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

🚫 禁止
通風孔をふさがない
 内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

🚫 禁止
長時間音が歪んだ状態で使用しない
 スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

🚫 禁止
ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない
 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

🚫 禁止
この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
 特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

🚫 禁止
重いものをのせない
 機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。パネルがぐずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

🔌
移動させるときは
 まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

🔌
長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは
 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

⚠️ 注意
5年に一度は内部の掃除を
 販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
 特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

ご使用になる前に	2
安全上のご注意	2
目次	4
使用上のご注意	5
付属品を確認する	5
本機の特長	6

基本編 8

接続のしかた	9
知っておいてほしいこと	9
HDMI 接続に対応している機器を接続する	12
HDMI 接続に対応していない機器を接続する	18
マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する	33
パワーアンプを接続する	34
ホームネットワーク(LAN)に接続する	36
電源コードを接続する	37
設定のしかた	38
スピーカーを設定する(Audyssey® セットアップ)	38
ネットワークの設定をする(ネットワーク)	46
再生のしかた(基本操作)	47
知っておいてほしいこと	47
ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する	48
Super Audio CD を再生する	48
CD プレーヤーを再生する	49
iPod を再生する	50
USB メモリーを再生する	53
FM 放送を聴く	56
ネットワークについて	64
インターネットラジオを聴く	64
パソコンや NAS に保存されているファイルを 再生する	67
オンラインサービスを利用する	71
便利な機能	73
AirPlay 機能	79
リスニングモードを選ぶ(サウンドモード)	81
リスニングモードを選ぶ	81

応用編 88

スピーカーの設置 / 接続 / 設定をする(応用)	89
スピーカーを設置する	89
スピーカーを接続する	91
スピーカーを設定する	94
接続のしかた(応用接続)	96
リモートコントロール端子に接続する	96
外部のコントロール機器と接続する	97
再生のしかた(応用操作)	98
HDMI コントロール機能	98
InstaPrevue 機能	100
スリープタイマー機能	101
ウェブコントロール機能	102
デュアルバックアップメモリー機能	104
フロントキーロック機能	104
リモートロック機能	105
イルミネーションライトを点灯 / 消灯させる	106
各種メモリー機能	106
ゾーン 2 / ゾーン 3 / ゾーン 4(別の部屋)での再生	107
音声出力	107
ビデオ出力	108
再生	109
スリープタイマー機能	109
詳細設定のしかた	110
メニュー 一覧	110
メニュー画面の表示例	112
テレビ画面とディスプレイの表示について	113
文字入力について	114
オーディオ	115
ビデオ	122
入力ソース	128
スピーカー	133
ネットワーク	137
一般	141

リモコンで外部機器を操作する	147
プリセットコードを登録する	147
接続機器を操作する	150
機器を操作する	151
学習機能を操作する	153
バックライトを設定する	155
リモコンを使用するゾーンを指定する	155

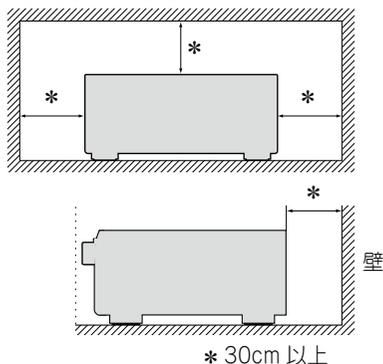
情報編 156

各部の名前	157
フロントパネル	157
ディスプレイ	159
リアパネル	161
リモコン	162
その他の情報	164
登録商標について	164
サラウンド	165
映像信号とモニター出力の関係	171
用語の解説	174
故障かな?と思ったら	178
マイコンの初期化	182
保証と修理について	182
主な仕様	183

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱をよくするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。



携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ペンシンナーやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま1~2時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット



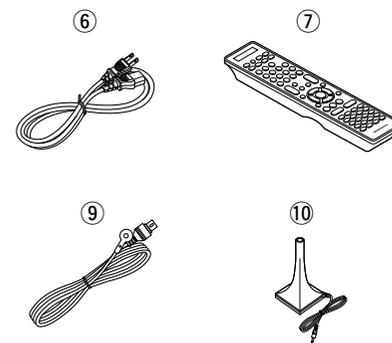
音のエチケット

- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

付属品を確認する

ご使用前にご確認ください。

① 簡単セットアップガイド	1
② CD-ROM(取扱説明書)	1
③ 安全にお使いいただくために	1
④ 保証書(梱包箱に貼り付けています)	1
⑤ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内	1
⑥ 電源コード【本機専用】	1
⑦ リモコン(RC019SR)	1
⑧ 単4形乾電池	2
⑨ FM室内アンテナ	1
⑩ セットアップマイク(ACM1HB)	1



本機の特長

電流帰還アンプ搭載

プリアンプには高速の電流帰還方式の増幅回路を採用し、ブルーレイディスクプレーヤーなどの HD オーディオ対応機器からの信号を忠実に増幅します。また、高速の電流帰還アンプは自然な音場空間を再現します。

アナログ映像信号 (SD 解像度) を 4K の信号にアップスケーリングするデジタルビデオプロセッサ搭載

本機には、アナログ映像や SD (標準画質) 映像を 4K (3840 × 2160 ピクセル) にて HDMI への出力を可能にする 4K ビデオアップスケーリング機能を搭載しています。これにより本機とテレビの接続が HDMI ケーブル 1 本で済むだけでなく、どの映像ソースでも HD 画質に迫る精細な映像を再現することができます。

音質に悪影響を与えるジッターと位相ノイズを低減する“ハイブリット PLL ジッターリデューサー”を搭載

本機に搭載されている“ハイブリット PLL ジッターリデューサー”によって、音の定位が向上されることで、自然な音場を再現します。

マルチゾーン機能 4 ソース、4 ゾーン出力搭載

本機はマルチゾーン機能を搭載していますので、メインゾーンを含めた 4 つの部屋で、別々の音楽ソースを楽しむことができます。

ゾーン 4 用の HDMI 出力を装備

本機はゾーン 4 の部屋でも映像と音声を楽しめるゾーン 4 用の HDMI 出力を装備しています。メインゾーンとは異なる映像ソースをお楽しみいただけます。

11.2 チャンネル XLR バランス出力を装備

本機には、外部からのノイズの影響を受け難いバランス出力端子を装備しています。バランス入力端子を装備したパワーアンプと接続することで、より高品位な音声の伝送を可能にします。

インターネットラジオなどのネットワーク機能に加え、AirPlay® 機能を搭載 (P.79 ページ)

インターネットラジオを聴いたり、パソコンに保存している音楽ファイルを再生したり、テレビに写真を映したりするなど、さまざまな再生をお楽しみいただけます。また、本機は AirPlay 機能も搭載していますので、iPhone®/iPad®/iPod touch® や iTunes® の音楽をネットワークを通して本機で再生できます。

iPad、iPhone*1 や Android スマートフォンで本機の基本的な操作がおこなえる“Marantz Remote App”に対応

“Marantz Remote App” は、iPad、iPhone、Android スマートフォンや Android タブレットで本機の電源のオン/オフやボリュームコントロール、ソースの切り替えなどの基本操作がおこなえるアプリケーションソフトです。

*1 “Marantz Remote App” を iTunes の App Store からダウンロード (無料) してください。本機を LAN 接続し、同じネットワーク上に Wi-Fi (無線 LAN) にて iPhone/iPod touch を接続する必要があります。

基本的な設定が簡単にできる“セットアップアシスタント”メニュー

テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、簡単にスピーカーの接続やネットワークの設定など基本的な設定がおこなえます。

操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース

本機には、メニュー表示や階層ディレクトリーを視覚的にわかりやすくした“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載しています。階層を表示させることで、自分が何処にいて、何を設定しようとしているのかがわかりやすくなり、操作性を向上させています。

さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備 (入力：7 系統、出力：3 系統)

本機には 7 系統の HDMI 入力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどのさまざまな HDMI 端子搭載機器との接続ができます。

HDMI (3D、ARC、Deep Color、^{ディープ・カラー}“x.v.Color”、オートリップシンク、4K) および HDMI コントロール機能対応 (P.12 ページ)

本機は、HDMI の 3D や ARC (Audio Return Channel) 機能以外に、4K (3840 × 2160 ピクセル) の映像信号が入力された場合に、その映像のクオリティーをそのままテレビへ出力するビデオパススルー機能、およびメニュー画面 (GUI) を 4K 映像画面に重ねて表示する GUI オーバーレイ機能にも対応しています。

HDMI 2 系統による同時再生 (メインゾーン)

本機には、2 つの HDMI モニター出力を備えています。1 つをプロジェクターに、もう 1 つをテレビに接続し、信号を同時に出力できます。

iPhone や iPod の再生に対応した iPod/USB 端子搭載 (P.27 ページ)

iPod に付属の専用 USB ケーブルを本機の iPod/USB 端子に接続すると、iPod の再生や、本機のリモコンで iPod の操作ができます。

Audyssey DSX[®]

本機は Audyssey DSX[®] プロセッサーを搭載しています。パワーアンプにフロントハイトスピーカーを接続して Audyssey DSX[®] 再生をおこなうことにより、より上下の空間表現力を持った再生をお楽しみいただけます。また、フロントワイドスピーカーを接続することで、よりワイドな左右の空間表現力をもった再生をお楽しみいただけます。

DTS Neo:X

2チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースを最大 11.1 チャンネルのスピーカーで、より広がりある音場で再生する技術です。

Audyssey LFC[™]

(Low Frequency Containment) 搭載

Audyssey LFC[™] は、隣や下の部屋に低音や振動が漏れることを抑制します。リアルタイムに入力信号を解析して、壁や床、天井を通り抜けるような低音を抑えると同時に、音響心理学的アプローチを用いた低域補正処理をおこなうことで、隣や下の部屋に低音が響き渡ることなく、コンテンツ本来の低域を楽しめます。

独立した2本のサブウーハー出力と

Audyssey Sub EQ HT[™] 搭載

本機は、独立した2本のサブウーハー出力を備え、音量レベルとリスナーまでの距離をそれぞれ個別に設定できます。さらに、本機搭載の Audyssey Sub EQ HT は、2本のサブウーハー間の音量レベルと距離を補正し、Audyssey MultEQ[®] XT 32 の信号処理をおこなうことで、迫力のある低域サウンドを再現します。

InstaPrevue 機能搭載

入力切り替えをする前に、本機と HDMI 接続している複数の機器の映像を一度に見渡しながら、お好みの映像を選ぶことができます。また、視聴中のモニター画面に、他の機器の映像をサブウィンドウで映し出す、ピクチャー・イン・ピクチャー (PinP) も表示できます。

MHL (Mobile High-Definition Link) 機能を搭載

MHL 対応モバイル端末で映像を出力しながら、本機から給電することでモバイル端末の充電をおこなうことができます。また、本機から MHL 対応モバイル端末をコントロールすることもできます。

M-XPport (marantz-eXtension Port)

(P.27 ページ)

拡張性に優れたマランツ独自の EM-エクステンポート M-XPport を搭載しました。ワイヤレスレシーバー RX101 (別売り) を接続して Bluetooth[®] 機器 (デジタルオーディオプレーヤー、携帯電話など) の音楽ファイルを本機で再生できます。

リモートパワーコントロール機能

マランツ製パワーアンプ MM7055 または MM7025 と接続し、本機の電源オン / スタンバイに連動して MM7055 または MM7025 の電源がオン / スタンバイするリモートパワーコントロール機能を搭載しています。

MM7055 または MM7025 との接続は、アースループを作らないグラウンド・フローティング接続とし、音質への影響を極力抑えました。

基本編

ここでは、本機の基本的な接続や操作方法について説明しています。

- 接続のしかた  [9 ページ](#)
- 設定のしかた  [38 ページ](#)
- 再生のしかた(基本操作)  [47 ページ](#)
- ネットワークについて  [64 ページ](#)
- リスニングモードを選ぶ(サウンドモード)  [81 ページ](#)

接続のしかた

知っておいてほしいこと

本機をお使いになる前に接続をしてください。

本機とお手持ちの映像機器の性能を十分に発揮してより高画質な映像再生と、より高音質のオーディオ再生ができるホームシアターを実現するために、本機とテレビ、本機と各映像機器との接続には HDMI ケーブルをお使いください。

□HDMI 接続に対応している機器

接続する映像機器が HDMI 接続に対応していない場合は次の接続をおこなってください。

□HDMI 接続に対応していない機器

本機では、DIGITAL AUDIO IN 端子、ANALOG AUDIO IN 端子と COMPONENT VIDEO IN 端子、VIDEO IN 端子に割り当てるソースを変更することができます。

端子の割り当てについての詳しい説明は「端子に割り当てる入力ソースの変更について」(19 ページ)を、設定方法は「入力端子の割り当て」(129 ページ)を、それぞれご覧ください。

ご注意

- 4K 信号にアップスケーリング時、メニュー画面は本機と HDMI 接続しているテレビのみに表示します。
- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント” (8 ページ)メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。)
- “セットアップアシスタント” (8 ページ)メニューを操作中は、接続する機器の電源をオフにしてください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L、R と R を接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

□ HDMI 接続に対応している機器

 TV	 13 ページ	 CBL/SAT	 15 ページ	 DVD	 15 ページ
 Blu-ray	 15 ページ	 GAME	 15 ページ	 MEDIA PLAYER	 15 ページ
 AUX	 15 ページ				

□ HDMI 接続に対応していない機器

 TV	 20 ページ	 CBL/SAT	 21 ページ	 DVD	 22 ページ
 Blu-ray	 23 ページ	 GAME	 24 ページ	 AUX	 25 ページ
 MEDIA PLAYER	 26 ページ	 iPod/USB	 27 ページ	 CD	 29 ページ
 PHONO	 30 ページ	 TUNER	 31 ページ	 MI-XPort	 32 ページ
 NETWORK	 36 ページ				

□ その他

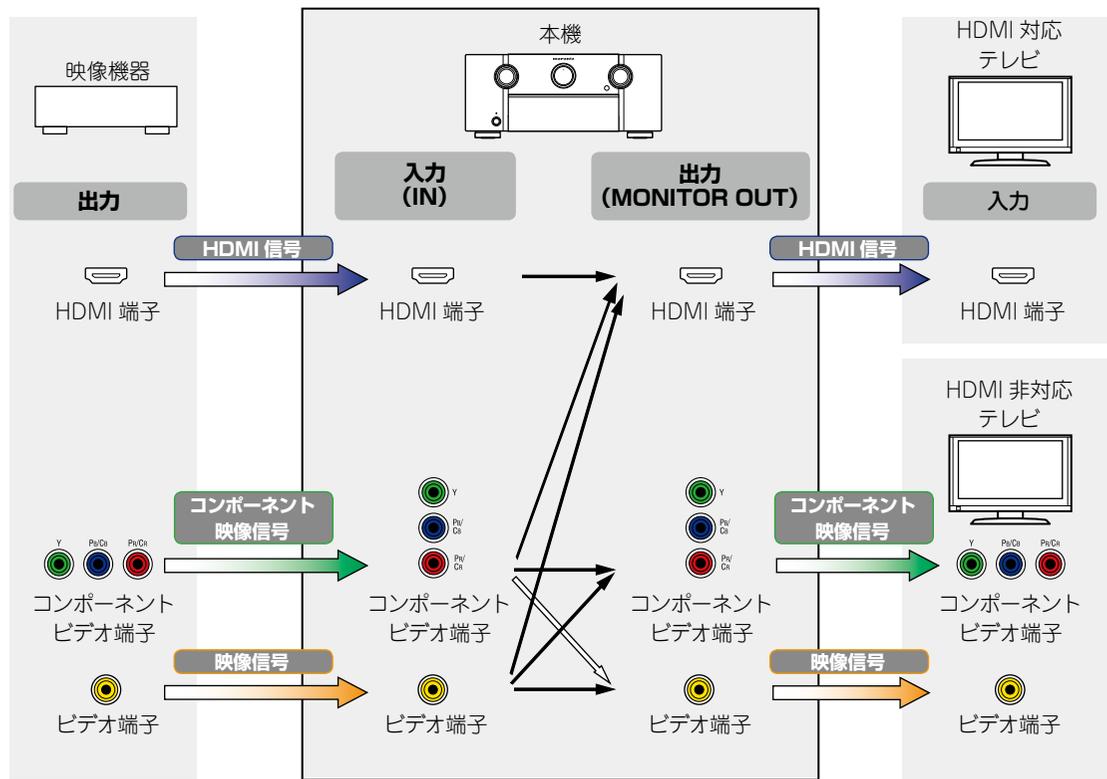
 SPEAKER	 91 ページ	 AC IN	 37 ページ
---	--	---	--

入力された映像信号を変換して出力する(ビデオコンバージョン機能)

本機には3種類(HDMI、コンポーネントビデオ、ビデオ)の映像入力端子と3種類(HDMI、コンポーネントビデオ、ビデオ)の映像出力端子があります。

この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からテレビに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです。

【メインゾーンでの映像信号の流れ】



⇒ : 入力信号が 480i/576i の場合

例えば、HDMI 対応のテレビと本機を 1 本の HDMI ケーブルで接続すると、HDMI 映像信号以外の入力信号を自動的に HDMI 信号に変換して HDMI 端子からテレビに出力します。一種類の映像信号のみを出力しますので、別の映像信号形式で出力する機器の再生に切り替えても、本機からテレビに出力する映像信号は変わらないため、テレビの映像入力を切り替える必要がありません。そのうえ、本機に入力したアナログ映像信号(ビデオ信号やコンポーネント映像信号)は、解像度の高いデジタルの HDMI 映像信号に変換して出力するため、映像の品位も向上します。また、テレビが HDMI 接続に対応していない場合には、本機とテレビのビデオ信号をアナログ接続してください。本機は HDMI 入力信号をアナログビデオ信号に変換することができないため、HDMI 機器から入力する場合はコンポーネントビデオ入力端子またはビデオ入力端子を使用してください。この場合は、本機に入力したコンポーネント映像信号をビデオ信号に変換します。

必要に応じて設定してください

- 本機で自動的に映像信号の変換をおこなわない場合は、次の設定でこの機能を無効にします。
“ビデオコンバージョン”([125 ページ](#))
- テレビに出力する映像信号の解像度を変更する場合は、次の設定で変更します。
“解像度”([126 ページ](#))

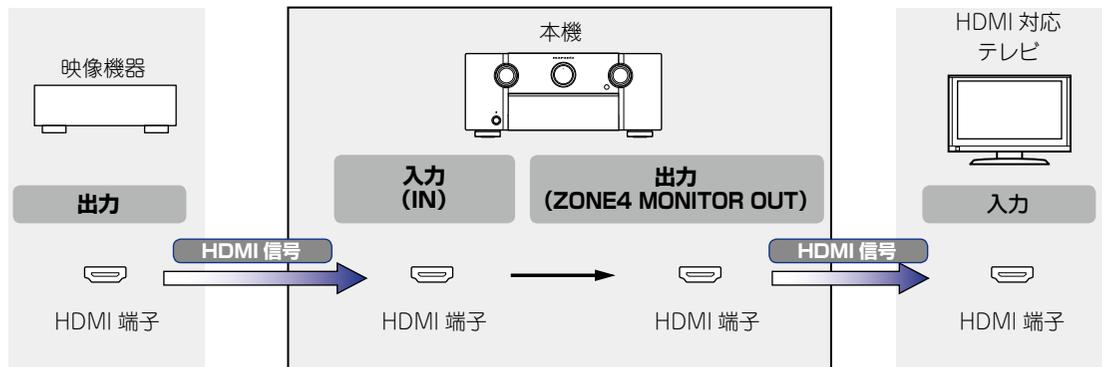


- ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SCAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。
- HDMI 対応テレビの解像度は、メニューの“ビデオ”⇒“HDMI モニター 1”または“HDMI モニター 2”([144 ページ](#)) で確認できます。

ご注意

- 4K 信号にアップスケーリング時、メニュー画面は本機と HDMI 接続しているテレビのみに表示します。
- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しないことがあります。

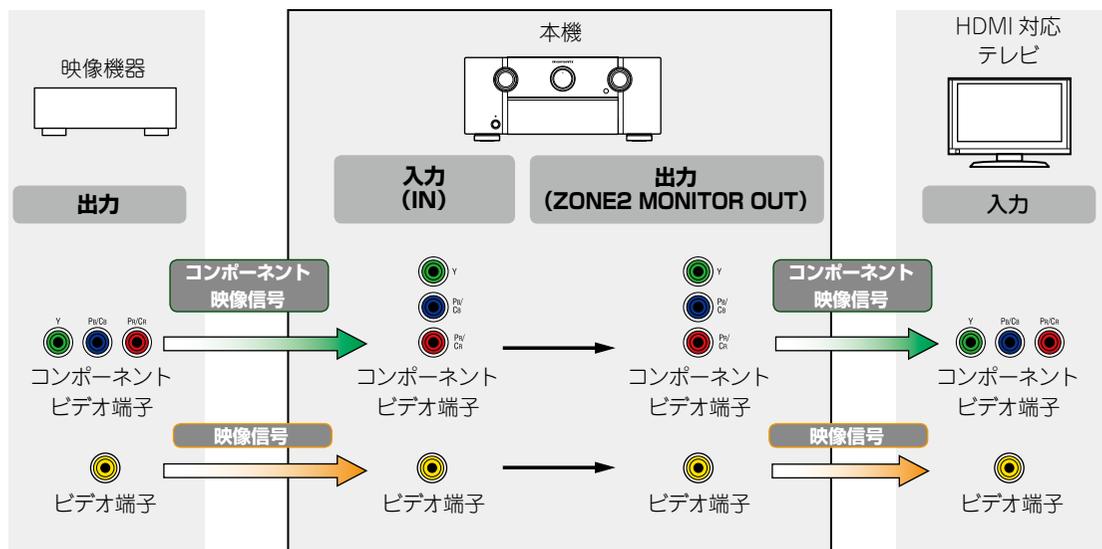
【ゾーン 4 での映像信号の流れ】



ご注意

- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。
- HDMI ZONE4 機能は、HDMI 1～6 入力端子のみ対応します。HDMI 7 入力端子には対応していません。

【ゾーン 2 での映像信号の流れ】



HDMI 接続に対応している機器を接続する

本機には HDMI 対応機器を 10 台 (7 入力 / 3 出力) まで接続できます。
HDMI ZONE4 出力端子にテレビを接続すると、HDMI 1～6 入力端子に接続された機器の映像や音声をゾーン 4 ([107 ページ](#)) で再生できます。

本機と接続する機器に HDMI 端子がある場合には、HDMI ケーブルでの接続をおすすめします。
HDMI ケーブルでの接続には、ほかの接続方法にはない次のメリットがあります。

• 音声と映像をデジタル信号で伝送することにより高品位な再生を実現

アナログの映像伝送で実現できなかったハイビジョン映像の伝送や、ブルーレイディスクプレーヤーで採用された高音質音声フォーマット (Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、dts-HD、dts-HD Master Audio) の伝送ができます。

また、HDMI 接続では機器間の再生に必要な情報のやり取りもおこなわれます。それらの情報を利用して著作権保護、テレビの解像度などの情報の認識、ARC 機能、HDMI コントロール機能などを実現しています。

• 音声信号と映像信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送

従来の接続では、接続する機器間を音声ケーブルと映像ケーブルを使用して接続する必要がありましたが、HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。これにより、ホームシアターシステムで煩雑になりやすい配線をすっきりさせることができます。

• HDMI コントロール機能による相互コントロール ([98 ページ](#))

HDMI 接続している本機と HDMI 機器の電源、音量、入力切り替えなどの操作を連動しておこなうことができます。

• その他に、3D 映像再生、^{コンテンツタイプ}Content Type、ARC 機能など、映像や音声に関する機能に対応しています ([16 ページ](#))。



- HDMI 規格にはバージョンがあります。バージョンごとに対応できる機能や性能が異なります。本機は HDMI 規格の ARC 機能や 3D 再生機能に対応しています。これらをお楽しみいただくためには、本機に接続する HDMI 機器も同じ規格であることが必要です。本機に接続する機器の HDMI 規格のバージョンについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- テレビによっては HDMI 接続での音声入力に対応していないものがあります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

□ **本機とテレビを HDMI 接続する前に** ([13 ページ](#))

□ **本機とテレビを HDMI 接続する** ([14 ページ](#))

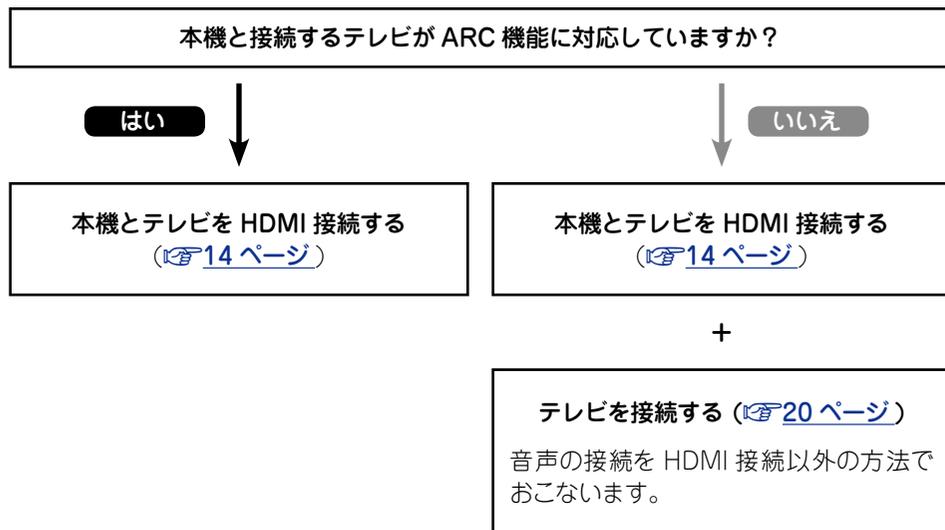
□ **本機と映像機器を HDMI 接続する** ([15 ページ](#))

□ **HDMI 機能** ([16 ページ](#))

□ **HDMI 接続に関する設定** ([17 ページ](#))

本機とテレビを HDMI 接続する前に

本機と HDMI 対応のテレビを接続する方法は 2 とおりあります。
お手持ちのテレビに合わせた接続をおこなってください。



ARC(Audio Return Channel)機能について

テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。

ARC 機能のないテレビとの HDMI 接続では、本機に接続した再生機器の映像信号をテレビに伝送することはできても、テレビの音声を本機で再生することはできません。テレビ番組をサラウンド音声で視聴したい場合などには、別途音声ケーブルの接続が必要になります。これに対し、ARC 機能のあるテレビとの HDMI 接続では、音声ケーブルの接続は不要です。本機とテレビを接続する HDMI ケーブルを通して、テレビの音声信号を本機に入力することができます。この機能により、テレビの音声を本機のサラウンド再生で楽しみいただけます。



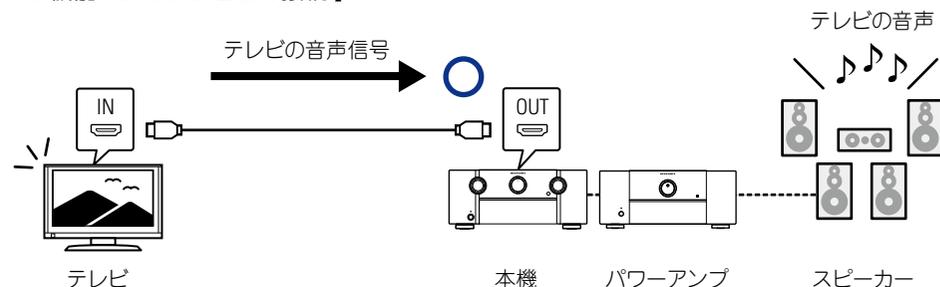
ARC 機能を使用するときは、HDMI 対応の“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”で接続してください。

テレビ側の接続や設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

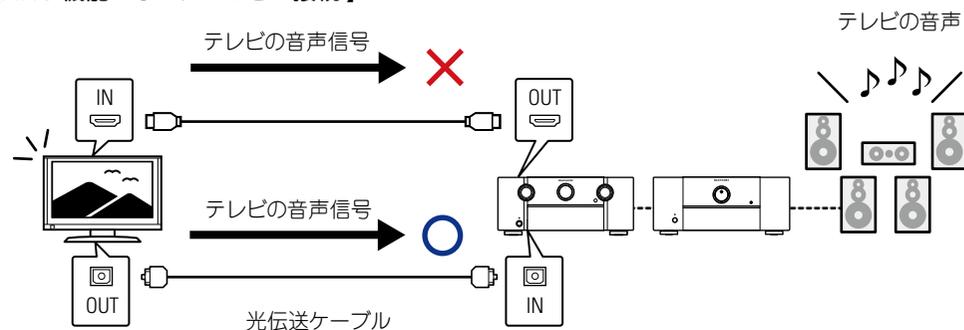
ご注意

HDMI ZONE4 出力端子は、ARC 機能に対応していません。

【ARC 機能のあるテレビとの接続】



【ARC 機能のないテレビとの接続】



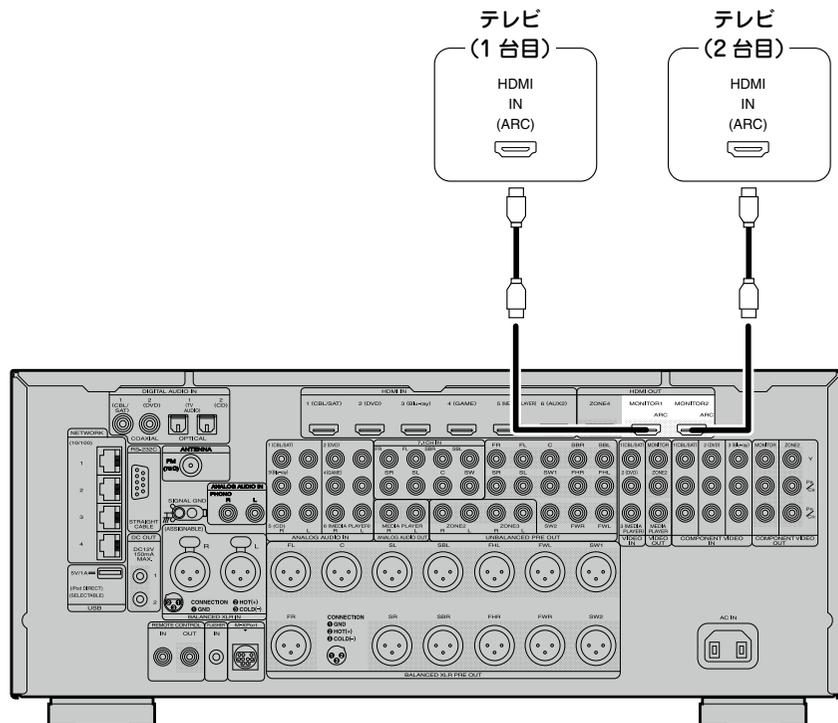
本機とテレビを HDMI 接続する

HDMI ZONE4 出力端子にテレビを接続すると、HDMI 1～6 入力端子に接続された機器の映像や音声をゾーン 4(107 ページ)で再生できます。

接続に使用するケーブル



- HDMI とは、デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。



- プレーヤーの解像度をテレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。
- 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続しても、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみテレビに出力します。「テレビを接続する」(20 ページ)の音声接続をおこなってください。

ご注意

- フロントパネルの HDMI 7/MHL 端子は、HDMI ZONE4 機能に対応していません。
- HDMI 出力端子からの音声信号(サンプリング周波数、チャンネル数など)は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。
- 本機を ARC 機能に対応していないテレビと接続する場合は、HDMI ケーブルのほかに音声ケーブルが必要になります。接続方法は、「テレビを接続する」(20 ページ)をご覧ください。また、ARC 機能については、「ARC (Audio Return Channel) 機能について」(13 ページ)をご覧ください。

DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

デジタル信号による映像伝送には、DVI-D (Digital Visual Interface) 方式もあります。これは、主にパソコン用に開発されたもので、一部の AV 機器(プロジェクターなど)にも搭載されています。本機の HDMI 映像信号を DVI-D 映像入力対応の機器に出力する場合は、HDMI/DVI 変換ケーブルをお使いください。HDMI 映像信号を DVI 信号に変換します。DVI-D 端子ではデジタル信号の高品位伝送はできませんが、機器間によってはコピーガードなどの問題で正しく動作しない場合があります。

ご注意

- 本機を DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。「テレビを接続する」(20 ページ)の音声接続をおこなってください。
- HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

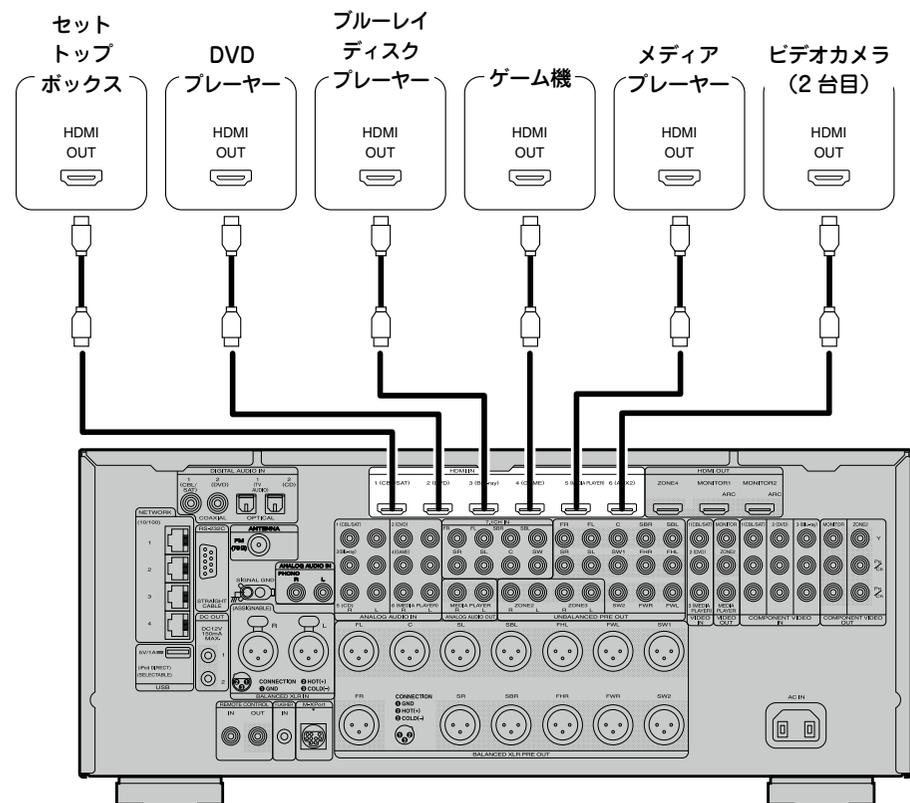
ARC 機能対応のテレビを使用するときに必要な設定

ARC 機能対応のテレビを使用する場合は、次の設定をおこなってください。

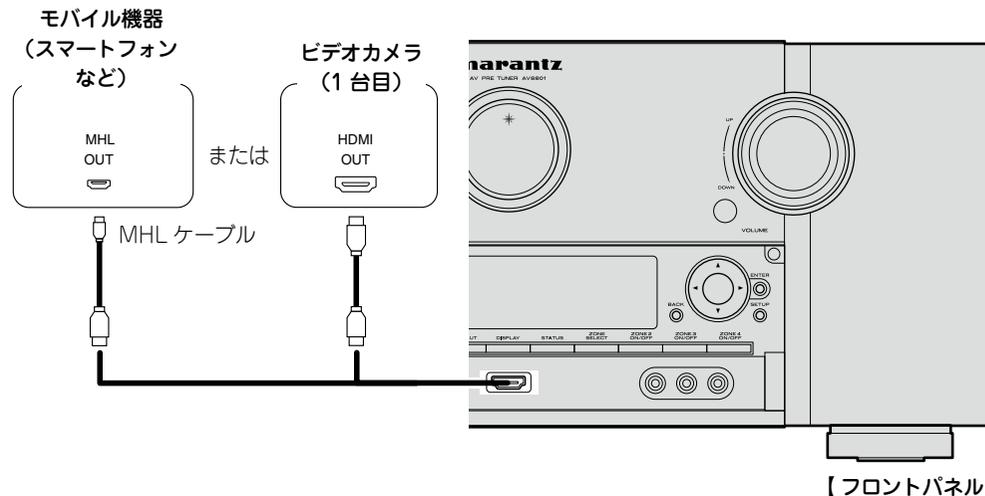
- 1 “HDMI コントロール” (124 ページ) を“オン”に設定する。
- 2 ARC 機能対応のテレビを接続している HDMI MONITOR 端子の番号に合わせて、“コントロールモニター” (124 ページ) の設定をする。
ARC 機能対応のテレビを HDMI MONITOR 1 端子と HDMI MONITOR 2 端子の両方に接続している場合、ARC 機能を同時に使用することはできません。

本機と映像機器を HDMI 接続する

接続に使用するケーブル



【リアパネル】



【フロントパネル】



- モバイル機器(スマートフォンなど)は、フロントパネルの HDMI 7/MHL 端子に接続してください。
- 本機とプレーヤーを HDMI ケーブルで接続した場合は、本機とテレビも HDMI ケーブルで接続することをおすすめします。
- 本機を Deep Color 機能または 4K 機能対応の機器と接続する場合は、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- プレーヤーの解像度をテレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。

ご注意

- フロントパネルの HDMI 7/MHL 端子は、HDMI ZONE4 機能に対応していません。
- フロントパネルの HDMI 7/MHL 端子は、InstaPrevue 機能に対応していません。
- フロントパネルの HDMI 7/MHL 端子は、4K 信号に対応していません。

HDMI 機能

本機は次の HDMI 機能に対応しています。

□3D 機能

本機は、HDMI 規格の 3D(3 次元)映像信号の入出力に対応しています。3D 映像の再生には本機のほかに、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

ご注意

- 3D 映像を再生するときは、本機の取扱説明書と一緒に 3D 映像機器の取扱説明書もご覧ください。
- 本機は 3D 映像コンテンツの再生中にメニュー画面や状態表示画面に映像を重ねて表示できません。ただし、一部の 3D 映像コンテンツではメニュー画面や状態表示画面に映像を重ねて表示できません。
- 3D 情報がない 3D 映像を入力した場合でも、本機のメニュー画面および状態表示画面を重ねて表示できます。
- テレビ側で 2D 映像を 3D 映像へ変換した場合、本機のメニュー画面および状態表示画面は正しく表示できません。本機のメニュー画面および状態表示画面を正しく表示したい場合は、テレビの 2D 映像を 3D 映像へ変換する設定をオフにしてください。

□4K 機能

本機は、HDMI 規格の 4K(3840 × 2160 ピクセル)映像信号の入出力に対応しています。



本機を 4K 機能対応の機器と接続する場合は、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。

□HDMI パススルー機能 (🔗 [124 ページ](#))

本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します。

□HDMI コントロール機能 (🔗 [98 ページ](#))

本機で外部機器を操作したり、外部機器から本機を操作したりすることができます。

ご注意

- 接続する機器や設定によっては、HDMI コントロール機能が動作しない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーは操作できません。
- HDMI ZONE4 機能は、HDMI コントロール機能に対応していません。ゾーン 4 の HDMI モニターで HDMI コントロールをおこなう場合は、“コントロールモニター” (🔗 [124 ページ](#)) を“ZONE4”に設定してください。

□Content Type 機能

HDMI 規格で追加された機能です。この機能は、出力映像の種類(コンテンツ情報)に適した設定を自動でおこないます。

ご注意

本機では、メニューの“ビデオモード” (🔗 [125 ページ](#)) の設定が“オート”のときに Content Type 機能が有効になります。

□Deep Color 機能 (🔗 [174 ページ](#))

Deep Color 機能対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。

□Auto Lip Sync 機能 (🔗 [123、176 ページ](#))

□“x.v.Color”、sYCC601 color、Adobe RGB color および Adobe YCC601 color 機能 (🔗 [174、176 ページ](#))

□HD オーディオフォーマット

□ARC (Audio Return Channel) 機能 (🔗 [13 ページ](#))

著作権保護システムについて

HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、プレーヤーとテレビ、プレーヤーと AV アンプなどの双方が HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection System) と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。

- HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力できません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

□HDMI 設定 (👉 [123 ページ](#))

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- オートリップシンク
- バーチカルストレッチ
- パススルーソース
- HDMI オーディオ出力
- HDMI パススルー
- コントロールモニター *
- ビデオ出力
- HDMI コントロール *
- パワーオフコントロール

* HDMI ZONE4 機能はこの項目のみ対応しています。

ご注意

HDMI 入力端子から入力した音声信号を HDMI 接続しているテレビに出力するには、“HDMI オーディオ出力” ([👉 123 ページ](#)) を“TV”に設定してください。

アナログ入力端子またはデジタル入力端子から入力した音声信号を、HDMI MONITOR 出力端子から出力することはできません。

HDMI 接続に対応していない機器を接続する

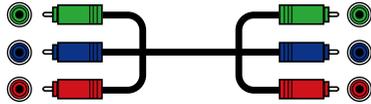
高品位な映像再生と高音質なサラウンド再生のために、本機とテレビ、本機と映像機器の接続には HDMI ケーブルでの接続をおすすめします ([12 ページ](#) 「HDMI 接続に対応している機器を接続する」)。

ここでは、お手持ちの機器が HDMI 接続に対応していない場合の接続について説明します。

各機器の接続のしかた

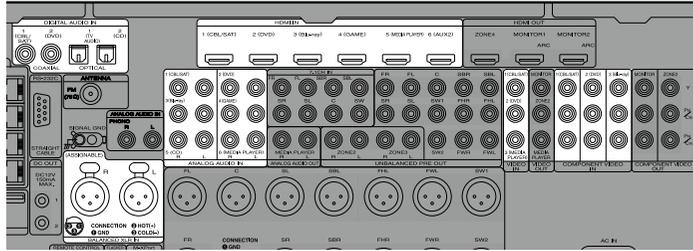
 TV 20 ページ	 CBL/SAT 21 ページ	 DVD 22 ページ	 Blu-ray 23 ページ
 GAME 24 ページ	 AUX 25 ページ	 MEDIA PLAYER 26 ページ	 iPod/USB 27 ページ
 CD 29 ページ	 PHONO 30 ページ	 TUNER 31 ページ	 M-XPort 32 ページ
 NETWORK 36 ページ			

接続に使用するケーブル

映像ケーブル(別売り)	
コンポーネントビデオケーブル	
ビデオケーブル	
音声ケーブル(別売り)	
同軸ケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	
XLR ケーブル	
ケーブル(別売り)	
イーサネットケーブル	

端子に割り当てる入力ソースの変更について

本機では、HDMI IN 端子、DIGITAL AUDIO IN 端子、COMPONENT VIDEO IN 端子、VIDEO IN 端子、AUDIO IN および BALANCED XLR IN 端子に割り当てるソースを変更することができます。



ブルーレイディスクプレーヤーのデジタル音声接続を例に説明します。本機のリアパネルのデジタル音声入力の端子にはブルーレイディスクプレーヤー用の入力端子の表示 (Blu-ray) がありません。しかし、DIGITAL AUDIO IN 端子部には“ASSIGNABLE”の表示があり、これらの端子に割り当てるソースを変更できることを表しています。これらの端子にブルーレイディスクプレーヤーを割り当てると、この端子をブルーレイディスクプレーヤー用として使うことができます。本機の入力ソースを切り換えるときに“Blu-ray”を選ぶとこれらの端子に接続しているソースを再生できます。

□端子に割り当てる入力ソースの変更のしかた ([129 ページ](#))

バランス XLR 入力端子を接続する

本機はバランス XLR 入力端子を装備しています。お使いの機器に音声出力端子としてバランス XLR 端子がある場合に使用してください。

バランス XLR 入力端子を使用する場合は、“入力端子の割り当て”⇒“ANALOG” ([130 ページ](#)) で“XLR”を割り当ててください。

お買い上げ時は、使用しない設定になっています。

【AV8801 バランス XLR 入力端子の PIN 配置について】



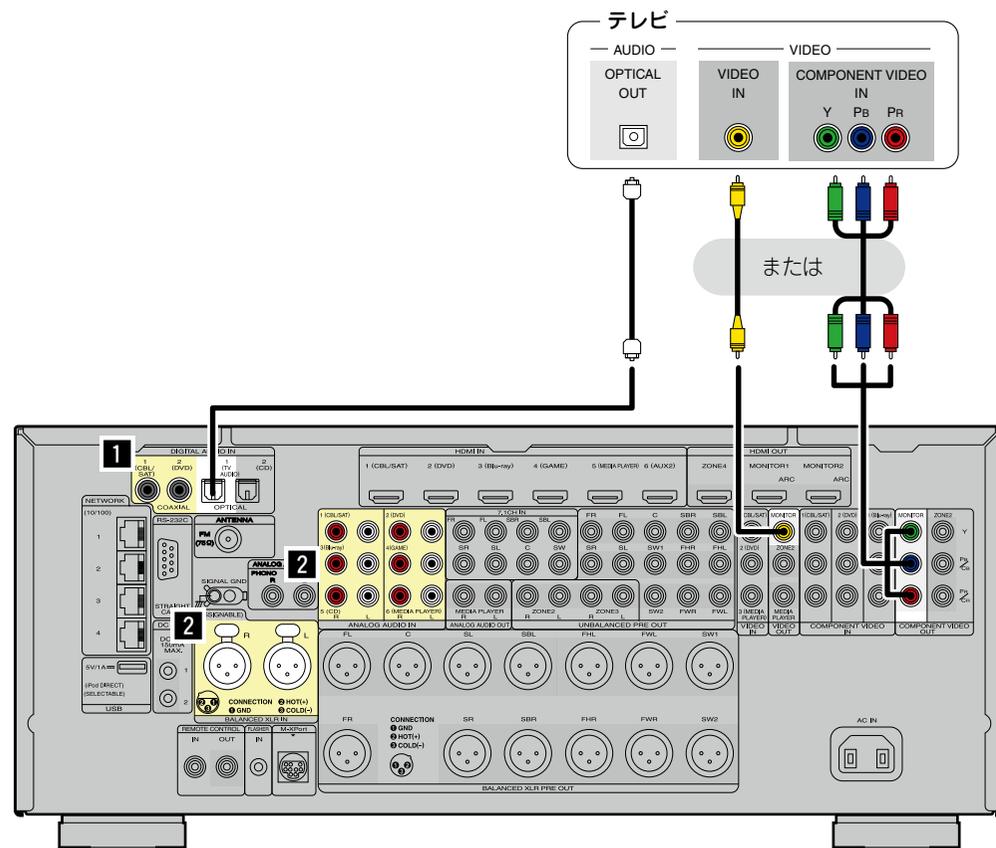
- ① GND(グラウンド)
- ② HOT(+)(ホット)
- ③ COLD(-)(コールド)

テレビを接続する

- ここではお手持ちのテレビが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」([12 ページ](#)) またはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機で ARC 機能に対応していないテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルをお使いください。



映像機器を接続する際には、「映像信号とモニター出力の関係」([171 ページ](#)) をご覧ください。



接続イラストの 部にも接続することができます。これらの端子に接続する場合は、入力端子の設定が必要です。

1 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “DIGITAL” ([130 ページ](#)) で、“TV AUDIO” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

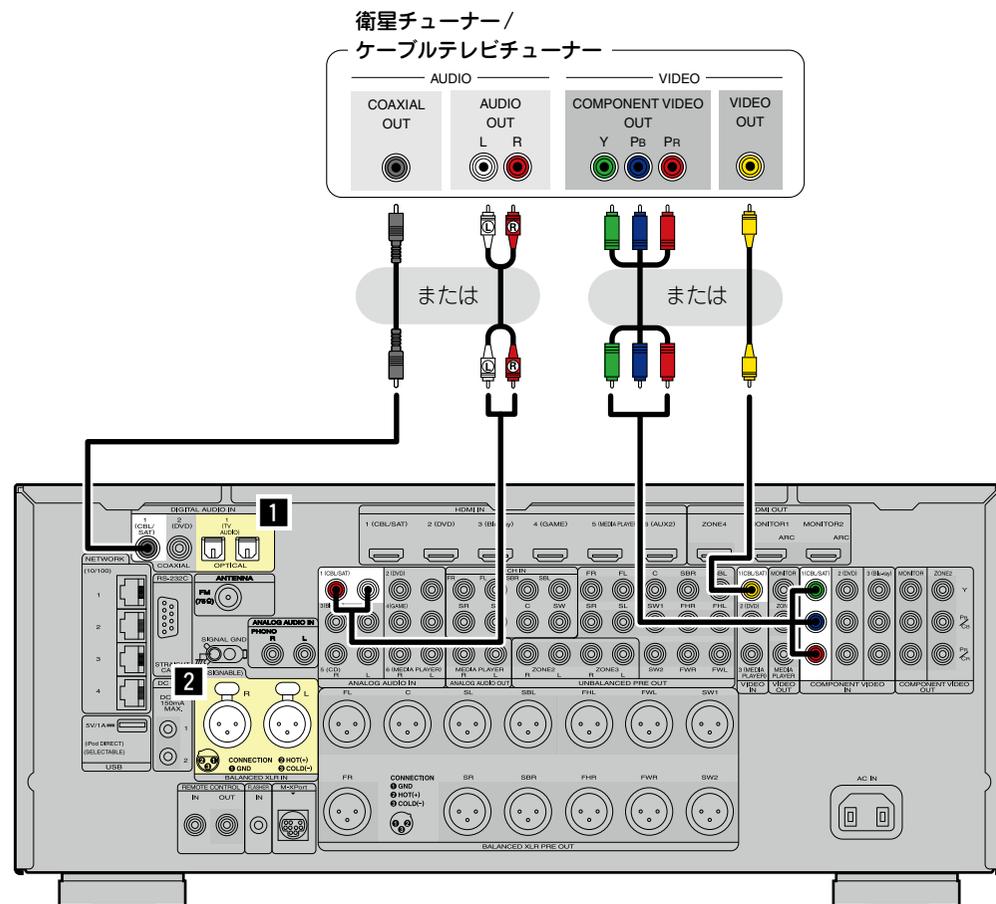
2 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “ANALOG” ([130 ページ](#)) で、“TV AUDIO” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

セットトップボックスを接続する (衛星チューナー/ ケーブルテレビチューナー)

ここではお手持ちの衛星チューナーやケーブルテレビチューナーが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。

HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」(12 ページ) をご覧ください。



接続イラストの 部にも接続することができます。これらの端子に接続する場合は、入力端子の設定が必要です。

1 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て”⇒“DIGITAL”(130 ページ) で、“CBL/SAT”に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

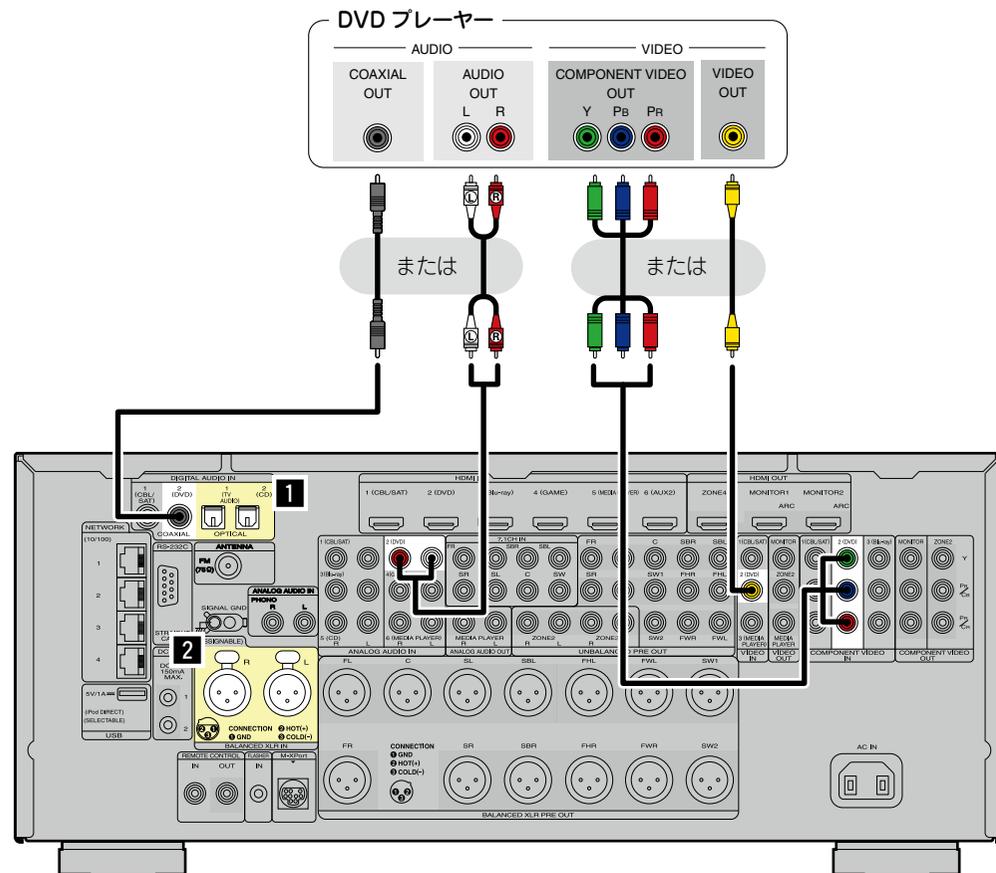
2 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て”⇒“ANALOG”(130 ページ) で、“CBL/SAT”に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

DVD プレーヤーを接続する

ここではお手持ちの DVD プレーヤーが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。

HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」(12 ページ) をご覧ください。



接続イラストの 部にも接続することができます。これらの端子に接続する場合は、入力端子の設定が必要です。

1 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “DIGITAL” (130 ページ) で、“DVD” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

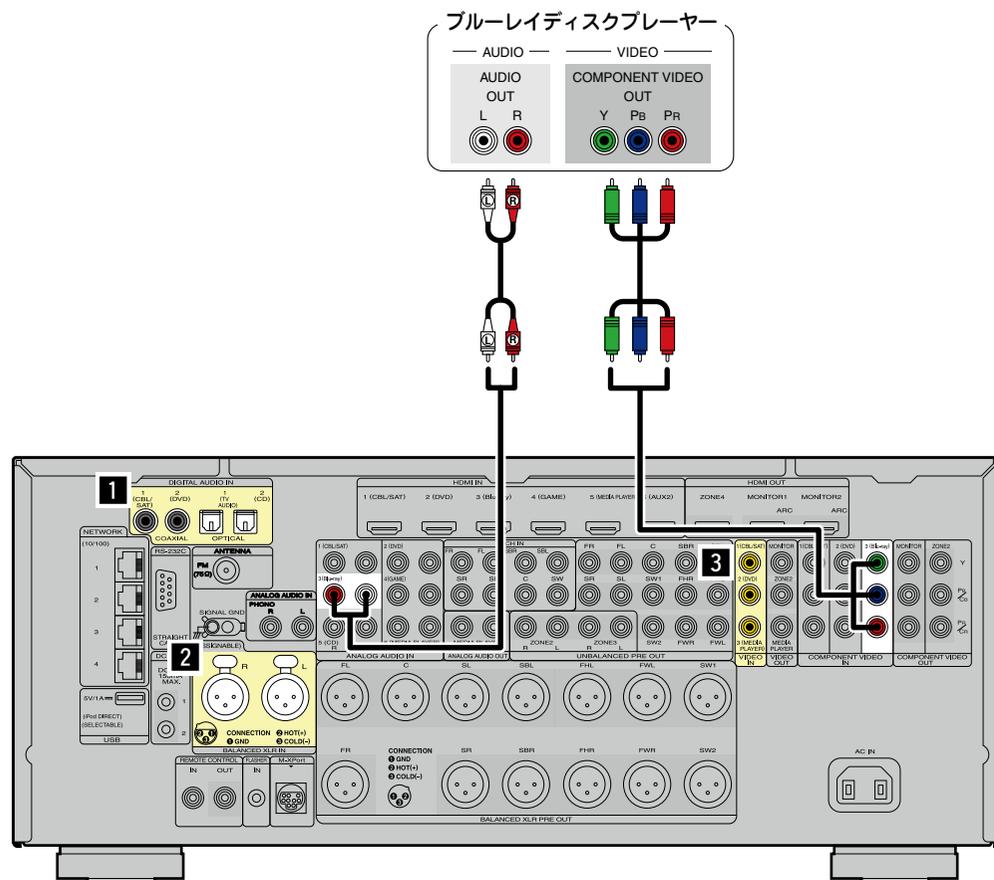
2 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “ANALOG” (130 ページ) で、“DVD” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

ブルーレイディスクプレーヤーを接続する

ここではお手持ちのブルーレイディスクプレーヤーが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。

HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」([12 ページ](#)) をご覧ください。



接続イラストの 部にも接続することができます。これらの端子に接続する場合は、入力端子の設定が必要です。

1 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇒ “DIGITAL” ([130 ページ](#)) で、“Blu-ray” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

2 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇒ “ANALOG” ([130 ページ](#)) で、“Blu-ray” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

3 の端子に接続したいとき

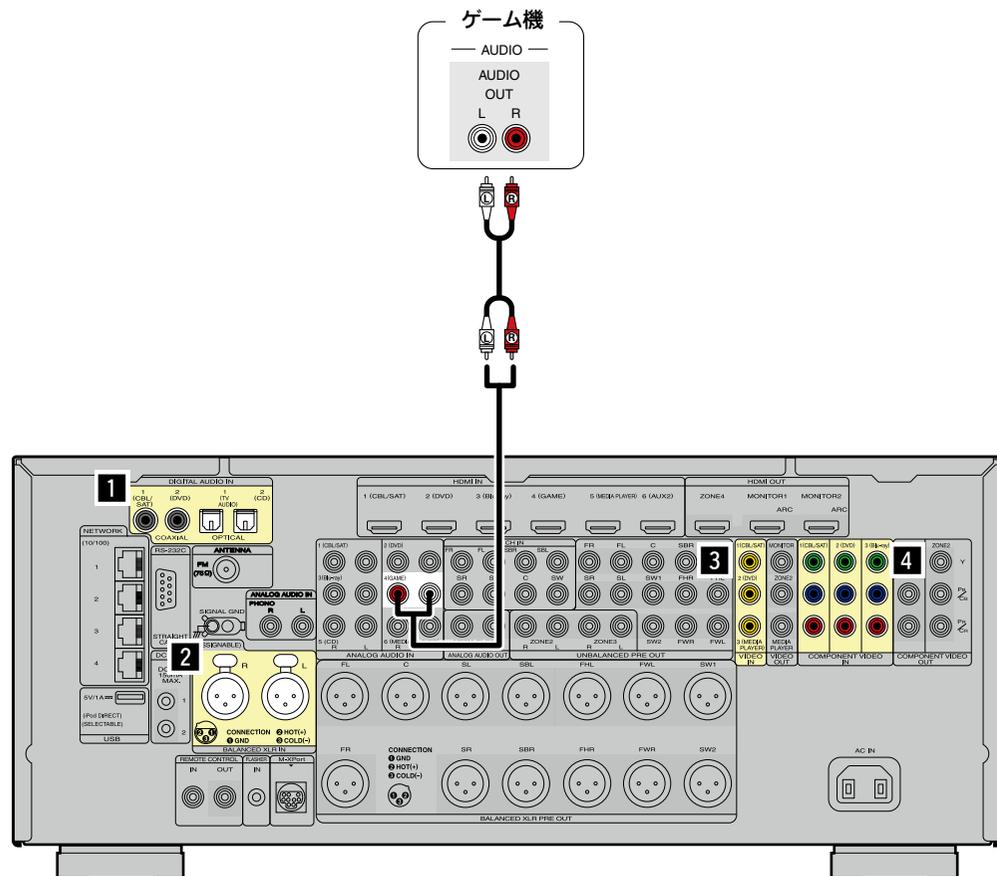
“入力端子の割り当て” ⇒ “VIDEO” ([130 ページ](#)) で、“Blu-ray” に映像ケーブルを接続する端子を割り当ててください。



HD オーディオ (Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus および DTS Express) およびマルチチャンネル PCM 信号を再生する場合は、HDMI 接続をしてください ([12 ページ](#) 「HDMI 接続に対応している機器を接続する」)。

ゲーム機を接続する

ここではお手持ちのゲーム機が HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」(12 ページ) をご覧ください。



接続イラストの 部にも接続することができます。これらの端子に接続する場合は、入力端子の設定が必要です。

1 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “DIGITAL” (130 ページ) で、“GAME” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

2 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “ANALOG” (130 ページ) で、“GAME” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

3 の端子に接続したいとき

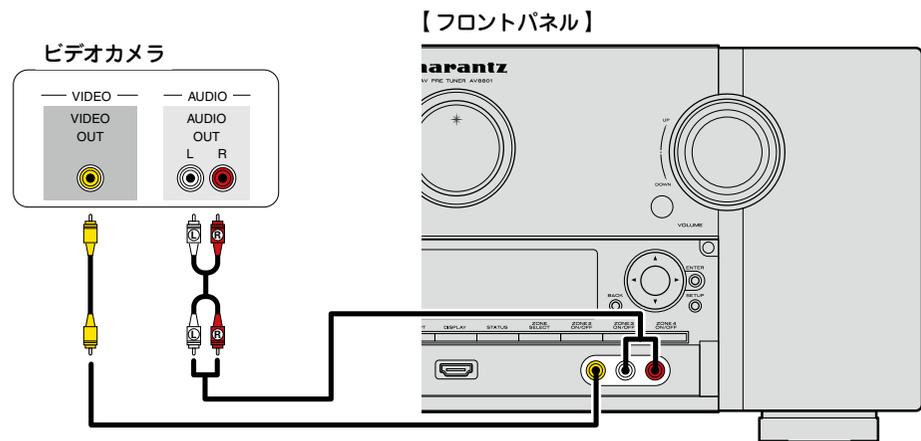
“入力端子の割り当て” ⇨ “VIDEO” (130 ページ) で、“GAME” に映像ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

4 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “COMP” (130 ページ) で、“GAME” に映像ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

ビデオカメラを接続する

ここではお手持ちのビデオカメラが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」([12 ページ](#))をご覧ください。



接続イラストの 部にも接続することができます。これらの端子に接続する場合は、入力端子の設定が必要です。

1 の端子に接続したいとき

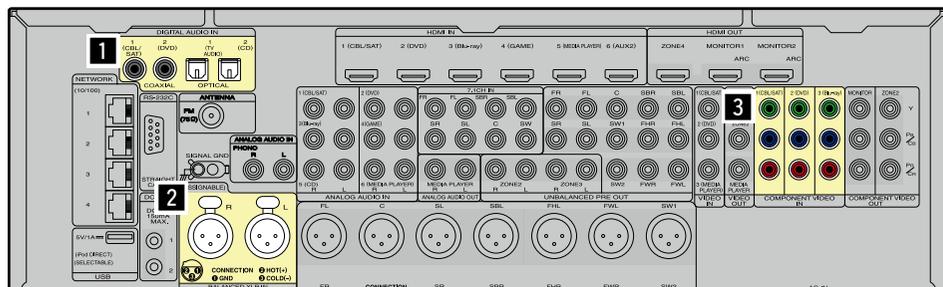
“入力端子の割り当て”⇒“DIGITAL”([130 ページ](#))で、“AUX1”に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

2 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て”⇒“ANALOG”([130 ページ](#))で、“AUX1”に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

3 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て”⇒“COMP”([130 ページ](#))で、“AUX1”に映像ケーブルを接続する端子を割り当ててください。



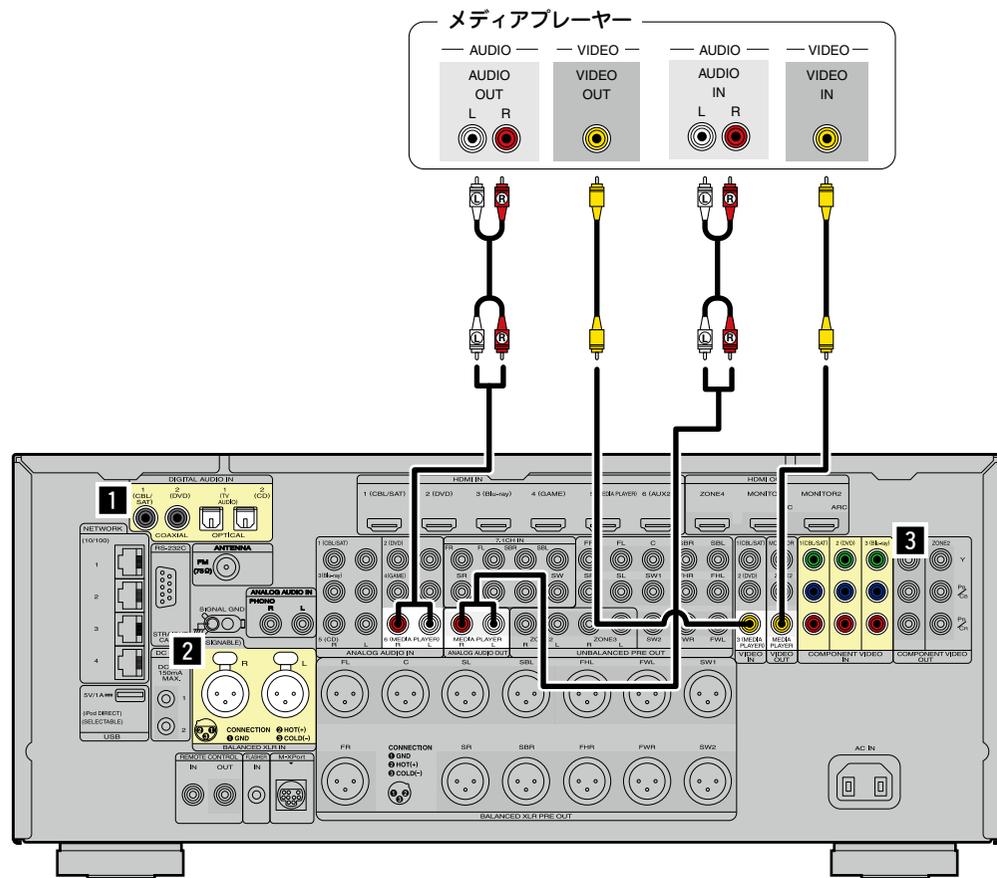
本機の AUX1 入力端子にゲーム機を接続してもゲームを楽しむことができます。この場合は、入力ソースを“AUX1”に設定してください。

ご注意

ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能([10 ページ](#))が動作しない場合があります。この場合は、入力と同じモニター出力端子に接続してください。

メディアプレーヤーを接続する

- ここではお手持ちのビデオカメラが HDMI 接続に対応していない場合の接続方法を説明します。HDMI 接続のしかたは、「HDMI 接続に対応している機器を接続する」(12 ページ)をご覧ください。
- アナログ音声を録音する場合は、アナログ接続をしてください。



接続イラストの 部にも接続することができます。これらの端子に接続する場合は、入力端子の設定が必要です。

1 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “DIGITAL” (130 ページ) で、“MEDIA PLAYER” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

2 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “ANALOG” (130 ページ) で、“MEDIA PLAYER” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

3 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “COMP” (130 ページ) で、“MEDIA PLAYER” に映像ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

ご注意

本機を通して映像信号を録画する場合は、本機とプレーヤーをビデオケーブルで接続してください。

iPod/USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する

- iPod や USB メモリー内の音楽を楽しむことができます。
- 操作のしかたは、「iPod を再生する」(P.50 ページ) または「USB メモリーを再生する」(P.53 ページ) をご覧ください。



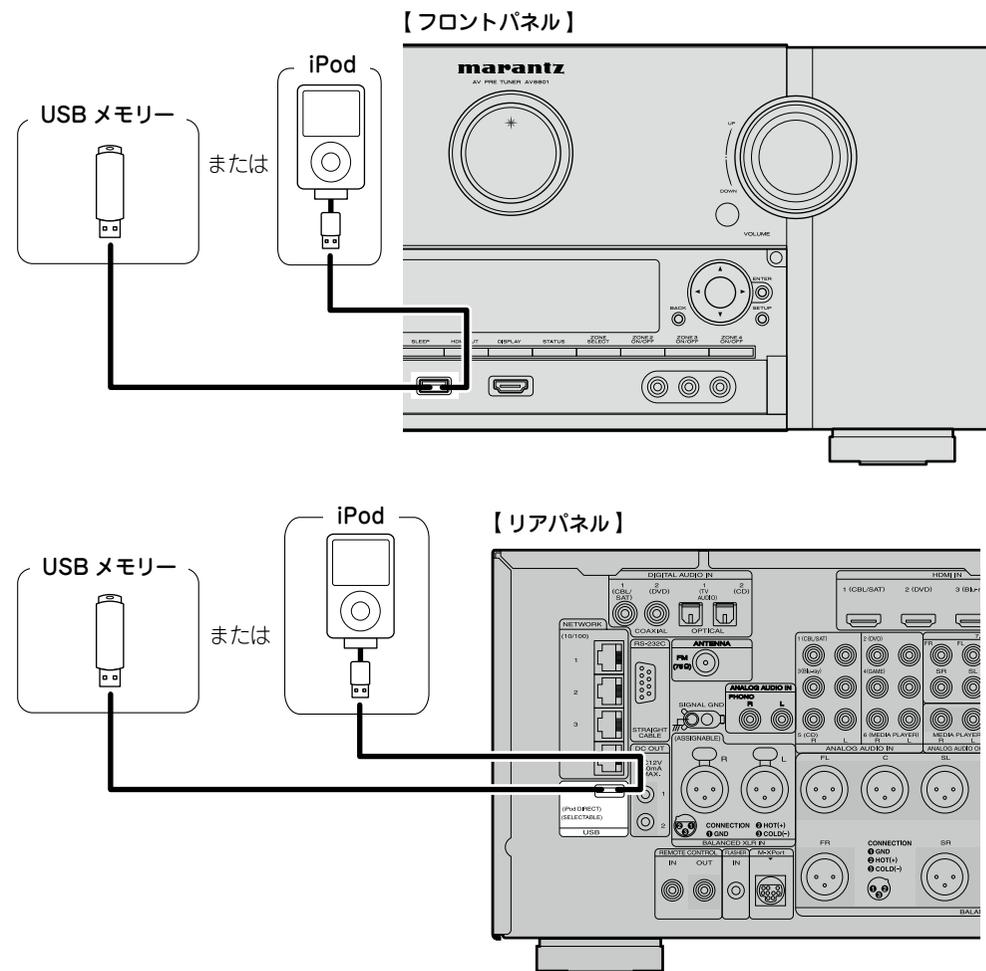
すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保证するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- フロントパネルとリアパネルの USB 端子を同時に使用することはできません。ご使用になる端子を選んで接続してください(P.73 ページ)。
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の iPod/USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。
- 本機に iPhone を接続するときは、iPhone を本機から 20cm 以上離してください。iPhone を本機に近づけると、iPhone が電話を受信したときに、本機の音声出力にノイズが入ることがあります。
- iPod の接続に 2m 以上の USB ケーブル(別売り)を使用すると、音声为正しく再生できない場合があります。その場合は、純正の USB ケーブルまたは 1m 以下のケーブルをお使いください。

接続に使用するケーブル

本機と iPod を接続するときは、iPod に付属の USB ケーブルをお使いください。



対応している iPod/iPhone

• iPod classic



iPod classic
80GB



iPod classic
160GB (2007)



iPod classic
160GB (2009)

• iPod nano



iPod nano
3rd generation
(video)
4GB 8GB



iPod nano
4th generation (video)
8GB 16GB



iPod nano
5th generation (video camera)
8GB 16GB



iPod nano
6th generation
8GB 16GB

• iPod touch



iPod touch
1st generation
8GB 16GB 32GB



iPod touch
2nd generation
8GB 16GB 32GB



iPod touch
3rd generation
32GB 64GB



iPod touch
4th generation
8GB 32GB 64GB

• iPhone



iPhone
4GB 8GB 16GB



iPhone 3G
8GB 16GB



iPhone 3GS
8GB 16GB 32GB



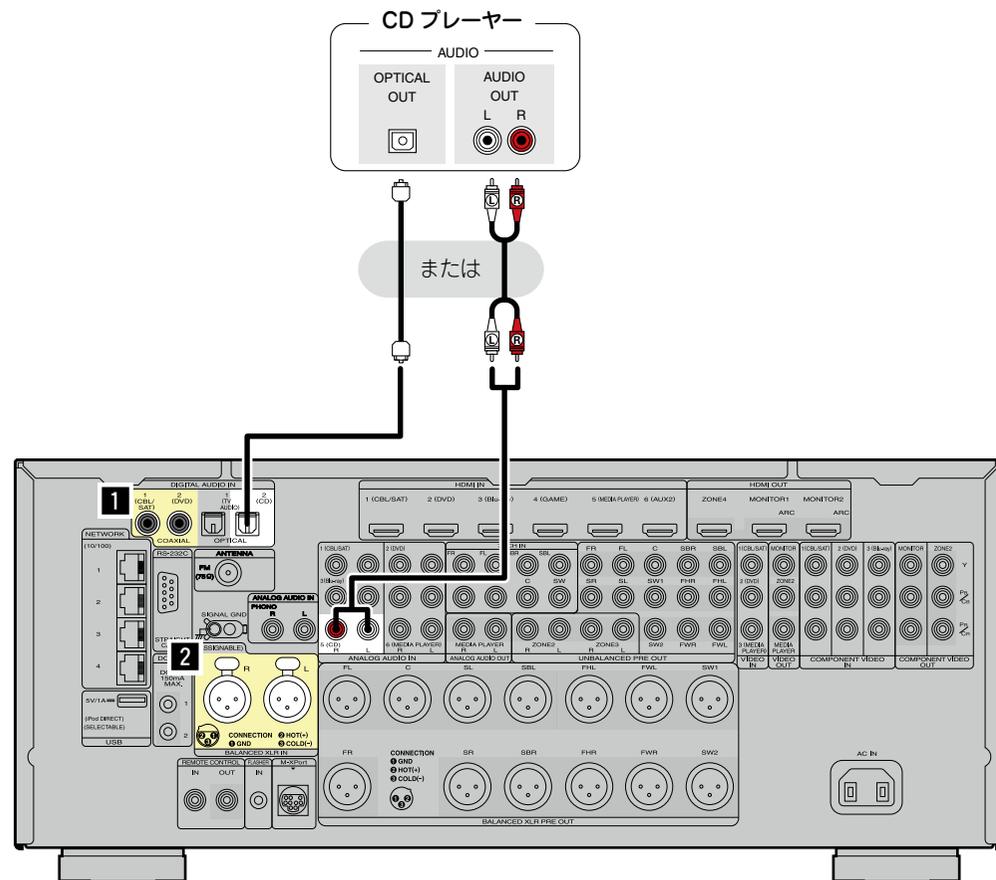
iPhone 4
8GB 16GB 32GB



iPhone 4S
16GB 32GB 64GB

CD プレーヤーを接続する

CD を再生することができます。



HD オーディオ (Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus および DTS Express) およびマルチチャンネル PCM 信号を再生する場合は、HDMI 接続をしてください ([12 ページ](#) 「HDMI 接続に対応している機器を接続する」)。

接続イラストの 部にも接続することができます。これらの端子に接続する場合は、入力端子の設定が必要です。

1 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “DIGITAL” ([130 ページ](#)) で、“CD” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

2 の端子に接続したいとき

“入力端子の割り当て” ⇨ “ANALOG” ([130 ページ](#)) で、“CD” に音声ケーブルを接続する端子を割り当ててください。

レコードプレーヤーを接続する

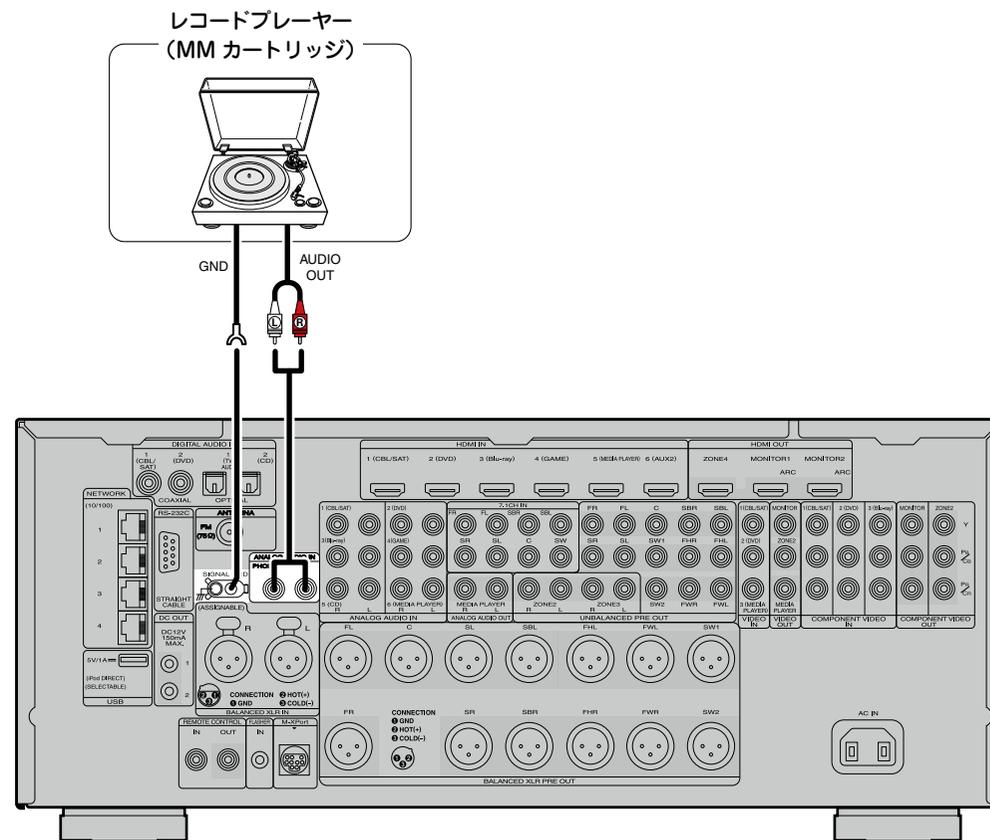
レコードを再生することができます。



- 本機は、MM カートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MC カートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続される場合は、市販の MC ヘッドアンプまたは昇圧トランスを使用してください。
- 本機の入力ソースを“PHONO”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音スピーカーから出力される場合があります。

ご注意

本機の SIGNAL GND 端子は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなる場合があります。このような場合は、アース線を接続する必要はありません。

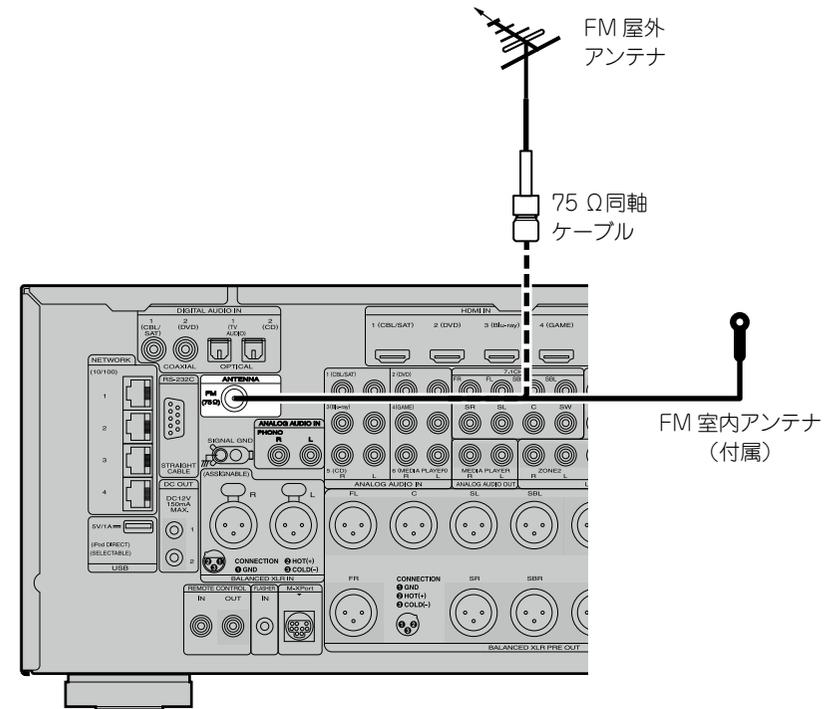


FM アンテナを接続する

- 本機に付属の FM 室内アンテナを接続すると、FM 放送を楽しむことができます。
- アンテナを接続したあとに放送を受信し ([56 ページ](#) 「FM 放送を聴く」)、雑音の少ない位置にテープなどで固定してください。

ご注意

- 2 つの FM アンテナを同時に接続しないでください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

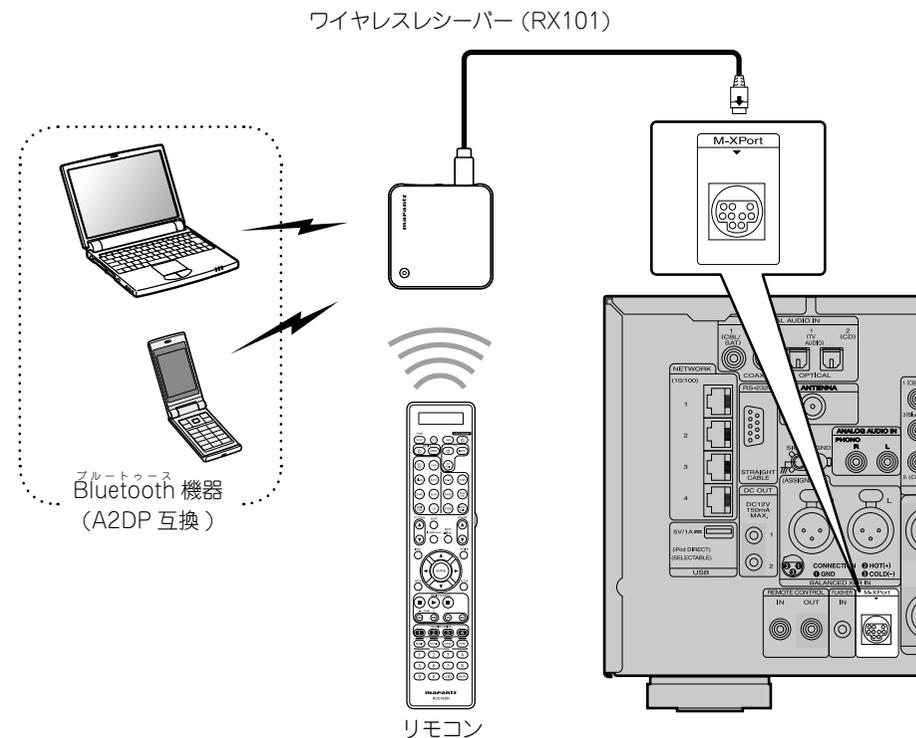


ワイヤレスレシーバー(RX101)を接続する

- 本機にワイヤレスレシーバー(RX101、別売り)を接続することにより、Bluetooth 機器の曲を本機で再生できます。
- この操作をおこなう場合は、入力ソースを“M-XPort”に切り替えてください(47 ページ「入力ソースを選ぶ」)。
- 本機は Bluetooth プロファイルの A2DP 規格に対応しています。
- ワイヤレスレシーバーやお使いの Bluetooth 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

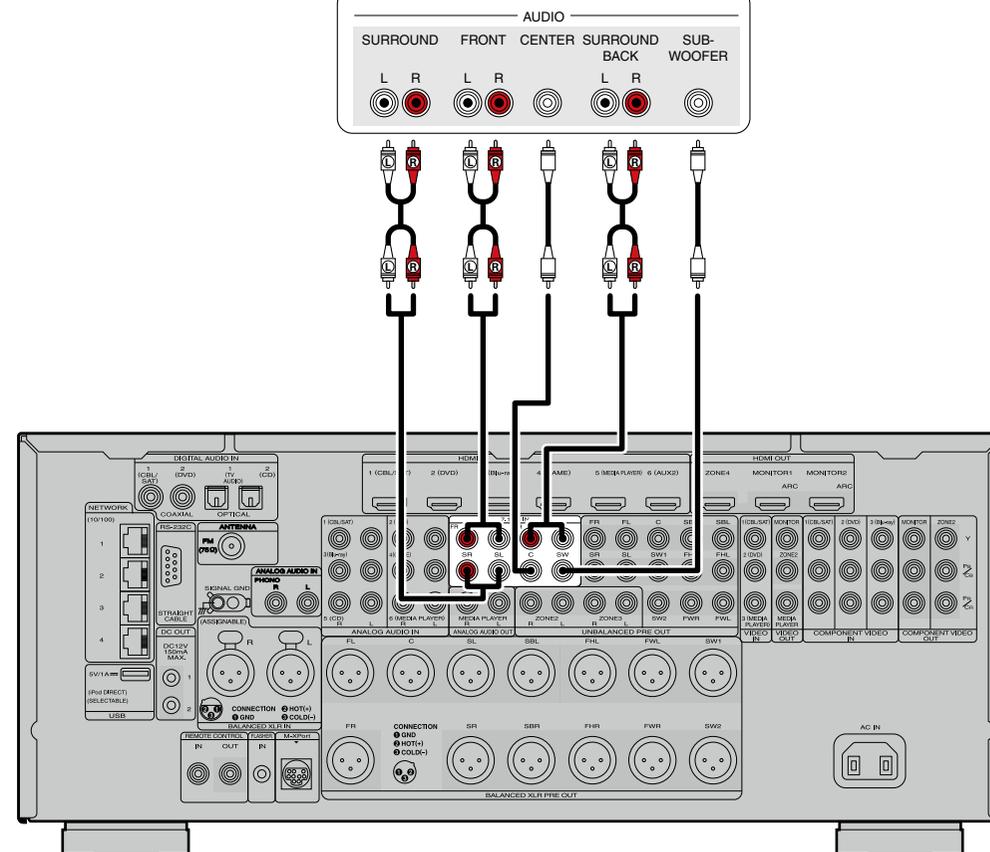
- お使いの Bluetooth 機器を初めてワイヤレスレシーバーに接続する場合は、ペアリングをおこなう必要があります。一度ペアリングが完了すると、接続操作をおこなうだけで Bluetooth 機器とワイヤレスレシーバー間の通信が確立されます。ペアリングは Bluetooth 機器ごとに必要です。
- ワイヤレスレシーバーを赤外線受信機として使用することもできます。この場合、「リモートロック機能」(105 ページ)でリモコン信号の受信機能を無効に設定してください。



マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

- 本機にマルチチャンネル音声出力端子を持つ機器を接続すると、音楽や映画を楽しむことができます。
- 7.1CH IN 端子から入力されたアナログ信号を再生する場合は、“入力モード” ([132 ページ](#)) を“7.1CH IN”に設定してください。
- 映像信号は、ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーと同じように接続することができます ([22 ページ](#) 「DVD プレーヤーを接続する」、 [23 ページ](#) 「ブルーレイディスクプレーヤーを接続する」)。

マルチチャンネル出力端子を持つ機器
(ブルーレイディスクプレーヤー、
DVD プレーヤー、
外部のデコーダーなど)



パワーアンプを接続する

- 本機のプリアウト端子に別売りのパワーアンプを接続してください。
- 本機にはアンバランス RCA プリアウト端子とバランス XLR プリアウト端子があります。お使いになるパワーアンプに合わせて接続してください。パワーアンプに両方の端子がある場合は、どちらか一方の端子に接続してください。
- スピーカーは、パワーアンプに接続してください。
- スピーカーの接続については、パワーアンプの取扱説明書をご覧ください。
- ここでは、11.1 チャンネルのスピーカー接続方法を説明しています。その他のスピーカー接続方法については、[91 ページ](#)をご覧ください。

【AV8801 バランス XLR プリアウト端子の PIN 配置について】



- ① GND(グラウンド)
- ② HOT(+)(ホット)
- ③ COLD(-)(コールド)

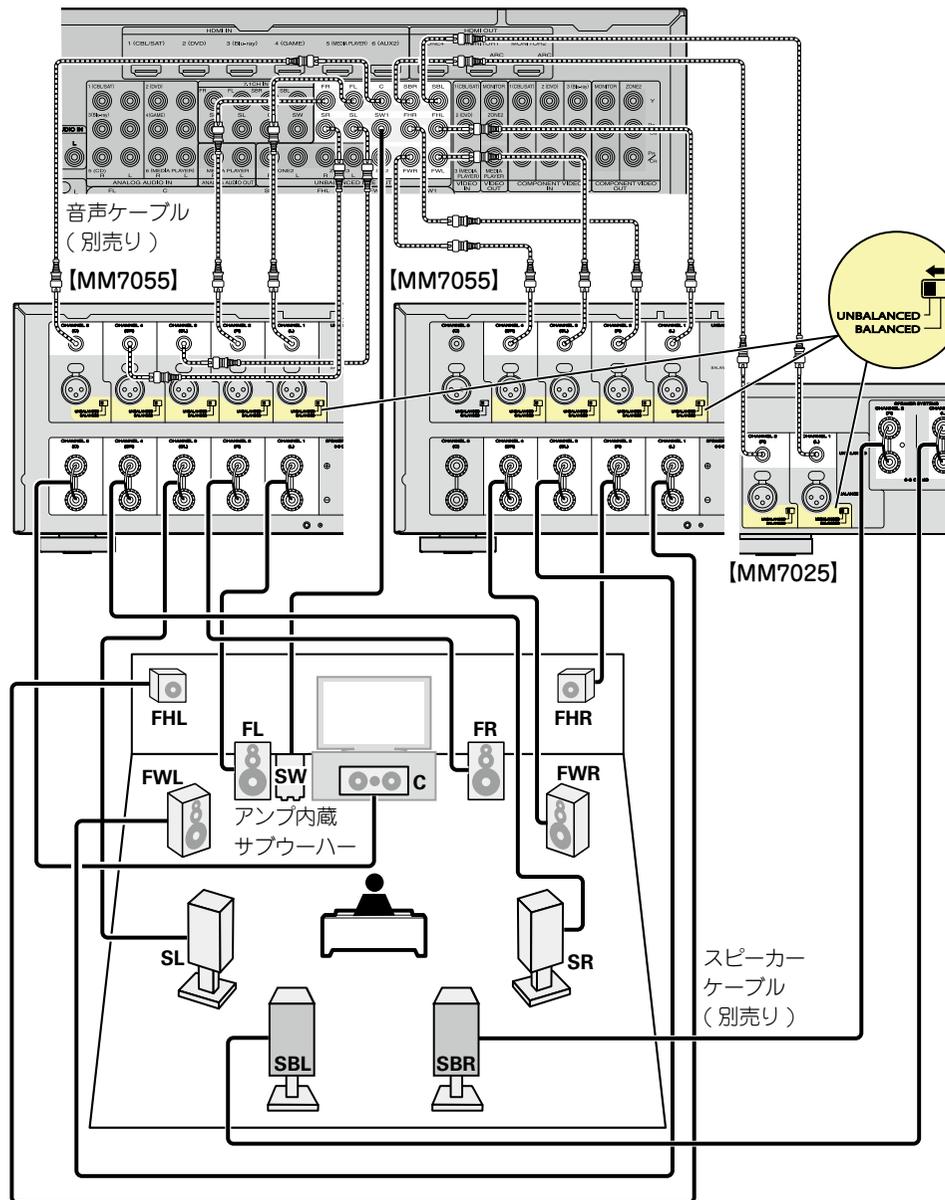
本機の PIN 配置は、ヨーロッパ方式を採用しています。USA 方式では②が COLD、③が HOT です。本機に USA 方式の PIN 配置の機器を接続するときは、バランスケーブルの片方のプラグの②と③の配線を入れ替えてください。

ご注意

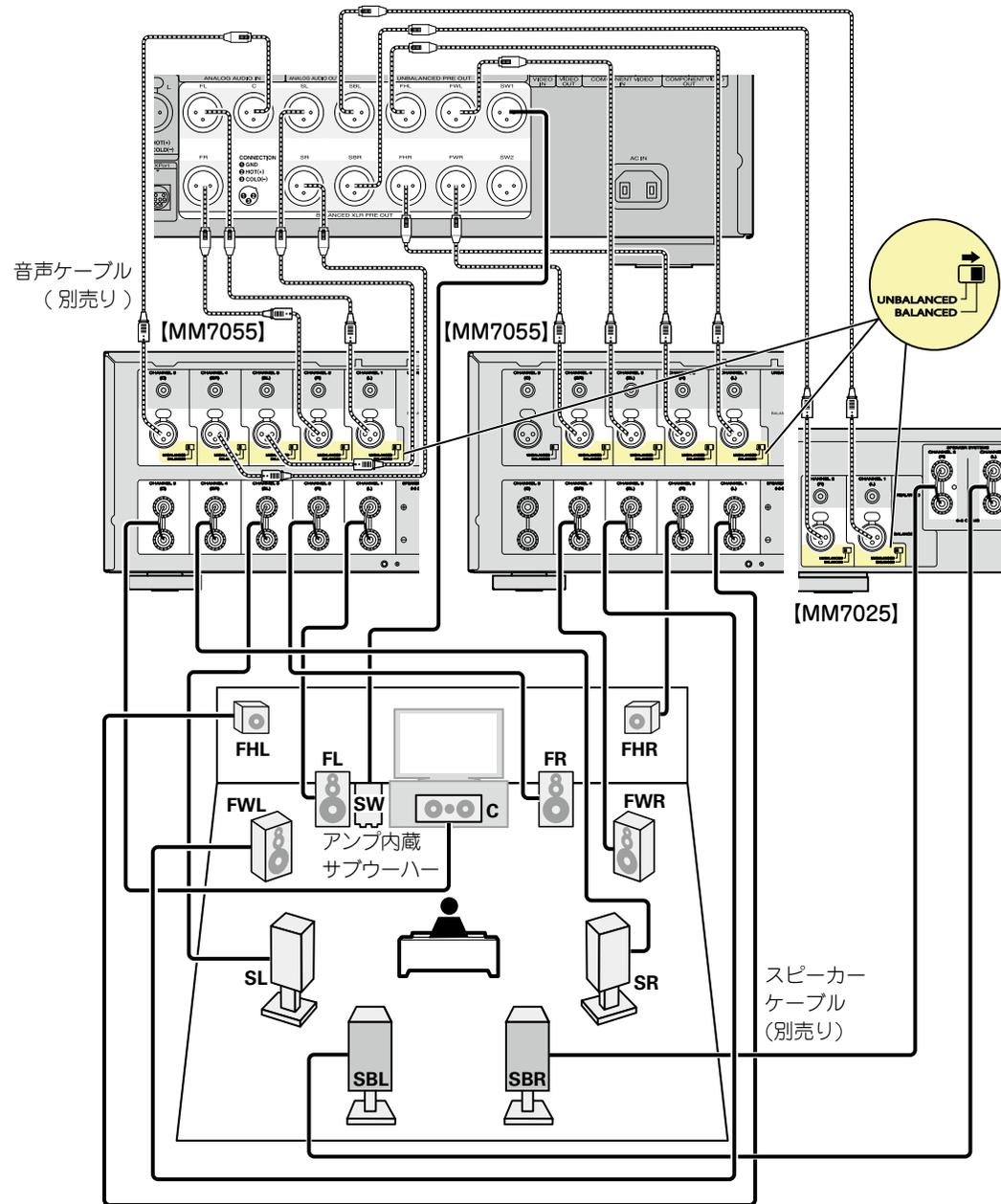
HOT(ホット)または COLD(コールド)と GND(グラウンド)を短絡して使用しないでください。

マランツ製パワーアンプ MM7055 および MM7025 との接続例

□アンバランス RCA プリアウト端子の接続



□ バランス XLR プリアウト端子の接続



ホームネットワーク(LAN)に接続する

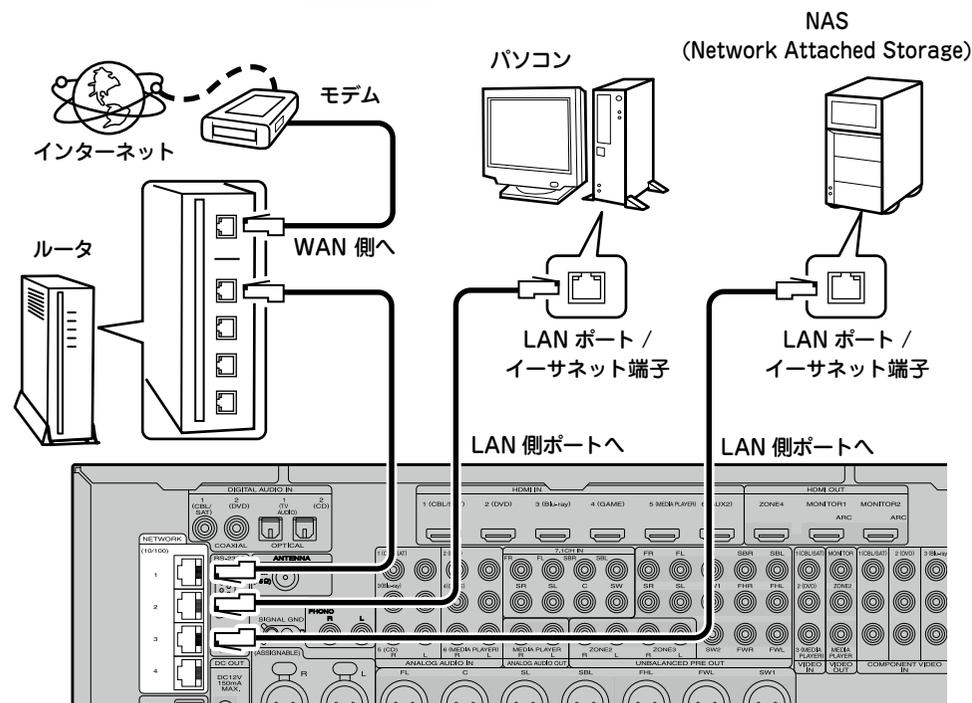
本機はホームネットワーク(LAN)に接続して、次のさまざまな再生や操作をおこなうことができます。また、本機はスイッチングハブの機能を搭載しています。本機のネットワークの接続については、このページの説明をよく読んでおこなってください。

- インターネットラジオやメディアサーバーなどのネットワークオーディオの再生
- 各種オンラインサービスからの楽曲の再生
- AirPlay
- ネットワークを経由した本機の操作

また、本機の改良などのためにファームウェアがアップデートしたときは、当社からネットワークを経由してアップデートをお知らせする情報を配信します。それにより最新版のファームウェアをダウンロードすることができます。

詳しくは、メニューの“アップデート”([145 ページ](#))をご覧ください。

ホームネットワーク(LAN)の接続が完了したら、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、メニューの“ネットワーク”([137 ページ](#))をご覧ください。



上記の図は一例です。イーサネットケーブルは NETWORK 端子の 1～4 のいずれかに接続してください。

インターネットの接続については、ISP(インターネット・サービスプロバイダ)またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

必要なシステム

□ブロードバンド回線によるインターネット接続

□モデム

ブロードバンド回線と接続して、インターネットと通信をおこなうための機器です。ルータと一体型のももあります。

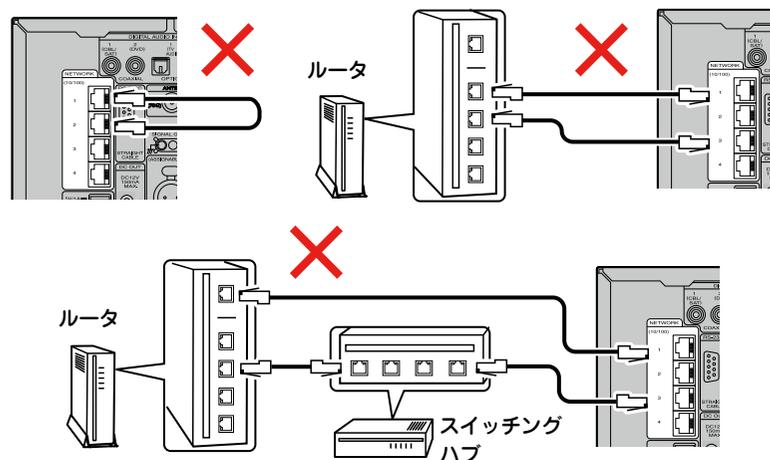
□ルータ

本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルータをおすすめします。

- DHCP サーバー内蔵
LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
- 100BASE-TX スイッチ内蔵
複数の機器を接続するために、100Mbps 以上の速度で、スイッチングハブを内蔵していることをおすすめします。

ご注意

- ルータは、本機の NETWORK 端子のいずれか 1 つの端子に接続してください。また、本機とルータの接続にはイーサネットケーブルを 2 本以上使用しないでください。
- 本機にハブを接続する場合は、1 台のハブにつきイーサネットケーブルを 1 本のみで接続してください。2 本以上のイーサネットケーブルで接続すると故障の原因になります。
- NETWORK 端子をハブとして使用する場合は、メニューの“ネットワーク”の設定([138 ページ](#))を“常時オン”にしてください(お買い上げ時の設定は“常時オン”です。)
- ループ検知機能は搭載されていません。
- 次のような接続はしないでください。



イーサネットケーブル (CAT-5 以上を推奨)

- STP タイプまたは ScTP タイプのシールドイーサネットケーブルをお使いください。
- イーサネットケーブルは、シールド付きのノーマルタイプをおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルをご使用になると、ノイズが他の機器に影響を及ぼす可能性があります。
- 本機はクロスケーブルに対応しています。



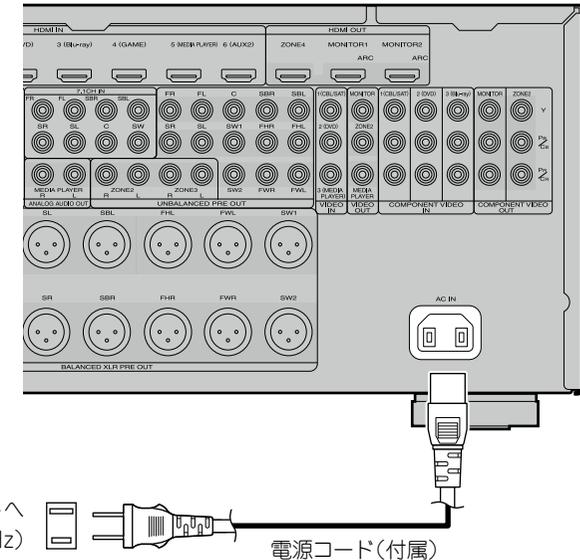
- ネットワークの設定を手動でおこなうタイプの回線で、プロバイダ契約を結んでいる場合は、メニューの“ネットワーク” (137 ページ) の設定をおこなってください。
- ブロードバンドルータ(DHCP 機能)をお使いの場合は、本機が自動的に IP アドレスなどの設定をおこないます。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続してお使いになる場合は、メニューの“ネットワーク” (137 ページ) で、IP アドレスなどの設定をおこなってください。
- 手動で設定する場合は、設定内容をネットワーク管理者に確認してください。

ご注意

- インターネットに接続するには、ISP と契約する必要があります。すでにブロードバンド回線を利用してインターネットに接続されている場合は、新たに契約する必要はありません。
- ISP 業者によって使用できるルータの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- 当社では、お客様のネットワーク環境および接続機器に関する通信エラーや不具合については一切責任を負いません。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルータが必要です。
- オーディオ再生をおこなう場合は、オーディオ再生対応のルータをお使いください。

電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



家庭用の電源コンセントへ
(AC100V, 50/60Hz)

電源コード(付属)

ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント” (8 ページ) メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。)
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハム音や雑音の原因となることがあります。

設定のしかた

ここではお使いになるスピーカーに最適な設定を自動的におこなう“Audyssey® セットアップ”と、本機をホームネットワーク (LAN) に接続して使用できるようにする“ネットワーク”について説明します。

本機はホームネットワーク (LAN) を介して、パソコンに保存している音楽ファイルやインターネットラジオの再生をお楽しみいただけます。

□ **スピーカーを接続する** (☞ [91 ページ](#))

□ **スピーカーを設定する(Audyssey® セットアップ)** (☞ [38 ページ](#))

□ **ネットワークの設定をする(ネットワーク)** (☞ [46 ページ](#))

□ **再生のしかた(基本操作)** (☞ [47 ページ](#))

□ **リスニングモードを選ぶ(サウンドモード)** (☞ [81 ページ](#))

□ **再生のしかた(応用操作)** (☞ [98 ページ](#))



スピーカーを設定する(Audyssey® セットアップ)



接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を“Audyssey® セットアップ”と呼びます。

測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るためには、6箇所以上(最大で8箇所)の測定をすることをおすすめします。

- Audyssey® セットアップをおこなうと、Audyssey MultEQ® XT 32/Audyssey Dynamic EQ®/Audyssey Dynamic Volume® の機能 (☞ [119](#)、[120 ページ](#)) が有効になります。
- 手動でスピーカーの設定をしたい場合は、メニューの“スピーカー” (☞ [133 ページ](#)) でおこなってください。

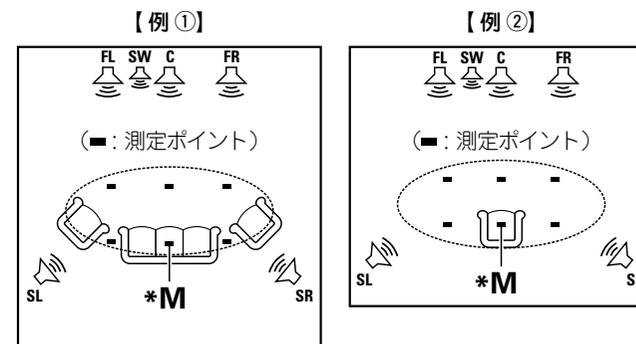
ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を開め、電化製品(テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯など)の電源を切ってください。測定の際、これらの製品による騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- セットアップマイクは、Audyssey® セットアップが完了するまで、絶対に抜かないでください。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができません。
- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中にリモコンの **VOLUME ▲▼** または本機の **VOLUME** を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey® セットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。



セットアップマイクの設置場所について

- 測定は、【例①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るため、図のように6箇所またはそれ以上(最大で8箇所)で測定することをおすすめします。
- リスニング環境が【例②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。



FL フロントスピーカー(左) SW サブウーハー
FR フロントスピーカー(右) SL サラウンドスピーカー(左)
C センタースピーカー SR サラウンドスピーカー(右)

メインリスニングポイント(* M)について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するとき座る位置です。Audyssey® セットアップをはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。Audyssey MultEQ® XT 32 は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

1 付属のセットアップマイクを準備する

セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。セットアップマイクを設置する場合は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。



三脚やスタンドがない場合は、背もたれのない椅子などに設置してください。

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら測定しないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

Audyssey Sub EQ HT™ について

Audyssey Sub EQ HT™ は、2本のサブウーハー間の音量レベルと距離を補正し、Audyssey MultEQ® XT 32 の信号処理をおこなうことで、迫力のある低域サウンドを再現します。

* Audyssey Sub EQ HT™ をおこなうためには、「チャンネルセレクト」の設定」(P.94 ページ) で「測定(2台)」を選んでください。

2 サブウーハーの設定をする

次の設定ができるサブウーハーをお使いの場合のみ、この設定をおこなってください。

詳しくは、お使いのサブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

□ ダイレクトモード機能があるサブウーハーをお使いの場合

ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

□ ダイレクトモード機能がないサブウーハーをお使いの場合

次のように設定してください。

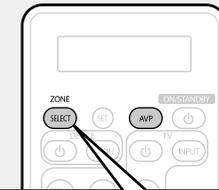
- 音量の設定：“12時”の位置
- クロスオーバー周波数の設定：“最大 / 最高周波数”
- ローパスフィルターの設定：“オフ”
- スタンバイモードの設定：“オフ”

ご注意

サブウーハーを同時に2本使用する場合は、Audyssey® セットアップをはじめの前に、メニューの“サブウーハーレベル”(P.136 ページ) でサブウーハーの音量を調節してください。サブウーハーの音量は個別に設定できません。

3 ゾーンモードの設定

ZONE SELECT を押して、“MAIN”に切り替える。



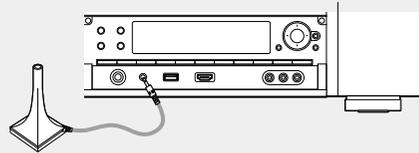
ZONE SELECT を押す

ご注意

リモコンをプリセットコード登録 (P.147 ページ) して使用している場合は、AVP を押して、リモコンを AVP 操作モードにしてから操作してください。

準備

4 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。



↓
セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。



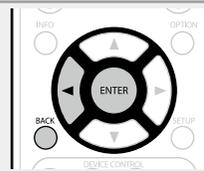
【本体のディスプレイ】

*AUDYSSEY SETUP
Start

- “チャンネルセレクト”で、測定しないチャンネルをあらかじめ設定すると、測定時間を短縮することができます。操作のしかたは、「“チャンネルセレクト”の設定」(P.94 ページ)の手順 3～9 をおこなってください。

スピーカー検出と測定(メイン)

5 “スタート”を選び、ENTER を押す。



6 “次へ”を選び、ENTER を押す。
サブウーハーの音量設定画面を表示します。



7 “テスト開始”を選び、ENTER を押す。

サブウーハーの音量を測定します。

- サブウーハーの音量が不適切な場合は、エラーメッセージが表示されます。「サブウーハーレベルのエラーメッセージと調節のしかた」(P.45 ページ)でサブウーハーの音量を調節してください。
- 測定には数分間かかります。
- 測定を中止したい場合は、ENTER を押して“キャンセル”を選んでください。

8 検出されたスピーカーを表示します。

- 次の図は、フロントスピーカー/センタースピーカー/サブウーハー/サラウンドスピーカー/サラウンドバックスピーカーを検出したときの表示例です。



ご注意

接続しているスピーカーが表示されない場合は、スピーカーが正しく接続されていないことが考えられます。スピーカーの接続を確認してください。

9 “次へ”を選び、ENTER を押す。

スピーカー検出と測定(メイン) (つづき)

ご注意

テレビ画面に“注意!”が表示された場合

「エラーメッセージについて」(P.44 ページ)をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。

エラーが解決したら、再び“Audyssey® セットアップ”をはじめからおこなってください。

1つ前の画面に戻るとき

“戻る”を選び、**ENTER** を押す。

測定を中止するとき

- ① **BACK** を押して、ポップアップ画面を表示させる。
- ② **△** を押して“はい”を選び、**ENTER** を押す。

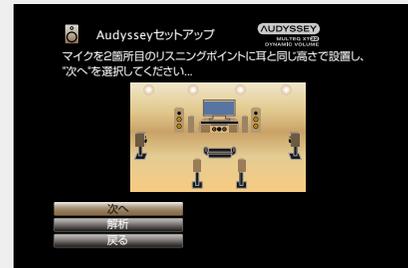
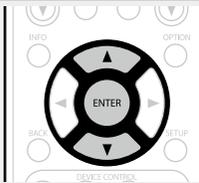
再度スピーカーを設定するとき

手順 4 以降の操作をおこなってください。

測定 (2～8 箇所目)

- このステップでは、メインリスニングポイント以外の複数の箇所(2～8箇所)を測定します。
- メインリスニングポイントの1箇所のみでも測定可能ですが、複数の箇所を測定すると、リスニングエリア内の音響歪みの補正精度をより高くすることができます。

10 2箇所目にセットアップマイクを移動させ、“次へ”を選び、**ENTER** を押す。
2箇所目の測定をはじめます。
最大8箇所まで測定できます。



- 3箇所目以降のリスニングポイントの測定を省略する場合は、**△▽** で“解析”を選んで **ENTER** を押し、手順 13 へ進んでください。
- 2箇所目を再測定したい場合は、**△▽** で“再検出”を選び、**ENTER** を押してください。

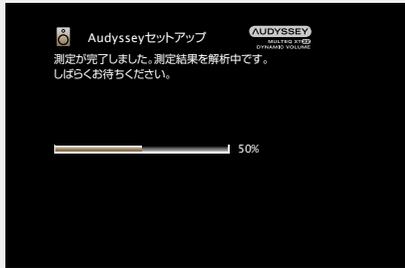
11 手順 10 をくり返して 3～8 箇所を測定する。
8箇所目の測定が完了すると、“測定が完了しました。”を表示します。



解析

12 “解析”を選び、ENTER を押す。

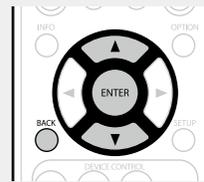
測定結果を自動的に解析し、リスニングルームにおける各スピーカーの特性を決定します。



- 解析には数分間かかります。接続するスピーカーの数と測定箇所が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

解析結果の確認

13 △▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。



- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。
- 他の項目を確認したいときは、**BACK** を押してください。

ご注意

- 接続している状態と異なる結果や“注意！”が表示された場合は、「エラーメッセージについて」(P.44 ページ)をご覧ください。エラーが解決したら、再度 Audyssey® セットアップをはじめからおこなってください。
- スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再び Audyssey® セットアップをおこなってください。

保存

14 “保存”を選び、ENTER を押す。

測定結果を保存します。



- 保存には 20 秒程度かかります。
- 測定結果の保存中は“保存中です。しばらくお待ちください。”を表示します。保存が終了すると、“保存しました。これで、Audyssey セットアップは完了です。マイクを抜いてください。”を表示します。

ご注意

測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。

終了

15 本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。



ご注意

Audyssey® セットアップをおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、再び Audyssey® セットアップをおこなってください。

16 Audyssey Dynamic Volume® の設定をする。



• Dynamic Volume は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切な音量調節を自動的におこないます。

□ Dynamic Volume の設定をするとき

- △ を押して“はい”を選び、ENTER を押す。
自動的に“Medium”モードになります (120 ページ)。

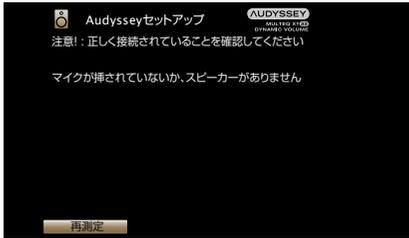
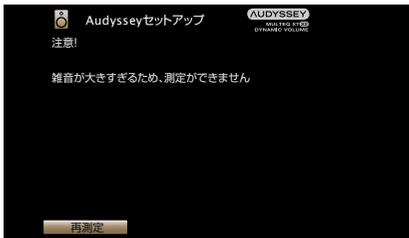
□ Dynamic Volume の設定をしないとき

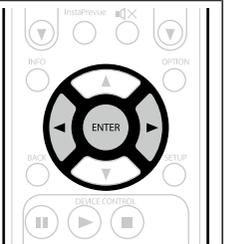
- ▽ を押して“いいえ”を選び、ENTER を押す。

エラーメッセージについて

ご注意

- スピーカーの設置や測定環境などにより Audyssey® セットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。エラーが解決したら、再び Audyssey® セットアップをはじめからおこなってください。
- 再測定後も、接続している状態と異なる結果やエラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
	<ul style="list-style-type: none"> • 接続しているセットアップマイクが壊れているか、付属以外のセットアップマイクを接続している。 • 接続しているすべてのスピーカーが検出されない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 • スピーカーの接続を確認してください。
	<ul style="list-style-type: none"> • 部屋の騒音が大きいため、正しい測定ができない。 • スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しい測定ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 • 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 • スピーカーの設置や向きを確認してください。 • サブウーハーの音量を調節してください。
	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーが検出されない。 (左の画面は、フロント右スピーカーが検出できないことをあらわします。) 	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーの接続を確認してください。
	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーの位相が逆である。 (左の画面は、フロント右スピーカーの位相が逆になっていることをあらわします。) 	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーの極性を確認してください。 • スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、◀▶ を押して“スキップ”を選び、ENTER を押してください。



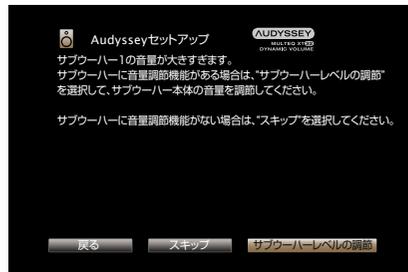
□サブウーハーレベルのエラーメッセージと調節のしかた

Audyssey セットアップ測定での各サブウーハーチャンネルの最適なレベルは、75dB です。

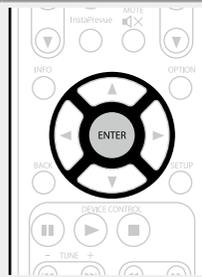
サブウーハーレベルの測定 ([38 ページ](#) “スピーカーを設定する(Audyssey® セットアップ)”) で、サブウーハーレベルが 72～78dB 以外のときにエラーメッセージを表示します。

アンプ(アクティブ型)を内蔵したサブウーハーを使用する場合は、サブウーハーチャンネルのレベルが 72～78dB の範囲内になるように、サブウーハーの音量を調整してください。

【エラーメッセージ】



- 1 “サブウーハーレベルの調節”を選び、ENTER を押す。サブウーハーレベルの測定をはじめます。測定を開始すると、“測定中...”を表示します。約 3～5 秒すると、レベル表示部に測定レベル値を表示します。



- 測定レベル値が 72～78dB 以外のときには、レベル表示部が赤色になります。
- 測定を中止する場合は、“戻る”を選び **ENTER** を押ししてください。

- 2 お手持ちのサブウーハーで、測定レベルが 72～78dB 以内になるように調節する。



- 測定レベル値が 72～78dB 以内になると、レベル表示部が緑色になります。

- 3 測定レベル値が 72～78dB 以内になったら、“次へ”を選び、ENTER を押す。



サブウーハーを 2 台お使いになる場合は、手順 2、3 をくり返して、サブウーハー 1 とサブウーハー 2 のレベルが 72～78dB 以内になるように調節してください。

測定結果の確認

Audyssey® セットアップをおこなったあとに、測定結果やイコライザーの種類を確認できます。

1 **SETUP** を押して、テレビ画面にメニューを表示させる。

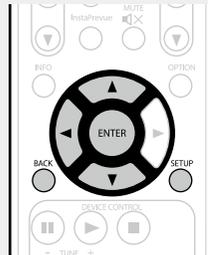
2 Δ/∇ を押して“スピーカー” \rightarrow “Audyssey® セットアップ”を選び、**ENTER** または \triangleright を押す。

3 Δ/∇ を押して“測定結果の確認”を選び、**ENTER** を押す。



4 Δ/∇ を押して確認したい項目を選び、**ENTER** を押す。
スピーカーごとに測定結果を表示します。

スピーカー構成	スピーカーの構成を確認します。
距離	スピーカーの距離を確認します。
レベル	スピーカーのチャンネルレベルを確認します。
クロスオーバー周波数	スピーカーのクロスオーバー周波数を確認します。
イコライザー	イコライザーの補正カーブを確認します。



• “イコライザー”を選んだ場合は、 Δ/∇ を押して確認したい補正カーブ(“Audyssey”または “Audyssey Flat”)を選んでください。

Δ/∇ を押すと、各スピーカーの表示を切り替えることができます。

5 \triangleleft または **BACK** を押す。
確認画面に戻ります。手順 2 をくり返しおこなってください。

Audyssey® セットアップの設定値に戻すとき

“再設定”で“はい”を選ぶと、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey® セットアップの測定結果(MultEQ® XT 32 が当初計算した値)に戻すことができます。



ネットワークの設定をする (ネットワーク)



本機をホームネットワーク(LAN)に接続して、インターネットラジオやパソコンに保存されている音楽ファイルや静止画像(JPEG)ファイルを再生することができます。

1 イーサネットケーブルを接続する (☞ [36 ページ](#) 「ホームネットワーク(LAN)に接続する」)。

2 本機の電源を入れる (☞ [47 ページ](#))。
本機は DHCP 機能によって自動的にネットワークの設定をおこないます。DHCP 機能がないネットワークに接続するときは、メニューの“接続の設定” (☞ [139 ページ](#))をおこなってください。

再生のしかた(基本操作)

□ 設定のしかた (☞38 ページ)

- 本機の電源を入れる (☞47 ページ)
- 入力ソースを選ぶ (☞47 ページ)
- 主音量を調節する (☞48 ページ)
- 一時的に音を消す(ミュート) (☞48 ページ)

- ブルーレイディスクプレーヤー
や DVD プレーヤーを再生する (☞48
ページ)
- Super Audio CD を再生する (☞48
ページ)
- CD プレーヤーを再生する (☞49 ページ)
- iPod を再生する (☞50 ページ)
- USB メモリーを再生する (☞53 ページ)
- FM 放送を聴く (☞56 ページ)

- インターネットラジオを聴く
(☞64 ページ)
- パソコンや NAS に保存されているファイルを
再生する (☞67 ページ)
- オンラインサービスを利用する
(☞71 ページ)
- 便利な機能 (☞73 ページ)
- AirPlay 機能 (☞79 ページ)

- リスニングモードを選ぶ (サウンドモード)
(☞81 ページ)

再生のしかた(応用操作) (☞98 ページ)

知っておいてほしいこと

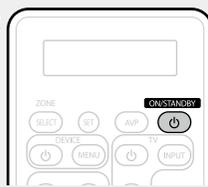
再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。



再生するときは、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

本機の電源を入れる

ON/STANDBY 電源ボタンを押して、本機の電源を入れる。



本体の ON/STANDBY を押しても電源を入れることができません。

□ 本機の電源をスタンバイにする

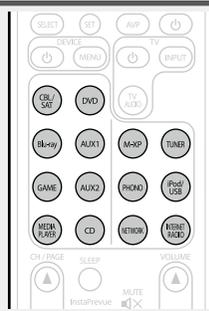
ON/STANDBY 電源ボタンを押す。

【スタンバイ時の本体の電源表示】

- 通常のスタンバイ時：赤色
- メニューの“HDMI パススルー”または“HDMI コントロール” (☞124 ページ) の設定が“オン”のとき：橙色
- メニューの“ネットワーク” (☞138 ページ) の設定が“常時オン”のとき：橙色
- MHL 対応モバイル端末を充電しているとき：橙色

入力ソースを選ぶ

再生する入力ソース選択ボタン (CBL/SAT, DVD, Blu-ray, AUX1, M-XP, TUNER, GAME, AUX2, PHONO, iPod/USB, MEDIA PLAYER, CD, NETWORK または INTERNET RADIO) を押す。入力ソースをダイレクトに選べます。

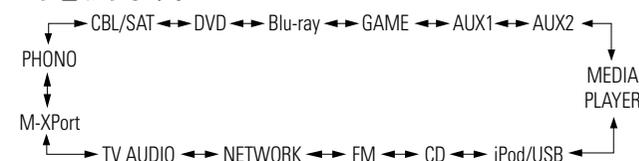


次の操作方法でも入力ソースを選ぶことができます。

□ 本体の操作で入力ソースを選ぶ

INPUT SELECTOR を回す。

- INPUT SELECTOR を回すと、入力ソースが次の順序で切り替わります。



主音量を調節する

VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

- メニューの“表示方法”(119 ページ)の設定により、音量の表示方式が異なります。



- “表示方法”の設定(119 ページ)が“0~98”のとき

【調節できる範囲】 0.0 0.5~98.0

- “表示方法”の設定(119 ページ)が“-79.5dB~18.0dB”のとき

【調節できる範囲】 --- -79.5dB~18.0dB

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。



本体の **VOLUME** を回しても、主音量を調節できます。

一時的に音を消す(ミュート)

MUTE ㊦ を押す。

- ディスプレイの“MUTE”表示が点滅します。
- テレビ画面に ㊦ を表示します。



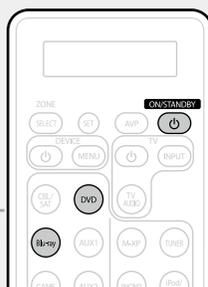
- メニューの“ミュートレベル”(119 ページ)で設定したレベルまで音量が減衰します。
- ミュートを解除するときは、再度 **MUTE ㊦** を押してください。ミュート中に主音量を調節しても解除しません。

ブルーレイディスクプレーヤーやDVDプレーヤーを再生する

ブルーレイディスクプレーヤーとDVDプレーヤーの再生のしかたを説明します。

1 再生の準備をする。

- ① テレビやサブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
- ② テレビの入力を、本機の入力に設定する。
- ③ プレーヤーにディスクを入れる。



2 ON/STANDBY ㊦ を押して、本機の電源を入れる。

3 Blu-ray または DVD を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 ブルーレイディスクプレーヤーまたはDVDプレーヤーを再生する。

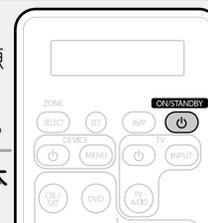
- あらかじめプレーヤーの設定(言語設定や字幕設定など)をおこなってください。

Super Audio CD を再生する

Super Audio CD の再生のしかたを説明します。

1 再生の準備をする。

- ① サブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
- ② プレーヤーにディスクを入れる。



2 ON/STANDBY ㊦ を押して、本機の電源を入れる。

3 メニューの“入力端子の割り当て”(129 ページ)の設定をする。

- 再生する入力ソースに、HDMI 端子を割り当てる。(例：DVD)

4 入力ソース選択ボタン(例：DVD)を押して、手順3で割り当てた入力ソースに切り替える。

5 メニューの“入力モード”(132 ページ)で、入力モードを“オート”に設定する。

- “入力モード”のお買い上げ時の設定は、“オート”です。

6 本機に接続した機器を再生する。

ディスプレイの [DSD] 表示が点灯します。



Super Audio CD を再生する場合は、DSD 信号を PCM 信号に変換してからアナログ信号に変換します。

CD プレーヤーを再生する

CD プレーヤーの再生のしかたを説明します。

1 再生の準備をする。

- ① サブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
- ② プレーヤーにディスクを入れる。

2 ON/STANDBY ㊤ を押して、本機の電源を入れる。

3 CD を押して、入力ソースを“CD”に切り替える。

4 CD プレーヤーを再生する。



iPod を再生する

iPod に付属の iPod ケーブルを使用して、iPod を本機の iPod/USB 端子に接続すると、iPod の音楽を楽しむことができます。

本機で再生できる iPod は、「iPod/USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する」([👉27 ページ](#)) をご覧ください。

iPod の音楽を聴く

iPod の表示モードには、「From iPod」と「On-Screen」があります。

お買い上げ時の設定は、iPod の画面を見ながら直接 iPod 本体を操作する「From iPod」です。

iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作する「On-Screen」に変更したい場合は、「オペレーションモードの設定 (iPod ブラウズモード)」([👉51 ページ](#)) をご覧ください。

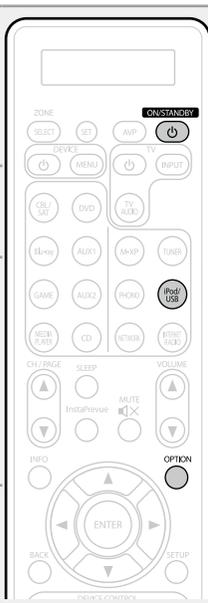
1 iPod ケーブルを使って iPod を接続する場合は本機の iPod/USB 端子に接続する ([👉27 ページ](#))。

2 ON/STANDBY ❶ を押して、本機の電源を入れる。

3 iPod/USB ❷ を押して、入力ソースを「iPod/USB」に切り替える。
本体のディスプレイに「From iPod」を表示します。

• テレビの画面には何も表示しません。

4 iPod の画面を見ながら直接 iPod 本体を操作して音楽を再生する。



iPhone、iPod touch、iPad の音楽ファイルを本機で再生する ([👉79 ページ](#))

iTunes の音楽を本機で再生する ([👉79 ページ](#))

オプションメニューでできる操作

OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作できます。

使用する USB ポートを設定する (USB 端子の選択) ([👉73 ページ](#))

オペレーションモードの設定 (iPod ブラウズモード) ([👉51 ページ](#))

リピート再生をする (リピート) ([👉52 ページ](#))

ランダム再生をする (ランダム) ([👉52 ページ](#))

視聴環境に合わせて画質を調整する (ピクチャーモード) ([👉77 ページ](#))

All Zone Stereo 機能 ([👉78 ページ](#))

□オペレーションモードの設定 (iPod ブラウズモード)

iPod の各種リストや再生中の表示をテレビ画面に表示します。

ここでは、“On-Screen”で iPod の曲を再生するまでの手順を説明します。

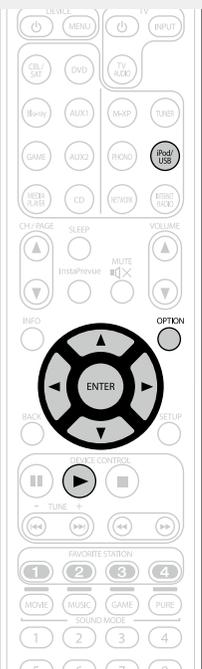
1 iPod/USB を押して、入力ソースを“iPod/USB”に切り替える。

2 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

3 “iPod ブラウズモード”を選び、ENTER を押す。
“iPod ブラウズモード”画面を表示します。



4 ◀▶ を押して“On-Screen”を選び、ENTER を押す。
iPod 画面を表示します。



- 本体のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.”(ピリオド)”に置き換えて表示します。
- “From iPod”と“On-Screen”の操作一覧は次のとおりです。

表示モード		From iPod	On-Screen
再生できる ファイル	音楽ファイル	✓	✓
	映像ファイル	*	
操作できる ボタン	リモコン (本機)	✓	✓
	iPod	✓	

* 音声のみ再生します。

5 △▽ を押して項目を選び、ENTER または ▶ を押して再生したいファイルを選ぶ。

6 ENTER、▶ または ▶ を押す。
再生をはじめます。

□音質を調節する(M-DAX)

メニューの“M-DAX” (118 ページ) で設定してください。

“M-DAX”機能を使用すると、圧縮前の音に近い状態に復元し、同時に低音域の量感の補正もおこなうため、より豊かな再生ができます。お買い上げ時の設定は、“オフ”です。

□画面の表示時間を変更する

メニューの“再生画面” (127 ページ) で設定してください。お買い上げ時の設定は、“常時オン”です。

“オートオフ”に設定すると、操作して 30 秒後にオンスクリーン表示をオフにします。

画面表示が消えているときに △▽◀▶ を押すと、元の画面に戻ります。

□ディスプレイ表示を切り替える

“iPod ブラウズモード”を“On-Screen”に設定した状態で再生しているときに、本体の **STATUS** を押す。

ボタンを押すたびにタイトル名、アーティスト名、アルバム名などを切り替えて表示します。

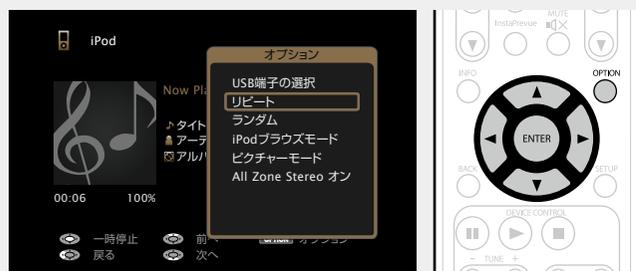
ご注意

- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一 iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

□リピート再生をする(リピート)

1 “iPod ブラウズモード” を“On-Screen” に設定しているときに **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 Δ / ∇ を押して“リピート”を選び、**ENTER** を押す。



3 \triangleleft / \triangleright を押してリピート再生モードを選ぶ。



• \triangleleft / \triangleright を押すたびに、次の順序でリピート再生モードが切り替わります。



オフ リピート再生モードを解除します。

1曲 再生中の曲をリピート再生します。

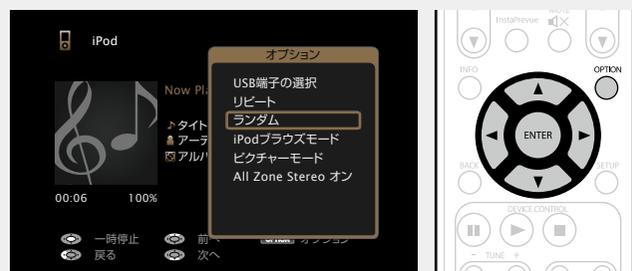
すべて 現在再生中のフォルダにあるすべての曲をリピート再生します。

4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。

□ランダム再生をする(ランダム)

1 “iPod ブラウズモード” を“On-Screen” に設定しているときに **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 Δ / ∇ を押して“ランダム”を選び、**ENTER** を押す。



3 \triangleleft / \triangleright を押してランダム再生モードを選ぶ。



• \triangleleft / \triangleright を押すたびに、次の順序でランダム再生モードが切り替わります。

オフ \longleftrightarrow オン

オフ ランダム再生モードを解除します。

オン ランダム再生モードを有効にします。

4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。



ランダム再生は、曲の再生が終わるたびにすべての曲からランダムに再生する曲を選びます。そのため、同じ曲を続けて再生する場合があります。

□iPod 再生時に使用できるボタン



操作ボタン	機能
CH/PAGE \blacktriangle / \blacktriangledown	ページ検索
INFO	入カソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	USB端子の選択 / リピート再生 / ランダム再生 / iPod ブラウズモードの切り替え / ピクチャーモード / All Zone Stereo
Δ / ∇ / \triangleleft / \triangleright	カーソル操作 / オートサーチ(頭出し、 Δ / ∇) / マニュアルサーチ(長押し、 Δ / ∇)
ENTER (短押し)	確定
ENTER (長押し)	停止
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
	一時停止
\blacktriangleright	再生 / 一時停止
■	停止
\blacktriangleleft \blacktriangleright	オートサーチ(頭出し)
\blacktriangleleft \blacktriangleright (長押し)	マニュアルサーチ(早戻し / 早送り)

USB メモリーを再生する

USB メモリーに保存されている音楽ファイルや静止画像を再生できます。

知っておいてほしいこと

- 本機は、マストレージクラスおよび MTP (Media Transfer Protocol) に対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーは、FAT16 または FAT32 フォーマットに対応しています。
- 本機で対応している MP3 ファイルの規格は、MPEG-1 Audio Layer-3 です。
- 本機で再生できるファイルの種類や仕様は、次のとおりです。

【再生できるファイルの種類】

再生できるファイルの種類	USB メモリー *1
WMA (Windows Media Audio)	✓*2
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	✓
WAV	✓
MPEG-4 AAC	✓*3
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	✓
JPEG	✓
ALAC (Apple Lossless Audio Codec)	✓

*1 USB メモリーについて

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示できます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500 × 500 (WMA/MP3/WAV/FLAC) または 349 × 349 (MPEG-4 AAC) を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。
- WAV フォーマットの量子化ビット数は、16 または 24 ビットです。
- FLAC フォーマットの量子化ビット数は、16 または 24 ビットです。

*2 MTP に対応した一部のポータブルプレーヤーでは、著作権保護のあるファイルを再生できます。

*3 著作権保護のないファイルのみ再生できます。

インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

ご注意

本機が対応していない形式のファイルは表示しません。

【再生できるファイルの仕様】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48kHz	48~192kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48kHz	32~320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/96/ 176.4/192 kHz	-	.wav
MPEG-4 AAC	32/44.1/48kHz	16~320kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	32/44.1/48/88.2/96/ 176.4/192 kHz	-	.flac
ALAC (Apple Lossless Audio Codec)*	32/44.1/48/88.2/96kHz	-	.m4a

* Copyright [2012] [D&M Holdings, Inc.]

Apache License Version 2.0(「本ライセンス」)に基づいてライセンスされます。このファイルを使用するためには、本ライセンスに従わなければなりません。本ライセンスのコピーは下記の URL から入手できます。

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

本機で表示できるフォルダやファイルの制限数は次のとおりです。

項目	メディア	USB メモリー
メモリーの容量		FAT16 : 2GB、FAT32 : 2TB
フォルダの階層数 *1		8 階層
フォルダ数		500
ファイル数 *2		5000

*1 制限数にはルートフォルダを含みます。

*2 USB メモリーの容量やファイルサイズにより、許容ファイル数が変わる場合があります。

USB メモリーに保存されているファイルを再生する

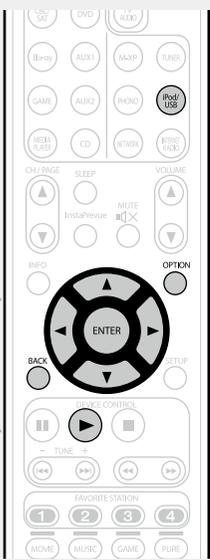
1 USB メモリーを iPod/USB 端子に接続する
([727 ページ](#))。

2 iPod/USB を押して、入力ソースを“iPod/USB”に切り替える。



3 △▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▶ を押す。

4 △▽ を押してファイルを選び、ENTER、▶ または ▶ を押す。再生をはじめます。



□音質を調節する (M-DAX)

メニューの“M-DAX” ([118 ページ](#)) で設定してください。

“M-DAX”機能を使用すると、圧縮前の音に近い状態に復元し、同時に低音域の量感の補正もおこなうため、より豊かな再生ができます。お買い上げ時の設定は、“オフ”です。

□1 つ前の画面に戻る

◀ または BACK を押す。

□画面の表示時間を変更する

メニューの“再生画面” ([127 ページ](#)) で設定してください。お買い上げ時の設定は、“常時オン”です。

“オートオフ”に設定すると、操作して 30 秒後にオンスクリーン表示をオフにします。

画面表示が消えているときに △▽◀▶ を押すと、元の画面に戻ります。



- MP3 形式の音楽ファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中に、アルバムアートを表示させることができます。
- USB メモリーが複数のパーティションに分かれている場合は、先頭のパーティションのみ再生します。

ご注意

- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものでお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。
- 本機の iPod/USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。

オプションメニューでできる操作

OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作することができます。

□ 使用する USB ポートを設定する (USB 端子の選択) ([73 ページ](#))

□ キーワードでコンテンツを検索する (テキスト検索) ([73 ページ](#))

□ リピート再生をする (リピート) ([74 ページ](#))

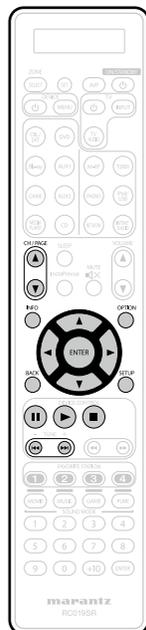
□ ランダム再生をする (ランダム) ([74 ページ](#))

□ 音楽とお好みの写真を同時に再生する (スライドショー) ([76 ページ](#))

□ 静止画像を順番に再生する (スライドショーの再生間隔) ([76 ページ](#))

□ All Zone Stereo 機能 ([78 ページ](#))

□USB メモリー再生時に使用できるボタン



操作ボタン	機能
CH/PAGE ▲▼	ページ検索
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	USB 端子の選択 / テキスト検索 / リピート再生 / ランダム再生 / スライドショー / スライドショーの再生間隔 / All Zone Stereo
△▽◀▶	カーソル操作 / オートサーチ(頭出し、△▽)
ENTER (短押し)	確定
ENTER (長押し)	停止
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
 	一時停止
▶	再生 / 一時停止
■	停止
◀◀ ▶▶	オートサーチ(頭出し)

FM 放送を聴く

アンテナの接続については、「FM アンテナを接続する」(P.31 ページ)をご覧ください。

受信のしかた

FM 放送局を受信するモードには、本機が自動的に受信できる放送局を探して受信する“オート”モードと、ボタン操作で周波数を切り替えて受信する“マニュアル”モードがあります。お買い上げ時の設定は“オート”モードです。そのほかにも受信周波数の数字を入力して受信する“ダイレクトチューニング”があります。

“オート”モードでは、受信状態が良くない放送局は受信できません。その場合は“マニュアル”モードまたは“ダイレクトチューニング”で受信してください。

FM 放送を聴く

1 TUNER を押して、入力ソースを“FM”に切り替える。



2 TUNE + または TUNE - を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

受信可能な放送局が見つかるまでスキャンします。放送局が見つかったと自動的にスキャンを停止して受信します。

FAVORITE STATION ボタンに登録する (P.75 ページ)

オプションメニューでできる操作

OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作することができます。

受信周波数を入力して受信する (ダイレクトチューニング) (P.58 ページ)

聴いている放送局をプリセットする (プリセットメモリー) (P.60 ページ)

受信モードを変更する(チューニングモード) (P.57 ページ)

自動でラジオ放送を選局し自動でプリセットする (オートプリセットメモリー) (P.59 ページ)

プリセットした放送局に名前をつける (プリセットネーム) (P.61 ページ)

プリセットした放送局をスキップする (プリセットスキップ) (P.62 ページ)

All Zone Stereo 機能 (P.78 ページ)

□受信モードを変更する(チューニングモード)

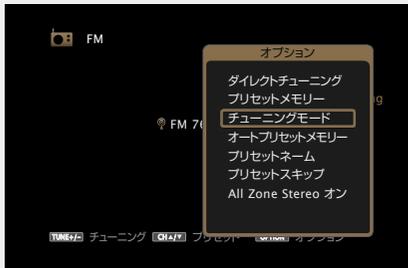
FM 放送局の受信モードを変更します。“オート”モードで自動的に放送局を受信できないときは、“マニュアル”モードに変更し、手で放送局を受信してください。

1 **TUNER** を押して、入力ソースを“FM”に切り替える。

2 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

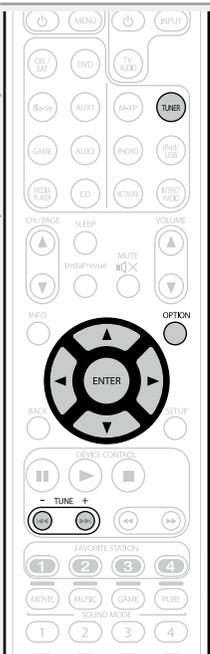
3 Δ ∇ を押して“チューニングモード”を選び、**ENTER** を押す。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

*OPTION
Tune Mode

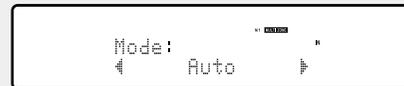


4 \triangleleft \triangleright を押してチューニングモードを選び、**ENTER** を押す。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



オート 自動で放送局を受信します。

マニュアル 手動で放送局を受信します。

5 **TUNE +** または **TUNE -** を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

ボタンを押すたびに、周波数が段階的に切り替わります。



マニュアルチューニング中に **TUNE +** または **TUNE -** を押し続けると、連続的に受信周波数が変わります。

□画面の表示時間を変更する

メニューの“再生画面” ([127 ページ](#)) で設定してください。お買い上げ時の設定は、“常時オン”です。“オートオフ”に設定すると、操作して 30 秒後にオンスクリーン表示をオフにします。

画面表示が消えているときに Δ ∇ \triangleleft \triangleright を押すと、元の画面に戻ります。

□受信周波数を入力して受信する (ダイレクトチューニング)

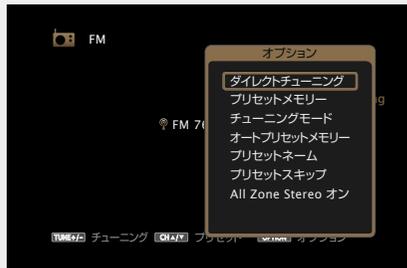
ダイレクトに周波数を入力し、放送局を受信します。

1 **TUNER** を押して、入力ソースを“FM”に切り替える。

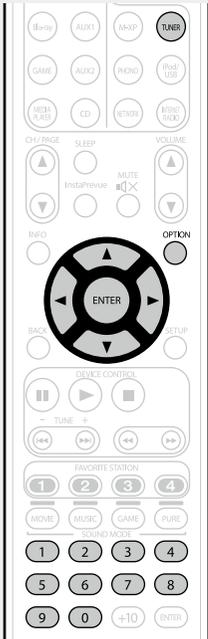
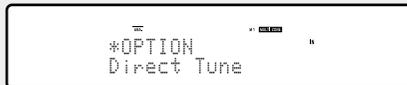
2 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

3 Δ / ∇ を押して“ダイレクト
チューニング”を選び、**ENTER**
を押す。
ダイレクトチューニング画面を表示
し、ディスプレイの“-”が点滅しま
す。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

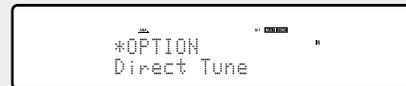


4 Δ / ∇ または **0~9** を押して数字を選び、 \triangleright を押す。
周波数入力画面を表示します。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



• \triangleleft を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができ
ます。

5 手順 4 をくり返し、聴きたい放送局の周波数を入
力する。

6 入力が完了したら、**ENTER** を押す。
放送局を受信します。

放送局をプリセットする

□自動でラジオ放送を選局し自動でプリセットする（オートプリセットメモリー）

最大 56 局までプリセットできます。

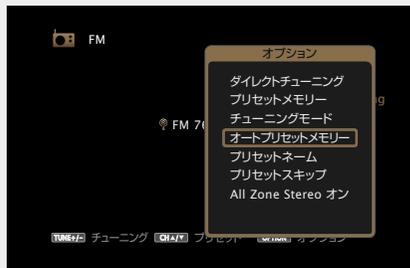
ただし、“プリセットメモリー”後に“オートプリセットメモリー”をおこなった場合、“プリセットメモリー”で設定していた放送局に上書きします。

1 TUNER を押して、入力ソースを“FM”に切り替える。

2 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

3 △▽ を押して“オートプリセットメモリー”を選び、ENTER を押す。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

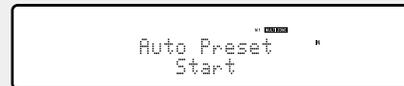


4 ENTER を押す。
自動で放送局を受信し、プリセットをはじめます。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



- プリセットが完了すると“完了しました”を約 5 秒間表示し、オプションメニュー画面が消灯します。

□聴いている放送局をプリセットする (プリセットメモリー)

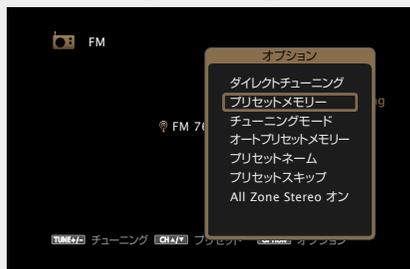
手動でお好みの放送を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

1 プリセットしたい放送局を受信する。

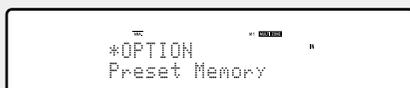
2 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

3 Δ / ∇ を押して“プリセットメモリー”を選び、**ENTER** を押す。
すでにプリセットされているチャンネルリストを表示します。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



4 Δ / ∇ または **0~9** を押してプリセットしたいチャンネルを選び、**ENTER** を押す。

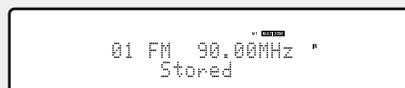
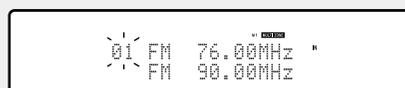
現在受信している放送局をプリセットします。

- 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1~4 をおこなってください。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



“プリセットスキップ” ([162 ページ](#)) に設定した放送局はチャンネル番号がグレー表示になっていますが、放送局はプリセットできます。

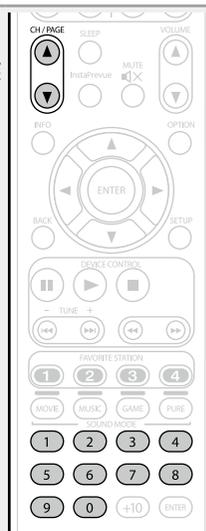
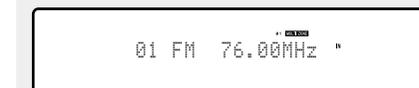
グレー表示のチャンネル番号にプリセットをすると、ハイライト表示に変わり、“プリセットスキップ”が“オン”になります。

チャンネル	お買い上げ時の設定
1~8	76.00 / 83.00 / 89.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
9~16	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
17~24	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
25~32	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
33~40	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
41~48	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
49~56	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz

プリセットした放送局を聴く

CH/PAGE Δ / ∇ または **0~9** を押して、プリセットしたチャンネルを選ぶ。

【本体のディスプレイ】



□プリセットした放送局に名前をつける (プリセット名前)

プリセットした放送局に名前をつけたり、変更したりできます。

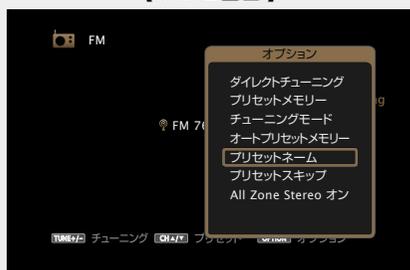
8文字まで入力できます。

1 **TUNER** を押して、入力ソースを“FM”に切り替える。

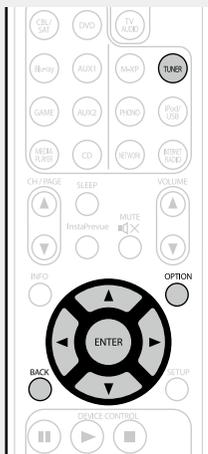
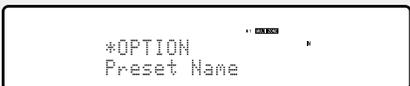
2 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

3 Δ / ∇ を押して“プリセット名前”を選び、**ENTER** を押す。
プリセット名前画面を表示します。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



4 \triangleleft / \triangleright を押して名前をつけたい放送局のグループを選ぶ。

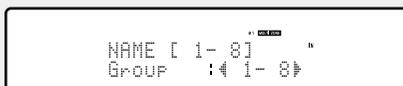
• \triangleleft / \triangleright を押すたびに、次の順序でグループが切り替わります。



【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

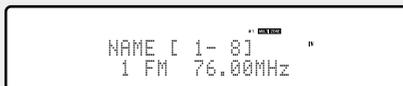


5 Δ / ∇ を押して名前をつけたい放送局を選び、**ENTER** を押す。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



6 Δ / ∇ を押してネームラベルを選び、**ENTER** を押す。
プリセット名前の編集画面を表示します。

•“初期化”を選ぶと周波数表示に戻ります。

7 文字を入力して、**OK** を押す。

•文字の入力方法については、[114 ページ](#)をご覧ください。

8 **BACK** を 3 回押す。
再生画面に戻ります。

□プリセットした放送局をスキップする (プリセットスキップ)

選局するとき、表示させない放送局をグループごとまたは放送局ごとにあらかじめ設定できます。

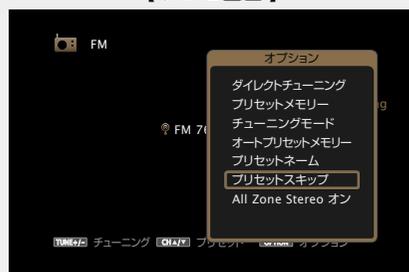
プリセットスキップを設定すると、お好みの放送局だけの表示になりますので選局するときに便利です。

1 **TUNER** を押して、入力ソースを“FM”に切り替える。

2 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

3 Δ / ∇ を押して“プリセットスキップ”を選び、**ENTER** を押す。
プリセットスキップ画面を表示します。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

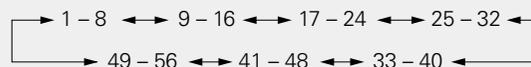
*OPTION
Preset Skip



4-1 【スキップしたい放送局をグループごとに設定するとき】

① \triangleleft / \triangleright を押してスキップしたい放送局のグループを選ぶ。

- \triangleleft / \triangleright を押すたびに、次の順序でグループが切り替わります。



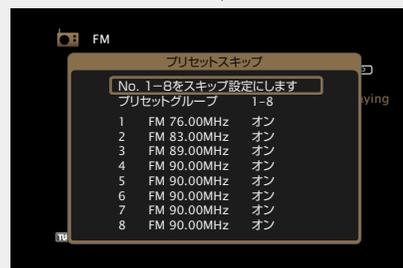
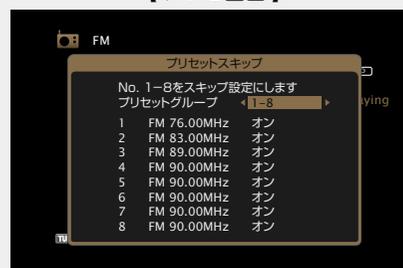
② Δ を押して“No.* - * をスキップ設定にします”を選び、**ENTER** を押す。

選択したグループ“* - *”に含まれるすべての放送局を表示しません。

(* は選択しているグループ番号です。)

③ **BACK** を押す。

【テレビ画面】



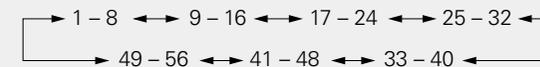
【本体のディスプレイ】

SKIP [1- 8]
Set 1- 8to Skip

4-2 【スキップしたい放送局を放送局ごとに設定するとき】

① \triangleleft / \triangleright を押してスキップしたい放送局のグループを選ぶ。

- \triangleleft / \triangleright を押すたびに、次の順序でグループが切り替わります。



② Δ / ∇ を押して、スキップしたい放送局を選ぶ。

③ \triangleleft / \triangleright を押して、“スキップ”を選ぶ。
選択した放送局を表示しません。

④ **BACK** を押す。

【テレビ画面】



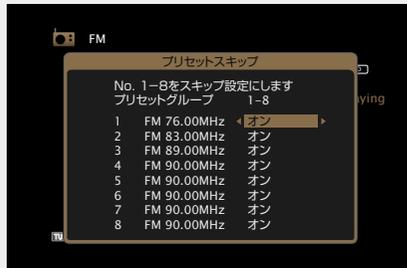
【本体のディスプレイ】

SKIP [1- 8]
1 76.00MHz:Skip

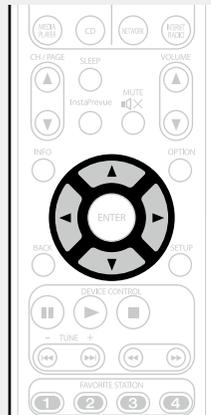
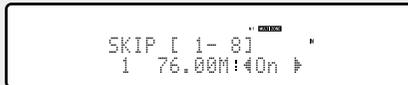
プリセットスキップを解除する

- 1 プリセットスキップ画面を表示中、◀▶ を押してスキップを解除したい放送局を含むグループを選ぶ。
- 2 ▲▼ を押して、スキップを解除したい放送局を選ぶ。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】

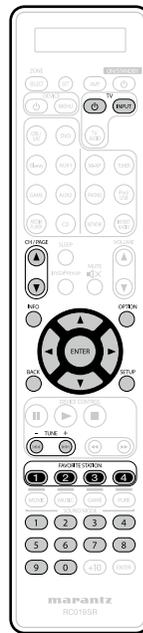


- 3 ◀▶ を押して、“オン”を選ぶ。
スキップを解除します。

ご注意

グループごとのスキップ解除はできません。

FM 放送を受信時に使用できるボタン



操作ボタン	機能
TV 電源	テレビの電源オン / スタンバイ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
CH/PAGE ▲▼	プリセットチャンネルの選択
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	チューニングモードの切り替え / 受信周波数の入力 / プリセットメモリー / オートプリセットメモリー / プリセットネーム / プリセットスキップ / All Zone Stereo
△▼◀▶	カーソル操作
ENTER	確定
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
TUNE +, -	選局(アップ / ダウン)
FAVORITE STATION 1~4 (短押し)	呼び出し
FAVORITE STATION 1~4 (長押し)	お気に入りリストへの追加
0~9	プリセットチャンネルの選択 / ダイレクト選局

ネットワークについて

インターネットラジオを聴く

インターネットラジオとは、インターネット上に配信されているラジオ放送です。世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。

知っておいてほしいこと

本機で再生できる放送局の種類や仕様は、次のとおりです。

【再生できる放送局の種類】

再生できるファイルの種類	インターネットラジオ
WMA (Windows Media Audio)	✓
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	✓

【再生できる放送局の仕様】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48kHz	48~192kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48kHz	32~320kbps	.mp3

インターネットラジオを聴く

1 再生の準備をする。

- ① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる ([36 ページ](#) 「ホームネットワーク(LAN)に接続する」)。
- ② 設定が必要な場合は、“接続の設定” ([139 ページ](#)) をおこなう。

2 NETWORK を押す。

- **INTERNET RADIO** を押すと、入カソースの“Internet Radio”をダイレクトに選択できます。

3 △▽◀▶ を押して“Internet Radio”を選び、ENTER を押す。



4 △▽ を押して再生したい項目を選び、ENTER または ▶ を押す。



日本

日本の一般的なインターネットラジオ局を表示します。

ラジオ局の検索

本機で受信できるすべてのインターネットラジオ局を表示します。

Podcastsの検索

本機で受信できるポッドキャスト内のインターネットラジオ局を表示します。

お奨めのラジオ局

おすすめインターネットラジオ局を表示します。

radiomarantz.com

vTuner でお気に入りに登録しているインターネットラジオ局を表示します。vTuner でのお気に入り登録のしかたは、「vTuner でインターネットラジオ局をお気に入り登録する」([66 ページ](#))をご覧ください。

最近再生した曲

最近再生したインターネットラジオ局を表示します。最大 20 局まで“最近再生した曲”へ自動的に記憶します。

文字列による検索

キーワード検索したインターネットラジオ局を表示します。文字の入力方法については、[114 ページ](#)をご覧ください。

5 インターネットラジオ局リストが表示されるまで、手順 4 をくり返す。

6 △▽ を押してラジオ局を選び、ENTER または ▶ を押す。 バッファリングが“100%”表示になると、再生がはじまります。

□音質を調節する (M-DAX)

メニューの“M-DAX” (☞ [118 ページ](#)) で設定してください。

“M-DAX” 機能を使用すると、圧縮前の音に近い状態に復元し、同時に低音域の量感の補正もおこなうため、より豊かな再生ができます。お買い上げ時の設定は“オフ”です。

□ディスプレイ表示を切り替える

本体の **STATUS** を押す。

ボタンを押すたびにタイトル名、放送局名などを切り替えて表示します。

□1 つ前の画面に戻る

◀ または **BACK** を押す。

□画面の表示時間を変更する

メニューの“再生画面” (☞ [127 ページ](#)) で設定してください。お買い上げ時の設定は“常時オン”です。

“オートオフ”に設定すると、操作して 30 秒後にオンスクリーン表示をオフにします。

△▽◀▶ を押すと、元の画面に戻ります。



- インターネット上には数多くのインターネットラジオ局があり、各ラジオ局から配信される放送や楽曲のビットレートには高低さまざまなものがあります。一般的に、ビットレートが高いほど高音質になりますが、通信回線やサーバーの混雑具合によってはストリーミングしている音楽や音声が届きやすくなります。逆にビットレートが低ければ音質は低下しますが、届きにくくなります。
- 放送局が混雑している場合や放送されていないときには、“ラジオステーションのサーバーが混雑しています”または“接続が途切れました”を表示します。
- 本機ではフォルダ名とファイル名をタイトルのように表示することができます。ディスプレイ表示に対応していない文字は、“.(ピリオド)”に置き換えて表示します。

ご注意

ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止する場合があります。

オプションメニューでできる操作

OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作することができます。

□ キーワードでコンテンツを検索する
(テキスト検索) (☞ [73 ページ](#))

□ オプションメニューからお気に入りに登録する
(お気に入りに登録) (☞ [75 ページ](#))

□ 音楽とお好みの写真を同時に再生する (スライドショー) (☞ [76 ページ](#))

□ 視聴環境に合わせて画質を調整する
(ピクチャーモード) (☞ [77 ページ](#))

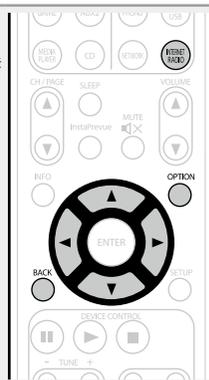
□ All Zone Stereo 機能 (☞ [78 ページ](#))

□前回再生していたインターネットラジオ局を再生する

本機は最後に再生していたインターネットラジオ局を記憶します。他の入力ソースから **INTERNET RADIO** を押してインターネットラジオの入力ソースに切り替えると、前回聴いていたインターネットラジオの放送局を再生します。

INTERNET RADIO を押す。

入力ソースを“Internet Radio”に切り替え、前回再生していたインターネットラジオ局を再生します。



□vTuner でインターネットラジオ局をお気に入り登録する

世界中にはたくさんのインターネットラジオ局があり、本機はそれらを受信できます。しかし、ラジオ局が多すぎるために聴きたい放送を探すのは大変です。そこで本機専用のインターネットラジオ局検索ウェブサイト vTuner をお使いください。お手持ちのパソコンを使用して、インターネットラジオ局の検索と登録ができます。本機では vTuner に登録したラジオ局を再生できます。

1 本機の MAC アドレスを確認する (P.138 ページ)。

プリセットネームの編集画面を表示します。
MAC アドレス：

- MAC アドレスは、vTuner のアカウント作成の際に必要になります。

2 お手持ちのパソコンから vTuner のサイト (<http://www.radiomarantz.com>) にアクセスする。

vTuner のログイン画面を表示します。

3 本機の MAC アドレスを入力し、“Go” をクリックする。

アカウント作成画面を表示します。

4 パソコンの E-mail アドレスと任意のパスワードを入力する。

アカウントが登録され、ログインが可能になります。

5 アカウント情報 (E-mail アドレスとパスワード) を入力し、ログインする。

vTuner のトップメニューを表示します。

6 お好みに検索条件 (ジャンル / 地域 / 言語など) を選ぶ。

条件に合わせたラジオ局リストを表示します。

- キーワードを入力し、聴きたい曲を探すこともできます。

7 表示されたリストからお好みのラジオ局を選び、お気に入り登録アイコンをクリックする。

お気に入りグループの作成画面を表示します。

8 お気に入りグループ名を入力し、“Go” をクリックする。

選択されたラジオ局が入ったお気に入りグループを新たに作成します。

- vTuner のお気に入りに登録したインターネットラジオ局は、本機の“radiomarantz.com” (P.64 ページ) から再生できます。

□インターネットラジオ受信時に使用できるボタン



操作ボタン	機能
TV 電源	テレビの電源オン / スタンバイ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
INTERNET RADIO	前回再生したラジオ局の再生
CH/PAGE ▲▼	ページ検索
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	テキスト検索 / お気に入りに登録 / スライドショー / ピクチャーモード / All Zone Stereo
△▽◀▶	カーソル操作
ENTER (短押し)	確定
ENTER (長押し)	停止
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
■	停止
FAVORITE STATION 1~4 (短押し)	呼び出し
FAVORITE STATION 1~4 (長押し)	お気に入りリストへの追加

パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する

本機では、パソコンや DLNA 対応のネットワーク接続ストレージ(NAS)に保存されている音楽ファイルやプレイリスト (m3u、wpl) を再生できます。

知っておいてほしいこと

- 本機のネットワークオーディオ再生機能では、次の技術を利用してサーバーに接続します。
 - Windows Media Player Network Sharing Service
 - Windows Media DRM10
- 本機で再生できるファイルの種類や仕様は、次のとおりです。

【再生できるファイルの種類】

再生できるファイルの種類	メディアサーバー *1
WMA (Windows Media Audio)	✓
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	✓
WAV	✓
MPEG-4 AAC	✓*2
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	✓
JPEG	✓
ALAC (Apple Lossless Audio Codec)	✓

ネットワーク経由での音楽ファイルの再生には、そのフォーマットの配信に対応したサーバーまたはサーバーソフトウェアが必要です。

*1 メディアサーバーについて

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示させることができます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500 × 500 (WMA/MP3/WAV/FLAC) または 349 × 349 (MPEG-4 AAC) を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。
- WAV フォーマットの量子化ビット数は、16 または 24 ビットです。
- FLAC フォーマットの量子化ビット数は、16 または 24 ビットです。

*2 著作権保護のないファイルのみ再生できます。

インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

ご注意

本機が対応していない形式のファイルは表示されません。

【再生できるファイルの仕様】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48kHz	48～192kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48kHz	32～320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/96/ 176.4/192 kHz	-	.wav
MPEG-4 AAC	32/44.1/48kHz	16～320kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	32/44.1/48/88.2/96/ 176.4/192 kHz	-	.flac
ALAC (Apple Lossless Audio Codec)*	32/44.1/48/88.2/96kHz	-	.m4a

* Copyright [2012] [D&M Holdings, Inc.]

Apache License Version 2.0(「本ライセンス」)に基づいてライセンスされます。このファイルを使用するためには、本ライセンスに従わなければなりません。本ライセンスのコピーは下記の URL から入手できます。

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

メディアの共有設定をおこなう

パソコンや NAS に保存されている音楽ファイルをネットワーク上で共有するための設定をおこないます。

□パソコンに保存したメディアを共有する

メディアサーバーを使用する場合には、事前に必ずこの設定をおこなってください。

Windows Media Player 12 (Windows 7) を使用する場合

ご注意

次の手順は、コントロールパネルの表示方法を“カテゴリ”にしてからおこなってください。

- 1 パソコン上の“コントロールパネル”から“ネットワークとインターネット”⇒“ホームグループと共有に関するオプションの選択”を選ぶ。
- 2 “ピクチャ、ミュージック、およびビデオを同じホームネットワーク上にあるすべてのデバイスにストリーム配信する”をチェックし、“メディアストリーミングオプションの選択”を選ぶ。
- 3 “AV8801”のドロップダウンリストで“許可”を選ぶ。
- 4 “この PC とリモート接続のメディアプログラム”のドロップダウンリストで“許可”を選ぶ。
- 5 “OK”をクリックして終了する。

Windows Media Player 11 を使用する場合

- 1 パソコンで Windows Media Player 11 を起動する。
- 2 “ライブラリ”から“メディアの共有”を選ぶ。
- 3 “メディアを共有する”をチェックして“AV8801”を選び、“許可”をクリックする。
- 4 手順 3 と同様に、メディアコントローラーとして使用したい機器（他のパソコンやモバイル端末）のアイコンを選び、“許可”をクリックする。
- 5 “OK”をクリックして終了する。

NAS に保存したメディアを共有する

本機およびメディアコントローラーとして使用したい機器（他のパソコンやモバイル端末）が NAS にアクセスできるよう、NAS の設定を変更してください。詳しくは、お使いの NAS に付属の取扱説明書をご覧ください。

パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する

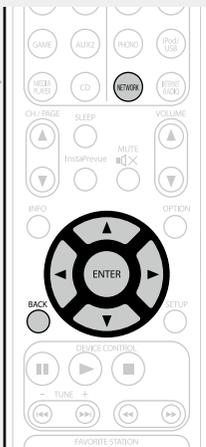
音楽ファイル、画像ファイルおよびプレイリストを再生できません。

1 再生の準備をする。

- ① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる ([136ページ](#) 「ホームネットワーク(LAN)に接続する」)。
- ② 設定が必要な場合は、「接続の設定」 ([139ページ](#)) をおこなう。
- ③ パソコンの準備をする ([パソコンの取扱説明書](#))。

2 NETWORK を押す。

3 △▽◀▶ を押し て“Media Server” を選び、ENTER を押す。



4 △▽ を押し て再生したいファイルのあるサーバーを選び、ENTER または ▶ を押す。

5 △▽ を押し て検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▶ を押す。

6 ファイルが表示されるまで、手順 4 をくり返す。

7 △▽ を押し てファイルを選び、ENTER または ▶ を押す。

バッファリングが“100%”表示になると、再生がはじまります。

□音質を調節する (M-DAX)

メニューの“M-DAX” ([118ページ](#)) で設定してください。

“M-DAX”機能を使用すると、圧縮前の音に近い状態に復元し、同時に低音域の量感の補正もおこなうため、より豊かな再生ができます。お買い上げ時の設定は、“オフ”です。

□ディスプレイ表示を切り替える

本体の **STATUS** を押す。

ボタンを押すたびにタイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えて表示します。

□1 つ前の画面に戻る

◀ または **BACK** を押す。

□画面の表示時間を変更する

メニューの“再生画面” ([127ページ](#)) で設定してください。お買い上げ時の設定は“常時オン”です。

“オートオフ”に設定すると、操作して 30 秒後にオンスクリーン表示をオフにします。

△▽◀▶ を押すと、元の画面に戻ります。



- WMA (Windows Media Audio)、MP3、MPEG-4AAC のファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示させることができます。
- WMA ファイルのアルバムアートは、Windows Media Player (バージョン 11 以上) を使用することで表示できます。
- Windows Media Player (バージョン 11 以上) などのトランスコードに対応したサーバーをご使用になる場合は、WMA Lossless ファイルを再生できます。

ご注意

- 静止画像 (JPEG) ファイルのサイズによっては、画像が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- 曲の表示順は、サーバーの仕様によって異なります。サーバーの仕様によって、曲の表示順がアルファベット順にならない場合は、頭文字での検索が正しく動作しないことがあります。

オプションメニューでできる操作

OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作することができます。

□ キーワードでコンテンツを検索する
(テキスト検索) (☞73 ページ)

□ リpeat再生をする(リピート)
(☞74 ページ)

□ ランダム再生をする(ランダム)
(☞74 ページ)

□ オプションメニューからお気に入りに登録する
(お気に入りに登録) (☞75 ページ)

□ 音楽とお好みの写真を同時に再生する
(スライドショー) (☞76 ページ)

□ 静止画像を順番に再生する
(スライドショーの再生間隔) (☞76 ページ)

□ 視聴環境に合わせて画質を調整する
(ピクチャーモード) (☞77 ページ)

□ All Zone Stereo 機能 (☞78 ページ)

□メディアサーバー内のファイルを再生時に使用できるボタン



操作ボタン	機能
TV 電源	テレビの電源オン / スタンバイ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
CH/PAGE ▲▼	ページ検索
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	テキスト検索 / リpeat再生 / ランダム再生 / お気に入りに登録 / スライドショー / スライドショーの再生間隔 / ピクチャーモード / All Zone Stereo
△▽◀▶	カーソル操作 / オートサーチ(頭出し、△▽)
ENTER (短押し)	確定
ENTER (長押し)	停止
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
II	一時停止
▶	再生 / 一時停止
■	停止
I◀▶I	オートサーチ(頭出し)
FAVORITE STATION 1~4 (短押し)	呼び出し
FAVORITE STATION 1~4 (長押し)	お気に入りリストへの追加

オンラインサービスを利用する

本機は、次のオンラインサービスの再生に対応しています。

□ Flickr について (☞71 ページ)

2004年に開始されたオンラインの写真共有サービスです。本機では、Flickr ユーザーが公開した写真を閲覧することができます。アカウントは必要ありません。自分で撮影した写真を Flickr のサーバーにアップロードするためにはアカウントが必要です。詳しくは、Flickr のホームページをご覧ください。
<http://www.flickr.com/>

Flickr サイト上の写真を閲覧する

任意のユーザーが共有している写真や Flickr 上のすべての写真を閲覧することができます。

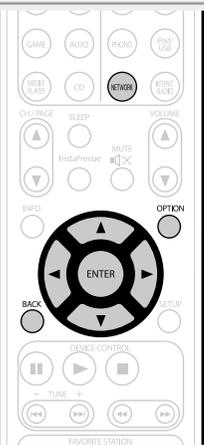
□任意のユーザーが共有している写真を閲覧する

1 再生の準備をする。

- ① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる (☞36ページ「ホームネットワーク(LAN)に接続する」)。
- ② 設定が必要な場合は、「接続の設定」(☞139ページ)をおこなう。

2 NETWORK を押す。

3 △▽◀▶ を押して“Flickr”を選び、ENTER を押す。



4 △▽ を押して“Add Flickr Contact”を選び、ENTER または ▶ を押す。



5 “Contact”に追加したい screen name (閲覧したいユーザー名)を入力する。

- 文字の入力方法については、[114 ページ](#)をご覧ください。

6 “Contact”を入力後、OK を押す。 screen name が“Contact”に登録され、Flickr のトップ画面に手順5で入力した screen name を表示します。

- 存在しない screen name を入力すると、“入力したコンタクトが見つかりませんでした”を表示します。screen name を確認し、正しく入力してください。

7 △▽ を押してフォルダを選び、ENTER または ▶ を押す。

- | | |
|----------------------------|--|
| Favorites | ご指定のユーザーのお気に入り写真を表示します。 |
| Photostream | 公開している写真一覧を表示します。 |
| PhotoSets | フォルダ(写真アルバム)リストを表示します。 |
| Contacts | ご指定のユーザーがコンタクト登録している screen name を表示します。 |
| Remove this Contact | ご指定のユーザーをコンタクトから削除します。 |
| Add this Contact | ご指定のユーザーをコンタクトに追加します。 |

8 △▽ を押してファイルを選び、ENTER または ▶ を押す。 選択したファイルを表示します。

□1 つ前の画面に戻る

◀ または BACK を押す。

オプションメニューでできる操作

OPTION ボタンを押すと、現在操作できる機能のメニューをテレビ画面に表示します。この中から操作したい機能を選んで操作してください。簡単に目的の機能を探して操作することができます。

□ 静止画像を順番に再生する
(スライドショーの再生間隔) (☞76 ページ)

□ 視聴環境に合わせて画質を調整する
(ピクチャーモード) (☞77 ページ)

□ All Zone Stereo 機能 (☞78 ページ)

□Flickr 上のすべての写真を閲覧する

1 △▽ を押して“All Content”を選び、ENTER または ▷ を押す。



2 △▽ を押してフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。

Interestingness コメントやお気に入り登録の履歴から、人気のある写真を表示します。

Recent 最近投稿された写真を表示します。

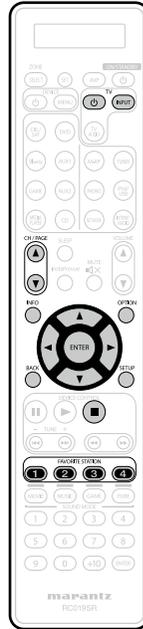
Search by text キーワードで写真を検索します。

3 △▽ を押してファイルを選び、ENTER または ▷ を押す。
選択したファイルを表示します。

ご注意

写真のファイルフォーマットによっては、閲覧できないものがあります。

□Flickr 再生時に使用できるボタン



操作ボタン	機能
TV 電源	テレビの電源オン / スタンバイ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
CH/PAGE ▲▼	ページ検索
INFO	入力ソース名 / 音量 / サウンドモード名などの情報表示
OPTION	スライドショー
△▽◀▶	カーソル操作 / オートサーチ(頭出し、△▽)
ENTER (短押し)	確定
ENTER (長押し)	停止
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
■	停止
FAVORITE STATION 1~4 (短押し)	呼び出し
FAVORITE STATION 1~4 (長押し)	お気に入りリストへの追加

便利な機能

ここでは NETWORK ソースや USB ソースの便利な機能の操作方法を説明します。各機能説明のタイトルの下にあるソース名は、その機能が有効なソースをあらわします。

□ 使用する USB ポートを設定する (USB 端子の選択) (☞ 73 ページ)

□ キーワードでコンテンツを検索する (テキスト検索) (☞ 73 ページ)

□ リpeat再生をする(リピート) (☞ 74 ページ)

□ ランダム再生をする(ランダム) (☞ 74 ページ)

□ お気に入り機能 (☞ 75 ページ)

□ 音楽とお好みの写真を同時に再生する (スライドショー) (☞ 76 ページ)

□ 静止画像を順番に再生する (スライドショーの再生間隔) (☞ 76 ページ)

□ 視聴環境に合わせて画質を調整する (ピクチャーモード) (☞ 77 ページ)

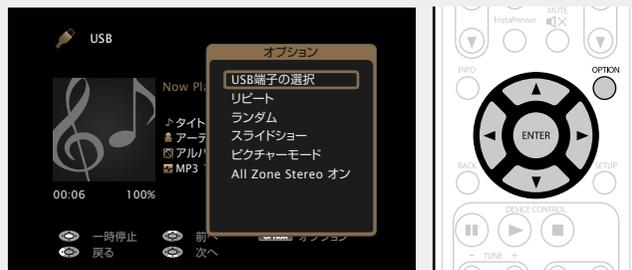
□ All Zone Stereo 機能 (☞ 78 ページ)

使用する USB ポートを設定する (USB 端子の選択)

iPod USB

1 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 Δ / ∇ を押して“USB 端子の選択”を選び、**ENTER** を押す。



3 \triangleleft / \triangleright で使用する USB ポートを選ぶ。



• \triangleleft / \triangleright を押すたびに、次の順序で USB 端子の選択モードが切り替わります。

フロント \longleftrightarrow リア

フロント フロントパネル側の USB ポートを使用します。

リア リアパネル側の USB ポートを使用します。

4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。

キーワードでコンテンツを検索する (テキスト検索)

USB Internet Radio Media Server

1 リスト画面を表示中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 Δ / ∇ を押して“テキスト検索”を選び、**ENTER** を押す。
キーボード入力画面を表示します。



3 検索したいインターネットラジオ局またはファイルの頭文字を入力して、**OK** を押す。

•文字の入力方法については、[114 ページ](#)をご覧ください。



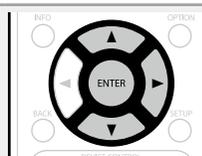
“テキスト検索”では表示されているリストの中からインターネットラジオ局またはファイルを検索します。

ご注意

リストによっては、“テキスト検索”できない場合があります。

□ 検索したコンテンツを再生する

Δ / ∇ を押して再生したいコンテンツを選び、**ENTER** または \triangleright を押す。
再生をはじめます。



リピート再生をする(リピート)

USB Media Server

- 1 コンテンツの再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 Δ / ∇ を押して“リピート”を選び、**ENTER** を押す。



- 3 \triangleleft / \triangleright を押してリピート再生モードを選ぶ。



- \triangleleft / \triangleright を押すたびに、次の順序でリピート再生モードが切り替わります。



- オフ** リピート再生モードを解除します。
- 1曲** 再生中の曲をリピート再生します。
- すべて** 現在再生中のフォルダにあるすべての曲をリピート再生します。

- 4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。

ランダム再生をする(ランダム)

USB Media Server

- 1 コンテンツの再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 Δ / ∇ を押して“ランダム”を選び、**ENTER** を押す。



- 3 \triangleleft / \triangleright を押してランダム再生モードを選ぶ。



- \triangleleft / \triangleright を押すたびに、次の順序でランダム再生モードが切り替わります。



- オフ** ランダム再生モードを解除します。
- オン** ランダム再生モードを有効にします。

- 4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。



ランダム再生は、曲の再生が終わるたびにすべての曲からランダムに再生する曲を選びます。そのため、同じ曲を続けて再生する場合があります。

お気に入り機能

お気に入りコンテンツの登録には、次の2つの方法があります。

- ① オプションメニューからお気に入りに登録する
- ② FAVORITE STATION ボタンに登録する

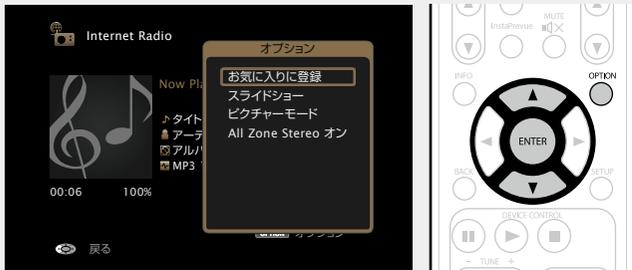
□オプションメニューからお気に入りに登録する(お気に入りに登録)

Internet Radio Media Server

お気に入りのコンテンツは“Internet Radio”や“Media Server”のソースから合計100件まで登録できます。

- 1 コンテンツの再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

- 2 **△▽** を押して“お気に入りに登録”を選び、**ENTER** を押す。
“お気に入りに登録しました”を表示し、再生中のコンテンツをお気に入りに登録します。



- 登録が完了すると再生画面に戻ります。

“お気に入りに登録”に登録したコンテンツを再生する

- 1 **NETWORK** を押す。

- 2 **△▽◀▶** を押して“Favorites”を選び、**ENTER** を押す。



- 3 **△▽** を押して再生したいコンテンツを選び、**ENTER** または **▶** を押す。
再生をはじめます。

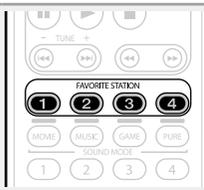
□FAVORITE STATION ボタンに登録する

最大4種類のコンテンツを登録できます。

ご注意

- すでに登録済みの番号に登録すると、前に登録されていた内容は消去されますのでご注意ください。
- 次の操作をおこなうと、メディアサーバーのデータベースが更新され、登録された音楽ファイルが再生できなくなる場合があります。
 - メディアサーバーを停止し、再起動した場合
 - メディアサーバーで音楽ファイルを削除または追加した場合

コンテンツの再生中に、**FAVORITE STATION 1~4** のいずれかのボタンを3秒以上長押しする。
押されたボタンにコンテンツを登録します。



FAVORITE STATION ボタンに登録できる内容は、入力ソースによって異なります。

入力ソース	登録できる内容
FM	ラジオ局
Internet Radio	コンテンツのトップリスト / インターネットラジオ局
Media Server	コンテンツのトップリスト / 曲
Flickr	コンテンツのトップリスト
Favorites	コンテンツのトップリスト

FAVORITE STATION ボタンに登録したコンテンツを再生する

FAVORITE STATION ボタンを押すだけでコンテンツを簡単に呼び出せます。

コンテンツを登録した **FAVORITE STATION 1~4** のいずれかのボタンを押す。
再生をはじめます。

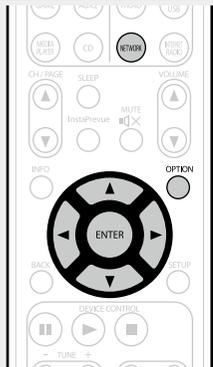


- FAVORITE STATION 1~4** ボタンを押すと、自動的に AVP 操作モードになります。
- FAVORITE STATION 1~4** には、あらかじめインターネットラジオ局が登録されています。ただし、放送局側の都合によっては再生できない場合があります。

□お気に入りに登録したコンテンツを削除する (お気に入りから削除)

1 NETWORK を押す。

2 △▽◀▶を押して“Favorites”
を選び、ENTER を押す。



3 △▽ を押してお気に入りから削除したいコン
テンツを選び、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

4 △▽ を押して“お気に入りから削除”
を選び、ENTER を押す。
“お気に入りから削除しました”を表示し、選択したコン
テンツをお気に入りから削除します。



•登録が完了すると、元の画面に戻ります。

音楽とお好みの写真を同時に再生する (スライドショー)

USB | Internet Radio | Media Server

- 1** 静止画像を再生する。
•USB メモリーの静止画像を再生する (154ページ)。
•Flickr の静止画像を再生する (71ページ)。
- 2** 音楽ファイルを再生するか、インターネットラジ
オ局を受信する (64、69 ページ)。
- 3** OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 4** △▽ を押して“スライドショー”を選び、ENTER を
押す。
オプションメニュー画面が消灯し、再生していた写真を
表示します。



静止画像を順番に再生する (スライドショーの再生間隔)

USB メモリーやメディアサーバーに保存された静止画
像 (JPEG) ファイル、および Flickr サイト上の写真のスラ
イドショー再生ができます。また、表示時間を設定するこ
ともできます。

USB | Media Server | Flickr

- 1** リスト画面を表示中に OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2** △▽ を押して“スライドショーの再生間隔”
を選び、ENTER を押す。



- 3** ◀▶ を押して、表示時間を設定する。
•◀▶ を押すたびに、次の順序で表示時間が切り替わります。



- オフ** スライドショーの再生をしません。
- 5s~60s** スライドショーで再生するときの画像 1 枚あたりの表
示時間を設定します。

- 4** ENTER を押す。
スライドショーの再生画面になります。

本機では、フォルダに保存されている画像の向きで静止画像
(JPEG) ファイルを再生します。

視聴環境に合わせて画質を調整する (ピクチャーモード)

- CBL/SAT DVD Blu-ray GAME AUX1 AUX2 MEDIA PLAYER
- USB Internet Radio Media Server Flickr CD *
- TV AUDIO *

* HDMI、コンポーネントビデオまたはビデオ端子のいずれかを割り当てている場合に設定できます。

1 コンテンツの再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

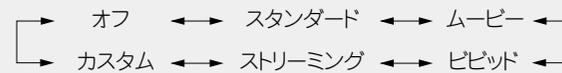
2 Δ / ∇ を押して“ピクチャーモード”を選び、**ENTER** を押す。



3 \triangleleft / \triangleright を押してピクチャーモードを選ぶ。



• \triangleleft / \triangleright を押すたびに、次の順序でピクチャーモードが切り替わります。



オフ 本機による画質調整をおこないません。

スタンダード リビングルームの視聴環境に適した標準のモードです。

ムービー シアタールームなどの暗い部屋で映画を見るのに適したモードです。

ビビッド ゲームなどのグラフィック画面に対して、より明るく、鮮やかにするモードです。

ストリーミング 低ビットレートのビデオソースに適したモードです。

カスタム 画質調整を手動で設定します。

4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。

All Zone Stereo 機能

メインゾーンで再生している音楽をマルチゾーン（ゾーン2/ゾーン3）でも同時に再生することができます。ホームパーティのときに各部屋で同時に同じ音楽を楽しみたい場合や、家全体でBGMを流したい場合に便利です。

□All Zone Stereo 機能を使用する (All Zone Stereo オン)

All Zone Stereo 機能はすべてのソースで設定できます。



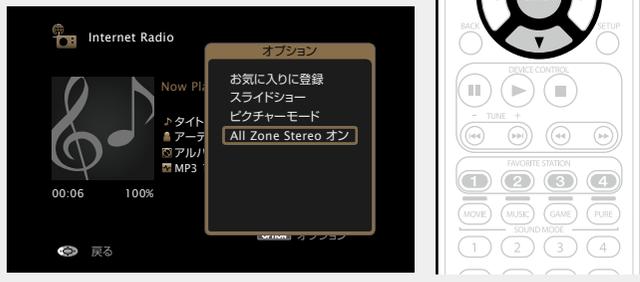
設定をおこなう前に、あらかじめ All Zone Stereo 機能を使用したいマルチゾーン（ゾーン2/ゾーン3）の電源をオンにする必要があります。

1 ZONE SELECT を押して、“MAIN”に切り替える。

2 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

3 △▽ を押して“**All Zone Stereo オン**”を選び、**ENTER** を押す。

マルチゾーン（ゾーン2/ゾーン3）の入力ソースがメインゾーンと同じ入力ソースに切り替わり、All Zone Stereo モードでの再生がはじまります。



□All Zone Stereo 機能を解除する (All Zone Stereo オフ)

1 All Zone Stereo で再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“**All Zone Stereo オフ**”を選び、**ENTER** を押す。



All Zone Stereo 機能は次の操作をしたときも解除されます。

- メインゾーンの電源をオフにする
- メインゾーンの入力ソースを変更する
- サウンドモードを変更する

ご注意

“HDMI オーディオ出力”の設定 ([123 ページ](#)) が“TV”の場合は、All Zone Stereo 機能は使用できません。

AirPlay 機能

iTunes のミュージックライブラリを本機で再生することができます。

また、iPhone、iPod touch、iPad の Apple Remote アプリ * を使って、どの部屋からでも iTunes のミュージックライブラリをコントロールすることができます。

* App Store から無料でダウンロードできます。

□ iPhone、iPod touch、iPad の音楽ファイルを本機で再生する

iPhone、iPod touch、iPad を iOS 4.2.1 以上にアップデートすると、iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機へダイレクトにストリーミングすることができます。

1 iPhone、iPod touch または iPad の Wi-Fi 設定をする。

• 詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

2 iPhone、iPod touch、iPad のミュージックまたは iPod アプリを起動する。

iPhone、iPod touch または iPad の画面に  を表示します。

3 AirPlay アイコン をタップする。

4 再生したいスピーカー(機器)をクリックする。



ご注意

AirPlay 機能を使用して再生する場合は、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes で設定している音量レベルで出力します。

再生する前に、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes の音量を最小にしてから適切な音量に調節してください。

□ iTunes の音楽を本機で再生する

1 本機と同じネットワークに接続しているパソコンに、iTunes10 以降をインストールする。

2 本機の電源を入れる。 あらかじめ、本機の“ネットワーク”([138 ページ](#))設定を“常時オン”にしてください。

ご注意

“ネットワーク”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。

3 iTunes を起動し、画面右下の AirPlay アイコン をクリックして、本機を選ぶ。



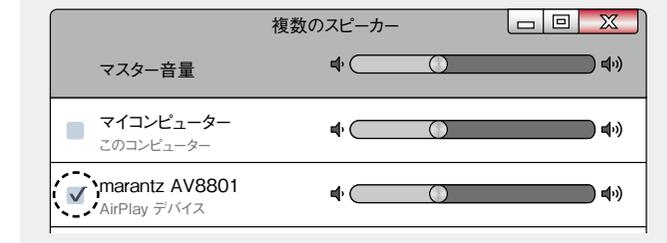
4 iTunes で曲を選んで再生する。 本機で再生をはじめます。

複数のスピーカー(機器)を選択する

ご家庭にある本機以外の AirPlay 対応のスピーカー(機器)で iTunes の曲を再生することができます。

1 AirPlay アイコン をクリックして、“複数のスピーカー”を選ぶ。

2 再生したいスピーカー(機器)をクリックする。



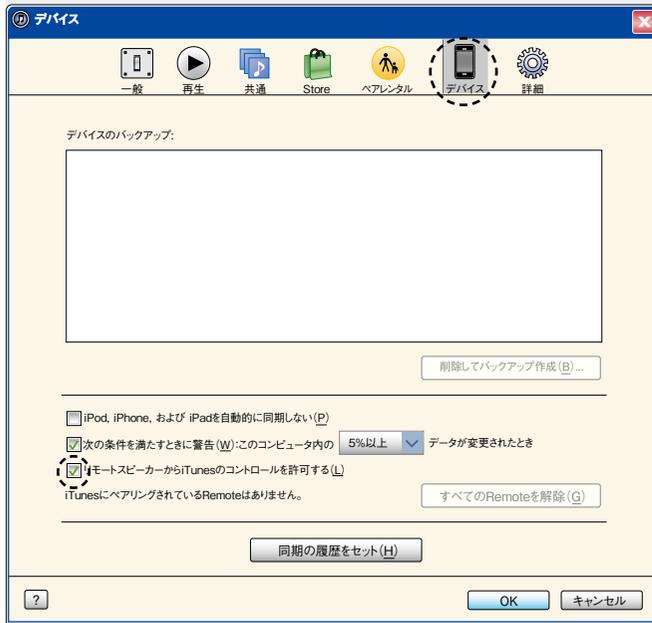
□本機のリモコンで iTunes の再生操作をおこなう

本機のリモコンで、iTunes の曲の再生や一時停止、頭出し操作ができます。

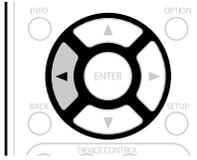
1 メニューの“編集”⇒“設定”を選ぶ。

2 iTunes の設定のウィンドウで“デバイス”を選ぶ。

3 “リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する”にチェックを入れ、“OK”をクリックする。



- AirPlay の操作中は、メニュー画面に  を表示します。
- AirPlay の再生を開始すると、本機の入力ソースは自動的に“NETWORK”に切り替わります。
- 本機の < を押すか他の入力ソースに切り替えると、AirPlay の再生が停止します。
- 本体の **STATUS** を押すと、曲名とアーティスト名を確認することができます。
- iTunes の使用方法は、iTunes の“ヘルプ”をご覧ください。
- 画面は、OS やソフトのバージョンによって異なる場合があります。



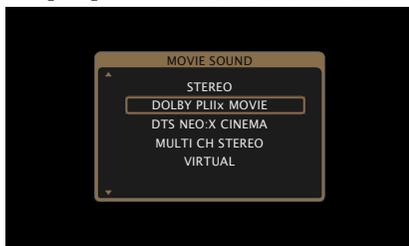
本機ではさまざまなサラウンド再生やステレオ再生をお楽しみいただけます。

ブルーレイディスクや DVD はもちろん、デジタル放送やネット配信の映画や音楽の多くのコンテンツには、マルチチャンネルの音声フォーマットが採用されています。

本機では、それらのほとんどがマルチチャンネル音声フォーマットの再生に対応しています。また、2チャンネルステレオ音声などのマルチチャンネル音声以外の音声フォーマットもサラウンド再生がおこなえます。

本機では入力された音声フォーマットと現在のスピーカーの設置環境から、再生できるすべてのサウンドモードを自動的にリストアップして画面に表示します。そのため、サウンドモードを選ぶための専門的な知識がなくても正しいサウンドモードを選ぶことができます。さまざまなサラウンド再生をお試しいただいた中から、最もお好みのサラウンド再生をお楽しみください。

【例】MOVIE を長押ししたとき



表示するサウンドモードには、2チャンネル再生のステレオモードも含まれています。



ディスクに収録されている音声フォーマットはディスクのジャケットをご覧ください。

リスニングモードを選ぶ

1 機器を再生する (48 ~ 69 ページ)。

2 MOVIE、MUSIC または GAME を長押しして、リスニングモードを選ぶ。

それぞれのモードに合わせて選択できるサウンドモードを自動的にリストアップして表示します。

• **MOVIE、MUSIC** または **GAME** を長押しするたびに、リスニングモードが切り替わります。

MOVIE リスニングモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。

MUSIC リスニングモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。

GAME リスニングモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。

• **MOVIE、MUSIC** または **GAME** を押すと、それぞれのモードの選択できるリスニングモードを表示します。**MOVIE、MUSIC** または **GAME** を押すたびに、リスニングモードが切り替わります。

• この一覧を表示中に Δ ∇ でリスニングモードを選択することもできます。



• **MOVIE、MUSIC** または **GAME** のボタンは、それぞれのボタンで最後に選んだサウンドモードを記憶します。**MOVIE、MUSIC** または **GAME** を押すと、前回再生したときと同じサウンドモードを呼び出します。

• 前回選んだサウンドモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最も標準的なサウンドモードを自動的に選びます。

ダイレクト / DSD ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。

1 機器を再生する (48 ~ 69 ページ)。

2 PURE を押して“DIRECT” または “DSD DIRECT” を選ぶ。ダイレクト再生をはじめます。



“DSD DIRECT” はダイレクトモードで DSD 信号を再生しているときに表示します。

ピュアダイレクト再生

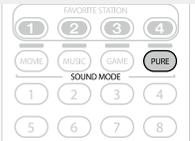
ダイレクト再生モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。

本体のディスプレイをオフにして、アナログビデオ回路を停止します。これにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。

1 機器を再生する (🔗 48 ~ 69 ページ)。

2 PURE を押して、“PURE DIRECT”を選ぶ。

ディスプレイが消灯し、ピュアダイレクト再生をはじめます。



ダイレクト / DSD ダイレクト再生モードおよびピュアダイレクト再生モードのとき、次の設定はできません。

- トーンコントロール (🔗 118 ページ)
- M-DAX (🔗 118 ページ)
- MultEQ® XT 32 (🔗 119 ページ)
- Dynamic EQ (🔗 120 ページ)
- Dynamic Volume (🔗 120 ページ)

ご注意

- HDMI 信号を再生しているときは、ピュアダイレクト再生モードでも映像を出力します。
- ピュアダイレクト再生モード中は、メニュー画面を表示しません。
- ピュアダイレクト再生モード中は、ディスプレイが消灯し、通電されていない状態と同様になります。

オートサラウンド再生

このモードでは、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。

1 機器を再生する (🔗 48 ~ 69 ページ)。

2 PURE を押して、“AUTO”を選ぶ。

オートサラウンド再生をはじめます。



本体の **PURE** を押してもオートサラウンドモードを選べます。

□リスニングモード

- **MOVIE**、**MUSIC**、**GAME** または **PURE** ボタンで、下記のリスニングモードが選べます。
- メニューの“サラウンドパラメーター”(116 ページ) で音場効果を調節すると、よりお好みのサウンドでお楽しみいただけます。

操作ボタン	入力信号	リスニングモード
MOVIE	2チャンネル *1	STEREO
		AUTO *2
		DOLBY PLIIx Movie *3
		DOLBY PLIIx Movie A-DSX*5
		DOLBY PLII Movie*3/ DOLBY PLII Movie A-DSX*5
		DOLBY PLIIz Height *3
		DTS NEO:X Cinema*6
	MULTI CH STEREO	
	VIRTUAL	
	マルチチャンネル *4	STEREO
		AUTO *2
	Dolby Digital	DOLBY DIGITAL/ DOLBY DIGITAL A-DSX*5
		DOLBY DIGITAL EX DOLBY DIGITAL + PLIIx Movie
		DOLBY DIGITAL + PLIIz DOLBY DIGITAL + NEO:X Cinema
		DOLBY TrueHD/ DOLBY TrueHD A-DSX*5
		DOLBY TrueHD + EX DOLBY TrueHD + PLIIx Movie
	Dolby TrueHD	DOLBY TrueHD + PLIIz DOLBY TrueHD + NEO:X Cinema
		DOLBY DIGITAL Plus/ DOLBY DIGITAL Plus A-DSX*5
		DOLBY DIGITAL Plus + EX DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx Movie
	Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz DOLBY DIGITAL Plus + NEO:X Cinema
		DTS SURROUND/ DTS SURROUND A-DSX*5
		DTS ES DSCRT 6.1 DTS ES MTRX 6.1
		DTS 96/24 DTS + PLIIx Movie
	DTS	DTS + PLIIz DTS + NEO:X Cinema

操作ボタン	入力信号	リスニングモード
MOVIE	DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES/ DTS-HD HI RES A-DSX*5
		DTS-HD MSTR/ DTS-HD MSTR A-DSX*5
		DTS Express/ DTS Express A-DSX*5
		DTS-HD + PLIIx Movie DTS-HD + PLIIz
		DTS-HD + NEO:X Cinema
		MULTI CH IN/ MULTI CH IN A-DSX*5
	PCM/DSD マルチチャンネル	MULTI CH IN 7.1 MULTI IN + Dolby EX MULTI IN + PLIIx Movie
		MULTI IN + PLIIz MULTI IN + NEO:X Cinema*6
		MPEG-2 AAC MPEG-2 AAC A-DSX*5
		MPEG-2 AAC + Dolby EX MPEG-2 AAC + PLIIx Movie
	MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC + PLIIz MPEG-2 AAC + NEO:X Cinema
		MULTI CH STEREO
	マルチチャンネル *4	VIRTUAL

- *1 2チャンネルには、アナログ入力も含まれます。
- *2 AUTO モードを選択した場合、入力信号に対応したサウンドモードで再生します。
- *3 2チャンネルソースを 5.1、7.1、9.1 または 11.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
- *4 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(168 ページ) をご覧ください。
- *5 このモードは Audyssey DSX® 処理により、5.1 チャンネルのサラウンドに新しいチャンネルを追加して再生します。
“Audyssey DSX®” (121 ページ) で“ハイト”を選んだ場合はフロントハイトチャンネルを追加し、“ワイド”を選んだ場合はフロントワイドチャンネルを追加して再生します。“ワイド/ハイト”を選んだ場合はフロントハイトチャンネルとフロントワイドチャンネルを追加して再生します。
- *6 DSD 信号入力時には選択できません。

操作ボタン	入力信号	リスニングモード
MUSIC	2チャンネル*1	STEREO
		AUTO *2
		DOLBY PLIIx Movie *3
		DOLBY PLIIx Movie A-DSX*5
		DOLBY PLII Movie *3/
		DOLBY PLII Movie A-DSX*5
		DOLBY PLIIz Height *3
		DTS NEO:X Music *3 *6/
	DTS NEO:X Music A-DSX*5	
	MULTI CH STEREO	
	VIRTUAL	
	マルチチャンネル*4	STEREO
		AUTO *2
	Dolby Digital	DOLBY DIGITAL/
		DOLBY DIGITAL A-DSX*5
		DOLBY DIGITAL EX
		DOLBY DIGITAL + PLIIx Music
	Dolby TrueHD	DOLBY DIGITAL + PLIIz
		DOLBY DIGITAL + NEO:X Music
		DOLBY TrueHD/
		DOLBY TrueHD A-DSX*5
	Dolby Digital Plus	DOLBY TrueHD + EX
		DOLBY TrueHD + PLIIx Music
		DOLBY TrueHD + PLIIz
		DOLBY TrueHD + NEO:X Music
	Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus/
		DOLBY DIGITAL Plus A-DSX*5
		DOLBY DIGITAL Plus + EX
DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx Music		
DTS	DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz	
	DOLBY DIGITAL Plus + NEO:X Music	
	DTS SURROUND/	
	DTS SURROUND A-DSX*5	
	DTS ES DSCRT 6.1	
	DTS ES MTRX 6.1	
DTS 96/24		
DTS + PLIIx Music		
DTS + PLIIz		
DTS + NEO:X Music		

操作ボタン	入力信号	リスニングモード
MUSIC	DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES/
		DTS-HD HI RES A-DSX*5
		DTS-HD MSTR /
		DTS-HD MSTR A-DSX*5
		DTS Express /
		DTS Express A-DSX*5
	PCM/DSD マルチチャンネル	DTS-HD + PLIIx Music
		DTS-HD + PLIIz
		DTS-HD + NEO:X Music
		MULTI CH IN/
	MPEG-2 AAC	MULTI CH IN A-DSX*5
		MULTI CH IN 7.1
		MULTI IN + Dolby EX
		MULTI IN + PLIIx Music
	マルチチャンネル*4	MULTI IN + PLIIz
		MULTI IN + NEO:X Music*6
		MPEG-2 AAC
		MPEG-2 AAC A-DSX*5
マルチチャンネル*4	MPEG-2 AAC + Dolby EX	
	MPEG-2 AAC + PLIIx Music	
マルチチャンネル*4	MPEG-2 AAC + PLIIz	
	MPEG-2 AAC + NEO:X Music	
マルチチャンネル*4	MULTI CH STEREO	
	VIRTUAL	

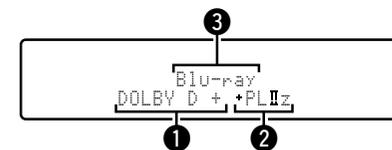
- *1 2チャンネルには、アナログ入力も含まれます。
- *2 AUTO モードを選択した場合、入力信号に対応したサウンドモードで再生します。
- *3 2チャンネルソースを 5.1、7.1、9.1 または 11.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
- *4 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(168 ページ)をご覧ください。
- *5 このモードは Audyssey DSX[®] 処理により、5.1 チャンネルのサラウンドに新しいチャンネルを追加して再生します。
“Audyssey DSX[®]” (121 ページ) で“ハイト”を選んだ場合はフロントハイトチャンネルを追加し、“ワイド”を選んだ場合はフロントワイドチャンネルを追加して再生します。“ワイド/ハイト”を選んだ場合はフロントハイトチャンネルとフロントワイドチャンネルを追加して再生します。
- *6 DSD 信号入力時には選択できません。

操作ボタン	入力信号	リスニングモード	
GAME	2チャンネル*1	STEREO	
		AUTO *2	
		DOLBY PLIIx Game*3	
		DOLBY PLIIx Game A-DSX*5	
		DOLBY PLII Game*3/ DOLBY PLII Game A-DSX*5	
		DOLBY PLIIz Height*3	
		DTS NEO:X Game*3 *6	
		MULTI CH STEREO	
	マルチチャンネル*4	STEREO	
		AUTO *2	
		Dolby Digital	DOLBY DIGITAL/ DOLBY DIGITAL A-DSX*5
			DOLBY DIGITAL EX
	DOLBY DIGITAL + PLIIz		
	DOLBY DIGITAL + NEO:X		
	Dolby TrueHD	DOLBY TrueHD/ DOLBY TrueHD A-DSX*5	
		DOLBY TrueHD + EX	
		DOLBY TrueHD + PLIIz	
		DOLBY TrueHD + NEO:X Game	
	Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus/ DOLBY DIGITAL Plus A-DSX*5	
		DOLBY DIGITAL Plus + EX	
		DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz	
		DOLBY DIGITAL Plus + NEO:X Game	
	DTS	DTS SURROUND/ DTS SURROUND A-DSX*5	
		DTS ES DSCRT 6.1	
		DTS ES MTRX 6.1	
		DTS 96/24	
		DTS + PLIIz	
		DTS + NEO:X Game	

操作ボタン	入力信号	リスニングモード
GAME	DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES/ DTS-HD HI RES A-DSX*5
		DTS-HD MSTR/ DTS-HD MSTR A-DSX*5
		DTS Express/ DTS Express A-DSX*5
		DTS-HD + PLIIz
		DTS-HD + NEO:X Game
		PCM/DSD マルチチャンネル
	MULTI CH IN 7.1	
	MULTI IN + Dolby EX	
	MULTI IN + PLIIz	
	MULTI IN + NEO:X Game*6	
	MPEG-2 AAC	
		MPEG-2 AAC A-DSX*5
MPEG-2 AAC + Dolby EX		
MPEG-2 AAC + PLIIx Game		
マルチチャンネル*4	MPEG-2 AAC + PLIIz	
	MPEG-2 AAC + NEO:X Game	
PURE	すべて	PURE DIRECT
	DSD 以外	DIRECT
	DSD	DSD DIRECT

- *1 2チャンネルには、アナログ入力も含まれます。
- *2 AUTO モードを選択した場合、入力信号に対応したサウンドモードで再生します。
- *3 2チャンネルソースを5.1、7.1、9.1または11.1チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
- *4 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.168 ページ)をご覧ください。
- *5 このモードは Audyssey DSX[®] 処理により、5.1チャンネルのサラウンドに新しいチャンネルを追加して再生します。
“Audyssey DSX[®]” (P.121 ページ) で“ハイト”を選んだ場合はフロントハイトチャンネルを追加し、“ワイド”を選んだ場合はフロントワイドチャンネルを追加して再生します。“ワイド/ハイト”を選んだ場合はフロントハイトチャンネルとフロントワイドチャンネルを追加して再生します。
- *6 DSD 信号入力時には選択できません。

テレビ画面およびディスプレイの表示について



- 使用するデコーダーをあらわします。
 - DOLBY DIGITAL Plus デコーダーは、“DOLBY D +”と表示します。
- サラウンドバックスピーカーから出力する音声を生成するデコーダーをあらわします。
 - “+ PLIIz”はフロントハイトスピーカーからのフロントハイト音声をあらわします。
- 再生中の入力ソース名を表示します。

AAC ソースの再生について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

リスニングモードの種類について

ドルビーリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DOLBY PLIIx*1	Dolby PLIIx デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをサラウンドバックチャンネルを加えた 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 サラウンドバックチャンネルによって、Dolby Pro Logic II に比べ、より包囲感が向上します。 映画再生に適した“Movie”モード、音楽再生に適した“Music”モードおよびゲームに最適な“Game”モードがあります。
DOLBY PLII	Dolby PLII デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを自然で臨場感のある 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。
DOLBY PLIIz*2	Dolby PLIIz デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをフロントハイトチャンネルを加えた 7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 フロントハイトチャンネルの追加によって、垂直方向の表現が豊かになり、立体感が向上します。
DOLBY DIGITAL	Dolby Digital で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DOLBY DIGITAL EX*1	Dolby Digital EX デコーダーを使用して、Dolby Digital ソースをサラウンドバックチャンネルを加えた 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 サラウンドバックチャンネルが加わることにより、空間表現力や定位感が向上します。
DOLBY TrueHD	Dolby TrueHD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DOLBY DIGITAL Plus	Dolby Digital Plus で収録されたディスクの再生に適したモードです。

*1 メニューの“スピーカー構成”⇒“S. バック”設定が“無し”以外のときに選べます。

*2 メニューの“スピーカー構成”⇒“フロントハイト”設定が“無し”以外のときに選べます。

DTS リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DTS NEO:X*1	DTS NEO:X デコーダーを使用して、2 チャンネルソースや 5.1/6.1/7.1 チャンネルのサラウンドソースを最大 11.1 チャンネルのサウンドで再生するマトリクスデコード技術です。 音楽再生に適した“Music”モード、映画再生に適した“Cinema”モードおよびゲームに最適な“Game”モードがあります。
DTS SURROUND	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS ES DSCRT 6.1*2	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ディスクリット方式で追加されたサラウンドバックチャンネルを独立したチャンネルとして再生します。 すべてのチャンネルが独立しているため、360 度の空間表現力や定位感が拡大します。
DTS ES MTRX6.1*3	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ソフトを収録時、マトリクスエンコードにより、サラウンド左 / サラウンド右チャンネルに追加されたサラウンドバックチャンネルを、本機のマトリクスデコーダーによってサラウンド左 / サラウンド右 / サラウンドバックの各チャンネルにデコードして再生します。
DTS 96/24	DTS 96/24 で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS Express	DTS Express で収録されたディスクの再生に適したモードです。

*1 このモード、は DSD 信号入力時には選べません。

*2 このモードは、サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用し、フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーを使用していない場合に選択できます。

*3 メニューの“スピーカー構成”⇒“S. バック”の設定が“無し”以外のときに選べます。

PCM/DSD マルチチャンネルリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MULTI CH IN	このモードは、マルチチャンネルの PCM ソースを入力しているときに選べます。

AAC リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MPEG2 AAC	このモードは、地上デジタル放送や BS デジタル放送などで MPEG-2 AAC が配信されているときに選べます。 MPEG-2 AAC により高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

Audyssey DSX[®] リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
Audyssey DSX [®] (A-DSX)*	このモードは、5.1 チャンネルシステムに新しいチャンネル（フロントワイドまたはフロントハイト）を作り出して再生します。フロントワイド、フロントハイトチャンネルの追加により、より立体感や臨場感のあるサラウンド効果を体験できます。

* このモードは“Audyssey DSX[®]” ([P.121 ページ](#))で“ワイド / ハイト”、“ハイト”または“ワイド”に設定しているときに表示します。

オリジナルリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MULTI CH STEREO	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。フロントスピーカー(左 / 右)と同じ音声を、サラウンドスピーカー(左 / 右)およびサラウンドバックスピーカー(左 / 右)から同じレベルでそれぞれ再生します。
VIRTUAL	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

AUTO リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
AUTO	このモードでは、Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、DTS、DTS-HD、DTS-ES、PCM(マルチチャンネル)など、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。 入力信号がアナログやPCM(2チャンネル)の場合は、ステレオ再生をおこないます。

ステレオリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
STEREO	音質調節ができるステレオ再生用のモードです。トーンを調節できます。 <ul style="list-style-type: none"> フロントスピーカー(左 / 右)とサブウーハーから音声を出力します。 マルチチャンネル信号を入力しているときは、2チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DIRECT/DSD DIRECT	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。
PURE DIRECT	”DIRECT”モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。これにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。音質に影響する次の回路の動作を停止します。 <ul style="list-style-type: none"> 本体のディスプレイ表示回路(ディスプレイが消灯します。) アナログビデオ入出力回路

応用編

ここでは、本機をより使いこなすことができる機能や操作について説明しています。

- **スピーカーの設置 / 接続 / 設定をする(応用)**  [89 ページ](#)
- **接続のしかた(応用接続)**  [96 ページ](#)
- **再生のしかた(応用操作)**  [98 ページ](#)
- **ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4(別の部屋)での再生**  [107 ページ](#)
- **詳細設定のしかた**  [110 ページ](#)
- **リモコンで外部機器を操作する**  [147 ページ](#)

スピーカーの設置 / 接続 / 設定をする(応用)

スピーカー設定の流れ

スピーカーを設置する



スピーカーを接続する (🔗91 ページ)



スピーカーを設定する (🔗94 ページ)

スピーカーを設置する

お使いになるスピーカーの本数に応じて、スピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーハーを部屋に設置します。本書では例として、代表的な設置方法を説明します。

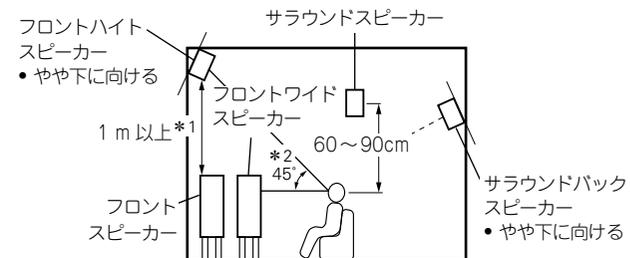
本機は、サラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Audyssey DSX[®] (🔗174 ページ)、Dolby Pro Logic IIz (🔗175 ページ) および DTS Neo:X (🔗175 ページ) に対応しています。

Audyssey DSX[®] をご使用になる場合は、フロントワイドスピーカーまたはフロントハイトスピーカーを設置してください。

Dolby Pro Logic IIz をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。



各スピーカーを設置する高さは、次のイラストを目安にしてください。ただし、正確に合わせる必要はありません。



【側面から見た図】

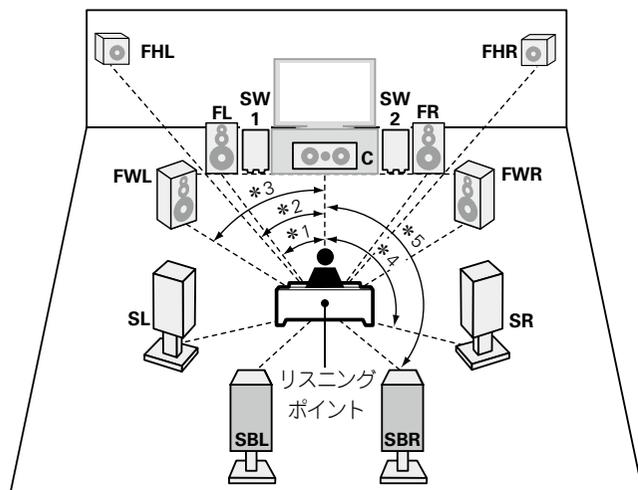
*1 Dolby Pro Logic IIz 推奨

*2 Audyssey DSX[®] 推奨

標準的なスピーカーの配置

Audyssey DSX[®] をご使用になる場合は、フロントワイドスピーカーまたはフロントハイトスピーカーを設置してください。

Dolby Pro Logic IIz をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。

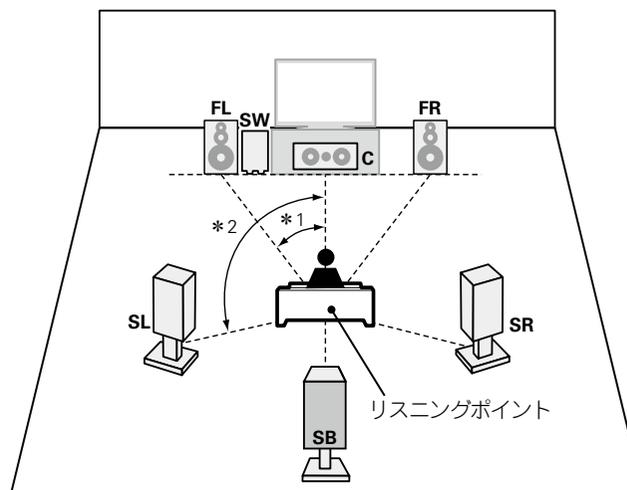


- *1 22°~30° *2 22°~45° *3 55°~60°
- *4 90°~110° *5 135°~150°

【各スピーカーの呼称について】

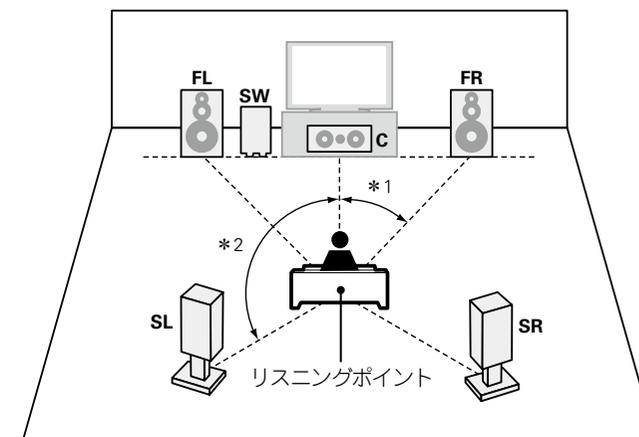
- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| FL フロントスピーカー(左) | SBL サラウンドバックスピーカー(左) |
| FR フロントスピーカー(右) | SBR サラウンドバックスピーカー(右) |
| C センタースピーカー | FHL フロントハイトスピーカー(左) |
| SW サブウーハー | FHR フロントハイトスピーカー(右) |
| SL サラウンドスピーカー(左) | FWL フロントワイドスピーカー(左) |
| SR サラウンドスピーカー(右) | FWR フロントワイドスピーカー(右) |

6.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき



- *1 22°~30° *2 90°~110°

5.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき



- *1 22°~30° *2 120°

スピーカーを接続する

マランツ製パワーアンプ MM7055 および MM7025 との接続例

- 標準的な接続 (👉 91 ページ)
- 6.1 チャンネル(サラウンドバックスピーカー) 接続 (👉 92 ページ)
- 5.1 チャンネル接続 (👉 92 ページ)
- 2.1 チャンネル接続 (👉 93 ページ)

知っておいてほしいこと

最大 11.2 チャンネルはアンバランス RCA 端子または XLR バランス端子のいずれかを使用して接続できます。

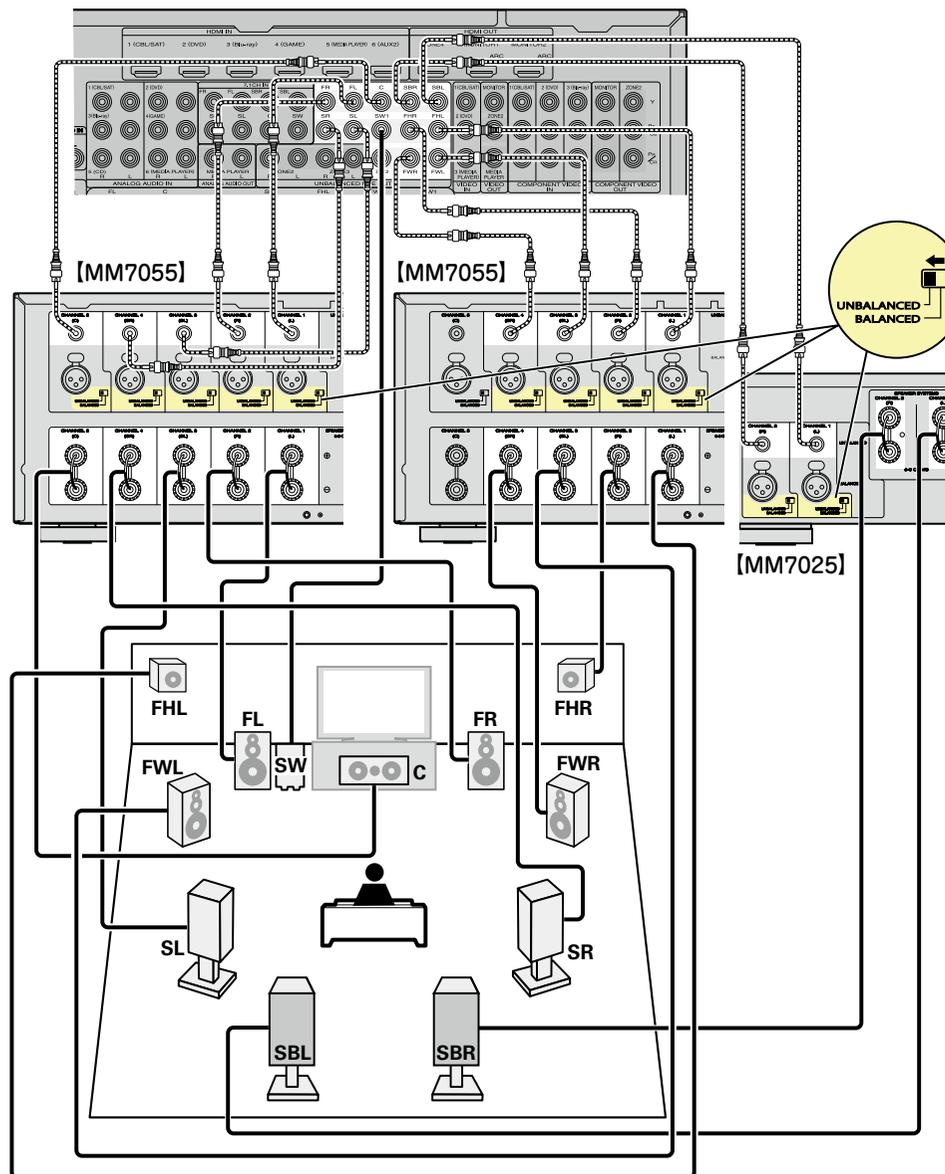
アンバランス RCA 端子を使用する場合は、MM7055 または MM7025 にある入力切替スイッチを“UNBALANCED”に設定してください。

バランス XLR 端子を使用する場合は、MM7055 または MM7025 にある入力切替スイッチを“BALANCED”に設定してください。

ここでは、アンバランス RCA 端子を使用する場合の接続方法について説明します。

標準的な接続

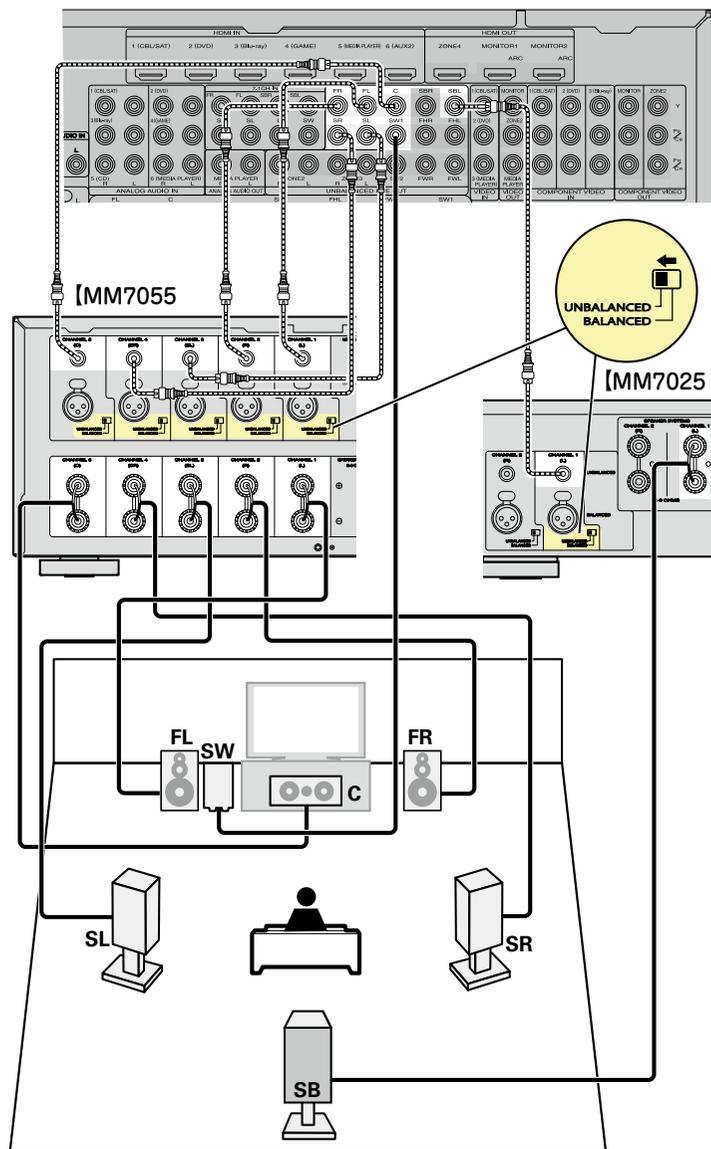
あらかじめすべてのスピーカーを接続しておく、サラウンドモードや入力信号に応じて、自動的にサラウンドバック、フロントハイトまたはフロントワイドスピーカーを切り替えて音声を再生します。



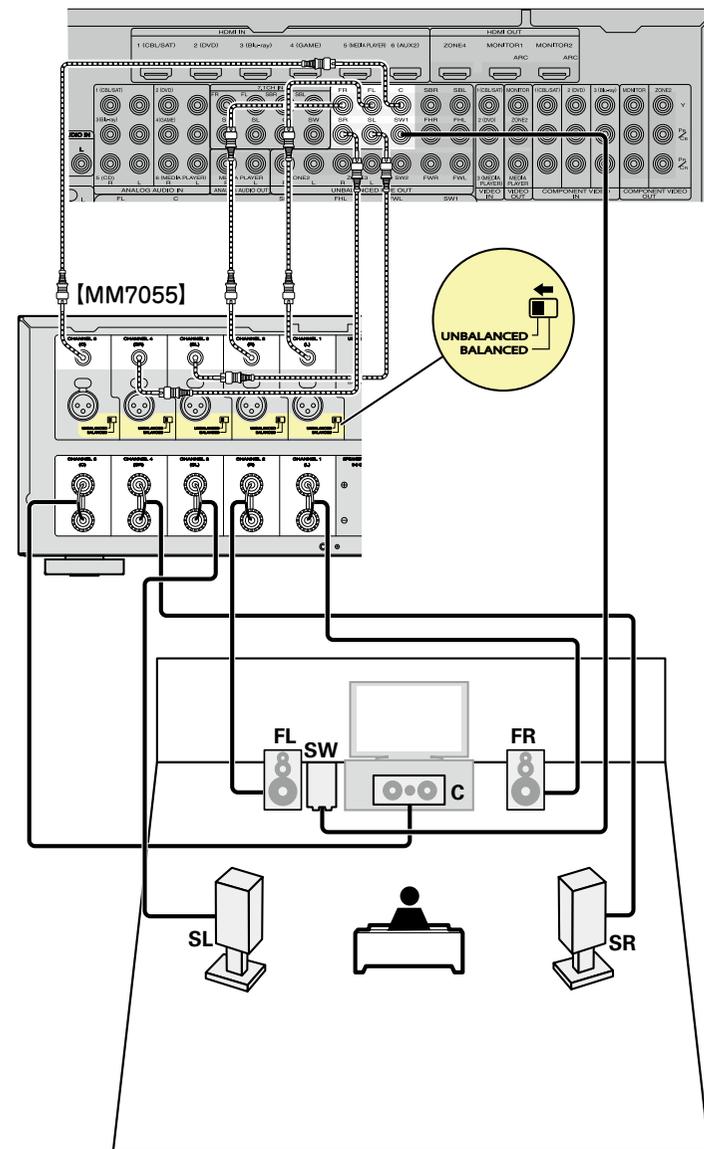
6.1 チャンネル(サラウンドバックスピーカー)接続

サラウンドバックスピーカーを1本だけ使用する場合は、パワーアンプのSBL端子に接続してください。

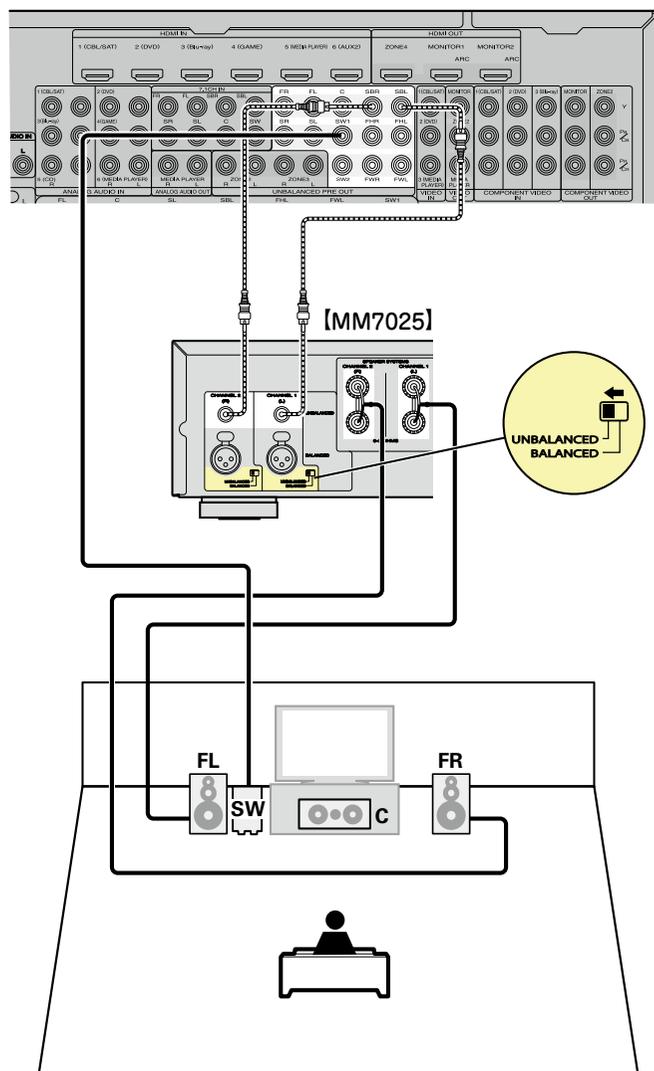
このときのスピーカー設置については、「6.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき」(90ページ)をご覧ください。



5.1 チャンネル接続

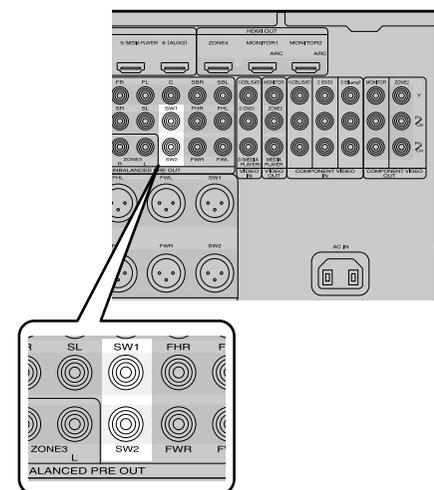


2.1 チャンネル接続



□サブウーハーを2台接続する場合

本機にはサブウーハーを2台接続することができます。
 サブウーハーを2台接続する場合は、“スピーカー構成” ([134ページ](#)) の設定で“サブウーハー”を“2台”に設定してください。
 サブウーハー1とサブウーハー2のレベルおよび距離は個別に設定できます。



スピーカーを設定する

あらかじめスピーカーを設置し、本機にパワーアンプ、スピーカーおよびテレビを接続してください。

“Audyssey® セットアップ”の測定前に、次の設定をおこなうことができます。

- 使用するチャンネルを設定する（チャンネルセレクト）

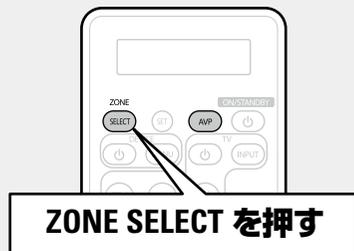
使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップして、測定時間を短縮することができます。また、サブウーハーやサラウンドバックスピーカーの本数を変更することもできます（[P.94 ページ](#)「チャンネルセレクト」の設定）。

□プリアウト端子からの音声出力について

	プリアウトチャンネル						
アンバランス RCA プリアウト端子 (UNBALANCED RCA PRE OUT)	FL/FR	C	SW1/SW2	SL/SR	SBL/SBR	FHL/FHR	FWL/FWR
バランス XLR プリアウト端子 (BALANCED XLR PRE OUT)	FL/FR	C	SW1/SW2	SL/SR	SBL/SBR	FHL/FHR	FWL/FWR
音声出力	フロント	センター	サブウーハー 1/ サブウーハー 2	サラウンド	サラウンドバック	フロントハイト	フロントワイド

1 ゾーンモードの設定

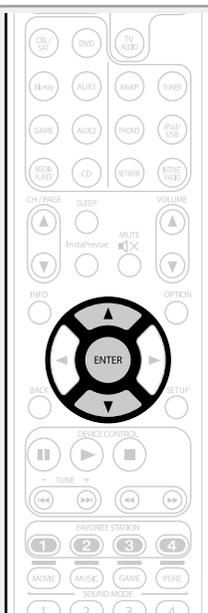
ZONE SELECT を押して、“MAIN”に切り替える。



ご注意

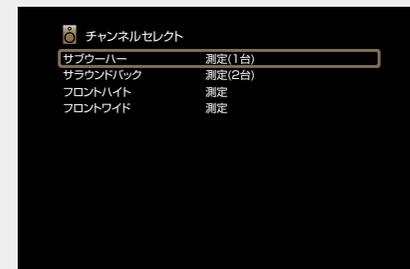
リモコンをプリセットコード登録（[P.147 ページ](#)）して使用している場合は、**AVP** を押して、リモコンを AVP 操作モードにしてから操作してください。

2 セットアップマイクを接続する。

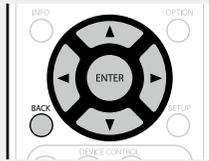


3 “チャンネルセレクト”の設定

△▽ を押して“チャンネルセレクト”を選び、ENTER を押す。



4 △▽ を押してチャンネルを選び、ENTER を押す。



サブウーハー / サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイド

5 ◀▶ を押して測定するサブウーハーの本数を選び、ENTER を押す。

測定 (2台) サブウーハーを 2 台測定するときに設定します (Audyssey Sub EQ HT™)。

測定 (1台) サブウーハーを 1 台測定するときに設定します。

スキップ サブウーハーを測定しないときに設定します。

6 ◀▶ を押して測定するサラウンドバックスピーカーの本数を選び、ENTER を押す。

測定 (2台) サラウンドバックスピーカーを 2 台測定するときに設定します。

測定 (1台) サラウンドバックスピーカーを 1 台測定するときに設定します。

スキップ サラウンドバックスピーカーを測定しないときに設定します。

7 ◀▶ を押してフロントハイトチャンネルを測定するか設定し、ENTER を押す。

測定 フロントハイトスピーカーを測定するときに設定します。

スキップ フロントハイトスピーカーを測定しないときに設定します。

8 ◀▶ を押してフロントワイドチャンネルを測定するか設定し、ENTER を押す。

測定 フロントワイドスピーカーを測定するときに設定します。

スキップ フロントワイドスピーカーを測定しないときに設定します。

9 ◀ または **BACK** を押す。
40 ページの **準備** の手順 5 へ進む。

ご注意

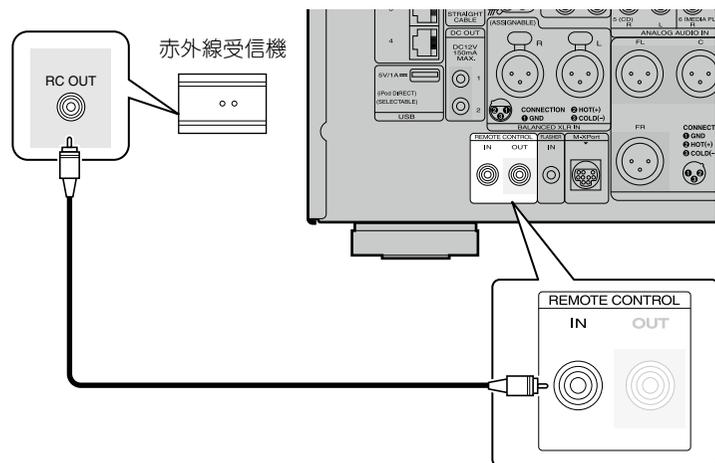
Audyssey® セットアップをおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再び Audyssey® セットアップをおこなってください。

接続のしかた(応用接続)

リモートコントロール端子に接続する

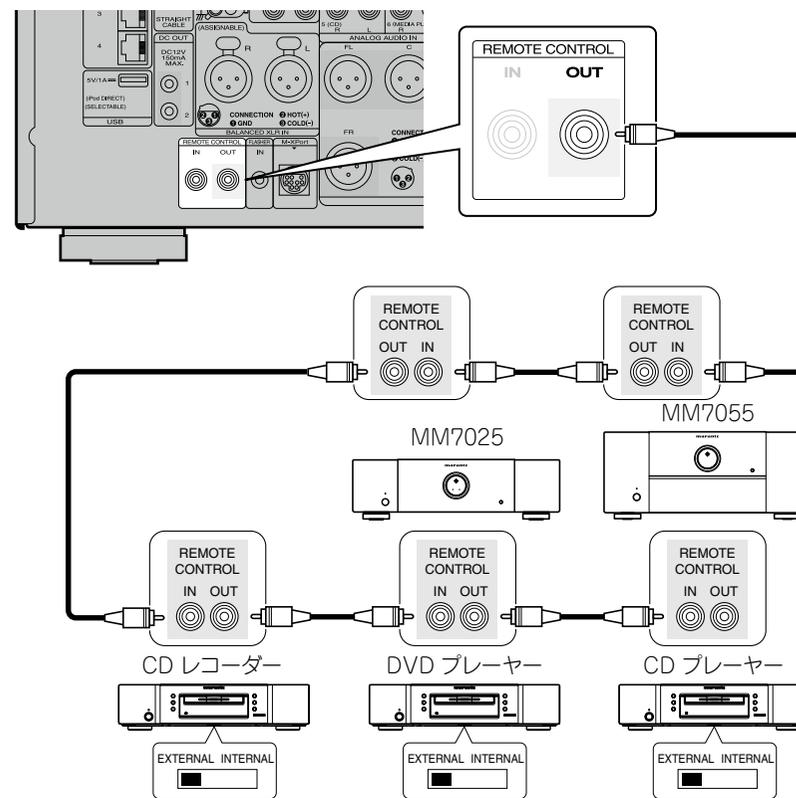
本機や外部機器を操作する

- 赤外線受信機を本機に接続すると、付属のリモコンで本機や外部機器を操作できます。
- この操作をおこなう場合、「リモートロック機能」(105 ページ) でリモコン信号の受信機能を無効に設定してください。



マランツ製機器をリモート接続する

- リモート接続に対応しているマランツ製機器をお使いの場合は、赤外線受信機は必要ありません。
- モノラルケーブルを使用して REMOTE CONTROL IN/OUT 端子に機器を接続するだけでリモコン信号を転送できます。
- この接続をおこなう場合は、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチを“EXTERNAL”または“EXT.”に設定してください。
- マランツ製パワーアンプ(一部のモデルを除く)をこれらのいずれかの端子に接続すると、本機の **ON STANDBY** ボタンに連動して、パワーアンプの電源がオン/スタンバイします。



ご注意

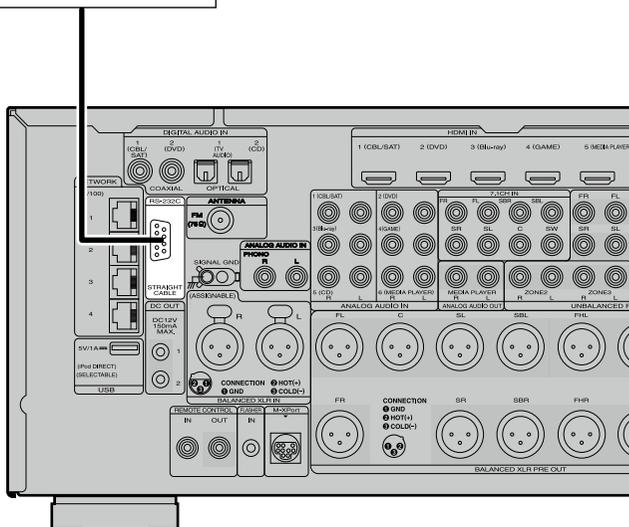
赤外線送受信機を接続しない場合は、必ずリモコン信号の受信機能を有効に設定してください。無効に設定すると、リモコンの操作ができなくなります。

外部のコントロール機器と接続する

RS-232C 端子

外部のコントロール機器を接続すると、外部のコントロール機器から本機をコントロールできます。

外部のコントロール機器



あらかじめ次の確認をしてください。

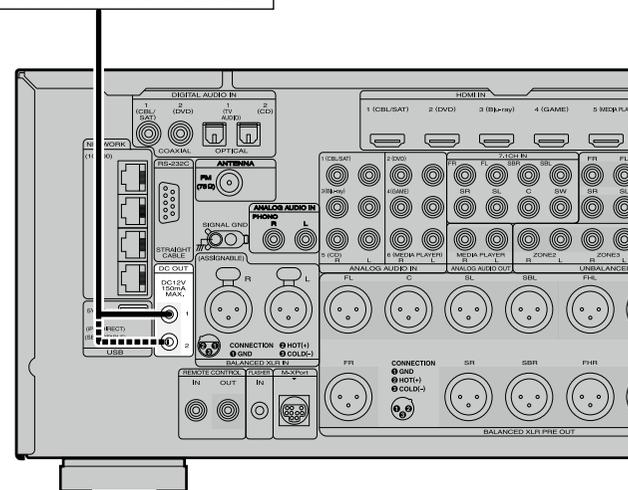
- ① 本機の電源を入れる。
- ② 外部のコントロール機器で、本機の電源を切る。
- ③ 本機がスタンバイ状態になる。

DC OUT 端子

DC IN 端子を持っている機器を本機に接続すると、その機器の電源を本機の操作に連動させてオン / スタンバイすることができます。

本機の DC OUT 端子からは、最大 12V/150mA の電気信号を出力します。

12 V/150 mA トリガー対応機器



ご注意

- DC OUT 端子の接続には、モノラルのミニプラグケーブルを使用してください。ステレオミニプラグケーブルは使用しないでください。
- 接続する機器のトリガー許容入力レベルが 12V/150mA よりも大きいときや短絡状態のときは、DC OUT 端子を使用できません。このような場合は、本機の電源を切ってから DC OUT 端子の接続を外してください。

再生のしかた(応用操作)

設定のしかた (🔗38 ページ)

再生のしかた(基本操作) (🔗47 ページ)

リスニングモードを選ぶ(サウンドモード)
(🔗81 ページ)

- HDMI コントロール機能 (🔗98 ページ)
- InstaPrevue 機能 (🔗100 ページ)
- スリープタイマー機能 (🔗101 ページ)
- ウェブコントロール機能 (🔗102 ページ)
- デュアルバックアップメモリー機能
(🔗104 ページ)
- フロントキーロック機能 (🔗104 ページ)
- リモートロック機能 (🔗105 ページ)
- イルミネーションライトを点灯 / 消灯させる
(🔗106 ページ)
- 各種メモリー機能 (🔗106 ページ)

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。

□HDMI コントロール機能でできること

- テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。
- テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。
テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。
- テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。
- プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。
- 本機の入力ソースを“TV AUDIO”にすると、テレビの音声を本機で再生できます (🔗13 ページ「ARC(Audio Return Channel)機能について」)。
- メニューの“HDMI コントロール” (🔗124 ページ) を“オン”に設定している場合、本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します(パススルー機能)。



ARC 機能に対応していないテレビの音声を本機で再生する場合は、光デジタルまたはアナログ接続をしてください (🔗13 ページ)。

□設定のしかた

- 1** 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。
メニューの“HDMI コントロール” (🔗124 ページ) を“オン”に設定してください。
- 2** HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。
- 3** HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。
 - 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
 - いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。
- 4** テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。
- 5** 本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るかを確認する。
- 6** テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。



HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。

- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- メニューの“HDMI コントロール” ([124 ページ](#)) の設定が“オン”になっているか。
- メニューの“パワーオフコントロール” ([125 ページ](#)) の設定が“すべて”または“ビデオ”になっているか。
- メニューの“コントロールモニター”設定 ([124 ページ](#)) がテレビを接続したモニター出力になっているか。
- HDMI 対応テレビを 2 台接続しているときに、メニューの“コントロールモニター” ([124 ページ](#)) の設定が HDMI コントロールをおこなうテレビに設定されているか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

ご注意

- メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- メニューの“パワーオフコントロール”を“オフ”に設定している場合は、接続しているテレビの電源がスタンバイになっても、本機の電源はスタンバイになりません。
- HDMI 機器の接続を追加するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。このような場合は設定をやり直してください。
- メニューの“HDMI コントロール” ([124 ページ](#)) を“オン”に設定している場合は、“入力端子の割り当て” ([129 ページ](#)) の設定で“TV AUDIO”に HDMI 端子を割り当てることはできません。
- 次の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、手順 2, 3 をおこなってください。
 - メニューの“入力端子の割り当て”⇒“HDMI”設定 ([129 ページ](#)) の変更
 - メニューの“ビデオ出力” ([124 ページ](#)) の設定変更
 - HDMI で接続している機器の接続変更や機器の増加
- HDMI ZONE4 機能は、HDMI コントロール機能に対応していません。
- ARC 機能、パワーオフコントロール機能およびボリュームコントロール機能は、HDMI ZONE4 機能に対応していません。
- メニューの“HDMI コントロール”設定が“オン”のときに、HDMI ZONE4 機能を使用すると、HDMI ZONE4 機能が十分に機能しない場合があります。

- ゾーン 4 の電源がオンで“HDMI コントロール”の設定 ([124 ページ](#)) が“オン”、“コントロールモニター”の設定が“モニター 1”または“モニター 2”のとき ([124 ページ](#)) に次の動作をします(下記の動作は一例です)。
- メインゾーンで使用しているテレビの電源がオフのときに、ゾーン 4 で選択しているプレーヤーの再生が開始すると、メインゾーンで使用しているテレビの電源がオンになります。このとき、メインゾーンで選択している入力ソースがゾーン 4 で選択している入力ソースに切り替わります。
- メインゾーンおよびゾーン 4 で使用しているテレビを HDMI 接続して再生中、メインゾーンで使用しているテレビの電源をオフにすると、本機およびプレーヤーの電源もオフになります。
- メインゾーンおよびゾーン 4 で同じ入力ソースを選択している場合、メインゾーンで使用しているテレビ側でプレーヤーの再生を停止させると、プレーヤーの再生が停止し、ゾーン 4 で再生中の映像も停止します。
- ゾーン 4 の電源がオンで“HDMI コントロール”の設定 ([124 ページ](#)) が“オン”、“コントロールモニター”の設定が“ZONE4”のとき ([124 ページ](#)) に次の動作をします。
- ゾーン 4 で使用しているテレビの電源がオフのときに、メインゾーンで選択しているプレーヤーの再生が開始すると、ゾーン 4 で使用しているテレビの電源がオンになります。このとき、ゾーン 4 で選択している入力ソースがメインゾーンで選択している入力ソースに切り替わります。
- メインゾーンおよびゾーン 4 で使用しているテレビを HDMI 接続して再生中、ゾーン 4 で使用しているテレビの電源をオフにすると、本機およびプレーヤーの電源もオフになります。
- メインゾーンおよびゾーン 4 で同じ入力ソースを選択している場合、ゾーン 4 で使用しているテレビ側でプレーヤーの再生を停止させると、プレーヤーの再生が停止し、メインゾーンで再生中の映像も停止します。

InstaPrevue 機能

メイン画面に小さなサブ画面を表示し、本機に接続している HDMI 入力の再生映像をプレビューすることができます。また、各映像入力を一つの画面にまとめて表示でき、Blu-ray や DVD、GAME などの入力切り替えが、サブ画面で確認しながら選択できます。



InstaPrevue 機能は、HDMI1～6 端子に対応しています。HDMI7/MHL 端子には対応していません。

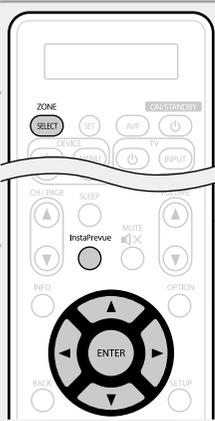
入力ソースを切り替える

サブ画面を確認しながらお好みの入力ソースに本機を切り替えます。

1 ZONE SELECT を押して、“MAIN”に切り替える。

2 InstaPrevue を押す。
メイン画面(現在の入力映像)とサブ画面(その他の入力映像)を表示します。

3 $\Delta \nabla \triangleleft \triangleright$ でサブ画面からお好みの入力ソースを選び、**ENTER** を押す。

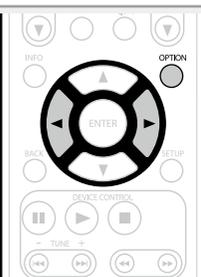


リモコンにプリセット登録 ([147 ページ](#)) をして他の機器の操作をする場合には、入力ソース選択ボタンを押して、入力ソースを選んでください。

サブ画面の表示方法を設定する

サブ画面を 5 つ表示させるか、1 つだけ表示させるかを設定できます。

1 サブ画面を表示中に **OPTION** を押す。
InstaPrevue の設定画面を表示します。



2 “HDMI インプット”を選んだ状態のときに $\triangleleft \triangleright$ を押して、サブ画面の表示方法を選ぶ。

全画面 サブ画面を 5 つ表示します。

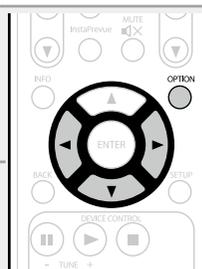
1 画面 サブ画面を 1 つだけ表示します。

3 **OPTION** を押して、設定を確定する。

サブ画面の表示位置を変更する

サブ画面の表示位置をお好みの位置に変更できます。

1 サブ画面を表示中に **OPTION** を押す。
InstaPrevue の設定画面を表示します。



2 ∇ を押して“位置”を選び、 $\triangleleft \triangleright$ でサブ画面を表示したい位置を選ぶ。

• サブ画面を表示できる位置は、“HDMI インプット”の設定によって異なります。

“HDMI インプット”の設定が“全画面”のとき



• お買い上げ時の設定は“下”です。

“HDMI インプット”の設定が“1 画面”のとき



• お買い上げ時の設定は“左下”です。

3 **OPTION** を押して、設定を確定する。

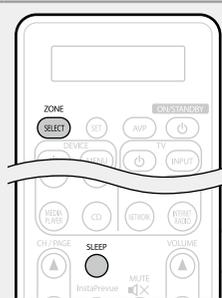
ご注意

- InstaPrevue 機能はメイン画面に HDMI 信号を入力しているときに使用できます。ただし、コンピューター解像度の映像信号や一部の 3D ビデオ信号を再生中は使用できません。
- InstaPrevue 機能はゾーン 4 の HDMI モニター出力では使用できません。また、ゾーン 4 の電源をオンにしているときは使用できません。

スリープタイマー機能

- 設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。
- スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます（[109ページ](#)「スリープタイマー機能」）。（ここではメインゾーンの設定のしかたを説明します。）

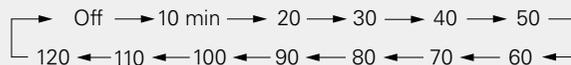
1 ZONE SELECT を押して、“MAIN”に切り替える。



2 SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。

ディスプレイの **S** 表示が点灯します。

- **SLEEP** を押すたびに、スリープ時間が次の順序で切り替わります。



- 本体の **SLEEP** を押しでもリモコンと同様に操作できます。

スリープタイマーの残り時間を確認する

SLEEP を押す。

ディスプレイに“Sleep : *min”を表示します。

* 残り時間

スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して、“Off”を選ぶ。

ディスプレイの **S** 表示が消灯します。



本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご注意

スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。

ウェブコントロール機能

ブラウザに表示されるウェブコントロール画面を使用して、本機を操作できます。



- ウェブコントロール機能をお使いになるには、本機とPCがネットワークに正しく接続されている必要があります(例 36 ページ「ホームネットワーク(LAN)に接続する」)。
- セキュリティソフトなどの設定により、パソコンから本機にアクセスできないことがあります。そのような場合には、セキュリティソフトの設定を変更してください。

1 メニューの“ネットワーク”(例 138 ページ)の設定を“常時オン”にする。

2 メニューの“情報”(例 138 ページ)で、本機のIPアドレスを確認する。



3 ブラウザを起動する。

4 ブラウザのアドレスに、本機の IP アドレスを入力する。

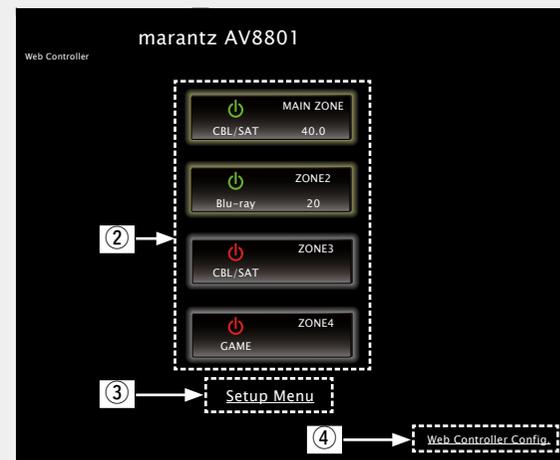
例えば、本機の IP アドレスが“192.168.100.19”の場合は、“http://192.168.100.19/”と入力してください。



① IP アドレスを入力します。

- ブラウザのブックマーク機能で本機の IP アドレスを登録しておくと、次回からブックマーク機能を使用してウェブコントロール画面を表示できます。ただし、DHCP サーバーをご使用の場合は、“ネットワーク”(例 138 ページ)の設定が“スタンバイ時オフ”のときに電源をオン/オフすると、IP アドレスが変更になりますのでご注意ください。

5 トップメニューが表示されたら、操作したいメニューをクリックする。



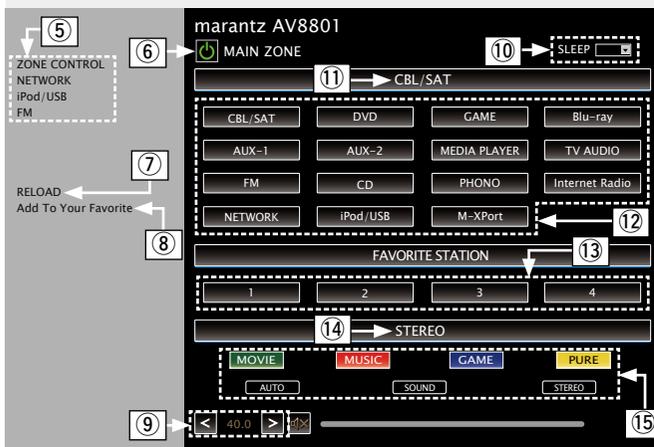
② 操作するゾーンを選択するときにクリックします(例 1)。

③ セットアップメニューを操作するときにクリックします(例 2)。

④ ウェブコントロール画面の設定を変更するときにクリックします(例 3)。

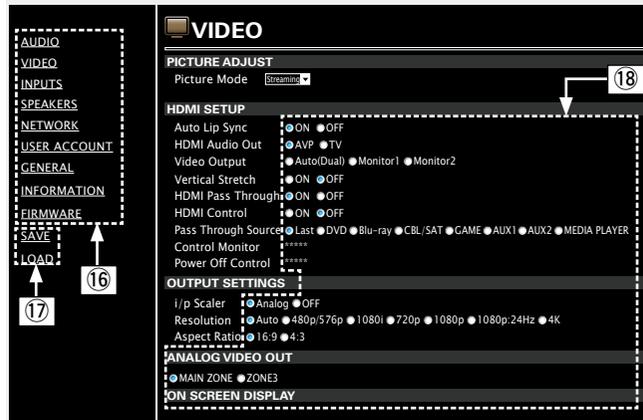
6 操作する。

【例1】メインゾーンコントロール画面



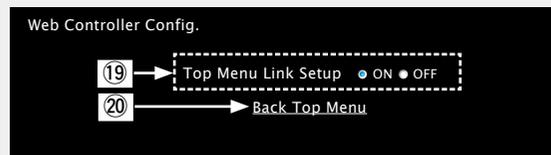
- ⑤ 各操作をおこなうときにクリックします。各操作画面になります (参照【例4】)。
- ⑥ 本機の電源操作時にクリックします。
- ⑦ 最新の情報に更新するときにクリックします。通常は操作するたびに、最新の情報に切り替わります。本体側で操作された場合は、画面は更新されませんので、クリックしてください。
- ⑧ ブラウザの“Favorites”に登録するときにクリックします。誤って、操作していないゾーンのメニュー操作をおこなわないように、ゾーンごとに設定画面をブラウザのお気に入りなどに登録することをおすすめします。
- ⑨ 主音量を調節するときに“<”、“>”または音量表示をクリックします。
- ⑩ “V”をクリックし、スリープタイマー機能を設定します。
- ⑪ 選択中の入力ソース名を表示します。
- ⑫ ボタンをクリックすると、入力ソースが切り替わります。
- ⑬ お気に入りのコンテンツを登録します。
- ⑭ サウンドモードを表示します。
- ⑮ ボタンをクリックするとサウンドモードが切り替わります。

【例2】セットアップメニュー画面



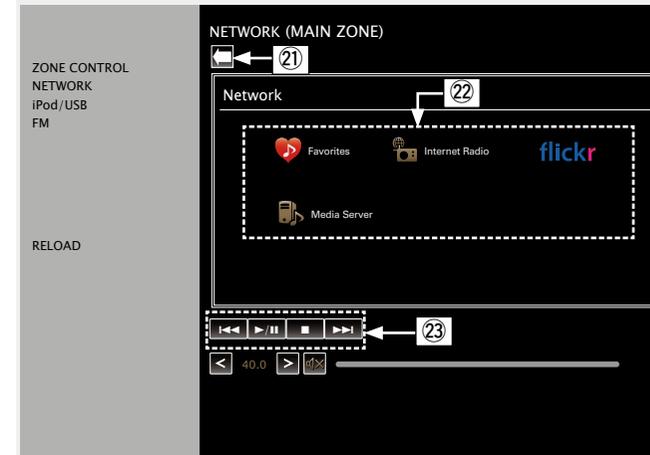
- ⑯ 設定したいメニューをクリックします。右側の表示が各設定画面になります。
- ⑰ 設定を保存するときには“SAVE”、設定を呼び出すときには“LOAD”をクリックします。
- ⑱ 設定項目をクリックして確定します。

【例3】ウェブコントロール画面



- ⑲ トップメニューのリンク設定をするときに“ON”をクリックします。設定すると、各操作画面からトップメニューに戻ります。(お買い上げ時の設定：“OFF”)
- ⑳ トップメニューに戻るときに、クリックします。

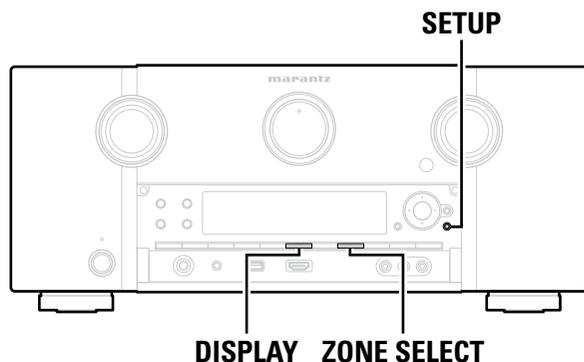
【例4】ネットワークオーディオ操作画面



- ㉑ 前の画面に戻るときにクリックします。
- ㉒ 操作したいコンテンツをクリックします。
- ㉓ コンテンツの操作に使用します。

デュアルバックアップメモリー機能

- 本機は電源を切った状態でも設定した各種内容を記憶し、いつでもその設定を呼び出せます。
- デュアルバックアップメモリー機能は、記憶した内容をさらに別のメモリーエリアに書き込み、バックアップしていつでもその設定を呼び出せます(バックアップ)。



□設定した内容を記憶させる (バックアップ)

本機を記憶させたい状態に設定し、**DISPLAY** と **ZONE SELECT** を同時に 3 秒以上押す。

ディスプレイに“MEMORY SAVING”を表示し、設定した内容を記憶します。

ご注意

- 音量は記憶できません。
- 記憶させた内容に上書きすると、前に記憶させた内容は消去されます。

□記憶させた内容を呼び出す (リカバリー)

SETUP と **ZONE SELECT** を同時に 3 秒以上押す。

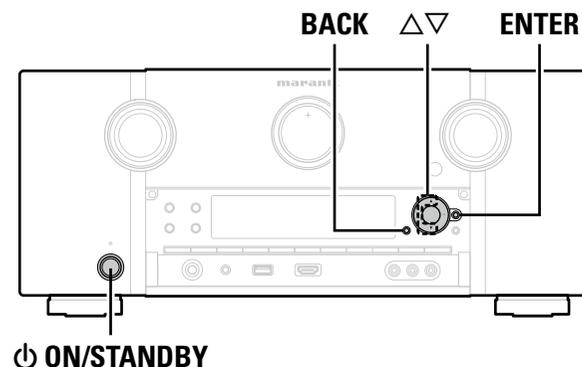
ディスプレイに“MEMORY LOAD”を表示し、記憶させた内容を呼び出します。

ご注意

- 記憶させたデータが存在しない場合は、“NO BACKUP”を表示し、記憶させた内容を呼び出せません。
- 音量は記憶できないため、お買い上げ時の設定になります。

フロントキーロック機能

本機を誤って操作してしまうことを防ぐために、フロントパネルのボタン操作を無効にすることができます。



□すべてのボタン操作を無効にする

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、**BACK** と **ENTER** を押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 2 $\Delta \nabla$ を押して、“FP/VOL LOCK On”を選ぶ。
- 3 **ENTER** を押して、設定を確定する。
ON/STANDBY 以外のボタン操作が無効になります。

□VOLUME 以外のすべてのボタン操作を無効にする

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、**BACK** と **ENTER** を押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 2 $\Delta \nabla$ を押して、“FP LOCK On”を選ぶ。
- 3 **ENTER** を押して、設定を確定する。
ON/STANDBY および **VOLUME** 以外のボタン操作が無効になります。

□フロントキーロック機能を解除する

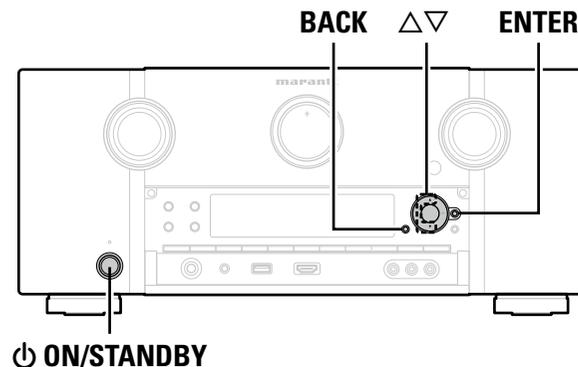
- 1** 本機の電源がスタンバイ状態のときに、**BACK** と **ENTER** を押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 2** **△▽** を押して、“FP LOCK *Off” を選ぶ。
(* は現在の設定モードです。)
- 3** **ENTER** を押して、設定を確定する。
フロントキーロック機能を解除します。



フロントキーロック機能の設定が有効でも、リモコンによる操作は可能です。

リモートロック機能

- 本機に赤外線受信機を接続しない場合は、リモートロック機能を無効に設定してください。有効に設定すると、リモコンの操作ができなくなります。
- お買い上げ時は無効に設定されています。



□リモコンの受信機能を無効にする

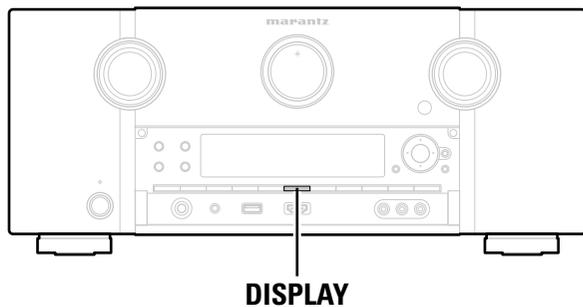
- 1** 本機の電源がスタンバイ状態のときに、**BACK** と **ENTER** を押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 2** **△▽** を押して、“RC LOCK On” を選ぶ。
- 3** **ENTER** を押して、設定を確定する。
リモコン信号の受信機能が無効になります。

□リモコンの受信機能を有効にする

- 1** 本機の電源がスタンバイ状態のときに、**BACK** と **ENTER** を押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 2** **△▽** を押して、“RC LOCK *Off” を選ぶ。
(* は現在の設定モードです。)
- 3** **ENTER** を押して、設定を確定する。
リモコン信号の受信機能が有効になります。

イルミネーションライトを点灯 / 消灯させる

- メインディスプレイの周囲の照明を点灯または消灯させることができます。
- お買い上げ時の設定は“オン”です。



本機を記憶させたい状態に設定し、**DISPLAY** を 3 秒以上押す。

- 再度設定を変更したい場合は、同じ操作を再度おこなってください。

各種メモリー機能

パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容(入力モード、HDMI 出力モード、サウンドモード、MultEQ[®] XT 32、Dynamic EQ、Dynamic Volume やオーディオディレイなど)を入力ソースごとに記憶します。



サラウンドパラメーター、トーンコントロールの設定および各スピーカーの音量は、サウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

ゾーン 2/ゾーン 3/ゾーン 4(別の部屋)での再生

- 本機を操作してメインゾーン(本機のある部屋)以外の部屋(ゾーン 2、ゾーン 3 またはゾーン 4)で、音声を楽しむことができます。
- メインゾーン、ゾーン 2、ゾーン 3 およびゾーン 4 で同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。
- HDMI ZONE4 出力端子にテレビを接続すると、HDMI 1～6 入力端子に接続された機器の映像や音声をゾーン 4 で再生できます(HDMI ZONE4 機能)。



ゾーン 2 で選んだ入力ソースの音声は、録音用(メディアプレーヤー出力端子)端子からも出力します。

ご注意

HDMI ZONE4 機能には、次の制限事項があります。

- メインゾーンとゾーン 4 で同じ入力ソースを選択すると、音声再生の制限や映像が途切れる場合があります。
- メインゾーンとゾーン 4 で使用しているテレビの解像度により、映像が出力されない場合があります。この場合は、プレーヤー側でテレビの解像度を設定してください。
- HDMI ZONE4 には、次の設定は反映されません。
 - 画質調整
 - オートリップシンク
 - ビデオモード
 - ビデオコンバージョン
 - i/p スケーラー
 - プログレッシブモード
 - アスペクト比
 - セットアップメニュー画面

音声出力

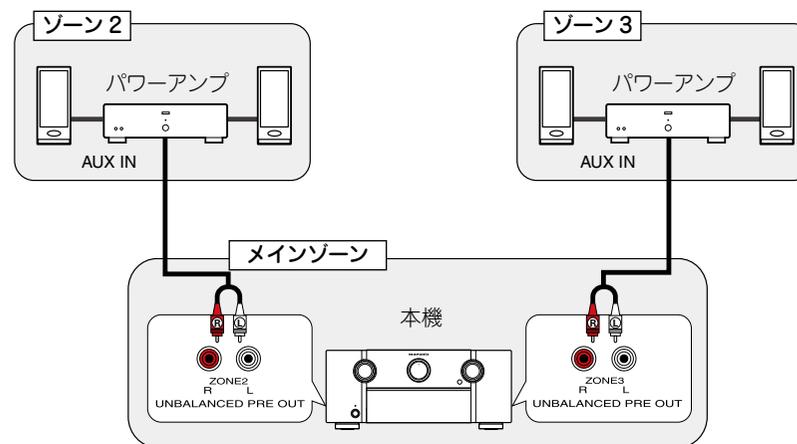
マルチチャンネル再生をおこなうメインゾーン以外の他の部屋で 2 チャンネルの音声を再生することができます。次の 2 通りの方法があります。いずれかを選んでください。

- 音声出力によるゾーン再生(PRE OUT)
外部アンプを使用します。

音声出力によるゾーン再生 (PRE OUT)

□音声接続(ゾーン 2、ゾーン 3)

本機のゾーン 2 およびゾーン 3 の音声出力端子の音声をゾーン 2 およびゾーン 3 のアンプに出力し、そのアンプで再生します。



音声の接続については、雑音が発生しないように高品質のピンプラグケーブルのご使用をおすすめします。

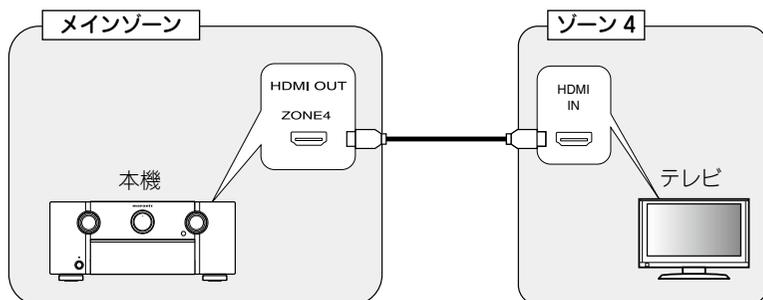
ご注意

ゾーン 2 およびゾーン 3 では、HDMI 端子、COAXIAL 端子または OPTICAL 端子から入力されたデジタル音声信号の再生はできません。ゾーン 2 およびゾーン 3 の再生をおこなう場合は、アナログ接続をするか、ネットワークや iPod/USB からおこなってください。

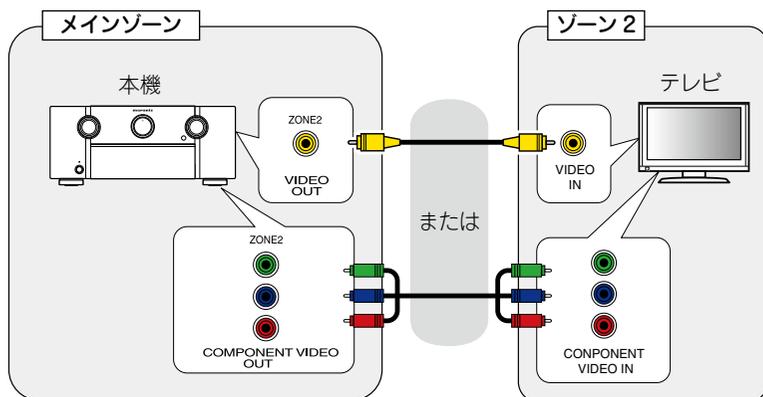
ビデオ出力

映像接続

本機のゾーン 4 映像出力の映像をゾーン 4 のテレビで再生します。



本機のゾーン 2 映像出力の映像をゾーン 2 のテレビで再生します。



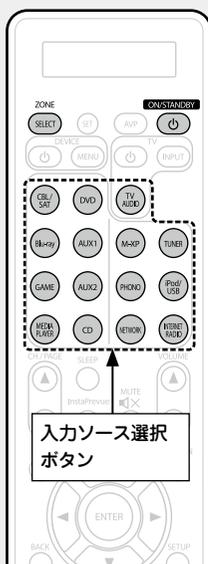
- メニューの“アナログビデオ出力” ([126 ページ](#))を“ZONE3”に設定すると、メインゾーンの COMPONENT VIDEO OUT 端子と VIDEO MONITOR OUT 端子をゾーン 3 用として使用できます。
- ゾーン 4 の HDMI モニターで HDMI コントロールをおこなう場合は、“コントロールモニター” ([124 ページ](#))を“ZONE4”に設定してください。

再生

1 ZONE SELECT を押して、“ZONE2”、“ZONE3” または “ZONE4” に切り替える。

2 ON/STANDBY を押して、ゾーン 2、ゾーン 3 またはゾーン 4 の電源を入れる。

- 電源がスタンバイ状態のときに 入力ソース選択ボタンを押しても、電源がオンになります。
- ON/STANDBY** を押すと、ゾーン 2、ゾーン 3 またはゾーン 4 の電源がオフになります。
- 本体の **ZONE2 ON/OFF**、**ZONE3 ON/OFF** または **ZONE4 ON/OFF** を押しても、ゾーン 2、ゾーン 3 またはゾーン 4 の電源をオン / オフすることができます。



3 入力ソース選択ボタンを押して、再生する入力ソースを選ぶ。

選択した入力ソースの音声を、ゾーン 2、ゾーン 3 またはゾーン 4 のスピーカーに出力します。

- 本体の **INPUT SELECTOR** を押した後に **ZONE SELECT** を回しても、入力ソースの選択ができます。



メインゾーンとゾーン 2、メインゾーンとゾーン 3 またはメインゾーンとゾーン 4 の電源がオンのときにメインゾーンの電源だけをオフにすることができます。手順 1 でメインゾーンを選び、**ON/STANDBY** を押してください。

音量の調節

VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。



【調節できる範囲】 **0 ~ 40 ~ 98**

(メニューの“表示方法”の設定 (☞119 ページ) が “0 ~ 98” のとき)

【調節できる範囲】 **--- -79dB ~ -40dB ~ 18dB**

(メニューの“表示方法”の設定 (☞119 ページ) が “-79.5dB - 18.0dB” のとき)

- お買い上げ時は、“音量の上限” (☞119 ページ) を “70 (-10dB)” に設定しています。



本体の **ZONE SELECT** を押したあとに **VOLUME** を回しても、ゾーン 2 またはゾーン 3 の音量を調節することができます。

ご注意

ゾーン 4 では、**VOLUME ▲▼** での音量調節はできません。

一時的に音を消す(ミュートイング)

MUTE ㊦ を押す。

メニューの“ミュートインレベル” (☞142 ページ) で設定したレベルまで音量が減衰します。

ミュートイングを解除するときは、もう一度 **MUTE ㊦** を押してください。

- ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源をオフにしても、ミュートイングを解除できます。



- メニューの“ゾーン 2 の設定” または “ゾーン 3 の設定” (☞142 ページ) でゾーン 2 またはゾーン 3 のトーンや音量を調節することができます。

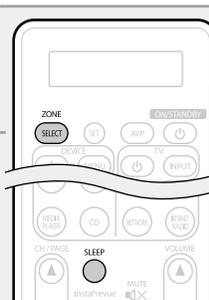
- All Zone Stereo 機能を使用すると、ホームパーティのときなど、メインゾーンで再生している音楽をマルチゾーン (ゾーン 2 / ゾーン 3) でも同時に楽しむことができます (☞78 ページ「All Zone Stereo 機能」)。

スリープタイマー機能

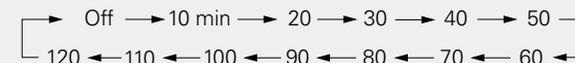
- 設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。ゾーン 2 またはゾーン 3 で視聴しながら、おやすみになるときに便利です。
- スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます。

1 ZONE SELECT を押して、“ZONE2”、“ZONE3” または “ZONE4” に切り替える。

2 SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。



- SLEEP** を押すたびに、スリープ時間が次の順序で切り替わります。



- 本体の **SLEEP** を押しても、リモコンと同じように操作できます。

スリープタイマーの残り時間を確認する

SLEEP を押す。

ディスプレイに “Z2 Sleep : *min”、“Z3 Sleep : *min” または “Z4 Sleep : *min” を表示します。

* 残り時間

スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して、“Off” を選ぶ。



本機をスタンバイにしたり、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源をオフにしてもスリープタイマーを解除します。

ご注意

スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。

詳細設定のしかた

メニュー 一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面にメニューを表示させてから操作してください。
本機はお買い上げ時の設定をおすすめの設定にしております。お使いのシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	詳細項目	内容	参照ページ
オーディオ	ダイアログエンハンサー	センターチャンネルのせりふ部分の周波数帯域を調節し、せりふを強調して聴きやすくします。	116
	サブウーハーレベル	サブウーハーの音量を調節します。	116
	サラウンドパラメーター	音場効果を調節します。	116
	トーンコントロール	トーンを調節します。	118
	M-DAX	MP3、WMA(Windows Media Audio)や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオを再生するときに、低域や高域を拡張して、より豊かな再生をします。	118
	オーディオディレイ	映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。	118
	音量	メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。	119
	バイリンガルモード	AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	119
	Audyssey	Audyssey MultEQ [®] XT 32、Audyssey Dynamic EQ [®] と Audyssey Dynamic Volume [®] の設定をします。	119
	グラフィック EQ	グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	121
ビデオ	画質調整	映像の画質を調節します。	123
	HDMI 設定	HDMI の映像 / 音声出力に関する設定をします。	123
	ビデオ出力の設定	画面に関する設定をします。	125
	アナログビデオ出力	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子および VIDEO MONITOR OUT 端子を使用するゾーンを割り当てます。	126
	オンスクリーンディスプレイ	オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。	127
	TV フォーマット	お使いになるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。	127

設定項目	詳細項目	内容	参照ページ
入力ソース	入力端子の割り当て	入力端子の割り当てを変更します。	129
	入力ソース名の変更	選択した入力ソースの表示名を変更します。	131
	使用ソースの選択	使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	131
	ソースレベル	音声入力の再生レベルを補正します。	131
	オーディオ入力の選択	入力モードとデコードモードを設定します。	132
	映像の選択	今聴いている音声に好きな映像を組み合わせて再生します。	132
スピーカー	Audyssey [®] セットアップ	接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。	38 、 94
	マニュアルセットアップ	スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey [®] セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。	134
ネットワーク	情報	ネットワークの情報を表示します。	138
	ネットワーク	電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。	138
	フレンドリーネームの編集	“フレンドリーネーム”とは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。フレンドリーネームをお好みによって変更できます。	138
	診断	ネットワークの接続を確認します。	140
	メンテナンスモード	当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーからメンテナンスを受けるときに使用します。	140

設定項目	詳細項目	内容	参照ページ
 一般	言語	テレビ画面に表示する言語を設定します。	142
	ゾーン 2 の設定	ゾーン 2 で再生する音声の設定をします。	143
	ゾーン 3 の設定	ゾーン 3 で再生する音声の設定をします。	
	ゾーン名の変更	画面に表示されるゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。	143
	トリガーアウト 1	DC OUT 1 を動作させる条件を選びます。	143
	トリガーアウト 2	DC OUT 2 を動作させる条件を選びます。	143
	オートスタンバイ	音声や映像の入力がない状態で本機を設定した時間操作しないと、自動的にスタンバイ状態になります。スタンバイ状態になる前には、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。	143
	フロントディスプレイ	本体のディスプレイに関する設定をします。	143
	情報	本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。	144
	ファームウェア	ファームウェアの最新アップデート情報の確認や更新の実施、およびアップデートとアップグレードの通知メッセージを表示するかしないかの設定をします。	145
セットアップロック	設定した内容を変更できないようにロックします。	146	
 セットアップ アシスタント	テレビ画面の案内に沿って基本的な設置 / 接続 / 設定をおこないます。	 8	

メニュー画面の表示例

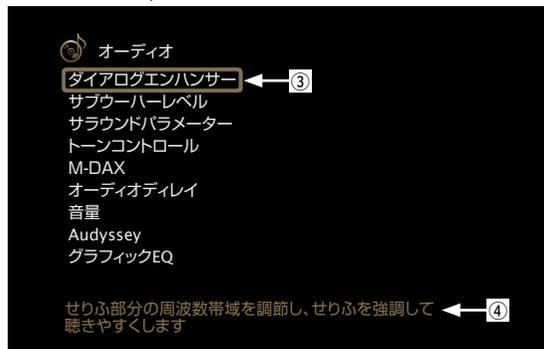
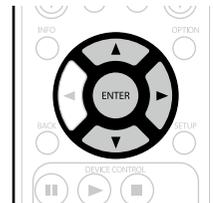
代表例を説明します。

【例 1】 メニュー選択画面(トップメニュー)



- ① 選択中の設定アイコン
- ② GUI メニューの設定アイコン一覧

△▽を押して“オーディオ”
を選び、▶を押す。
(または、ENTERを押す。)



- ③ 選択中の設定項目名
- ④ 選択中の設定項目のガイドテキスト

【例 2】 Audyssey® セットアップ画面 (イラスト付き)



- ⑤ 選択中の設定アイコン
- ⑥ 操作ガイドテキスト
- ⑦ イラスト
- ⑧ 設定項目名

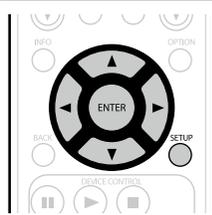
ご注意

コンピューター解像度(例：VGA)の映像または一部の3Dビデオコンテンツを再生中にメニューを操作すると、再生映像はメニュー画面の映像に切り替わります。

テレビ画面とディスプレイの表示について

テレビ画面とディスプレイの表示について、代表的な例を説明します。

	テレビ画面	ディスプレイ	説明
トップメニューの表示			<p>① SETUPを押して、メニュー画面を表示します。</p> <p>② テレビ画面：選択中の行を表示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定したい項目に移動するときは、△▽を押します。
設定を変更するときの表示	<p>↓ ENTERを押す。</p>	<p>↓ ENTERを押す。</p>	<p>① テレビ画面：選択中の行を表示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定したい項目に移動するときは、△▽を押します。 <p>② ENTERを押して、設定したい項目を選びます。</p> <p>③ 設定を変更できる項目には、項目名の両端に < > を表示します。< >を押して、設定を変更します。</p>
お買い上げ時の設定に戻すときの表示	<p>↓ ENTERを押す。</p>	<p>↓ ENTERを押す。</p>	<p>① △を押して“初期化”または“Default”を選び、ENTERを押します。</p> <p>② <を押して“はい”または“Reset”を選び、ENTERを押します。</p>



文字入力について

本機は、次の画面に表示する名前をお好みに合わせて変更できます。

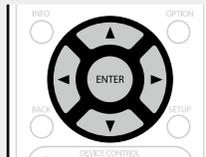
- テキスト検索 (P.73 ページ)
- プリセット名前 (P.61 ページ)
- 入力ソース名の変更 (P.131 ページ)
- フレンドリーネームの編集 (P.138 ページ)
- ゾーン名の変更 (P.138 ページ)
- ネットワーク機能に関する文字入力 (P.64, 71, 73, 139 ページ)

キーボード画面で名前を入力する

テレビ画面に表示される文字を選んで、文字を入力します。

□ 入力のしかた

- 1 文字の入力をおこなう画面を表示する (P.110 ページ「メニュー 一覧」)。



- 2 変更したい文字を選ぶ。

- ① △▽◀▶ を押して ← または → を選ぶ。
- ② ENTER を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。
ENTER を押すたびに、カーソルが1文字ずつ移動します。

- 3 △▽◀▶ を押して入力したい文字を選び、ENTER を押す。

• 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

【英大文字 / 数字 / 記号】
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789
! " # \$ % & ' () * + , ; < = >
【英小文字 / 数字 / 記号】
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789
. @ - _ / : ~ ? [\] ^ ' { | }

- 4 手順 2, 3 をくり返して、名前を変更する。

- 5 △▽◀▶ を押して OK を選び、ENTER を押す。



音声に関する設定をします。

メニューの操作のしかた

1 ZONE SELECT を押して、“MAIN”に切り替える。

2 SETUP を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◀ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するときには、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。



“オーディオ”メニューでできること

ダイアログエンハンサー (👉 [116 ページ](#))

サブウーハーレベル (👉 [116 ページ](#))

サラウンドパラメーター (👉 [116 ページ](#))

トーンコントロール (👉 [118 ページ](#))

M-DAX (👉 [118 ページ](#))

オーディオディレイ (👉 [118 ページ](#))

音量 (👉 [119 ページ](#))

バイリンガルモード (👉 [119 ページ](#))

Audyssey (👉 [119 ページ](#))

グラフィック EQ (👉 [121 ページ](#))

ダイアログエンハンサー

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

センターチャンネルのせりふ部分の周波数帯域を調節し、せりふを強調して聴きやすくします。

設定項目	設定内容
エンハンサー	<u>弱</u> / 中 / 強：せりふを強調します。 <u>オフ</u> ：せりふを強調しません。

サブウーハーレベル

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

サブウーハーの音量を調節します。

設定項目	設定内容
サブウーハー サブウーハー出力のオン / オフを設定します。	<u>オン</u> ：サブウーハーを使用します。 <u>オフ</u> ：サブウーハーを使用しません。 ご注意 サウンドモードが“DIRECT”または“PURE DIRECT”モード (131 ページ) で、メニューの“サブウーハーモード” (136 ページ) の設定が“LFE+ メイン”のときに設定できます。
サブウーハー 1 レベル サブウーハー 1 の音量を調節します。	<u>-12dB ~ +12dB (0dB)</u>
サブウーハー 2 レベル サブウーハー 2 の音量を調節します。	<u>-12dB ~ +12dB (0dB)</u>

サラウンドパラメーター

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

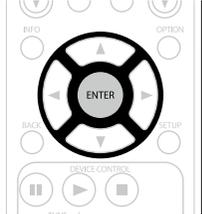
サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サウンドモードとパラメーター一覧表」([165 ページ](#))をご覧ください。

ご注意

- 設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。
- サウンドモードが“PURE DIRECT”のとき、サラウンドパラメーターは設定できません。

設定項目	設定内容
ホームシアターEQ 映画のせりふの高域成分をやりわらげ、聴きやすくします。	<u>オン</u> ：“ホームシアターEQ”を使用します。 <u>オフ</u> ：“ホームシアターEQ”を使用しません。
ラウドネスマネージメント Dolby TrueHD ソースのときに設定できます。“ダイナミックレンジ圧縮”で設定した内容で出力するか、ディスクに記録されている音声のダイナミックレンジを圧縮せずにそのまま出力するかを設定します。	<u>オン</u> ：“ダイナミックレンジ圧縮”の設定および“ダイアログノーマライゼーション” (144 ページ) で設定した内容で出力します。 <u>オフ</u> ：“ダイナミックレンジ圧縮”の設定および“ダイアログノーマライゼーション” (144 ページ) が無効になり、ディスクに記録されている信号をそのまま出力します。
ダイナミックレンジ圧縮 ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。	<u>オート</u> ：再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン / オフします。 <u>弱</u> / <u>中</u> / <u>強</u> ：ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 <u>オフ</u> ：ダイナミックレンジを圧縮しません。  “オート”は Dolby TrueHD ソースのときのみ設定できます。
低音の位相補正 Blu-ray disc などマルチチャンネルで収録されているコンテンツでは、低音 (LFE) が遅れて収録されている場合があります。本機能を使用すると、この低音 (LFE) の遅れを補正します。	<u>0ms ~ 16ms</u>  ディスクによって低音 (LFE) の遅れが異なります。お好みで設定してください。

設定項目	設定内容
LFE 低域信号(LFE)レベルを調節します。	<p>□ “入力モード”(132 ページ) の設定が、“7.1 CH IN”以外のとき -10dB ~ 0dB</p> <p>□ “入力モード”(132 ページ) の設定が、“7.1 CH IN”のとき 0dB / 5dB / 10dB / 15dB</p> <p> 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Dolby Digital ソース：“0dB” • DTS の映画ソース：“0dB” • DTS の音楽ソース：“-10dB”
センターゲイン センターチャンネルから出力されるセリふをフロント左右のチャンネルに振り分け、前方の音場イメージを広げます。サウンドモードが DTS NEO:X のときに設定できます。	0.0 ~ 1.0 (0.3)
パノラマ フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。サウンドモードが Dolby PLII の“Music”モードのときに設定できます。	オン ：設定します。 オフ ：設定しません。
ディメンション 音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。サウンドモードが Dolby PLII の“Music”モードのときに設定できます。	0 ~ 6 (3)  数値が小さくなるほど、サラウンド音場は後方に移動し、数値が大きくなるほど、サラウンド音場は前方に移動します。

設定項目	設定内容
センター幅 センターチャンネルから出力されるセリふをフロント左右のチャンネルに振り分け、前方の音場イメージを広げます。サウンドモードが Dolby PLIIx の“Music”モードのときに設定できます。	0 ~ 7 (3)  数値が小さくなるほど、セリふはセンターチャンネル集中します。数値が大きくなるほど、フロント左右チャンネルに振り分けられ、前方の音場イメージが広がります。
Height ゲイン フロントハイトチャンネルの音量をコントロールします。	<p>弱：フロントハイトチャンネルの音量を小さくします。</p> <p>通常：フロントハイトチャンネルを標準音量で出力します。</p> <p>強：フロントハイトチャンネルの音量を大きくします。</p> <p>ご注意</p> <p>“Height ゲイン”は、次の設定のときに表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メニューの“スピーカー構成” ⇨ “フロントハイト” の設定(134 ページ)が“無し”以外のとき • サウンドモードが“PLIIz”または PLIIz のデコーダーを使用しているとき
初期化 “サラウンドパラメーター”の設定をお買い上げ時の設定に戻します。	<p>はい：お買い上げ時の設定に戻します。</p> <p>いいえ：お買い上げ時の設定に戻しません。</p> <p> “初期化”を選んで ENTER を押すと、“サラウンドパラメーターの設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、ENTER を押してください。</p> 

トーンコントロール

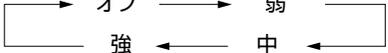
お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

トーンを調節します。

設定項目	設定内容
トーンコントロール トーンコントロール機能の“オン”と“オフ”の設定をします。	オン ：低音や高音のトーンを調節できます。 オフ ：トーンを調節せずに再生します。  メニューの“Dynamic EQ” (120 ページ) の設定が“オフ”のときに設定できます。 <div style="background-color: #f08080; border-radius: 5px; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> ご注意 </div> <ul style="list-style-type: none"> “トーンコントロール”の設定は、ゾーン 2 とゾーン 3 には反映しません。 サウンドモードが“DIRECT” または“PURE DIRECT” モードのとき、トーンの調節はできません。
低音 低音を調節します。	-6dB ~ +6dB (0dB)  メニューの“トーンコントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。
高音 高音を調節します。	-6dB ~ +6dB (0dB)  メニューの“トーンコントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。

M-DAX

MP3、WMA(Windows Media Audio)や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。“M-DAX”は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。

設定項目	設定内容
モード “M-DAX”のモードを設定します。	オフ ：“M-DAX”を使用しません。 強 ：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです(64kbps 以下)。 中 ：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します(96kbps 以下)。 弱 ：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです(96kbps 以上)。  <ul style="list-style-type: none"> アナログ入力や PCM 信号(サンプリング周波数 = 44.1/48 kHz)が入力されたときに設定できます。 “M-DAX”の設定は、入力ソースごとに記憶します。 “オフ”以外に設定すると、ディスプレイの M-DAX 表示が点灯します。 サウンドモードが“DIRECT” または“PURE DIRECT” のときは設定できません。 本体の M-DAX を押しても設定できます。 本体の M-DAX を押すたびに、M-DAX のモードが次の順序で切り替わります。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>

オーディオディレイ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節します。

設定内容
0ms ~ 200ms  <ul style="list-style-type: none"> メニューの“オートリップシンク” (123 ページ) の設定が“オン”のとき、およびオートリップシンク対応のテレビを接続しているときは、0 ~ 100ms の範囲で設定できます。 “オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。 メニューの“ビデオモード” (125 ページ) が“オート”または“ゲーム”のときは、ゲームモード用のオーディオディレイ値を設定できます。

音量

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。

設定項目	設定内容
表示方法 音量の表示方法を設定します。	<u>0～98</u> : 0 (最小)～98 の範囲で表示します。 <u>-79.5dB～18.0dB</u> : ---dB(最小)、-79.5dB～18.0dB の範囲で表示します。  <ul style="list-style-type: none"> “表示方法”を設定すると、“音量の上限”や“電源オン時の音量”の表示方法も切り替わります。 “表示方法”の設定は、すべてのゾーンに対して適用します。
音量の上限 音量の上限を設定します。	<u>60 (-20dB) / 70 (-10dB) / 80 (0dB)</u> <u>オフ</u> : 音量の上限を設定しません。
電源オン時の音量 電源をオンにしたときの音量を設定します。	<u>前回の音量</u> : 前回使用したときの音量になります。 <u>消音</u> : 常に消音状態になります。 <u>1～98 (-79dB～18dB)</u> : 設定した音量になります。
ミュートレベル ミュート時の音量の減衰を設定します。	<u>消音</u> : 消音状態になります。 <u>-40dB</u> : 現在の音量から 40dB 下げて再生します。 <u>-20dB</u> : 現在の音量から 20dB 下げて再生します。

バイリンガルモード

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。

設定内容
主音声 : 主音声のみ出力します。
副音声 : 副音声のみ出力します。
主 / 副 : 主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。
主 + 副 : 主音声と副音声をミックスして出力します。
 このモードは、二重音声のソースを再生中のみ有効です。

Audyssey

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

Audyssey MultEQ[®] XT 32、Audyssey Dynamic EQ[®]、Audyssey Dynamic Volume[®]、Audyssey LFC[™] および Audyssey DSX[®] の設定をします。これらの設定は、Audyssey[®] セットアップをおこなったあとに設定できます。

Audyssey 技術に関する詳細な情報については、[174 ページ](#)をご覧ください。

ご注意

Audyssey[®] セットアップをおこなっていない場合、または Audyssey[®] セットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Dynamic EQ や Dynamic Volume を選択できません。

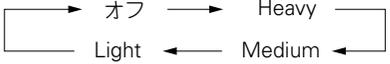
この場合は、再度 Audyssey[®] セットアップをおこなうか、“再設定” ([46 ページ](#)) をおこなって Audyssey[®] セットアップ後の設定に戻してください。

設定項目	設定内容
MultEQ[®] XT 32 MultEQ [®] XT 32 は、Audyssey [®] セットアップの測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。 3 種類の補正カーブから選択します。“Audyssey”に設定することをおすすめします。 MultEQ [®] XT 32 の設定は、Dynamic EQ、Dynamic Volume や Audyssey LFC を動作させるために必要です。	Audyssey : すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 Audyssey Byp.L/R : フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 Audyssey Flat : すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 グラフィック EQ : メニューの“グラフィック EQ” (121 ページ) で調節された周波数特性を適用します。 オフ : “MultEQ [®] XT 32”を使用しません。  <ul style="list-style-type: none"> Audyssey[®] セットアップをおこなうと、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”が選択できます。 Audyssey[®] セットアップ後は自動的に“Audyssey”になります。 “Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”または“Audyssey Flat”を選んだときは、ディスプレイの AUDYSSEY 表示が点灯します。
	ご注意 ヘッドホン使用時、“MultEQ [®] XT 32”の設定は自動的に“オフ”になります。



“MultEQ[®] XT 32”、“Dynamic EQ”および“Dynamic Volume”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

設定項目	設定内容
Dynamic EQ 人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 Dynamic EQ は MultEQ [®] XT 32 と連動して動作します。	オン ：Dynamic EQ を使用します。 オフ ：Dynamic EQ を使用しません。  <ul style="list-style-type: none"> “オン”に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY 表示が点灯します。 本体の DYNAMIC EQ を押しでも設定できます。DYNAMIC EQ を押すたびに次の順序で切り替わります。 <p style="text-align: center;">オン ←→ オフ</p> <p>ご注意</p> メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは、“トーンコントロール”(118 ページ)の調節はできません。
リファレンスオフセット Audyssey Dynamic EQ [®] は、一般的なフィルム(映画など)のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが 0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定(5dB/10dB/15dB)が可能です。右記が推奨の設定レベルになります。	0dB (フィルムリファレンス)：お買い上げ時の設定です。映画などのコンテンツに最適です。 5dB ：クラシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。 10dB ：ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。 15dB ：ポップやロックなどの非常に高い音量レベルのコンテンツや、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。  メニューの“Dynamic EQ”(120 ページ)の設定が“オン”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Dynamic Volume テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をお好みの音量設定値に自動的に調節します。	Heavy ：音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。 Medium ：音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 Light ：音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 オフ ：“Dynamic Volume”を使用しません。  <ul style="list-style-type: none"> “Heavy”、“Medium”または“Light”に設定すると AUDYSSEY 表示が点灯します。 Audyssey[®] セットアップ(38 ページ)で“Dynamic Volume”を“はい”に設定した場合は、自動的に“Medium”になります。 本体の DYNAMIC VOL を押しでも設定できます。DYNAMIC VOL を押すたびに次の順序で切り替わります。 <p style="text-align: center;">  </p>
Audyssey LFC[™] 低音周波数帯域を調節し、隣の部屋に低音や振動が漏れることを防ぎます。	オン ：Audyssey LFC [™] を使用します。 オフ ：Audyssey LFC [™] を使用しません。  “Audyssey LFC [™] ”は、Audyssey [®] セットアップが完了していない場合は設定できません。
About Audyssey LFC[™] (Low Frequency Containment) について	
Audyssey LFC [™] は、隣や下の部屋に低音や振動が漏れることを抑制します。リアルタイムに入力信号を解析して、壁や床、天井を通り抜けるような低音を抑えると同時に、音響心理的アプローチを用いた低域補正処理をおこなうことで、隣や下の部屋に低音が響き渡ることなく、視聴者はコンテンツ本来の低域を楽しめます。	
抑制量 抑制する低域の量を調節します。隣の部屋に低音が漏れるのを防ぎたい場合は、より高い値を設定してください。	1～7 (4)

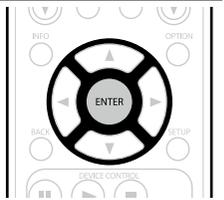
設定項目	設定内容
Audyssey DSX[®] 新たなチャンネルを追加し、包み込むようなサラウンドサウンドを提供します。	ワイド/ハイト ：フロントワイドチャンネルおよびフロントハイトチャンネルを生成する Audyssey DSX [®] を設定します。 ワイド ：フロントワイドチャンネルを生成する Audyssey DSX [®] を設定します。 ハイト ：フロントハイトチャンネルを生成する Audyssey DSX [®] を設定します。 オフ ：Audyssey DSX [®] を設定しません。  再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルやフロントワイドチャンネルが含まれている場合は、“Audyssey DSX [®] ”は使用できません。この場合、入力信号のままそれぞれのチャンネルを再生します。
ステージワイドス フロントワイドスピーカー使用時にサウンドステージの広がりを調節します。	-10~+10 (0)
ステージハイト フロントハイトスピーカー使用時にサウンドステージの高さを調節します。	-10~+10 (0)  <ul style="list-style-type: none"> “Audyssey DSX[®]”は、フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーをご使用のときに設定できます。 “Audyssey DSX[®]”は、センタースピーカーを使用しているときに有効です。 “Audyssey DSX[®]”はサラウンドモードが PLIIz Height 以外のスタンダードモードのときに有効です。
Audyssey Dynamic Surround Expansion (A-DSX)について	
Audyssey DSX [®] は、既存の 5.1ch システムに新しいチャンネルを加えることによりサラウンド効果・印象を高め、より大きなサラウンド空間を実現する新しいサラウンド拡張技術です。人間の聴覚特性の研究で、サラウンド効果を高める要素として大きく 2 つのポイントがあげられます。最も重要なポイントは臨場感のあるサラウンド空間の構成にはフロント(前方向)部分に横の広がり(ワイドチャンネル)を作ることです。次に重要なポイントとしてはサラウンド空間に奥行き感を作る為には認知(聴くこと)が出来る音響信号でフロント(前方向)部分に高さの広がり(ハイトチャンネル)を作ることとされています。Audyssey DSX [®] はこの 2 つの重要な要素からワイドチャンネル、ハイトチャンネルそれぞれペアで作り出します。また Audyssey DSX [®] は単純にチャンネルを追加するだけでなく、既存のフロントやサラウンド、サラウンドバックとの組み合わせることで更に効果を高める“サラウンド・エンベローフメント・プロセッシング”という技術を開発し Audyssey DSX [®] の中に取り入れています。	

グラフィック EQ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。“グラフィック EQ”は、“MultEQ[®] XT 32”([119 ページ](#))の設定が“グラフィック EQ”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
スピーカーの選択方法 スピーカーの音色の調節を個々におこなうか、まとめておこなうかを選びます。	すべて ：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。 左/右 ：左右のスピーカーの音色を一緒に調節します。 各スピーカー ：スピーカーごとに音色を調節します。
EQ 調節 周波数帯域ごとの音色を調節します。“スピーカーの選択方法”で選んだスピーカーを調節します。	① スピーカーを選択する。 ② 調節する周波数帯域を選択する。 63Hz / 125Hz / 250Hz / 500Hz / 1kHz / 2kHz / 4kHz / 8kHz / 16kHz • “左/右”や“各スピーカー”を選んだときは、調節するスピーカーを選んでください。 ③ レベルを調節する。 -20.0dB ~ +6.0dB (0.0dB)
カーブコピー MultEQ [®] XT 32 の “Audyssey Flat” (119 ページ) の補正カーブをコピーします。	はい ：コピーをします。 いいえ ：コピーをしません。  <ul style="list-style-type: none"> “カーブコピー”は、Audyssey[®] セットアップをおこなったあとに表示します。 “カーブコピー”を選んで ENTER を押すと、“Audyssey Flat” の補正カーブをコピーしますか？というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、ENTER を押してください。
初期化 “グラフィック EQ”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。	はい ：お買い上げ時の設定に戻します。 いいえ ：お買い上げ時の設定に戻しません。  “初期化”を選んで ENTER を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、 ENTER を押してください。





映像に関する設定をします。

ご注意

本設定は、HDMI ZONE4 機能を使用中は設定できません（“HDMI コントロール” および“コントロールモニター”は除く）。

メニューの操作のしかた

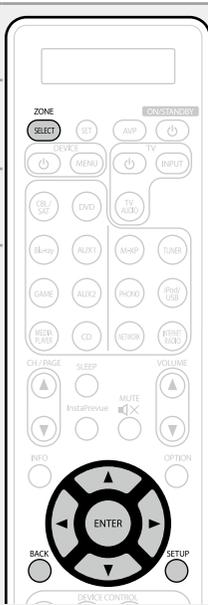
1 ZONE SELECT を押して、“MAIN”に切り替える。

2 SETUP を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◀ または **BACK** を押ししてください。
- メニューを終了するときには、メニュー表示中に **SETUP** を押ししてください。メニュー表示が消えます。



“ビデオ”メニューでできること

画質調整 (🔗 [123 ページ](#))

HDMI 設定 (🔗 [123 ページ](#))

ビデオ出力の設定 (🔗 [125 ページ](#))

アナログビデオ出力 (🔗 [126 ページ](#))

オンスクリーンディスプレイ (🔗 [127 ページ](#))

TV フォーマット (🔗 [127 ページ](#))

画質調整

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像の画質を調節します。

設定はお買い上げ時のままにしておくことをおすすめします。まずは、テレビ側でディスプレイの画質調整をおこない、微調整をおこないたい場合のみ、このメニューを使用してください。

入力ソースが **CBL/SAT** **DVD** **Blu-ray** **GAME** **AUX1** **AUX2** **MEDIA PLAYER** **iPod/USB** **NETWORK** のときに設定できます。

- 上記以外に入力ソースでは、メニューの“ビデオセレクト”を選択しているときに設定できます。この場合、元の入力ソースの設定を呼び出します。
- メニューの“ビデオコンバージョン”([125 ページ](#))の設定が“オン”のときに設定できます。
- “TV AUDIO”および“CD”は、各入力ソースに“HDMI”、“COMP”または“VIDEO”([129](#)、[130 ページ](#))を割り当てているときに設定できます。

設定項目	設定内容
ピクチャーモード ビデオ信号や視聴環境に合わせて、お好みのピクチャーモードを選んでください。	スタンダード ：リビングルームの視聴環境に適した標準のモードです。 ムービー ：シアタールームなどの暗い部屋で映画を見るのに適したモードです。 ビッド ：ゲームなどのグラフィック画面に対して、より明るく、鮮やかにするモードです。 ストリーミング ：低ビットレートのビデオソースに適したモードです。 カスタム ：画質調整を手動でおこないます。 オフ ：本機による画質調整をおこないません。  <ul style="list-style-type: none"> • OPTION を押してオプションメニューの“ピクチャーモード”(77 ページ)から設定することもできます。 • お買い上げ時の設定は次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> • 入力ソースが“NETWORK”または“iPod/USB”のとき：ストリーミング • 入力ソースが“NETWORK”および“iPod/USB”以外のとき：オフ
コントラスト 映像の明暗の差を調節します。	-6 - +6 (0)  “コントラスト”は、“ピクチャーモード”の設定が“カスタム”のときに設定できます。
ブライトネス 映像の明るさを調節します。	0 - +12  “ブライトネス”は、“ピクチャーモード”の設定が“カスタム”のときに設定できます。
色の濃さ 色の濃さを調節します。	-6 - +6 (0)  “色の濃さ”は、“ピクチャーモード”の設定が“カスタム”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
色合い 緑色と赤色のバランスを調節します。	-6 - +6 (0)  “色合い”は、“ピクチャーモード”の設定が“カスタム”のときに設定できます。
ノイズ除去 映像全体のノイズを軽減します。	弱 / 中 / 強 / オフ  “ノイズ除去”は、“ピクチャーモード”の設定が“カスタム”のときに設定できます。
エンハンサー 映像の輪郭を強調します。	0 - +12  “エンハンサー”は、“ピクチャーモード”の設定が“カスタム”のときに設定できます。

ご注意

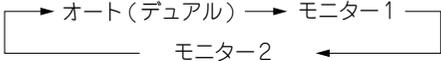
- “画質調整”は、4K のビデオ信号入力時は設定できません。
- HDMI MONITOR OUT 1、HDMI MONITOR OUT 2、COMPONENT VIDEO OUT および VIDEO MONITOR OUT 端子にテレビを同時に接続して、コンポーネントビデオ信号またはビデオ信号を入力している場合、“ピクチャーモード”⇒“ストリーミング”、“ノイズ除去”および“エンハンサー”の設定は、HDMI 接続しているテレビのみに効果があります。

HDMI 設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMI の映像出力や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
オートリップシンク 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	オン ：補正します。 オフ ：補正しません。
HDMI オーディオ出力 HDMI の音声の出力先を設定します。	AVP ：パワーアンプに接続したスピーカーで再生します。(音声は本機のプリアウト端子から出力されます。) TV ：本機に接続したテレビで再生します。  <ul style="list-style-type: none"> • HDMI 音声出力を“TV”に設定することで、HDMI 入力端子からの音声信号を HDMI 出力端子に出力することができます。アナログ入力端子やデジタル入力端子(Coaxial/Optical/7.1CH IN)から入力される音声信号を、HDMI 出力端子に出力することはできません。 • HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します(98 ページ「HDMI コントロール機能」)。

設定項目	設定内容
ビデオ出力 HDMI のモニター出力を設定します。	<p>オート (デュアル) : HDMI MONITOR 1 または HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビを自動的に認識して使用します。</p> <p>モニター 1 : HDMI MONITOR 1 端子に接続されたテレビを常に使用します。HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビからは映像を出力しません。</p> <p>モニター 2 : HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビを常に使用します。HDMI MONITOR 1 端子に接続されたテレビからは映像を出力しません。</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> HDMI MONITOR 1 および HDMI MONITOR 2 端子にテレビを接続した場合、“解像度”の設定 (126 ページ) が“オート”のときは、両方のテレビが対応している解像度で出力します。 メニューの“解像度”設定 (126 ページ) が“オート”以外のときは、“ビデオ”⇨“HDMI モニター 1”および“HDMI モニター 2” (144 ページ) で、ご使用のテレビが対応している解像度を確認してください。 本体の HDMI OUT を押しでも設定できます。HDMI OUT を押すたびに次の順序で切り替わります。 </p> <div style="text-align: center;">  <p>→ オート (デュアル) → モニター 1 ← モニター 2 ←</p> </div> <p>ご注意 接続しているモニターによっては、“オート (デュアル)”に設定すると正しく表示されない場合があります。このようなときは、“モニター 1”または“モニター 2”を選んでください。</p>
バーチカルストレッチ 映像信号を垂直方向に伸張するかしないかの設定をします。	<p>オン : 映像信号を垂直方向に伸張します。</p> <p>オフ : 映像信号を垂直方向に伸張しません。</p> <p> “バーチカルストレッチ”は、“i/p スケーラー” (125 ページ) の設定が“オフ”以外のときに動作します。</p>
HDMI パススルー 本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力する設定をします。	<p>オン : 本機がスタンバイのときでも、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力します。</p> <p>オフ : 本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力しません。</p> <p>ご注意 “HDMI パススルー”を“オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。</p>

設定項目	設定内容
HDMI コントロール HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。	<p>オン : HDMI コントロール機能を使用します。</p> <p>オフ : HDMI コントロール機能を使用しません。</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> HDMI コントロール機能に対応していない機器と接続した場合は、“HDMI コントロール”を“オフ”に設定してください。 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」 (98 ページ) をご覧ください。 </p> <p>ご注意 <ul style="list-style-type: none"> “HDMI コントロール”を“オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。 HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。 “HDMI コントロール”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。 </p>
パススルーソース 電源がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。	<p>最後のソース : 前回使用していた入力ソースのままスタンバイします。</p> <p>CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / AUX1 / AUX2 / MEDIA PLAYER / CD : それぞれの入力端子に割り当てた入力ソースのままスタンバイします。</p> <p> “パススルーソース”は、“HDMI コントロール”の設定が“オン”、または“HDMI パススルー”の設定が“オン”のときに設定できます。</p>
コントロールモニター HDMI コントロール機能を動作させる HDMI モニターを選びます。	<p>モニター 1 : HDMI モニター 1 を使用して HDMI コントロールをおこないます。</p> <p>モニター 2 : HDMI モニター 2 を使用して HDMI コントロールをおこないます。</p> <p>ZONE4 : ゾーン 4 の HDMI モニターを使用して HDMI コントロールをおこないます。</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> “コントロールモニター”は、メニューの“HDMI コントロール”⇨“コントロール”設定 (124 ページ) が“オン”のときに設定できます。 ARC 機能は、“コントロールモニター”で設定した HDMI モニター 1 または HDMI モニター 2 のいずれかの端子に対してのみ動作します。 </p>

設定項目	設定内容
パワーオフコントロール	<p>すべて：本機の入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。</p> <p>ビデオ：本機の入力ソースが CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / AUX1 / AUX2 / MEDIA PLAYER / CD / TV AUDIO で“HDMI”、“COMP”または“VIDEO”（129、130 ページ）のいずれかが割り当てられているときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。</p> <p>オフ：本機はテレビの電源に連動しません。</p> <p> “パワーオフコントロール”は、メニューの“HDMI コントロール”が“オン”のときに設定できます。</p>

ビデオ出力の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

画面に関する設定をします。

- * “CBL/SAT”、“DVD”、“Blu-ray”、“GAME”、“AUX1”、“AUX2”、“MEDIA PLAYER”、“CD”および“TV AUDIO”は、各入力ソースに“HDMI”、“COMP”または“VIDEO”（[129](#)、[130 ページ](#)）を割り当てているときに設定できます。



“ビデオ出力の設定”は、4K のビデオ信号入力時は設定できません。

設定項目	設定内容
ビデオモード	<p>オート：HDMI のコンテンツ情報に基づく映像処理を自動でおこないます。</p> <p>ゲーム：ゲームコンテンツに適した映像処理をおこないます。</p> <p>ムービー：通常の映像処理をおこないます。</p> <p> “ビデオモード”の設定が“オート”の場合は、入力されたコンテンツに応じてモードが切り替わります。</p> <p>• 同じソースを同じ部屋で、メインゾーン（音声と映像）とゾーン 2（音声のみ）の両方を使用して再生すると、メインゾーンの音声とゾーン 2 の音声がずれて聞こえることがありますが、故障ではありません。このような場合は、“ゲーム”モードに設定すると、タイミングのずれを少なく抑えることができます。</p>

設定項目	設定内容												
ビデオコンバージョン	<p>オン：入力された映像信号を変換します。</p> <p>オフ：入力された映像信号を変換しません。</p> <p> “ビデオコンバージョン”は、メニューの“ビデオコンバージョン”で設定できます。</p> <p>• ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。このような場合は、“ビデオコンバージョン”を“オフ”に設定してください。</p> <p>• “ビデオコンバージョン”を“オフ”に設定すると、ビデオコンバージョン機能は動作しませんので、本機とテレビの接続に同じ種類の映像ケーブルを使用してください。</p>												
<table border="1"> <tr><td>CBL/SAT *</td><td>DVD *</td></tr> <tr><td>Blu-ray *</td><td>GAME *</td></tr> <tr><td>AUX1 *</td><td>AUX2 *</td></tr> <tr><td colspan="2">MEDIA PLAYER *</td></tr> <tr><td>CD *</td><td>TV AUDIO *</td></tr> </table>	CBL/SAT *	DVD *	Blu-ray *	GAME *	AUX1 *	AUX2 *	MEDIA PLAYER *		CD *	TV AUDIO *			
CBL/SAT *	DVD *												
Blu-ray *	GAME *												
AUX1 *	AUX2 *												
MEDIA PLAYER *													
CD *	TV AUDIO *												
i/p スケーラー	<p>アナログ：アナログ映像入力信号に対して、i/p スケーラー機能を使用します。</p> <p>アナログ & HDMI：アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号に対して、i/p スケーラー機能を使用します。</p> <p>HDMI：HDMI 映像入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。</p> <p>オフ：i/p スケーラー機能を使用しません。</p> <p> “アナログ & HDMI”および“HDMI”は、HDMI 入力端子を割り当てている入力ソースに対して設定できます。</p> <p>• 各入力端子が割り当てられている入力ソースによって、設定項目が異なります。</p> <p>• i/p スケーラー機能は、入力された信号が“x.v.Color”、3D、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601 color およびコンピュータ解像度のときは効果がありません。</p>												
<table border="1"> <tr><td>CBL/SAT *</td><td>DVD *</td></tr> <tr><td>Blu-ray *</td><td>GAME *</td></tr> <tr><td>AUX1 *</td><td>AUX2 *</td></tr> <tr><td colspan="2">MEDIA PLAYER *</td></tr> <tr><td>iPod/USB *</td><td>CD *</td></tr> <tr><td>NETWORK *</td><td>TV AUDIO *</td></tr> </table>	CBL/SAT *	DVD *	Blu-ray *	GAME *	AUX1 *	AUX2 *	MEDIA PLAYER *		iPod/USB *	CD *	NETWORK *	TV AUDIO *	
CBL/SAT *	DVD *												
Blu-ray *	GAME *												
AUX1 *	AUX2 *												
MEDIA PLAYER *													
iPod/USB *	CD *												
NETWORK *	TV AUDIO *												

設定項目	設定内容																								
解像度 出力する解像度を設定します。 “解像度”の設定は、アナログビデオ入力時と HDMI 入力時にそれぞれの HDMI 出力に対しておこなえます。	オート ：HDMI MONITOR 出力端子に接続しているテレビのパネル画素数を自動的に検出し、適切な解像度で出力します。 480p/576p / 1080i / 720p / 1080p / 1080p:24Hz / 4K ：出力したい解像度を選びます。																								
<table border="1"> <tr><td>CBL/SAT</td><td>*</td><td>DVD</td><td>*</td></tr> <tr><td>Blu-ray</td><td>*</td><td>GAME</td><td>*</td></tr> <tr><td>AUX1</td><td>*</td><td>AUX2</td><td>*</td></tr> <tr><td colspan="4">MEDIA PLAYER</td></tr> <tr><td>iPod/USB</td><td></td><td>CD</td><td>*</td></tr> <tr><td>NETWORK</td><td></td><td>TV AUDIO</td><td>*</td></tr> </table>	CBL/SAT	*	DVD	*	Blu-ray	*	GAME	*	AUX1	*	AUX2	*	MEDIA PLAYER				iPod/USB		CD	*	NETWORK		TV AUDIO	*	 <ul style="list-style-type: none"> “i/p スケーラー” (125 ページ) の設定が“オフ”以外のときに設定できます。 “i/p スケーラー” (125 ページ) の設定が“アナログ & HDMI”のときは、アナログ映像入力信号と HDMI 映像入力信号の解像度をそれぞれ設定できます。 1080p/24Hz の映像をお楽しみいただくときは、1080p/24Hz の映像信号に対応しているテレビをお使いください。 “1080p:24Hz”に設定すると、フィルムソース(24Hz)のときに、フィルムライクな映像を楽しむことができます。ビデオソースやミックスソースの場合は、“1080p”に設定することをおすすめします。 50Hz の信号を 1080p/24Hz へ変換することはできません。1080p/50Hz の解像度で出力します。
CBL/SAT	*	DVD	*																						
Blu-ray	*	GAME	*																						
AUX1	*	AUX2	*																						
MEDIA PLAYER																									
iPod/USB		CD	*																						
NETWORK		TV AUDIO	*																						
プログレッシブモード 映像素材に最適なプログレッシブモードを選択します。	オート ：映像の素材を自動的に検出し、適切なモードを設定します。 ビデオ ：ビデオ素材の再生に適しています。 ビデオ & フィルム ：ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。																								
<table border="1"> <tr><td>CBL/SAT</td><td>*</td><td>DVD</td><td>*</td></tr> <tr><td>Blu-ray</td><td>*</td><td>GAME</td><td>*</td></tr> <tr><td>AUX1</td><td>*</td><td>AUX2</td><td>*</td></tr> <tr><td colspan="4">MEDIA PLAYER</td></tr> <tr><td>CD</td><td>*</td><td>TV AUDIO</td><td>*</td></tr> </table>	CBL/SAT	*	DVD	*	Blu-ray	*	GAME	*	AUX1	*	AUX2	*	MEDIA PLAYER				CD	*	TV AUDIO	*	 “i/p スケーラー” (125 ページ) の設定が“オフ”以外のときに設定できます。				
CBL/SAT	*	DVD	*																						
Blu-ray	*	GAME	*																						
AUX1	*	AUX2	*																						
MEDIA PLAYER																									
CD	*	TV AUDIO	*																						

設定項目	設定内容																								
アスペクト比 HDMI 端子へ出力する、映像信号のアスペクト比(縦横比)を設定します。	16:9 ：16：9 のアスペクト比で出力します。 4:3 ：16:9 のテレビの画面左右に黒帯をつけて 4:3 のアスペクト比で出力します(ただし、480 p /576 p 出力時は除きます)。  “i/p スケーラー” (125 ページ) の設定が“オフ”以外のときに設定できます。																								
<table border="1"> <tr><td>CBL/SAT</td><td>*</td><td>DVD</td><td>*</td></tr> <tr><td>Blu-ray</td><td>*</td><td>GAME</td><td>*</td></tr> <tr><td>AUX1</td><td>*</td><td>AUX2</td><td>*</td></tr> <tr><td colspan="4">MEDIA PLAYER</td></tr> <tr><td>iPod/USB</td><td></td><td>CD</td><td>*</td></tr> <tr><td>NETWORK</td><td></td><td>TV AUDIO</td><td>*</td></tr> </table>	CBL/SAT	*	DVD	*	Blu-ray	*	GAME	*	AUX1	*	AUX2	*	MEDIA PLAYER				iPod/USB		CD	*	NETWORK		TV AUDIO	*	
CBL/SAT	*	DVD	*																						
Blu-ray	*	GAME	*																						
AUX1	*	AUX2	*																						
MEDIA PLAYER																									
iPod/USB		CD	*																						
NETWORK		TV AUDIO	*																						
* “CBL/SAT”、“DVD”、“Blu-ray”、“GAME”、“AUX1”、“AUX2”、“MEDIA PLAYER”、“CD”および“TV AUDIO”は、各入力ソースに“HDMI”、“COMP”または“VIDEO” (129 、 130 ページ) を割り当てているときに設定できます。																									

アナログビデオ出力

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子および VIDEO MONITOR OUT 端子を使用するゾーンを割り当てます。

設定項目	設定内容
ゾーン	MAIN ZONE ：COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子および VIDEO MONITOR OUT 端子をメインゾーンで使用します。 ZONE3 ：COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子および VIDEO MONITOR OUT 端子をゾーン 3 で使用します。

オンスクリーンディスプレイ お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。

設定項目	設定内容
音量	<p><u>下</u>：画面下に表示します。 <u>上</u>：画面上に表示します。 <u>オフ</u>：表示しません。</p> <p> 主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“上”に設定してください。</p>
情報 サウンドモードの変更や入力ソースの切り替え時に一時的に操作の状態を表示します。これらの各状態表示をするかしないかの設定をします。	<p><u>オン</u>：表示します。 <u>オフ</u>：表示しません。</p>
再生画面 入力ソースが“NETWORK”、“iPod/USB”または“FM”のとき、各メニューの表示時間を設定します。	<p><u>常時オン</u>：常に表示します。 <u>オートオフ</u>：約 30 秒間表示します。</p>

TV フォーマット お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

お使いになるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。

設定項目	設定内容
フォーマット	<p><u>NTSC</u>：NTSC 方式で出力します。 <u>PAL</u>：PAL 方式で出力します。</p> <p></p> <p>“フォーマット”は、次の操作でも設定できます。このとき、メニュー画面は表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本機の電源が入っているときに、本体の < と ZONE SELECT を同時に 3 秒以上長押しする。 ディスプレイに“*Video Format< NTSC >”を表示します。 2. 本体の < > を押して、映像信号方式を選ぶ。 3. 本体の ENTER を押して、設定を終了する。 <p>ご注意</p> <p>接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。</p>



入力ソース

現在選択している入力ソースに関する設定をします。

- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

1 ZONE SELECT を押して、“MAIN”に切り替える。

2 SETUP を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。

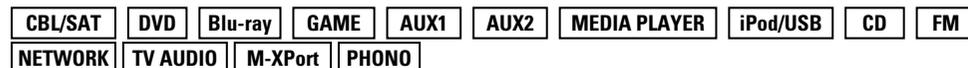
- 前の項目に戻るときは、◀ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。



知っておいてほしいこと

□ 本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわしています。



ご注意

メニューの“使用ソースの選択”（[131 ページ](#)）で、“使用しない”に設定した入力ソースは選べません。

“入力ソース”メニューでできること

入力端子の割り当て ([129 ページ](#))

入力ソース名の変更 ([131 ページ](#))

使用ソースの選択 ([131 ページ](#))

ソースレベル ([131 ページ](#))

オーディオ入力の選択 ([132 ページ](#))

映像の選択 ([132 ページ](#))

入力端子の割り当て

本機の音声端子にはお買い上げ時の設定で“CBL/SAT”などの入力ソースが割り当てられています。お買い上げ時の設定どおりに接続をおこなうと、入力ソース切り替えボタンを押すだけで、接続した機器の音声や映像を簡単に再生できます。

お買い上げ時の設定と異なる接続をおこなう場合は、この項目で設定を変更する必要があります。

“入力端子の割り当て”メニュー画面の表示例

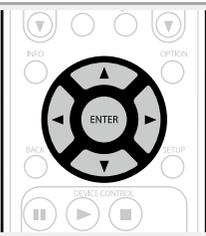
この画面は、メニューの“入力ソース”⇒“各入力ソース”⇒“入力端子の割り当て”を選択したときに表示します。

この“入力端子の割り当て”メニューでは、①各入力ソースに対して、お買い上げ時の設定で割り当てられている②HDMI入力端子、③デジタル入力端子、④アナログ入力端子、⑤コンポーネント入力端子および⑥ビデオ入力端子を変更できます。



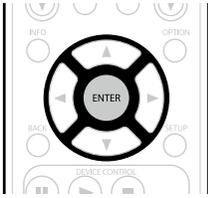
“入力端子の割り当て”メニューの操作のしかた

- 1 △▽◀▶ を押して、設定したい項目へカーソルを移動させ、**ENTER** を押す。
- 2 ◀▶ を押して、入力端子を割り当てる。
- 3 **ENTER** を押して、設定を確定する。



設定項目	設定内容					
HDMI	1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / Front : 選択した入力ソースに、いずれかのHDMI 入力端子を割り当てます。 — : 選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。					
	• 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。					
	入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1
	お買い上げ時の設定	1	2	3	4	Front
	入力ソース	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO	
	お買い上げ時の設定	6	5	—	—	
	<p> “HDMI” で割り当てた映像信号と、メニューの“入力端子の割り当て”⇒“DIGITAL” で割り当てた音声信号を組み合わせ再生する場合は、“入力モード”(132 ページ)を“デジタル”に設定してください。</p> <p>• HDMI 接続したテレビにはアナログ端子およびデジタル端子から入力された音声信号を出力できません。</p> <p>• メニューの“HDMI コントロール”(124 ページ)を“オン”に設定している場合は、“TV AUDIO”に“HDMI”を割り当ててはできません。</p>					

設定項目	設定内容																																
DIGITAL 入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。	COAX1 / COAX2 / OPT1 / OPT2 : 選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てます。 — : 選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てません。																																
<table border="1"> <tr><td>CBL/SAT</td><td>DVD</td></tr> <tr><td>Blu-ray</td><td>GAME</td></tr> <tr><td>AUX1</td><td>AUX2</td></tr> <tr><td>MEDIA PLAYER</td><td>CD</td></tr> <tr><td>TV AUDIO</td><td></td></tr> </table>	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO		<ul style="list-style-type: none"> 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。 <table border="1"> <tr> <td>入力ソース</td> <td>CBL/SAT</td> <td>DVD</td> <td>Blu-ray</td> <td>GAME</td> <td>AUX1</td> </tr> <tr> <td>お買い上げ時の設定</td> <td>COAX 1</td> <td>COAX 2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>入力ソース</td> <td>AUX2</td> <td>MEDIA PLAYER</td> <td>CD</td> <td>TV AUDIO</td> </tr> <tr> <td>お買い上げ時の設定</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>OPT 2</td> <td>OPT 1</td> </tr> </table>	入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1	お買い上げ時の設定	COAX 1	COAX 2	—	—	—	入力ソース	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO	お買い上げ時の設定	—	—	OPT 2	OPT 1
CBL/SAT	DVD																																
Blu-ray	GAME																																
AUX1	AUX2																																
MEDIA PLAYER	CD																																
TV AUDIO																																	
入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1																												
お買い上げ時の設定	COAX 1	COAX 2	—	—	—																												
入力ソース	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO																													
お買い上げ時の設定	—	—	OPT 2	OPT 1																													
ANALOG 入力ソースに割り当てられているアナログ音声入力端子を変更するときに設定します。	1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / Front / XLR : 選択した入力ソースにアナログ入力端子を割り当てます。 — : 選択した入力ソースにアナログ入力端子を割り当てません。																																
<table border="1"> <tr><td>CBL/SAT</td><td>DVD</td></tr> <tr><td>Blu-ray</td><td>GAME</td></tr> <tr><td>AUX1</td><td>AUX2</td></tr> <tr><td>MEDIA PLAYER</td><td>CD</td></tr> <tr><td>TV AUDIO</td><td></td></tr> </table>	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO		<ul style="list-style-type: none"> 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。 <table border="1"> <tr> <td>入力ソース</td> <td>CBL/SAT</td> <td>DVD</td> <td>Blu-ray</td> <td>GAME</td> <td>AUX1</td> </tr> <tr> <td>お買い上げ時の設定</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>Front</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>入力ソース</td> <td>AUX2</td> <td>MEDIA PLAYER</td> <td>CD</td> <td>TV AUDIO</td> </tr> <tr> <td>お買い上げ時の設定</td> <td>—</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>—</td> </tr> </table>	入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1	お買い上げ時の設定	1	2	3	4	Front	入力ソース	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO	お買い上げ時の設定	—	6	5	—
CBL/SAT	DVD																																
Blu-ray	GAME																																
AUX1	AUX2																																
MEDIA PLAYER	CD																																
TV AUDIO																																	
入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1																												
お買い上げ時の設定	1	2	3	4	Front																												
入力ソース	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO																													
お買い上げ時の設定	—	6	5	—																													
COMP (コンポーネントビデオ) 入力ソースに割り当てられているコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。	1 / 2 / 3 : 選択した入力ソースにコンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。 — : 選択した入力ソースにコンポーネントビデオ入力端子を割り当てません。																																
<table border="1"> <tr><td>CBL/SAT</td><td>DVD</td></tr> <tr><td>Blu-ray</td><td>GAME</td></tr> <tr><td>AUX1</td><td>AUX2</td></tr> <tr><td>MEDIA PLAYER</td><td>CD</td></tr> <tr><td>TV AUDIO</td><td></td></tr> </table>	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO		<ul style="list-style-type: none"> 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。 <table border="1"> <tr> <td>入力ソース</td> <td>CBL/SAT</td> <td>DVD</td> <td>Blu-ray</td> <td>GAME</td> <td>AUX1</td> </tr> <tr> <td>お買い上げ時の設定</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>入力ソース</td> <td>AUX2</td> <td>MEDIA PLAYER</td> <td>CD</td> <td>TV AUDIO</td> </tr> <tr> <td>お買い上げ時の設定</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table>	入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1	お買い上げ時の設定	1	2	3	—	—	入力ソース	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO	お買い上げ時の設定	—	—	—	—
CBL/SAT	DVD																																
Blu-ray	GAME																																
AUX1	AUX2																																
MEDIA PLAYER	CD																																
TV AUDIO																																	
入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1																												
お買い上げ時の設定	1	2	3	—	—																												
入力ソース	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO																													
お買い上げ時の設定	—	—	—	—																													

設定項目	設定内容																																
VIDEO 入力ソースに割り当てられているビデオ入力端子を変更するときに設定します。	1 / 2 / 3 / Front : 選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てます。 — : 選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てません。																																
<table border="1"> <tr><td>CBL/SAT</td><td>DVD</td></tr> <tr><td>Blu-ray</td><td>GAME</td></tr> <tr><td>AUX1</td><td>AUX2</td></tr> <tr><td>MEDIA PLAYER</td><td>CD</td></tr> <tr><td>TV AUDIO</td><td></td></tr> </table>	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO		<ul style="list-style-type: none"> 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。 <table border="1"> <tr> <td>入力ソース</td> <td>CBL/SAT</td> <td>DVD</td> <td>Blu-ray</td> <td>GAME</td> <td>AUX1</td> </tr> <tr> <td>お買い上げ時の設定</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>Front</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>入力ソース</td> <td>AUX2</td> <td>MEDIA PLAYER</td> <td>CD</td> <td>TV AUDIO</td> </tr> <tr> <td>お買い上げ時の設定</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table>	入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1	お買い上げ時の設定	1	2	—	—	Front	入力ソース	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO	お買い上げ時の設定	—	3	—	—
CBL/SAT	DVD																																
Blu-ray	GAME																																
AUX1	AUX2																																
MEDIA PLAYER	CD																																
TV AUDIO																																	
入力ソース	CBL/SAT	DVD	Blu-ray	GAME	AUX1																												
お買い上げ時の設定	1	2	—	—	Front																												
入力ソース	AUX2	MEDIA PLAYER	CD	TV AUDIO																													
お買い上げ時の設定	—	3	—	—																													
初期化 “入力端子の割り当て”の設定をお買い上げ時の設定に戻します。	はい : お買い上げ時の設定に戻します。 いいえ : お買い上げ時の設定に戻しません。																																
 “初期化”を選んで ENTER を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、 ENTER を押してください。																																	

入力ソース名の変更

選択した入力ソースの表示名を変更します。

お使いの機器の入力ソース名と本機の入力ソース名が異なっている場合に便利です。お好みに合わせて変更できます。変更後は、本体のディスプレイとメニュー画面にその名前を表示します。

設定内容

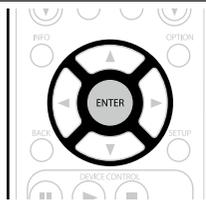
CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / AUX1 / AUX2 / MEDIA PLAYER / CD / TV AUDIO / M-XPort / PHONO : 選択した入力ソースの表示名を変更します。

- 12文字まで入力できます。
- 文字の入力方法については、[114ページ](#)をご覧ください。

初期化：変更した入力ソース名をお買い上げ時の設定に戻します。

- **はい**：お買い上げ時の設定に戻します。
- **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。

- ✎ “初期化”を選んで **ENTER** を押すと、“入力ソースの名前を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、**ENTER** を押してください。



使用ソースの選択

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

使用しない入力ソースを表示しないように設定します。

設定内容

CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / AUX1 / AUX2 / MEDIA PLAYER / iPod/USB / CD / FM / Favorites / Internet Radio / Flickr / TV AUDIO / M-XPort / PHONO : 使用しない入力ソースを選びます。

- **使用する**：選んだ入力ソースを使用します。
- **使用しない**：選んだ入力ソースを使用しません。

ご注意

- 各ゾーンで使用している入力ソースの設定はできません。
- “使用しない”に設定した入力ソースは、入力ソース選択ボタンを操作しても選べません。

ソースレベル

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。

ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

設定項目	設定内容
ソースレベル	-12dB ~ +12dB (OdB)
iPod/USB	FM
NETWORK	
アナログ入力	-12dB ~ +12dB (OdB)
CBL/SAT	DVD
Blu-ray	GAME
AUX1	AUX2
MEDIA PLAYER	CD
TV AUDIO	PHONO
デジタル入力	-12dB ~ +12dB (OdB)
CBL/SAT	DVD
Blu-ray	GAME
AUX1	AUX2
MEDIA PLAYER	CD
TV AUDIO	

✎ メニューの“入力端子の割り当て”(129ページ)の設定で、“ANALOG”を割り当てた入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節できます。

✎ メニューの“入力端子の割り当て”(129ページ)の設定で、“DIGITAL”を割り当てた入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節できます。

オーディオ入力の選択

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。
 選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

設定項目	設定内容
入力モード 各入力ソースの音声入力モードを設定します。 通常は、“オート”に設定することをおすすめします。	<p>オート：本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。</p> <p>HDMI：HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。</p> <p>デジタル：デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。</p> <p>アナログ：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。</p> <p>7.1CH IN：7.1CH IN 端子からの入力信号のみを再生します。</p> <p></p> <ul style="list-style-type: none"> “デジタル”は、メニューの“入力端子の割り当て”(130 ページ)でデジタル入力端子(Coaxial/Optical)を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 入力ソースが“AUX2”および“TV AUDIO”のとき、“アナログ”はアナログ音声入力端子を割り当てているときのみ選べます。 デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイの DIG. 表示が点灯します。DIG. 表示が点灯しない場合は、“入力端子の割り当て”(130 ページ)や接続を確認してください。 メニューの“HDMI コントロール”(124 ページ)の設定が“オン”で、HDMI MONITOR 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソースが“TV AUDIO”のときの入力モードは ARC 固定になります。 入力モードが“7.1CH IN”に設定されているときは、サウンドモードは設定できません。
デコードモード 入力ソースの音声をデコードするモードを設定します。	<p>オート：デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。</p> <p>PCM：PCM 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。</p> <p>DTS：DTS 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。</p> <p></p> <ul style="list-style-type: none"> メニューの“入力端子の割り当て”(129 ページ)の設定で、“HDMI”または“DIGITAL”に割り当てた入力ソースのときに選択できます。 通常は、“オート”に設定してください。“PCM”や“DTS”は、それぞれの入力信号を再生するときに設定してください。

CBL/SAT	DVD
Blu-ray	GAME
AUX1	AUX2
MEDIA PLAYER	CD
TV AUDIO	

映像の選択

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

今聴いている音声に好きな映像を組み合わせ再生します。

設定項目	設定内容
ビデオセレクト 各入力ソースの音声入力モードを設定します。 通常は、“オート”に設定することをおすすめします。	<p>入力ソース：入力ソースの映像と音声を再生します。</p> <p>CBL/SAT / DVD / Blu-ray / GAME / AUX1 / AUX2 / MEDIA PLAYER / CD / TV AUDIO：見たい映像の入力ソースを選びます。今聴いている音声に、選択した入力ソースの映像を組み合わせ再生します。入力ソースごとに設定できます。</p> <p> “CBL/SAT”、“DVD”、“Blu-ray”、“GAME”、“AUX1”、“AUX2”、“MEDIA PLAYER”、“CD”および“TV AUDIO”は、各入力ソースに“COMP”または“VIDEO”を割り当てているときのみ選べます。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> HDMI 入力信号は選べません。 メニューの“使用ソースの選択”(131 ページ)で、“使用しない”に設定した入力ソースは選べません。



Audyssey® セットアップの設定内容を変更するときに設定します。

- Audyssey® セットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Audyssey MultEQ® XT 32、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® の選択ができなくなります (👉 [119、120 ページ](#))。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

1 ZONE SELECT を押し、“MAIN”に切り替える。

2 SETUP を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 Δ / ∇ を押し、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 ENTER または \triangleright を押し、設定を確認する。

- 前の項目に戻るときは、 \triangleleft または **BACK** を押ししてください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押しください。メニュー表示が消えます。



“スピーカー”メニューでできること

Audyssey® セットアップ (👉 [38、94 ページ](#))

マニュアルセットアップ (👉 [134 ページ](#))

マニュアルセットアップ

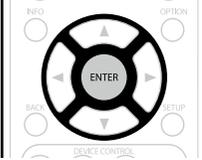
お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

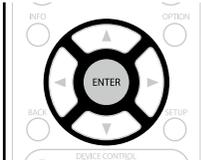
スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey® セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。

- Audyssey® セットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Audyssey MultEQ® XT 32、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® の選択ができなくなります ([119 ページ](#))。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

設定項目	設定内容
スピーカー構成 スピーカーのあり・なしや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。	フロント ：フロントスピーカーの大きさを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 大：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • 小：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。  <ul style="list-style-type: none"> • “サブウーハー”の設定が“無し”の場合、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。 • “フロント”の設定が“小”の場合、“センター”、“サラウンド”、“S. バック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”を“大”に設定することはできません。
ご注意 “大”と“小”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、メニューの“クロスオーバー周波数” (136 ページ) で設定した周波数を基準とした低音域再生能力で判断してください。	センター ：センタースピーカーの有無や大きさを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 大：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • 小：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • 無し：センタースピーカーを使用しません。  “フロント”の設定が“小”の場合、“大”は表示しません。
	サブウーハー ：サブウーハーの有無を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 2 台：2 つのサブウーハーを使用します。 • 1 台：1 つのサブウーハーを使用します。 • 無し：サブウーハーを使用しません。  “フロント”の設定が“小”の場合、“サブウーハー”の設定は自動的に“1 台”になります。
	サラウンド ：サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 大：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • 小：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • 無し：サラウンドスピーカーを使用しません。  <ul style="list-style-type: none"> • “サラウンド”の設定が“大”のとき、“S. バック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”を“大”に設定できます。 • “サラウンド”の設定が“無し”のとき、“S. バック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”の設定は自動的に“無し”になります。

設定項目	設定内容
スピーカー構成 (つづき)	S. バック ：サラウンドバックスピーカーの有無や大きさを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 大：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • 小：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • 無し：フロントハイトスピーカーを使用しません。 <ul style="list-style-type: none"> • 2 台：サラウンドバックスピーカーを 2 本使用します。 • 1 台：サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用します。この設定を選んだときは、サラウンドバックスピーカーを左(L)チャンネルに接続してください。
	フロントハイト ：フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 大：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • 小：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • 無し：フロントハイトスピーカーを使用しません。
	フロントワイド ：フロントワイドスピーカーの有無や大きさを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 大：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • 小：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • 無し：フロントワイドスピーカーを使用しません。

設定項目	設定内容
距離 リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	<p>単位：距離の単位を設定します。 • メートル / フィート</p> <p>ステップ：距離の最小可変幅を設定します。 • 0.1m / 0.01m • 1ft / 0.1ft</p> <p>初期化：“距離”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • はい：お買い上げ時の設定に戻します。 • いいえ：お買い上げ時の設定に戻しません。</p> <p> “初期化”を選んで ENTER を押すと、“距離の設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、ENTER を押してください。</p> 
	<p>フロント左 / フロント右 / F.ハイト左 / F.ハイト右 / F.ワイド左 / F.ワイド右 / センター / サブウーハー 1*1 / サブウーハー 2*1 / サラウンド左 / サラウンド右 / S.バック左 *2 / S.バック右 *2：距離を設定するスピーカーを選びます。</p> <p>*1 メニューの“スピーカー構成”⇒“サブウーハー”（134 ページ）の設定が“1 台”のときは、“サブウーハー”を表示します。 *2 メニューの“スピーカー構成”⇒“S.バック”（134 ページ）の設定が“1 台”のときは、“S.バック”を表示します。</p> <p>• 0.00m ~ 18.00m / 0.0ft ~ 60.0ft：距離を設定します。</p> <p> • メニューの“スピーカー構成”（134 ページ）の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： フロント左 / フロント右 / F.ハイト左 / F.ハイト右 / F.ワイド左 / F.ワイド右 / センター / サブウーハー 1 / サブウーハー 2：3.60 メートル (12.6 フィート) サラウンド左 / サラウンド右 / S.バック左 / S.バック右：3.00 メートル (10.0 フィート) • 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 メートル (20.0 フィート) 以下になるように設定してください。</p> <p>ご注意 メニューの“スピーカー構成”（134 ページ）で、“無し”に設定したスピーカーは表示しません。</p>

設定項目	設定内容
レベル 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	<p>テストトーン開始：テストトーンを出力します。</p> <p>• フロント左 / F.ハイト左 / センター / F.ハイト右 / フロント右 / F.ワイド右 / サラウンド右 / S.バック右 *1 / S.バック左 *1 / サラウンド左 / F.ワイド左 / サブウーハー 1*2 / サブウーハー 2*2 / サブウーハー 1+2*3：テストトーンを出力するスピーカーを選びます。</p> <p>*1 メニューの“スピーカー構成”⇒“S.バック”（134 ページ）の設定が“1 台”のときは、“S.バック”を表示します。 *2 メニューの“スピーカー構成”⇒“サブウーハー”（134 ページ）の設定が“1 台”のときは、“サブウーハー”を表示します。 *3 “サブウーハー 1+2”を選択すると、サブウーハー 1 とサブウーハー 2 の音量を同時に調節できます。</p> <p>• -12.0dB ~ +12.0dB (0.0dB)：音量を調節します。</p> <p> “レベル”の設定は、すべてのサウンドモードに対して調節した値を反映します。</p> <p>ご注意 • メニューの“スピーカー構成”（134 ページ）で、“無し”に設定したスピーカーは表示しません。 • 本体の PHONES 端子にヘッドホンを挿入している場合は、“レベル”を表示しません。</p> <p>初期化：“レベル”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • はい：お買い上げ時の設定に戻します。 • いいえ：お買い上げ時の設定に戻しません。</p> <p> “初期化”を選んで ENTER を押すと、“音量レベル設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、ENTER を押してください。</p> 

設定項目	設定内容
クロスオーバー周波数	<p>スピーカーの選択方法：クロスオーバー周波数の設定方法を選択します。スピーカーのクロスオーバー周波数については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべて：すべてのスピーカーのクロスオーバー周波数を同時に設定します。 • スピーカー別：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 <p>次の設定は“スピーカーの選択方法”の設定が“スピーカー別”のときに設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべて / フロント / センター / サブウーハー / サラウンド / S.バック / フロントハイト / フロントワイド：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 • 40Hz / 60Hz / 80Hz / 90Hz / 100Hz / 110Hz / 120Hz / 150Hz / 200Hz / 250Hz：クロスオーバー周波数を設定します。 <p> “クロスオーバー周波数”は、メニューの“低音”⇨“サブウーハーモード”(136 ページ)の設定が“LFE+ メイン”のとき、または“小”に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クロスオーバー周波数は、通常“80Hz”に設定してください。ただし、小型スピーカーをご使用になる場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。 • “小”に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。 • メニューの“サブウーハーモード”(136 ページ)の設定により、“スピーカー別”で設定できるスピーカーが異なります。 <ul style="list-style-type: none"> • “LFE”の場合は、“スピーカー構成”で“小”に設定しているスピーカーの設定ができます。“大”に設定しているスピーカーのときは、“フルバンド”が表示され、設定できません。 • “LFE+ メイン”の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。

設定項目	設定内容
低音	<p>サブウーハーモード：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LFE：サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“小”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • LFE+ メイン：サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 <p> “サブウーハーモード”は、メニューの“スピーカー構成”⇨“サブウーハー”(134 ページ)の設定が“有り”のときに設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+ メイン”に設定してください。 <p>ご注意</p> <p>メニューの“スピーカー構成”⇨“フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。</p> <p>LFE 用ローパスフィルター：LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 80Hz / 90Hz / 100Hz / 110Hz / 120Hz / 150Hz / 200Hz / 250Hz



本機をホームネットワーク (LAN) に接続して使用できるようにするためには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。

DHCPでホームネットワーク (LAN) を構築している場合は、“DHCP”を“オン”に設定します(お買い上げ時の設定のまま使用してください)。これにより、ホームネットワーク (LAN) を使用できるようになります。

各機器に IP アドレスを割り当てている場合は、“IP アドレス”の設定で本機に IP アドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなど、お使いのホームネットワーク (LAN) に関する情報を入力する必要があります。

メニューの操作のしかた

1 ZONE SELECT を押して、“MAIN”に切り替える。

2 SETUP を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 Δ / ∇ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 ENTER または \triangleright を押して、設定を確認する。

- 前の項目に戻るときは、 \triangleleft または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するとき、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。



“ネットワーク”メニューでできること

情報 (👉 [138 ページ](#))

ネットワーク (👉 [138 ページ](#))

フレンドリーネームの編集 (👉 [138 ページ](#))

接続の設定 (👉 [139 ページ](#))

診断 (👉 [140 ページ](#))

メンテナンスモード (👉 [140 ページ](#))

情報

ネットワークの情報を表示します。

設定内容

フレンドリーネーム / DHCP= オンまたはオフ / IP アドレス / MAC アドレス

 MAC アドレスは、vTuner のアカウント作成の際に必要なになります。

ネットワーク

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。

設定内容

スタンバイ時オフ：スタンバイ時に、ネットワーク機能を停止します。

常時オン：スタンバイ時でも、ネットワーク機能を停止しません。ネットワーク対応のコントローラーを使用して本機を操作できます。



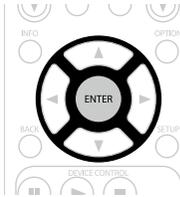
- ウェブコントロール機能は、“ネットワーク”の設定が“常時オン”の設定で使用してください。
- “常時オン”に設定すると、本機の電源がスタンバイ状態のときでも、各 NETWORK 端子をハブとして使用することができます。

ご注意

“ネットワーク”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。

フレンドリーネームの編集

フレンドリーネームとは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。フレンドリーネームをお好みによって変更できます。

設定項目	設定内容
編集 フレンドリーネームを編集します。	<ul style="list-style-type: none"> お買い上げ時のフレンドリーネームは、“marantz AV8801”です。 63 文字まで入力できます。 文字の入力方法については、114 ページをご覧ください。
初期化 編集したフレンドリーネームをお買い上げ時の設定に戻します。	<p>はい：設定をお買い上げ時の設定に戻します。</p> <p>いいえ：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。</p> <p> “初期化”を選んで ENTER を押すと、“フレンドリーネームを初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、ENTER を押してください。</p> 

接続の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

有線 LAN の設定をします。

“接続の設定”は、DHCP 機能のないネットワークに接続する場合のみ設定してください。

設定内容



① メニューの“ネットワーク”で“接続の設定”を選び、**ENTER** を押す。

② $\Delta\nabla$ を押して“DHCP”を選び、**ENTER** を押す。

③ $\triangleleft\rangle$ を押して“オフ”を選び、**ENTER** を押す。

④ $\Delta\nabla$ を押して“IPアドレス”を選び、**ENTER** を押す。

• **IP アドレス**：入力する IP アドレスは下記の範囲で設定してください。
下記以外の IP アドレスではネットワークオーディオ機能を使用することができません。

CLASS A: 10.0.0.1 - 10.255.255.254

CLASS B: 172.16.0.1 - 172.31.255.254

CLASS C: 192.168.0.1 - 192.168.255.254

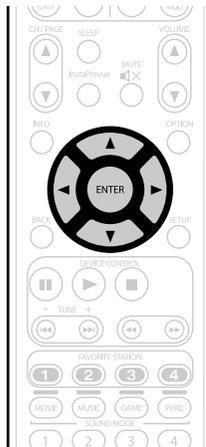
⑤ $\Delta\nabla\triangleleft\rangle$ を押してアドレスを入力し、**ENTER** を押す。

⑥ $\Delta\nabla$ を押して設定する項目を選び、**ENTER** を押す。

• **サブネットマスク**：xDSL モデムやターミナルアダプターを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は 255.255.255.0 が入ります。

• **デフォルトゲートウェイ**：ゲートウェイ(ルータ)に接続している場合は、その IP アドレスを入力します。

• **プライマリDNS、セカンダリDNS**：プロバイダから書面などで通知された DNS アドレスが 1 つの場合は、“プライマリDNS”に入力してください。2 つ以上の場合は、1 つを“セカンダリDNS”に入力してください。



設定内容

⑦ $\Delta\nabla$ を押して“プロキシ”を選び、**ENTER** を押す。

• **プロキシ**：インターネットにプロキシサーバーを経由して接続する場合に設定します。プロキシの設定は、契約しているプロバイダや社内のネットワークなどプロキシサーバーを経由してインターネットに接続している場合のみおこなってください。

⑧ $\triangleleft\rangle$ を押して“アドレス”または“ネーム”を選び、**ENTER** を押す。

オン(アドレス)：アドレスで入力する場合に選びます。

オン(ネーム)：ドメイン名で入力する場合に選びます。

⑨ ∇ を押して“アドレス”または“ネーム”を選び、**ENTER** を押す。

手順⑧で“アドレス”を選んだ場合： $\Delta\nabla\triangleleft\rangle$ を押してプロキシサーバーのアドレスを入力し、**ENTER** を押す。

手順⑧で“ネーム”を選んだ場合：キーボード入力画面 ([114 ページ](#)) でドメイン名を入力し、**OK** を選ぶ。

• 文字の入力方法については、[114 ページ](#)をご覧ください。

⑩ ∇ を押して“ポート”を選び、**ENTER** を押す。 $\Delta\nabla\triangleleft\rangle$ を押してプロキシサーバーのポート番号を入力し、**ENTER** を押す。
設定が完了します。

⑪ ∇ を押して“保存”を選び、**ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。



• ブロードバンドルータ(DHCP 機能)をお使いの方は、本機の初期設定で DHCP 機能が“オン”になっていますので、“IP アドレス”と“プロキシ”の設定は必要ありません。

• DHCP 機能のないネットワークに本機を接続してお使いになるときには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。この場合、ネットワークに関する知識が必要となります。詳しくは、ネットワーク管理者などにお問い合わせください。

• インターネットに接続できない場合は、再度接続や設定を確認してください ([36 ページ](#))。

• インターネットの接続についてわからない場合は、ISP(インターネット・サービスプロバイダ)またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

• IP アドレスの入力中に設定をキャンセルしたいときは、“キャンセル”を選び **ENTER** を押してください。

診断

ネットワークの接続を確認します。

設定項目	設定内容
ケーブル接続 LAN ポートの接続の確認を します。	OK ：接続されました。 エラー ：イーサネットケーブルが接続されていません。接続を確認してく ださい。
ルーターアクセス 本機からルーターまでの通信の 確認をします。	OK ：アクセスされました。 エラー ：ルーターとの通信に失敗しました。ルーターの設定を確認してくださ い。
インターネットアクセス 本機からインターネット (WAN) のアクセス可否の確 認をします。	OK ：接続されました。 エラー ：インターネットへの接続に失敗しました。インターネットの接続 環境またはルーターの設定を確認してください。

メンテナンスモード

当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーからメンテナンスを受けるときに使用しま
す。

設定内容

ご注意

当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーから指示があった場合のみご使用ください。



その他の設定をします。

メニューの操作のしかた

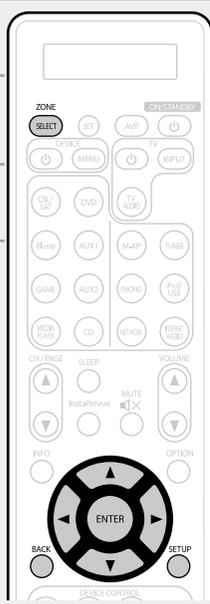
1 ZONE SELECT を押して、“MAIN”に切り替える。

2 SETUP を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、◀ または **BACK** を押してください。
- メニューを終了するときには、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消えます。



“一般”メニューでできること

言語 (👉 [142 ページ](#))

ゾーン 2 の設定 / ゾーン 3 の設定 (👉 [142 ページ](#))

ゾーン名の変更 (👉 [143 ページ](#))

トリガーアウト 1 / トリガーアウト 2 (👉 [143 ページ](#))

オートスタンバイ (👉 [143 ページ](#))

フロントディスプレイ (👉 [143 ページ](#))

情報 (👉 [144 ページ](#))

ファームウェア (👉 [145 ページ](#))

セットアップロック (👉 [146 ページ](#))

言語

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

テレビ画面に表示する言語を設定します。

設定内容

日本語 / English



“言語”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本機の電源が入っているときに、本体の **◀** と **ZONE SELECT** を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに “*Video Format< NTSC >” を表示します。
2. 本体の **▽** を押して、“*GUI Language<JAPANESE>” を選ぶ。
3. 本体の **◀▶** を押して、言語を設定する。
4. 本体の **ENTER** を押して、設定を終了する。

ゾーン 2 の設定 / ゾーン 3 の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

マルチゾーン(ゾーン 2、ゾーン 3)で再生する音声の設定をします。

設定項目	設定内容
低音 低音のトーンを調節します。	-10dB ~ +10dB (0dB)
高音 高音のトーンを調節します。	-10dB ~ +10dB (0dB)
ハイパスフィルター 低音が歪んで聞こえるときに、低域成分をカットして出力します。	オン ：低域成分をカットして出力します。 オフ ：低域成分をカットしません。
左レベル 左チャンネルの出力レベルを調節します。	-12dB ~ +12dB (0dB)
右レベル 右チャンネルの出力レベルを調節します。	-12dB ~ +12dB (0dB)

設定項目	設定内容
チャンネル マルチゾーンから出力する信号を設定します。	ステレオ ：ステレオ信号を出力します。 モノラル ：モノラル信号を出力します。
音量レベル 音量出力レベルを設定します。	可変 ：本機やりモコンで音量の調節ができます。 40 (-40dB) ：音量は常に 40 (-40dB) になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 80 (0dB) ：音量は常に 80 (0dB) になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。
音量の上限 音量の上限を設定します。	オフ ：音量の上限を設定しません。 60 (-20dB) / 70 (-10dB) / 80 (0dB) メニューの“表示方法” (p.119 ページ) の設定が“-79.5dB - 18.0dB”のときは、-79dB ~ 18dB の範囲で表示します。
電源オン時の音量 ゾーン 2 の電源を入れたときの音量を設定します。	前回の音量 ：記憶している音量になります。 消音 ：常に電源を入れたときは消音状態になります。 1 - 98 (-79dB - 18dB) ：設定した音量になります。 メニューの“表示方法” (p.119 ページ) の設定が“-79.5dB - 18.0dB”のときは、-79dB ~ 18dB の範囲で表示します。
ミュートインレベル ミュートイン時の音量の減衰量を設定します。	消音 ：消音状態になります。 -40dB ：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 -20dB ：現在の音量から 20dB 下げて再生します。

ゾーン名の変更

画面に表示されるゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。

設定内容

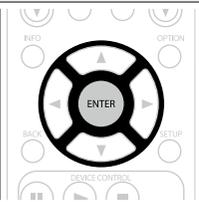
メインゾーン / ゾーン 2 / ゾーン 3 / ゾーン 4

- 10 文字まで入力できます
- 文字の入力方法については、[114 ページ](#)をご覧ください。

初期化：編集したゾーン名をお買い上げ時の設定に戻します。

- **はい**：お買い上げ時の設定に戻します。
- **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。

- ✎ “初期化”を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、**ENTER** を押してください。



トリガーアウト 1 / トリガーアウト 2

DC OUT 端子を動作させる条件を選びます。

DC OUT 端子の接続方法については、「DC OUT 端子」([197 ページ](#))をご覧ください。

設定内容

- ゾーン(メインゾーン / ゾーン 2 / ゾーン 3 / ゾーン 4)に対して設定するとき**
“オン”に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガーアウトが動作します。
- 入力ソースに対して設定するとき**
“オン”に設定された入力ソースが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。
✎ 「ゾーンに対して設定するとき」で“オン”に設定されたゾーンに対して有効です。
- HDMI モニターに対して設定するとき**
“オン”に設定された HDMI モニターが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。
✎ 「ゾーンに対して設定するとき」で“メインゾーン”が“オン”、「入力ソースに対して設定するとき」で“オン”に設定されている入力ソースが選ばれているときに有効です。

- **オン**：出力の条件にします。
- **----**：条件にしません。

オートスタンバイ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声や映像の入力がない状態で本機を設定した時間操作しないと、自動的にスタンバイ状態になります。スタンバイ状態になる前には、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。

設定内容

- 30 分**：約 30 分後に本機をスタンバイ状態にします。
- 60 分**：約 60 分後に本機をスタンバイ状態にします。
- オフ**：自動的に本機をスタンバイ状態にしません。

フロントディスプレイ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

本機のディスプレイに関する設定をします。

設定項目	設定内容
表示	<p>オン：ディスプレイを常に点灯します。</p> <p>オートオフ：状態表示以外はディスプレイを消灯します。</p> <p>オフ：ディスプレイを消灯します。</p> <p>✎ 本体の DISPLAY を押しても、設定を変更できます。 DISPLAY を押すたびに、次の順序で設定が切り替わります。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR On[オン] --> AutoOff[オートオフ] AutoOff --> Off[オフ] Off --> On </pre> </div> <p>ご注意 “表示”を“オフ”に設定すると、ディスプレイが消灯し、通電されていない状態と同様になります。</p>
チャンネルインジケータ	<p>出力：ディスプレイのチャンネル表示を出力信号表示として使用します。</p> <p>入力：ディスプレイのチャンネル表示を入力信号表示として使用します。</p>

情報

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

ご注意

この項目は、HDMI ZONE4 機能に対応していません。

設定項目	設定内容
オーディオ オーディオ入力信号の情報を表示します。	サウンドモード ：設定しているサウンドモード 入力信号 ：入力信号の種類 フォーマット ：入力信号のチャンネル数(フロント / サラウンド / LFE の有無) サンプリング周波数 ：入力信号のサンプリング周波数 オフセット ：ダイアログノーマライゼーションの補正值 フラグ ：サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が Dolby Digital EX、DTS-ES Matrix のときは“MATRIX”、DTS-ES Discrete 信号などのときは“DISCRETE”を表示します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">ダイアログノーマライゼーション機能について</p> <p>Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS または DTS-HD ソースの再生中、自動的に動作します。 この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。 補正值は、本体の STATUS を押しても確認できます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;"> Dial.Norm Offset - 4dB </div> <p style="text-align: center;">数字は補正值です。変更できません。</p> </div>
ビデオ HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。	HDMI 信号情報 • 解像度 / カラースペース / ビット数 HDMI モニター 1/HDMI モニター 2 • インターフェイス / 対応解像度

設定項目	設定内容
ゾーン 各ゾーンの現在の設定状態を表示します。	メインゾーン ：メインゾーンの設定状態を表示します。表示する内容は、入力ソースによって異なります。 • ゾーン名 / 選択ソース / ネーム / サウンドモード / 入力モード / デコードモード / HDMI / デジタル / アナログ / コンポーネント / ビデオ / ビデオセレクト / ビデオモード / Content Type / ビデオコンバージョン / i/p スケーラー / 解像度 / プログレッシブモード / アスペクトなど ゾーン 2/3/4 ：ゾーン 2、ゾーン 3 またはゾーン 4 の設定状態を表示します。 • ゾーン名 / 電源 / 選択ソース / 音量レベル <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">ご注意</p> <p>ゾーン 4 のときは、“音量レベル”を表示しません。</p> </div>
ファームウェア	バージョン ：現在のファームウェアのバージョン情報を表示します。



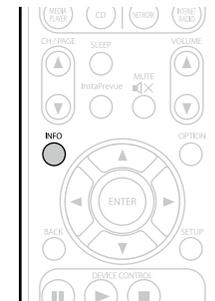
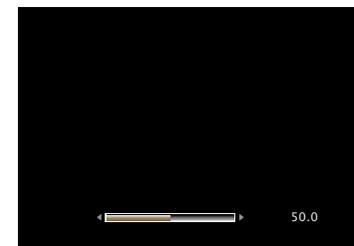
INFO を押すと、現在のソース名、音量およびサウンドモード名などを画面下側に表示します。

画面表示の例

- 状態表示画面
入力ソース切り替え時



- 音量調節時



状態表示：入力ソースの切り替えや音量調節時に、一時的に操作の状態を表示します。

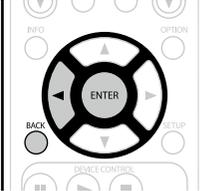
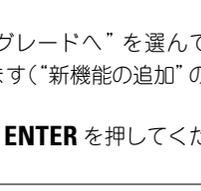
ご注意

コンピューター解像度（例：VGA）の映像または一部の 3D ビデオコンテンツの再生中は、状態表示画面を表示できません。

ファームウェア

ファームウェアの最新アップデート情報の確認や更新の実施、およびアップデートとアップグレードの通知メッセージを表示するかしないかの設定をします。

設定項目	設定内容												
アップデート ファームウェアをアップデートします。	アップデートの確認 ：ファームウェアが最新かどうかの確認ができます。また、アップデートする場合のおよそのアップデート時間を確認できます。 アップデート開始 ：アップデートを実行します。アップデートを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、メニュー画面はシャットダウンします。アップデート中は、ディスプレイに経過時間を表示します。												
ご注意 ファームウェアのアップデートをおこなったあと、ネットワークに接続できない場合は、“ネットワーク” (137ページ) の設定でネットワークに接続し直してください。	<ul style="list-style-type: none"> アップデートに失敗しても、本機は自動的にアップデートを再試行します。それでもアップデートできない場合は、下記のいずれかのメッセージをディスプレイに表示します。このような場合は、設定やネットワーク環境の確認をおこなった上で、再度アップデートしてください。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ディスプレイ表示</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Updating fail</td> <td>アップデートに失敗しました。</td> </tr> <tr> <td>Login failed</td> <td>サーバーへのログインに失敗しました。</td> </tr> <tr> <td>Server is busy</td> <td>サーバーが混雑しています。しばらく時間をおいてから、やり直してください。</td> </tr> <tr> <td>Connection fail</td> <td>サーバーへの接続に失敗しました。</td> </tr> <tr> <td>Download fail</td> <td>ファームウェアのダウンロードに失敗しました。</td> </tr> </tbody> </table>	ディスプレイ表示	説明	Updating fail	アップデートに失敗しました。	Login failed	サーバーへのログインに失敗しました。	Server is busy	サーバーが混雑しています。しばらく時間をおいてから、やり直してください。	Connection fail	サーバーへの接続に失敗しました。	Download fail	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。
ディスプレイ表示	説明												
Updating fail	アップデートに失敗しました。												
Login failed	サーバーへのログインに失敗しました。												
Server is busy	サーバーが混雑しています。しばらく時間をおいてから、やり直してください。												
Connection fail	サーバーへの接続に失敗しました。												
Download fail	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。												

設定項目	設定内容
お知らせ POPUP “アップデート”で最新のファームウェアがリリースされている場合に、本機のメニュー画面に通知メッセージを表示します。 “新機能の追加”でダウンロード可能なファームウェアがリリースされている場合に、本機のメニュー画面に通知メッセージを表示します。	アップデート ：通知メッセージは、電源オン時に約 20 秒間表示します。この機能をご使用になるときは、インターネットブロードバンドに接続してください (36ページ)。 <ul style="list-style-type: none"> • オン：アップデートの通知を表示します。 • オフ：アップデートの通知を表示しません。  <ul style="list-style-type: none"> • 通知メッセージが表示されている間に“アップデートへ”を選んで ENTER を押しと、“アップデートの確認”画面を表示します。（“アップデート”の詳細は、145ページ をご覧ください。） • 通知メッセージを閉じるには、“閉じる”を選んで ENTER を押してください。
	アップグレード ：通知メッセージは、電源オン時に約 20 秒間表示します。この機能をご使用になるときは、インターネットブロードバンドに接続してください (36ページ)。 <ul style="list-style-type: none"> • オン：アップグレードの通知を表示します。 • オフ：アップグレードの通知を表示しません。  <ul style="list-style-type: none"> • 通知メッセージが表示されている間に“アップグレードへ”を選んで ENTER を押しと、“新機能の追加”画面を表示します（“新機能の追加”の詳細は、146ページ をご覧ください。） • 通知メッセージを閉じるには、“閉じる”を選んで ENTER を押してください。

設定項目	設定内容
新機能の追加 本機にダウンロード可能な新機能を表示し、アップグレードします。	アップグレードパッケージ ：アップグレードする項目を表示します。 アップグレードステータス ：アップグレードによって追加された機能の一覧を表示します。 アップグレード開始 ：アップグレードを実行します。 アップグレードを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、メニュー画面をシャットダウンします。アップグレード中は、ディスプレイに経過時間を表示します。
ご注意 新機能の追加をおこなったあと、ネットワークに接続できない場合は、“ネットワーク” (137 ページ) の設定でネットワークに接続し直してください。	<ul style="list-style-type: none"> アップグレードができなかった場合は、ディスプレイに“ファームウェア” ⇨ “アップデート” (145 ページ) と同様のメッセージを表示します。この場合は、ネットワーク環境を確認し、再度アップデートしてください。  アップグレードをご利用になる場合の詳細については、当社ホームページをご覧ください。 お手続きが完了すると、このメニューに“登録完了”と表示され、アップグレードすることができます。お手続きされていない場合は、“-----”を表示します。 お手続きの際には、この画面に表示されている ID 番号が必要になります。 本体の ◀ と SETUP を 3 秒以上長押しすると、ID 番号をディスプレイに表示させることができます。

“アップデート”および“新機能の追加”をおこなったときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットブロードバンドに接続できる環境と設定が必要です ([36 ページ](#))。
- アップデートやアップグレードが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- アップデートやアップグレードが完了するまでに、ブロードバンド接続でも 1 時間程度の時間がかかります。
- 一旦アップデートやアップグレードを開始すると、本機は完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータを初期化する場合があります。
- アップデートやアップグレード中に更新が失敗した場合は、本体の **ON/STANDBY** を 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。ディスプレイに“Update Retry”を表示し、失敗したところから更新を再開します。それでも失敗が続く場合は、ネットワークの環境を確認してください。



- “アップデート”および“新機能の追加”に関する情報は、当社ホームページなどで告知する予定です。
- “アップデート”や“新機能の追加”で利用可能な新しいファームウェアがリリースされるとメニュー画面に通知メッセージを表示します。表示させたくない場合は、“お知らせ POPUP” ⇨ “アップデート” ([145 ページ](#)) および“お知らせ POPUP” ⇨ “アップグレード” ([145 ページ](#)) を“オフ”に設定してください。

セットアップロック

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定した内容を変更できないようにロックします。

設定項目	設定内容
セットアップロック	オン ：設定した内容をロックします。 オフ ：設定した内容をロックしません。  設定を解除するときは、“セットアップロック”を“オフ”に設定してください。
	ご注意 “セットアップロック”を“オン”に設定すると、次の設定が変更できなくなります。また、次の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに“Setup Locked!”を表示します。
	<ul style="list-style-type: none"> セットアップメニュー操作

リモコンで外部機器を操作する

付属のリモコンに外部機器のプリセットコードを登録すると、お手持ちのテレビや再生機器（ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーなど）の操作がおこなえます。

プリセットコードを登録する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、お手持ちの DVD プレーヤーやテレビなど各社の機器の操作ができるようになります。

□機器の操作に使用できる主なボタン

- ① **DEVICE** 各機器の電源オン / オフを切り替えます。
- ② **△▽◀▶, ENTER, BACK** 各機器のメニュー操作をします。
- ③ **MENU, INFO, OPTION, SETUP** 各機器のメニューを表示します。
- ④ **II, ▶, ■, ◀, ▶▶, ◀◀, ▶▶▶**
- ⑤ 数字ボタン (0~9, +10)
- ⑥ **CH/PAGE ▲▼**
- ⑦ **TV** , **TV INPUT** テレビの操作をおこないます。このボタンは、どのモードのときでも有効です。

各機器のリモコン操作の詳細については、[52](#)、[63](#)、[66](#)、[70](#)、[72](#)、[55](#)、[152](#)、[151](#) ページをご覧ください。

ご注意

M-XP, TUNER, PHONO, iPod/USB, NETWORK および **INTERNET RADIO** にはプリセットコードを登録できません。

プリセットコードを登録する

プリセットコードの登録方法には、次の2つの方法があります。

- ① 4桁のコードを入力する方法
- ② コード表をスキャンする方法

□4桁のコードを入力する方法

入力するコードは、プリセットコード一覧表をご覧ください。

- 1 プリセットコードを登録したい入力ソース選択ボタンと **SET** を 表示が2回点滅するまで同時に長押しする。
バックライトが点滅します。

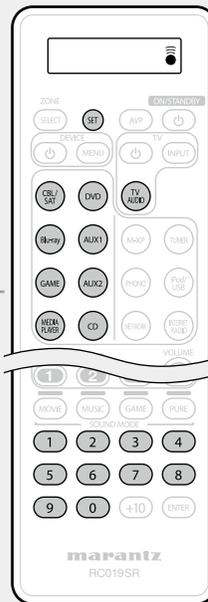
ご注意

入力ソース切り替えボタンによって、登録可能なグループ番号が決まっていますのでご注意ください([P.149](#) ページ)。

- 2 0~9 を押して4桁のコードを入力する ([P.187](#) ページ「プリセットコード表」)。
設定が完了すると、リモコンのディスプレイに“OK”を表示します。

ご注意

リモコンのディスプレイに“NG”が表示された場合は、手順1と2をくり返し、同じコードをもう一度入力してください。



□コード表をスキャンする方法

- 1 プリセットコードを登録したい機器の電源を入れる。
- 2 プリセットコードを登録したい入力ソース選択ボタンと **SET** を 表示が2回点滅するまで同時に長押しする。
バックライトが点滅します。
- 3 リモコンを設定したい機器のリモコン受光部へ向け、**CH/PAGE ▲**と **DEVICE** を交互にゆっくりと押す。
リモコンのディスプレイにプリセットコードを表示します。
- 4 操作したい機器の電源がオフになったらボタンを押すのをやめる。
- 5 **ENTER** を押す。
設定が完了します。



- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。
- お手持ちのAV機器がMarantz以外の製品の場合やプリセットコードの登録をおこなっても操作できない場合は、他機のリモコン信号を本機のリモコンに記憶させて使用することができます ([P.153](#) ページ「他機のリモコンコードを記憶させる」)。

ご注意

お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。

登録したプリセットコードを確認する

1 プリセットコードを登録したい入力ソース選択ボタンと **SET** を  表示が2回点滅するまで同時に長押しする。
バックライトが点滅します。

2 **INFO** を押す。
設定されたコードをリモコンのディスプレイに約3秒間表示します。



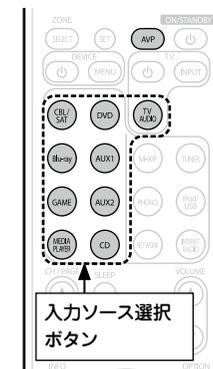
リモコンの操作モードについて

お買い上げ時のリモコンの入力ソース切り替えボタンは、本機の入力ソース切り替え操作のみをおこないます。このリモコンで外部機器を操作するには、本機のリモコンの入力ソース切り替えボタンに、「プリセットコード表」([187ページ](#))から登録したい機器を設定します。
設定のしかたは、「プリセットコードを登録する」([147ページ](#))をご覧ください。

このリモコンにプリセットコードを登録すると、リモコンの入力ソース切り替えボタンは次の2つの操作ができるようになります。

- ① 本機の入力ソースの切り替え (AVP 操作モード)
- ② このリモコンのボタンに登録した機器を操作できるリモコンに切り替え (外部機器操作モード)

操作モードの切り替えかた



*1 本機を操作できるモードです。

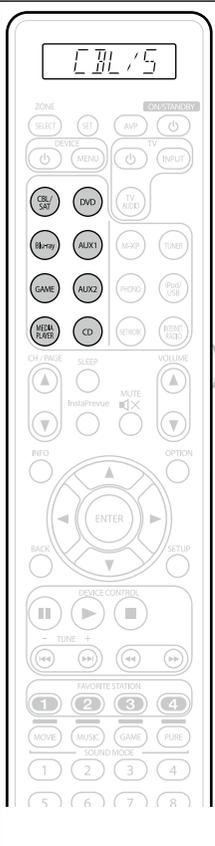
*2 このボタンを押すと、本機の入力ソースが切り替わると同時に、リモコンはそのボタンに登録している外部機器の操作モードに切り替わります。

□リモコンの各入力ソース切り替えボタンに登録できる機器

このリモコンでは、それぞれの入力ソース切り替えボタンに登録できる機器の種類を次の表のとおりに振り分けています。「プリセットコード表」(P.187 ページ) の機器名にあるプリセットコードを登録してください。

CBL/SAT、Blu-ray、GAME、MEDIA PLAYER、DVD、AUX1、AUX2、CD ボタンに登録できるプリセットコード

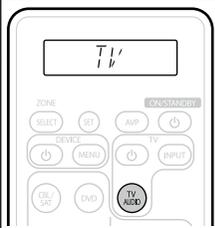
入力ソース 選択ボタン	お買い上げ時の プリセットモード	変更できるプリセット
	AVP	CBL/SAT グループ
		BD グループ DVD グループ
		CBL/SAT グループ BD グループ DVD グループ CD グループ
		CBL/SAT グループ
		BD グループ DVD グループ
		CBL/SAT グループ BD グループ DVD グループ CD グループ
		CBL/SAT グループ BD グループ DVD グループ CD グループ
		CD グループ



•各ボタンの登録を取り消してお買い上げの状態に戻すには、そのボタンに AVP のコード “0000” を設定してください。

□TV ボタンに登録できるプリセットコード

入力ソース 選択ボタン	お買い上げ時の プリセットモード	変更できるプリセット
	AVP	TV グループ



•プリセットコードを登録すると、**TV AUDIO** を押したときに、リモコンの“TV”表示が点灯します。



本機のメニュー操作をおこなう場合は、**AVP** を押して、リモコンを AVP 操作モードに切り替えてください。

接続機器を操作する

入力ソース選択ボタンを押して、入力ソースを選ぶ (47 ページ)。

- リモコンの操作モードを次の表のように切り替えます。



入力ソース 選択ボタン	本機の入力ソース	操作モード
		リモコンで操作できる機器
	-	本機(AVP 操作)*2
*1	CBL/SAT	CBL/SAT ボタンに登録している機器
*1	Blu-ray	Blu-ray ボタンに登録している機器
*1	GAME	GAME ボタンに登録している機器
*1	MEDIA PLAYER	MEDIA PLAYER ボタンに登録している機器
*1	DVD	DVD ボタンに登録している機器
*1	AUX1	AUX1 ボタンに登録している機器
*1	AUX2	AUX2 ボタンに登録している機器
*1	CD	CD ボタンに登録している機器
*1	TV AUDIO	TV AUDIO ボタンに登録している機器

*1 このボタンにプリセットコードを登録すると、本機のリモコンでお手持ちの機器の操作がおこなえます。

*2 このモードでは、FM、iPod、USB メモリーおよびネットワーク機能の操作が可能です。



FAVORITE STATION と **InstaPrevue** を押すと、自動的に AVP 操作モードに移行します。

ご注意

リモコンが AVP 操作モード以外有的时候に、下記の操作をおこなう場合は、**AVP** を押して、リモコンを AVP 操作モードに切り替えてください。

- **SETUP** を押して、本機のメニュー操作をおこなうとき

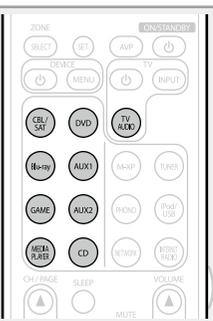
機器を操作する

付属のリモコンは、本機以外のコンポーネント製品も操作できます。

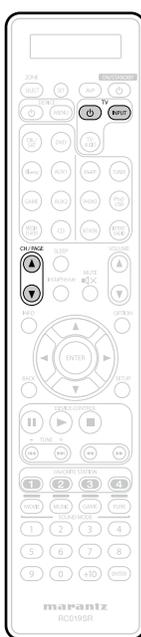
1 操作したい機器のプリセットコードが登録してある入力ソース選択ボタンを押す(150ページ)。

2 機器を操作する。

•詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

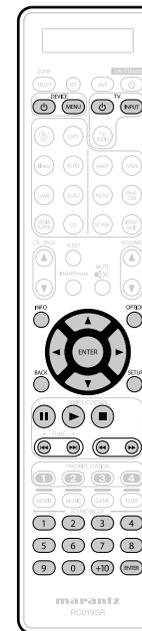


□TVグループ(1***)の操作 (テレビ)



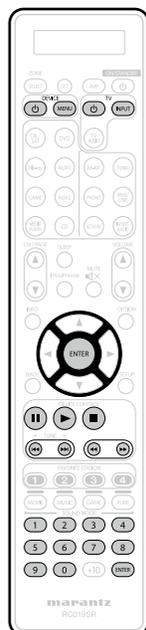
操作ボタン	機能
TV 電源	テレビの電源オン / スタンバイ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
CH/PAGE ▲▼	チャンネルの切り替え (アップ / ダウン)

□DVDグループ(2***)の操作 (DVDプレーヤー/DVDレコーダー)



操作ボタン	機能
DEVICE 電源	電源オン / スタンバイ
DEVICE MENU	メニュー表示
TV 電源	テレビの電源オン / スタンバイ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
INFO	情報表示
OPTION	サブメニュー、オプション
△▽◀▶	カーソル操作
ENTER	確定
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
⏸	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮ ⏭ ⏪ ⏩ ⏹	オートサーチ(頭出し)
⏮ ⏭ ⏪ ⏩	マニュアルサーチ (早送り / 早戻し)
0 ~ 9, +10	タイトルまたはチャプターの選択 / チャンネルの選択

□CD グループ(3 * * *)の操作
(CD プレーヤー/CD レコーダー)



操作ボタン	機能
DEVICE 電源	電源オン / スタンバイ
DEVICE MENU	メニュー表示
TV 電源	テレビの電源オン / スタンバイ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
ENTER	確定
	一時停止
▶	再生
■	停止
◀▶▶▶	オートサーチ(頭出し)
◀▶▶▶	マニュアルサーチ (早送り / 早戻し)
0 ~ 9, +10	トラックの選択

□CBL/SAT グループ(4 * * *)の操作
(衛星チューナー(SAT)/ ケーブルテレビ
(CBL)/ メディアプレーヤー / IP テレビ /
セットトップボックス)



操作ボタン	機能
DEVICE 電源	電源オン / スタンバイ
DEVICE MENU	メニュー表示
TV 電源	テレビの電源オン / スタンバイ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
CH/PAGE ▲▼	チャンネルの切り替え (アップ / ダウン)
INFO	情報表示
△▽◀▶	カーソル操作
ENTER	確定
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
	一時停止
▶	再生
◀▶▶▶	オートサーチ(頭出し)
◀▶▶▶	マニュアルサーチ (早送り / 早戻し)
0 ~ 9, +10	チャンネルの選択

□BD グループ(5 * * *)の操作
(ブルーレイディスクプレーヤー)



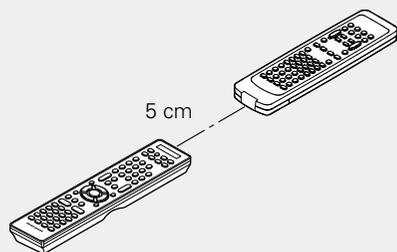
操作ボタン	機能
DEVICE 電源	電源オン / スタンバイ
DEVICE MENU	メニュー表示
TV 電源	テレビの電源オン / スタンバイ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
INFO	情報表示
OPTION	トップメニュー
△▽◀▶	カーソル操作
ENTER	確定
BACK	リターン
SETUP	セットアップメニュー
	一時停止
▶	再生
■	停止
◀▶▶▶	オートサーチ(頭出し)
◀▶▶▶	マニュアルサーチ (早送り / 早戻し)
0 ~ 9, +10	タイトルまたはチャプターの選択 / チャンネルの選択

学習機能进行操作する

- お手持ちの AV 機器が Marantz 以外の製品の場合やプリセットコードの登録をおこなっても操作できない場合は、他機のリモコン信号を本機のリモコンに記憶させて使用することができます。
- このリモコンは約 160 のリモコンコードを学習させることができます。

他機のリモコンコードを記憶させる

- 1 付属のリモコンと他機のリモコンのリモコン信号送信部を向かい合わせ、約 5cm 離して置く。



- 2 LEARN 表示が点滅するまで SET を長押しする。

- 3 入力ソース選択ボタンを押して入力ソースを選ぶ。
リモコンのディスプレイに入力ソースを表示します。

ご注意

各入力ソース切り替えボタンに AVP プリセット (149 ページ) 以外のモードをプリセット登録 (147 ページ「プリセットコードを登録する」) してから学習機能を使用してください。



- 4 学習させる本機のリモコンボタンを押す。
LEARN 表示が点灯します。

- 5 リモコンのディスプレイに“OK”が表示されるまで、他機リモコンの登録したいボタンを押し続ける

- リモコンのディスプレイに“NG”が表示された場合は、再度手順 5 をおこなってください。リモコンのディスプレイに再度“NG”が表示された場合は、正常に学習できない場合があります。このような場合は、機器専用のリモコンを使用してください。
- リモコンのメモリーがいっぱいの場合、リモコンのディスプレイに“FULL”を表示します。さらにリモコンコードを学習させたい場合は、すでに学習済みの他のボタンを削除してください。

- 6 手順 4 と 5 を繰り返して、同じ入力ソースの他のボタンを学習させる。

- 7 手順 3 から 6 を繰り返して、他の入力ソースの他のボタンを学習させる。

- 8 リモコンのプログラムが終わったら SET を押す。
LEARN 表示が消灯し、学習モードを完了します。



- リモコンによっては、記憶できない場合や記憶できても正しく動作しない場合があります。このような場合は、機器の専用リモコンを使用してください。
- 記憶させたボタンは、プリセットメモリーよりも優先して動作します。不要な場合は、学習内容を初期化してください (154 ページ「記憶させたリモコンコードを削除する」)。
- 記憶できるボタン数は、記憶させるリモコンによって変わります。記憶できるボタン数がいっぱいの場合、リモコンのディスプレイに“FULL”を表示します。

ご注意

- ZONE SELECT、SET、AVP、ON/STANDBY、VOLUME ▲▼、FAVORITE STATION、SOUND MODE および入力ソース選択ボタンには、リモコンコードを学習させることはできません。
- AVP 操作モードのときには、リモコンコードを学習させることはできません。
- 電池の残量が少ない状態では学習手順を正しく操作できないことがあります。
- 学習モードで約 1 分間どのボタンも押さないと、自動的に学習モードを終了します。

記憶させたリモコンコードを削除する

リモコンコードは、「ボタンごと」、「ソースごと」および「すべてのソース」の3つの方法で削除することができます。

□ボタンごとにリモコンコードを削除する

1 LEARN 表示が点滅するまで **SET** を長押しする。

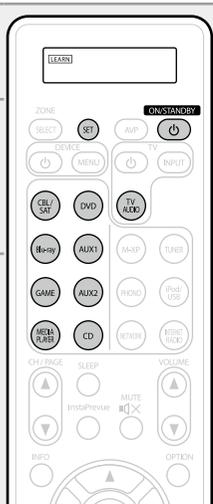
2 削除したい入力ソース選択ボタンを押す。

リモコンのディスプレイに入力ソースを表示します。

3 ON/STANDBY 電源ボタンを押したままの状態、削除したい学習済みのボタンを2回押す。

リモコンのディスプレイに“ERASE”を表示し、学習モードに戻ります。

•通常モードに戻るには、**SET** を押ししてください。



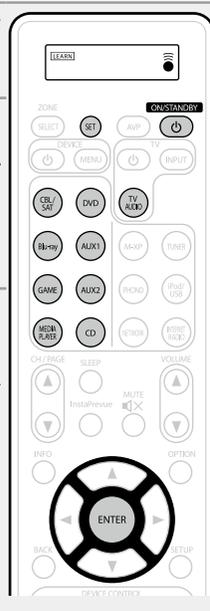
□入力ソースごとにリモコンコードを削除する

1 LEARN 表示が点滅するまで **SET** を長押しする。

2 ON/STANDBY 電源ボタンを押したままの状態、削除したい学習済みのボタンを2回押す。
リモコンのディスプレイに“ERASE”を表示し、学習モードに戻ります。

3 削除を続ける場合は **ENTER** を押す。
⦿表示が2回点滅した後、学習モードに戻ります。

- 削除を止める場合は、**ENTER** を押さないでください。他のボタンを押してください。
- 通常モードに戻るには、**SET** を押ししてください。



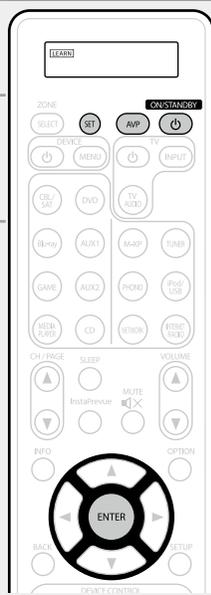
□すべての入力ソースのリモコンコードを削除する

1 LEARN 表示が点滅するまで **SET** を長押しする。

2 ON/STANDBY 電源ボタンを押したままの状態、削除したい学習済みのボタンを2回押す。
LEARN 表示が点灯します。

3 削除を続ける場合は **ENTER** を押す。
リモコンのディスプレイに“ERASE”を表示し、学習モードに戻ります。

- 削除を止める場合は、**ENTER** を押さないでください。他のボタンを押してください。
- 通常モードに戻るには、**SET** を押ししてください。



バックライトを設定する

リモコンの側面にあるライトボタンを押すと、リモコンのバックライトが点灯します。点灯中に再度ボタンを押すと、バックライトがさらに2秒間点灯します。

•お買い上げ時の設定では、バックライトは点灯します。

バックライトを点灯しないように設定する

SET とライトボタンを  表示が2回点滅するまで長押しする。



バックライトを点灯させる

SET とライトボタンを  表示が2回点滅するまで長押しする。



リモコンを使用するゾーンを指定する

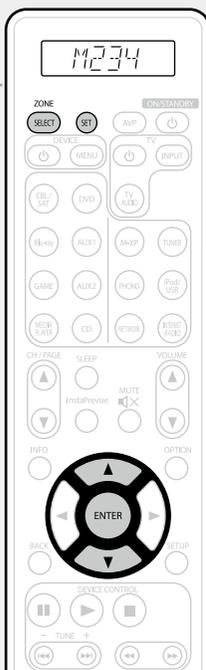
ZONE SELECT ボタンを押したときに、設定したゾーンのみリモコンで操作できるようになります。

•お買い上げ時の設定は、“M234”です。

1 ZONE SELECT と SET を3秒以上長押しする。

2 △▽ を押して使用するゾーンを設定し、ENTER を押す。
リモコンのディスプレイに“SET”を4回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。

リモコンのディスプレイ表示	使用するゾーン
M	メインゾーンのみ
M2	メインゾーン / ゾーン2
M23	メインゾーン / ゾーン2 / ゾーン3
M234	メインゾーン / ゾーン2 / ゾーン3 / ゾーン4



情報編

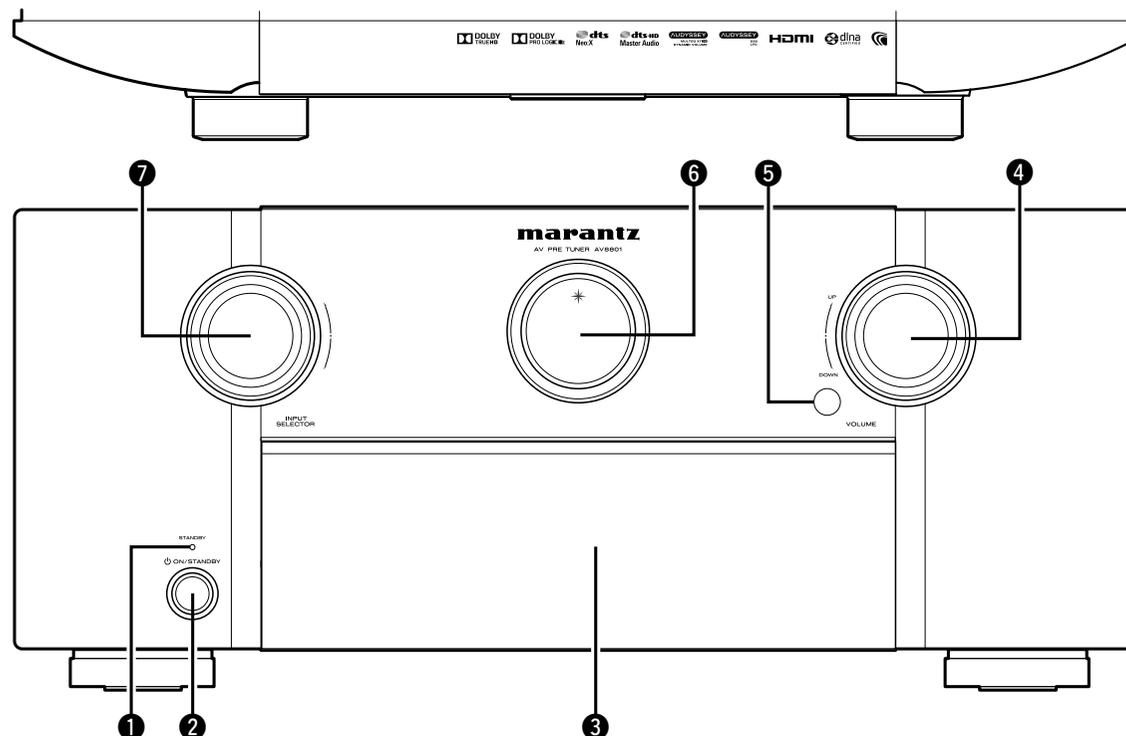
ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。

- 各部の名前  [157 ページ](#)
- その他の情報  [164 ページ](#)
- 故障かな?と思ったら  [178 ページ](#)
- 保証と修理について  [182 ページ](#)
- 主な仕様  [183 ページ](#)
- 索引  [184 ページ](#)

各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、()内のページをご覧ください。



① 電源表示(STANDBY).....(47)

【電源表示の状態について】

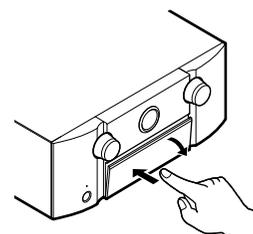
- 電源オン：オフ
- 通常のスタンバイ時：赤色
- “HDMI パススルー” または “HDMI コントロール” (124 ページ) の設定が “オン” のとき：橙色
- “ネットワーク” (138 ページ) の設定が “常時オン” のとき：橙色
- MHL 対応モバイル端末を充電しているとき：橙色

② 電源ボタン(ON/STANDBY).....(47)

本機のメインゾーンの電源をオン / スタンバイに切り替えます。

③ ドア

ドアの中にあるボタンや端子をご使用になるときにドアの下の部分を押し、ドアが開きます。ドアの中にあるボタンや端子を使用しないときに、ドアを閉めておくこともできます。ドアの開閉の際に、指などを挟まないようご注意ください。



④ 主音量調節つまみ(VOLUME).....(48, 109)

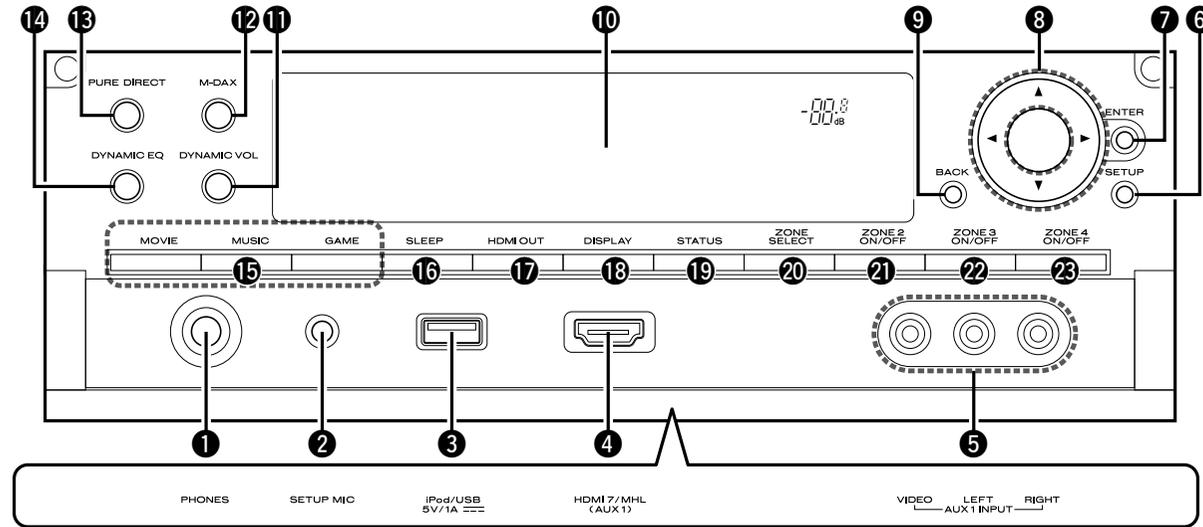
⑤ リモコン受光部.....(163)

⑥ メインディスプレイ.....(159)

⑦ 入力ソース切り替えつまみ (INPUT SELECTOR).....(47, 109)

ドアを開いた状態

各部のはたらきなど詳しい説明については、()内のページをご覧ください。

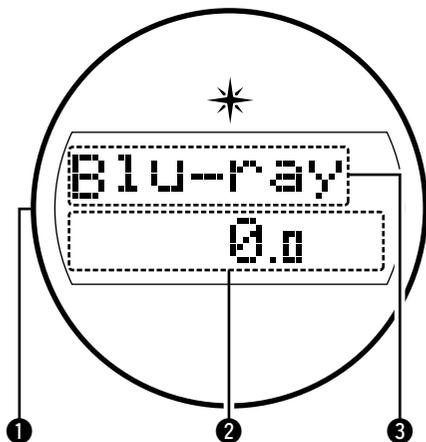


- ① ヘッドホン端子(PHONES)
ヘッドホンのプラグを差し込むと、プリアウト端子から音が出なくなります。
ご注意
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
- ② セットアップマイク端子(SETUP MIC) (40, 94)
- ③ iPod/USB端子 (27)
- ④ HDMI7/MHL(AUX1)入力端子 (15)
- ⑤ AUX1入力端子(AUX1 INPUT) (25)
- ⑥ セットアップボタン
(SETUP) (113, 115, 122, 128, 133, 137, 141)
- ⑦ エンターボタン
(ENTER) (113, 115, 122, 128, 133, 137, 141)
- ⑧ カーソルボタン(△▽◀▶)
..... (113, 115, 122, 128, 133, 137, 141)
- ⑨ バックボタン
(BACK) (54, 65, 69, 71, 182)
- ⑩ サブディスプレイ (160)
- ⑪ Dynamic Volumeボタン(DYNAMIC VOL) (120)
- ⑫ M-DAXボタン/表示 (118)
- ⑬ ピュアダイレクトボタン/表示(PURE DIRECT) (82)
- ⑭ Dynamic EQボタン(DYNAMIC EQ) (120)
- ⑮ サウンドモードボタン(SOUND MODE) (81)
 - ムービーボタン(MOVIE)
 - ミュージックボタン(MUSIC)
 - ゲームボタン(GAME)
- ⑯ スリープタイマーボタン(SLEEP) (101, 109)
- ⑰ HDMI出力切り替えボタン(HDMI OUT) (124)
- ⑱ ディスプレイボタン(DISPLAY) (143)
- ⑲ ステータスボタン(STATUS)
..... (51, 65, 69, 144)
- ⑳ ゾーン選択ボタン
(ZONE SELECT) (39, 78, 94, 109, 155)
- ㉑ ゾーン2用電源ボタン(ZONE2 ON/OFF) (109)
- ㉒ ゾーン3用電源ボタン(ZONE3 ON/OFF) (109)
- ㉓ ゾーン4用電源ボタン(ZONE4 ON/OFF) (109)

メインディスプレイ

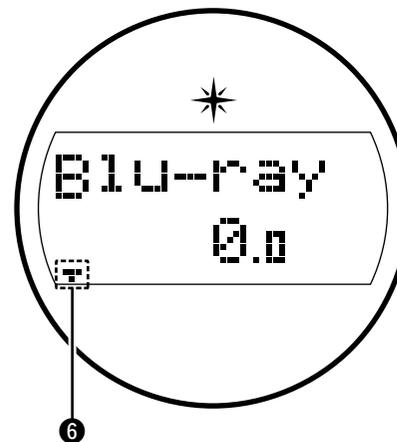
入力ソース名、サウンドモード、設定値など、さまざまな情報を表示します。

□通常表示



- ① **イルミネーションライト**
本機の電源が入っているときに、周囲が青く光ります。点灯しないように設定することもできます(☞106 ページ “イルミネーションライトを点灯 / 消灯させる”)。
- ② **主音量表示**
- ③ **入力ソース表示**
現在選択されている入力ソース名を表示します。
メニューの“入力ソース名の変更”(☞131 ページ)で入力ソース名を変更した場合は、変更後の入力ソース名を表示します。

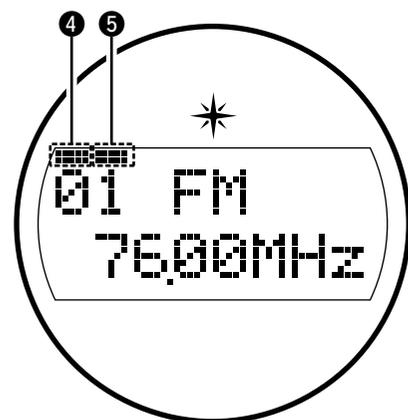
□スリープタイマー表示



- ⑥ スリープタイマーを設定しているときに点灯します(☞101 ページ)。

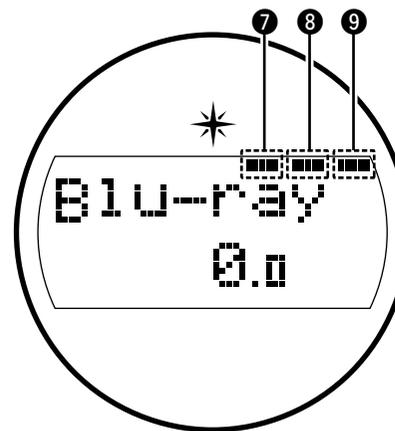
□チューナー表示

入力ソースが“FM”のとき、放送局の受信状態により点灯します。



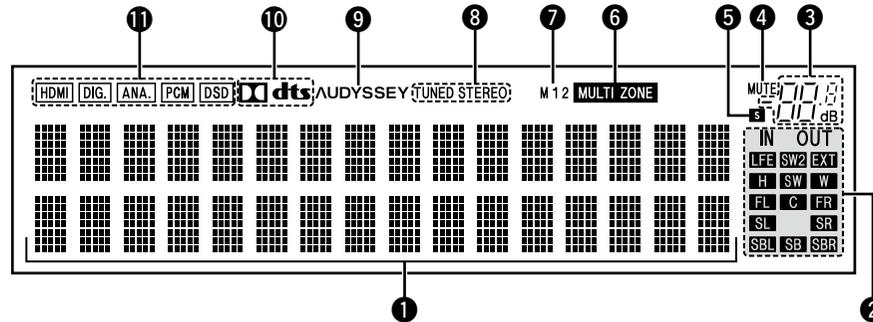
- ④ 放送を受信したときに点灯します。
- ⑤ FM モード時、ステレオ放送を受信したときに点灯します。

□ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 電源表示



- ⑦ ゾーン 2(別の部屋)の電源が入っているときに点灯します(☞109 ページ)。
- ⑧ ゾーン 3(別の部屋)の電源が入っているときに点灯します(☞109 ページ)。
- ⑨ ゾーン 4(別の部屋)の電源が入っているときに点灯します(☞109 ページ)。

サブディスプレイ

**① インフォメーションディスプレイ**

入力ソース名、サウンドモード、設定値などを表示します。

② 入力/出力信号チャンネル表示

“チャンネルインジケータ” ([143 ページ](#)) の設定に合わせて入力または出力信号のチャンネルを表示します。

- “出力” に設定しているとき(お買い上げ時の設定)
スピーカーから音声出力されているときに点灯します。
- “入力” に設定しているとき
デジタル信号が入力されているときに点灯します。
再生している HD オーディオソースに拡張チャンネル(フロント/センター/サラウンド/サラウンドバック/フロントハイト/フロントワイド/LFE 以外のチャンネル)が含まれる場合は、EXT 表示が点灯します。

③ 主音量表示**④ ミュート表示**

消音中に点灯します ([48 ページ](#))。

⑤ スリープタイマー表示

スリープタイマーを設定しているときに点灯します ([101、109 ページ](#))。

⑥ マルチゾーン表示

ゾーン 2、ゾーン 3 またはゾーン 4(別の部屋)の電源が入っているときに点灯します ([109 ページ](#))。

⑦ モニター出力表示

HDMI モニター出力の設定に合わせて点灯します。“オート(デュアル)” に設定されているときは、接続状態に合わせて点灯します。

⑧ チューナー受信モード表示

入力ソースが“FM” のとき、放送局の受信状態により点灯します。

STEREO: ステレオ放送を受信したときに点灯します。

TUNED: 放送を受信したときに点灯します。

⑨ AUDYSSEY®表示

“MultEQ® XT 32” ([119 ページ](#))、 “Dynamic EQ” ([120 ページ](#))、 “Dynamic Volume” ([120 ページ](#))、 “Audyssey DSX®” ([121 ページ](#)) または “Audyssey LFC™” ([120 ページ](#)) の設定が“オフ”以外のときに点灯します。

⑩ デコーダー表示

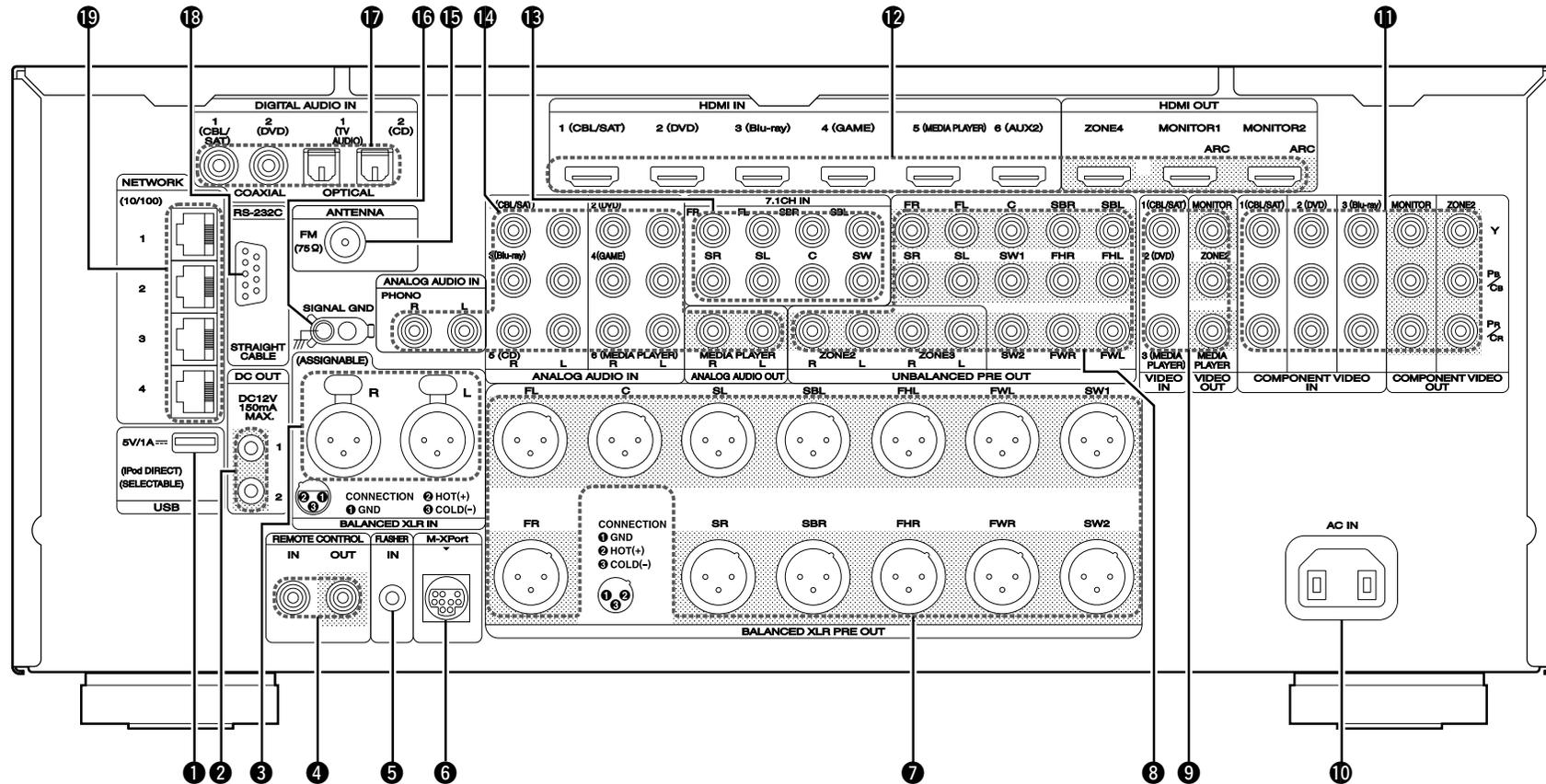
Dolby または DTS 信号が入力されているとき、または Dolby または DTS デコーダーが動作しているときに点灯します。

⑪ 入力モード表示

各入力ソースの音声入力モードの設定により点灯します ([132 ページ](#))。

リアパネル

詳しい説明については、()内のページをご覧ください。



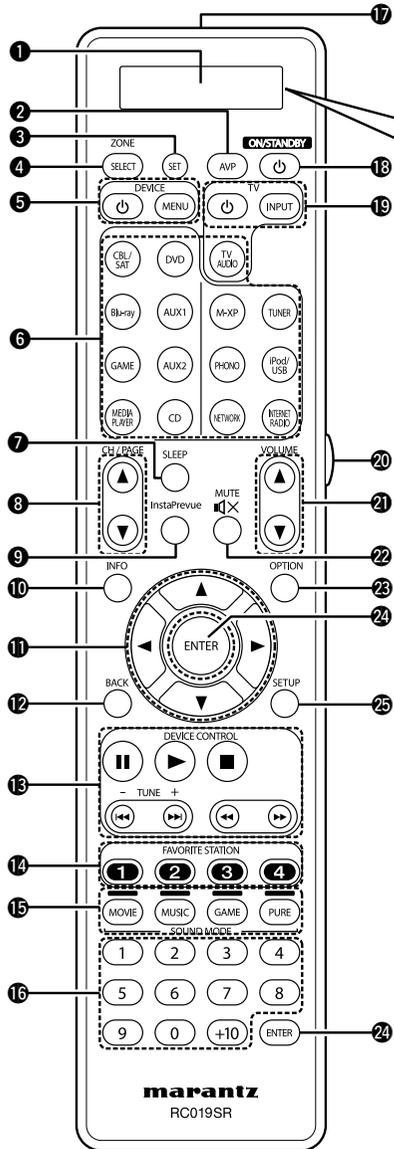
- ① USB端子 (27)
- ② DC OUT端子(DC OUT) (97)
- ③ バランスXLR入力端子(BALANCED XLR IN) (20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 29)
- ④ リモートコントロール端子 (REMOTE CONTROL) (96)
将来的な拡張用端子です。
- ⑤ FLASHER IN端子
コントロール BOX やその他のコントロール機器を使って、
本機をコントロールするときに使用します。
- ⑥ M-XPport端子 (32)
- ⑦ バランスXLRプリアウト端子 (BALANCED XLR PRE OUT) (35)
- ⑧ アンバランスRCAプリアウト端子 (UNBALANCED RCA PRE OUT) (34, 91, 92, 93)
- ⑨ ビデオ端子(VIDEO) (20, 21, 22, 26, 108)
- ⑩ ACインレット(AC IN) (37)
- ⑪ コンポーネントビデオ端子(COMPONENT VIDEO) (20, 21, 22, 23, 108)
- ⑫ HDMI端子 (14, 15, 108)
- ⑬ 7.1チャンネル入力端子(7.1CH IN) (33)
- ⑭ アナログ音声端子 (ANALOG AUDIO) (21, 22, 23, 24, 26, 29, 30)
- ⑮ FMアンテナ端子 (ANTENNA) (31)
- ⑯ アース端子(SIGNAL GND) (30)
- ⑰ デジタル音声端子 (DIGITAL AUDIO IN) (20, 21, 22, 29)
- ⑱ RS-232C 端子 (97)
- ⑲ ネットワーク端子 (NETWORK) (36)

ご注意

端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。

リモコン

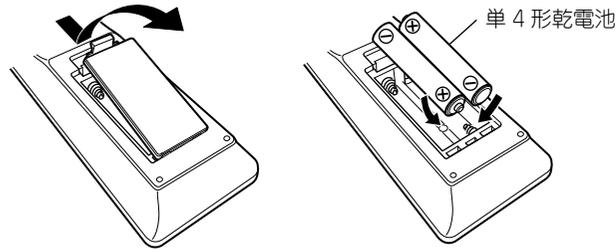
各部のはたらきなど詳しい説明については、()内のページをご覧ください。



- 1 ディスプレイ**
 - ① LEARN 表示
 - ② インフォメーション表示
 - ③ 表示
- 2 AVP操作モードボタン** (148, 150)
- 3 セットボタン(SET)** (147, 153, 155)
- 4 ゾーン選択ボタン (ZONE SELECT)** (39, 78, 94, 109, 155)
- 5 機器操作ボタン (DEVICE 〻 / DEVICE MENU)** (151, 152)
- 6 入力ソース選択ボタン** (47, 109)
- 7 スリープタイマーボタン(SLEEP)** (101, 109)
- 8 チャンネル選択／ページ検索ボタン(CH/PAGE ▲▼)** (52, 55, 60, 63, 66, 70, 72, 151, 152)
- 9 InstaPrevueボタン** (100)
- 10 インフォメーションボタン(INFO)** (144)
- 11 カーソルボタン(△▽◀▶)** (113, 115, 122, 128, 133, 137, 141)
- 12 バックボタン(BACK)** (54, 65, 69, 71)
- 13 外部機器コントロールボタン(DEVICE CONTROL)** (52, 55, 66, 70, 72, 151, 152)
 - ポーズボタン (II)
 - プレイボタン (▶)
 - ストップボタン (■)
 - スキップボタン (I◀◀ ▶▶I)
 - サーチボタン (◀◀ ▶▶)
 - 選局ボタン(TUNE +, -) (56, 57)
- 14 お気に入り登録ボタン (FAVORITE STATION 1~4)** (75)
- 15 サウンドモードボタン(SOUND MODE)** (81)
 - ムービーボタン(MOVIE)
 - ミュージックボタン(MUSIC)
 - ゲームボタン(GAME)
 - ピュアダイレクトボタン(PURE)
- 16 数字ボタン** (58, 60, 147, 151)
- 17 リモコン信号送信窓** (163)
- 18 電源操作ボタン(ON/STANDBY 〻)** (47, 109)
- 19 テレビ操作ボタン(TV 〻 / INPUT)** (66, 70, 72, 152, 151)
- 20 ライトボタン** (155)
- 21 音量調節ボタン(▲▼)** (48, 109)
- 22 ミュートボタン(MUTE 〻X)** (48, 109)
- 23 オプションボタン(OPTION)** (50, 54, 56, 65, 70, 71, 100)
- 24 エンターボタン(ENTER)** (113, 115, 122, 128, 133, 137, 141)
- 25 セットアップボタン(SETUP)** (113, 115, 122, 128, 133, 137, 141)

乾電池の入れかた

- ① 裏ふたを矢印の方向へ押し下げて取り外す。
- ② 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



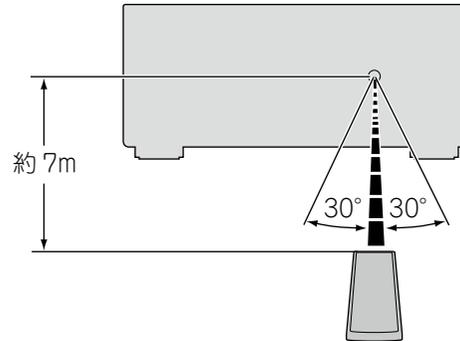
- ③ 裏ふたを元どおりにする。

ご注意

- リモコンには単4形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。(付属の乾電池は動作確認済みです。早めに新しい乾電池と交換してください。)
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示どおりに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
 - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例に従って処理をしてください。
- 充電式電池をお使いの場合、正しく動作しない場合があります。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。



ご注意

- リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線があたると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。
- 3D 映像機器を構成している各ユニット(モニター、3D 視聴用メガネ、3D 信号伝送ユニットなど)間の信号の伝送を無線通信(赤外線通信など)でおこなっている 3D 映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは 3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

その他の情報

- 登録商標について (👉 [164 ページ](#))
- サラウンド (👉 [165 ページ](#))
- 映像信号とモニター出力の関係 (👉 [171 ページ](#))
- 用語の解説 (👉 [174 ページ](#))

登録商標について

本製品は、次の技術を採用しています。(順不同)



本機は、Audyssey Laboratories™ からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® XT 32, Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume® および Audyssey DSX® は、Audyssey Laboratories の登録商標です。Audyssey LFC™ は、Audyssey Laboratories の商標です。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,487,535 号、6,226,616 号、7,212,872 号、7,003,467 号、7,272,567 号、7,668,723 号、7,392,195 号、7,930,184 号、7,333,929 号、7,548,853 号、7,283,634 号その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS-HD のロゴ、シンボル、DTS-HD は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc. 製品にはソフトウェアが含まれています。© DTS, Inc. 著作権所有。



HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LCC の商標または登録商標です。



InstaPrevue および InstaPrevue ロゴは、Silicon Image, Inc. の商標または登録商標です。



“Made for iPod” and “Made for iPhone” mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.

Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod, or iPhone, may affect wireless performance.

AirPlay, the AirPlay logo, iPad, iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

• iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod shuffle および iPod touch は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。



MHL、MHL ロゴおよび Mobile High-Definition Link は、MHL LLC の商標または登録商標です。



Windows Media and the Windows logo are trademarks or registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

This item incorporates copyright protection technology that is protected by U.S. patents and other intellectual property rights of Rovi Corporation. Reverse engineering and disassembly are prohibited.

サラウンド

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

サウンドモードとパラメーター一覧表

この表は、各サウンドモードのときに再生できるスピーカーと、各サウンドモードのときに調節できるサラウンドパラメーターを示したものです。

表の中の記号について

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。

◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、メニューの“スピーカー構成” ([134 ページ](#)) の設定により出力するチャンネルが異なります。

サウンドモード (81 ページ)	チャンネル出力							ダイアログ エンハンサー (116 ページ)	サブウーハー レベル (116 ページ)
	フロント 左/右	センター	サラウンド 左/右	サラウンド バック 左/右	フロント ハイト 左/右	フロント ワイド 左/右	サブウーハー		
DIRECT/PURE DIRECT(2チャンネル)*1	○						◎*6		○*6
DIRECT/PURE DIRECT(マルチチャンネル)*1	○	◎	◎	◎*2	◎*2	◎*2	◎		○
DSD DIRECT(2チャンネル)*1	○						◎*6		○*6
DSD DIRECT(マルチチャンネル)*1	○	◎	◎				◎		○
7.1CH IN	○	◎	◎	◎			◎		○
STEREO	○						◎	○	○
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎*3		◎	○	○
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎*3		◎	○	○
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	◎	◎	◎	◎		◎	○	○
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎			◎	○	○
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	◎			◎	○	○
DOLBY PRO LOGIC IIx A-DSX	○	◎	◎	◎	◎*4	◎*5	◎	○	○
DOLBY PRO LOGIC II A-DSX	○	◎	◎	◎	◎*4	◎*5	◎	○	○
DTS NEO:X	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
Audyssey DSX®	○	◎	◎	◎	◎*4	◎*5	◎	○	○
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎*3		◎	○	○
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎*2	◎*2	◎*2	◎	○	○
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎*2	◎*2	◎*2	◎	○	○
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎*3		◎	○	○
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎*3		◎	○	○
DTS-HD	○	◎	◎	◎*2	◎*2	◎*2	◎	○	○
DTS Express	○	◎	◎	◎	◎*3		◎	○	○
MULTI CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
VIRTUAL	○						◎	○	○

- *1 PURE DIRECT モードで再生中、サラウンドパラメーターは DIRECT モードと同様になります。
- *2 入力信号に含まれるチャンネルを出力します。
- *3 設定しているサウンドモード名に“+PLIIz”が含まれているときに、フロントハイトスピーカーから音声を出力します。サウンドモードの確認のしかたは、[81 ページ](#)をご覧ください。
- *4 メニューの“Audyssey DSX®”設定 ([121 ページ](#)) が“ワイド/ハイト”または“ハイト”のときに、フロントハイトスピーカーから音声を出力します。
- *5 メニューの“Audyssey DSX®”設定 ([121 ページ](#)) が“ワイド/ハイト”または“ワイド”のときに、フロントワイドスピーカーから音声を出力します。
- *6 メニューの“サブウーハーモード” ([136 ページ](#)) の設定が、“LFE+メイン”のときに、サブウーハーから音声を出力します。

サウンドモード (81 ページ)	サラウンドパラメーター (116 ページ)									
	ホーム シアターEQ (116 ページ)	ラウドネス マネージメント *9 (116 ページ)	ダイナミック レンジ圧縮 *10 (116 ページ)	低音の 位相補正 *11 (116 ページ)	LFE *11 (117 ページ)	Height ゲイン *12 (117 ページ)	PRO LOGIC II/IIx Music モードのみ			NEO:X モードのみ センター ゲイン (117 ページ)
							パノラマ (117 ページ)	ディメン ション (117 ページ)	センター幅 (117 ページ)	
DIRECT/PURE DIRECT (2 チャンネル)*1		○	○							
DIRECT/PURE DIRECT (マルチチャンネル)*1		○	○		○					
DSD DIRECT (2 チャンネル)*1										
DSD DIRECT (マルチチャンネル)*1					○					
7.1CH IN					○					
STEREO		○	○	○	○					
MULTI CH IN	○*7			○	○					
MPEG2 AAC	○*7			○	○					
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	○	○			○				
DOLBY PRO LOGIC IIx	○*8	○	○				○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC II	○*8	○	○				○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC IIx A-DSX	○*8	○	○				○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC II A-DSX	○*8	○	○				○	○	○	
DTS NEO:X	○*8	○	○							○
Audyssey DSX®	○	○	○	○	○					
DOLBY DIGITAL	○*7		○	○	○	○				
DOLBY DIGITAL Plus	○*7		○	○	○	○				
DOLBY TrueHD	○*7	○	○	○	○	○				
DTS SURROUND	○*7		○	○	○	○				
DTS 96/24	○*7			○	○	○				
DTS-HD	○*7			○	○	○				
DTS Express	○*7			○	○	○				
MULTI CH STEREO		○	○	○	○					
VIRTUAL		○	○	○	○					

- *1 PURE DIRECT モードで再生中、サラウンドパラメーターは DIRECT モードと同様になります。
- *7 設定しているサウンドモード名に"+PLII Music"または"+NEO:X Music"が含まれているときは、この設定はできません。サウンドモードの確認のしかたについては、[81 ページ](#)をご覧ください。
- *8 サウンドモードが"Movie"のときに設定できます。
- *9 この項目は、Dolby TrueHD 信号を再生時に選択できます。
- *10 Dolby TrueHD, Dolby Digital または DTS 信号を再生時に選択できます。
- *11 この項目は、Dolby Digital, DTS または DVD オーディオを再生時に選択できます。
- *12 設定しているサウンドモード名に"+PLIIz"が含まれているときに設定できます。サウンドモードの確認のしかたについては、[81 ページ](#)をご覧ください。

サウンドモード (81 ページ)	トーン コントロール *13 (118 ページ)	Audyssey(119 ページ)					M-DAX *15 (118 ページ)
		MultEQ® XT 32 (119 ページ)	Dynamic EQ *14 (120 ページ)	Dynamic Volume *14 (120 ページ)	Audyssey LFC™ *14 (120 ページ)	Audyssey DSX® (121 ページ)	
DIRECT/PURE DIRECT(2チャンネル)*1							
DIRECT/PURE DIRECT(マルチチャンネル)*1							
DSD DIRECT(2チャンネル)*1							
DSD DIRECT(マルチチャンネル)*1							
7.1CH IN							
STEREO	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
MULTI CH IN	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
MPEG2 AAC	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
DOLBY PRO LOGIC IIz	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
DOLBY PRO LOGIC IIx	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
DOLBY PRO LOGIC II	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
DOLBY PRO LOGIC IIx A-DSX	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
DOLBY PRO LOGIC II A-DSX	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
DTS NEO:X	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Audyssey DSX®	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
DOLBY DIGITAL	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
DOLBY DIGITAL Plus	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
DOLBY TrueHD	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
DTS SURROUND	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
DTS 96/24	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
DTS-HD	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
DTS Express	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
MULTI CH STEREO	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
VIRTUAL	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- *1 PURE DIRECT モードで再生中、サラウンドパラメーターは DIRECT モードと同様になります。
- *13 メニューの“Dynamic EQ”([120 ページ](#))の設定が“オン”のときは、この項目を設定できません。
- *14 メニューの“MultEQ® XT 32”([119 ページ](#))の設定が“オフ”または“グラフィック EQ”のとき、この項目を設定できません。
- *15 この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。

□入力信号の種類と対応するサウンドモード

この表は、各サウンドモードのときに再生できる入力信号を示したものです。入力するソースの音声信号をご確認の上、サウンドモードを選んでください。

表の中の記号について

- お買い上げ時に設定されているサウンドモードを示します。
- 選択できるサウンドモードを示します。

サウンドモード (81 ページ)	ご注意	入力信号の種類とフォーマット																				
		ANALOG	PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL				Super Audio CD		MPEG2 AAC			
			PCM (マルチ チャンネル)	PCM (2チャ ネル)	DTS-HD Master Audio	DTS- HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT (フラグ あり)	DTS ES MTRX (フラグ あり)	DTS (5.1チャ ネル)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ あり)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ なし)	DOLBY DIGITAL (5.1チャ ネル)	DOLBY DIGITAL (2チャ ネル)	DSD (マルチ チャンネル)	DSD (2チャ ネル)	AAC (5.1チャ ネル)	AAC (2.1チャ ネル)	AAC (1+1チャ ネル)
DTS SURROUND																						
DTS-HD MSTR	*1			●																		
DTS-HD HI RES	*1				●																	
DTS ES DSCRT6.1	*2						●															
DTS ES MTRX6.1	*2							●														
DTS SURROUND	*1						○	○	●													
DTS 96/24	*1									●												
DTS (-HD) + PLIIx Movie	*3			○	○	○				○	○											
DTS (-HD) + PLIIx Music	*2			○	○	○				○	○											
DTS (-HD) + PLIIz	*4			○	○	○	○	○	○	○	○											
DTS EXPRESS	*1					●																
DTS (-HD) + NEO:X Cinema				○	○	○	○	○	○	○												
DTS (-HD) + NEO:X Music				○	○	○	○	○	○	○												
DTS (-HD) + NEO:X Game				○	○	○	○	○	○	○												
DTS NEO:X Cinema	*1	○																			○	
DTS NEO:X Music	*1	○																			○	
DTS NEO:X Game	*1	○																			○	
Audyssey DSX [®]				○	○	○	○	○	○	○												

- *1 "Audyssey DSX[®]" ([121 ページ](#)) の設定が"ワイド/ハイト"、"ハイト"または"ワイド"の場合は、*1 が付いているサウンドモードに Audyssey DSX[®] の効果が加わります。
- *2 このサウンドモードは、メニューの"スピーカー構成"⇒"S. バック" ([134 ページ](#)) の設定が"無し"のときは選べません。
- *3 このサウンドモードは、メニューの"スピーカー構成"⇒"S. バック" ([134 ページ](#)) の設定が"1台"または"無し"のときは選べません。
- *4 このサウンドモードは、メニューの"スピーカー構成"⇒"フロントハイト" ([134 ページ](#)) の設定が"無し"のときは選べません。

サウンドモード (81 ページ)	ご注意	入力信号の種類とフォーマット																			
		ANALOG	PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL				Super Audio CD		MPEG2 AAC		
			PCM (マルチ チャンネル)	PCM (2 チャン ネル)	DTS-HD Master Audio	DTS- HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT (フラグ あり)	DTS ES MTRX (フラグ あり)	DTS (5.1 チャン ネル)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ あり)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ なし)	DOLBY DIGITAL (5.1 チャン ネル)	DOLBY DIGITAL (2 チャン ネル)	DSD (マルチ チャンネル)	DSD (2 チャン ネル)	AAC (5.1 チャン ネル)	AAC (2.1 チャン ネル)
DOLBY SURROUND																					
DOLBY TrueHD	*1										●										
DOLBY DIGITAL+	*1											●									
DOLBY DIGITAL EX	*2												○	○	○						
DOLBY (D+) (HD) +EX	*2										○	○									
DOLBY DIGITAL	*1												●	●	●						
DOLBY (D) (D+) (HD) + PLIIx Movie	*3										○	○	○	○	○						
DOLBY (D) (D+) (HD) + PLIIx Music	*2										○	○	○	○	○						
DOLBY (D) (D+) (HD) + PLIIz	*4										○	○	○	○	○						
DOLBY (D) (D+) (HD) + NEO:X Cinema											○	○	○	○	○						
DOLBY (D) (D+) (HD) + NEO:X Music											○	○	○	○	○						
DOLBY (D) (D+) (HD) + NEO:X Game											○	○	○	○	○						
DOLBY PRO LOGIC IIx Movie	*2	○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIx Music	*2	○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIx Game	*2	○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIx Movie A-DSX		○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIx Music A-DSX		○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIx Game A-DSX		○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIz	*4	○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC II Movie	*1	○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC II Music	*1	○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC II Game	*1	○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC II Movie A-DSX		○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC II Music A-DSX		○	○													○		○		○	
DOLBY PRO LOGIC II Game A-DSX		○	○													○		○		○	
Audyssey DSX [®]											○	○	○	○	○						

- *1 “Audyssey DSX[®]” ([121 ページ](#)) の設定が“ワイド / ハイト”、“ハイト”または“ワイド”の場合は、*1 が付いているサウンドモードに Audyssey DSX[®] の効果が加わります。
- *2 このサウンドモードは、メニューの“スピーカー構成”⇒“S. バック” ([134 ページ](#)) の設定が“無し”のときは選べません。
- *3 このサウンドモードは、メニューの“スピーカー構成”⇒“S. バック” ([134 ページ](#)) の設定が“1 台”または“無し”のときは選べません。
- *4 このサウンドモードは、メニューの“スピーカー構成”⇒“フロントハイト” ([134 ページ](#)) の設定が“無し”のときは選べません。

サウンドモード (81 ページ)	ご注意	入力信号の種類とフォーマット																			
		ANALOG	PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL				Super Audio CD		MPEG2 AAC		
			PCM (マルチ チャンネル)	PCM (2チャン ネル)	DTS-HD Master Audio	DTS- HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT (フラグ あり)	DTS ES MTRX (フラグ あり)	DTS (5.1チャン ネル)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ あり)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ なし)	DOLBY DIGITAL (5.1チャン ネル)	DOLBY DIGITAL (2チャン ネル)	DSD (マルチ チャンネ ル)	DSD (2チャン ネル)	AAC (5.1チャン ネル)	AAC (2.1チャン ネル)
MULTI CH IN																					
MULTI CH IN	*1		●														○				
MULTI CH IN + PLIIx Movie	*3		○														○				
MULTI CH IN + PLIIx Music	*2		○														○				
MULTI CH IN + PLIIz	*4		○														○				
MULTI CH IN + NEO:X Cinema			○																		
MULTI CH IN + NEO:X Music			○																		
MULTI CH IN + NEO:X Game			○																		
MULTI CH IN + Dolby EX	*2		○														○				
MULTI CH IN 7.1	*2		● (7.1)																		
Audyssey DSX [®]			○														○				
MPEG-2 AAC																					
MPEG-2 AAC	*1																		●	●	
AAC + PLIIx Movie	*3																		○		
AAC + PLIIx Music	*2																		○		
AAC + PLIIz	*4																		○		
AAC + NEO:X Cinema																			○		
AAC + NEO:X Music																			○		
AAC + NEO:X Game																			○		
AAC + Dolby EX	*2																		○		
DIRECT																					
DIRECT		○	○	○*5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
PURE DIRECT																					
PURE DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
DSP SIMULATION																					
MULTI CH STEREO		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
STEREO																					
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

- *1 “Audyssey DSX[®]” ([121 ページ](#)) の設定が“ワイド/ハイト”、“ハイト”または“ワイド”の場合は、*1 が付いているサウンドモードに Audyssey DSX[®] の効果が加わります。
- *2 このサウンドモードは、メニューの“スピーカー構成”⇒“S. バック” ([134 ページ](#)) の設定が“無し”のときは選べません。
- *3 このサウンドモードは、メニューの“スピーカー構成”⇒“S. バック” ([134 ページ](#)) の設定が“1 台”または“無し”のときは選べません。
- *4 このサウンドモードは、メニューの“スピーカー構成”⇒“フロントハイト” ([134 ページ](#)) の設定が“無し”のときは選べません。
- *5 AirPlay 再生時は、サウンドモードが“DIRECT”になります(お買い上げ時の設定)。

映像信号とモニター出力の関係

"ビデオ コンバージョン"の 設定 (10 ページ)	メインゾーンのモニター出力												
	入力端子			出力端子			メニュー表示						
	HDMI	COMPONENT	VIDEO	HDMI	COMPONENT	VIDEO	HDMI	COMPONENT	VIDEO				
オン	×	×	×	×	×	×	メニュー表示のみ						
オン	×	×	○	○ <VIDEO>	○ <VIDEO>	○ <VIDEO>	○ (VIDEO)	○ (VIDEO)	○ (VIDEO)				
オン	×	○ (1080p)	×	○ <COMPONENT>	○ <COMPONENT>	×	○ (COMPONENT)	×	×				
オン	×	○ (480p - 720p)	×			○ <COMPONENT>		○ (COMPONENT)	○ (COMPONENT)				
オン	×	○ (480i/576i)	×			○ <COMPONENT>		×	×				
オン	×	○ (1080p)	○	×	○ <COMPONENT>	○ <VIDEO>	×	○ (VIDEO)	○ (VIDEO)				
オン *1	×	○ (1080p)	○	○ <COMPONENT>		○ <COMPONENT>	○ (COMPONENT)	○ (COMPONENT)	×	×			
オン	×	○ (480p - 720p)	○	○ <COMPONENT>		○ <COMPONENT>	○ (COMPONENT)	○ (COMPONENT)	×	×			
オン	×	○ (480i/576i)	○	○ <HDMI>	○ <COMPONENT>	×	○ (HDMI)	×	×				
オン	○	×	×			○ <VIDEO>		×	×				
オン	○	○	×			×		×	×				
オン	○	○	○	○ <HDMI>	○ <COMPONENT>	×	○ (HDMI)	×	×				
オン	○	○	○			×		×	×				
オン	○	○	○			×		×	×				
オン *3	×	×	○	○ <VIDEO>	×	○ <VIDEO>	○ (VIDEO)	×	×				
オン *3	×	○ (1080p)	×	○ <COMPONENT>	○ <COMPONENT>	×	○ (COMPONENT)	×	×				
オン *3	×	○ (480p - 720p)	×			○ <VIDEO>				×			
オン *3	×	○ (480i/576i)	×			○ <VIDEO>				×			
オン *3	×	○ (1080p)	○			○ <VIDEO>				×			
オン *3	×	○ (480p - 720p)	○			○ <VIDEO>				×			
オン *3	×	○ (480i/576i)	○			○ <VIDEO>				×			
オフ	×	×	×	×	×	×	メニュー表示のみ	メニュー表示のみ	メニュー表示のみ				
オフ	×	×	○			○ <VIDEO>				×			
オフ	×	○	×			○ <COMPONENT>				×			
オフ	×	○	○	○ <HDMI>	×	○ <VIDEO>				○ (HDMI)	×	×	
オフ	○	×	×			○ <VIDEO>							×
オフ	○	×	○			○ <VIDEO>							×
オフ	○	○	×			○ <VIDEO>	×						
オフ	○	○	○	○ <COMPONENT>	○ <COMPONENT>	○ <VIDEO>	○ (VIDEO)	×	×				

○ : 映像入力あり

×

*1 HDMI モニターが接続されていないか、HDMI モニターの電源が入っていないとき

*2 HDMI モニターが接続されていないか、HDMI モニターの電源が入っていないときに、メニューのみ表示します。

*3 HDMI MONITOR 端子からアナログビデオ入力信号を出力するときの"解像度" ([126 ページ](#)) の設定が"4K"のとき

○ <> : <> の中の入力信号を出力します。

×

映像出力なし

○ () : () 内の映像にスーパーインポーズ

×

() 内の映像のみ出力

×

映像またはメニューを出力します。

ゾーンのモニター出力					
入力端子			出力端子		
HDMI	COMPONENT	VIDEO	HDMI ZONE4	COMPONENT (ZONE2)	VIDEO (ZONE2)
×	×	×	×	×	×
×	×	○		○<VIDEO>	
×	○	×		×	
×	○	○		○<COMPONENT>	○<VIDEO>
○	×	×	○<HDMI>	×	×
○	×	○		○<VIDEO>	
○	○	×		×	
○	○	○		○<COMPONENT>	○<VIDEO>
○	○	○		○<VIDEO>	

○ : 映像入力あり

× : 映像入力なし

○<> : <>の中の入力信号を出力します。

× : 映像出力なし



ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SCAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。

ご注意

- 本機は一部の 3D ビデオコンテンツまたはコンピューター解像度(例：VGA)の映像を再生中は、状態表示画面を表示しません。
- 一部の 3D ビデオコンテンツまたはコンピューター解像度(例：VGA)の映像を再生中にメニューを操作すると、再生中の映像がメニュー画面に切り替わります。このとき、メニューの背景に再生映像を表示しません。

映像信号解像度変換表

メニューの“ビデオコンバージョン” ([125 ページ](#)) を“オン”、“i/p スケーラー” ([125 ページ](#)) を“アナログ”、“アナログ & HDMI” または“HDMI” に設定した場合は、入力された映像信号の解像度を別の解像度に変換して出力することができます ([10 ページ](#) 「入力された映像信号を変換して出力する (ビデオコンバージョン機能)」)。

変換可能な映像信号の解像度と HDMI 出力解像度の関係は次の表のとおりです。

	出力解像度 入力解像度	HDMI 出力						
		480i/576i*1	480p/576p	1080i	720p	1080p	1080p 24Hz	4K*2
ビデオ入力	480i/576i	○	○	○	○	○	○	○
コンポーネントビデオ入力	480i/576i	○	○	○	○	○	○	○*5
	480p/576p	-	○	○	○	○	○	○*5
	1080i	-	-	○	○	○	○	○*5
	720p	-	-	○	○	○	○	○*5
	1080p	-	-	-	-	○	○	○*5
HDMI 入力	480i/576i	○	○	○	○	○	○	○
	480p/576p	-	○	○	○	○	○	○
	1080i	-	-	○	○	○	○	○
	720p	-	-	○	○	○	○	○
	1080p 24Hz	-	-	-	-	○*3	○*4	○
	1080p	-	-	-	-	○	○	○
	4K	-	-	-	-	-	-	○*6

○ メニューの“解像度” ([126 ページ](#)) で設定された解像度で出力します。

- 入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。

*1 メニューの“i/p スケーラー” ([125 ページ](#)) の設定が“オフ”のときのみ出力します。

*2 3840 × 2160 ピクセル (24/25/30Hz) の解像度で出力します。

*3 メニューの“解像度” ([126 ページ](#)) を“オート”に設定し、1080p 24Hz の映像信号に対応していないテレビを接続している場合。

*4 メニューの“解像度” ([126 ページ](#)) を“オート”に設定し、1080p 24Hz の映像信号に対応しているテレビを接続している場合。

*5 4K 信号にアップスケーリング時、メニュー画面は本機と HDMI 接続しているテレビのみに表示します。

*6 入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。

ご注意

- ビデオおよびコンポーネントビデオ出力信号には、入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。
- HDMI に入力される 4K ビデオ信号、3D ビデオ信号、コンピューター解像度、“x.v.Color”、sYCC601 color、Adobe RGB color および Adobe YCC601 color の映像信号は、入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。
- メニューの“ビデオモード” ([125 ページ](#)) を“ゲーム”に設定している場合、または“オート”に設定しゲームコンテンツを再生している場合は、入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。
- メニューの“解像度” ([126 ページ](#)) を“オート”に設定している場合、HDMI 出力端子に接続しているテレビのパネル画素数を自動的に検出し、上の表に従い適切な解像度で出力します。
- HDMI 端子から入力された 1080p 24Hz の信号を 1080p 60Hz/1080p 50Hz に変換して出力した場合は、メニューの“TV フォーマット” ([127 ページ](#)) の設定に従って出力します。
“NTSC”の場合 - 1080p 60Hz で出力します。
“PAL”の場合 - 1080p 50Hz で出力します。
- 50Hz の HDMI 入力信号を 60Hz、または 60Hz の HDMI 入力信号を 50Hz に変換できません。
- 24Hz の HDMI 入力信号を 50Hz に変換できません。
- 本項目は、HDMI ZONE4 機能には対応していません。

A

A2DP 規格

A2DP は、ケーブルの代わりに無線通信を使用する Bluetooth の車載機器向けや AV 機器向けに定められたプロファイルの 1 つです。

Adobe RGB color, Adobe YCC601 color

Adobe システムズ社が定義した色空間(カラー空間)のことです。従来の RGB よりも広い色空間を持っているため、より鮮明で自然な映像を表現することができます。

AirPlay

iTunes または iPhone/iPod touch/iPad に収録されているコンテンツを、ネットワーク経由で対応する機器に転送(再生)する機能です。

ALAC(Apple Lossless Audio Codec)

アップル社が開発した音声データ可逆圧縮方式のコーデックです。iTunes や iPhone、iPod で再生できます。約 60~70% に圧縮されたデータを完全に元通りのデータに再現します。

App Store

アップル社が運営している iPhone や iPod touch 向けのアプリケーションソフトの販売サイトです。

Audyssey Dynamic EQ[®]

Audyssey Dynamic EQ[®] は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。Audyssey Dynamic EQ[®] は、Audyssey MultEQ[®] XT 32 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Surround Expansion (A-DSX)

Audyssey DSX[®] は、既存の 5.1ch システムに新しいチャンネルを加えることによりサラウンド効果・印象を高め、より大きなサラウンド空間を実現する新しいサラウンド拡張技術です。

人間の聴覚特性の研究で、サラウンド効果を高める要素として大きく 2 つのポイントがあげられます。最も重要なポイントは臨場感のあるサラウンド空間の構成にはフロント(前方向)部分に横の広がり(ワイドチャンネル)を作ることです。次に重要なポイントとしてはサラウンド空間に奥行き感を作るには認知(聴くことが)出来る音響信号でフロント(前方向)部分に高さの広がり(ハイトチャンネル)を作ることとされています。

Audyssey DSX[®] はこの 2 つの重要な要素からワイドチャンネル(Wide channel)、ハイトチャンネル(Height channel)それぞれペアで作り出します。また Audyssey DSX[®] は単純にチャンネルを追加するだけではなく、既存のフロントやサラウンド、サラウンドバックとの組み合わせることで更に効果を高める“Surround Envelopment Processing”という技術を開発し Audyssey DSX[®] の中に取り入れています。

Audyssey Dynamic Volume[®]

Audyssey Dynamic Volume[®] は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調節する技術です。

また、Audyssey Dynamic Volume[®] は、Audyssey Dynamic EQ[®] の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey LFC[™] (Low Frequency Containment)

Audyssey LFC は、隣や下の部屋に低音や振動が漏れることを抑制します。リアルタイムに入力信号を解析して、壁や床、天井を通り抜けるような低音を抑えると同時に、音響心理学的アプローチを用いた低域補正処理をおこなうことで、隣や下の部屋に低音が響き渡ることなく、視聴者はコンテンツ本来の低域を楽しめます。

Audyssey MultEQ[®] XT 32

Audyssey MultEQ[®] XT 32 は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。Audyssey MultEQ[®] XT 32 は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

B

Bluetooth

携帯情報機器などで数 m 程度の機器間接続に使用される短距離無線通信技術の一つです。ノートパソコンや PDA、携帯電話などをケーブルを使わずに接続し、音声やデータをやりとりすることができます。

D

Deep Color

HDMI がサポートしている映像技術です。通常、RGB の各色を 8 ビット(256 階調)ずつで表現するところを、10 ビット(1024 階調)、12 ビット(4096 階調)、16 ビット(65536 階調)で表現することができるため、より高精細な色の表現を可能にします。HDMI 接続する機器の双方が Deep Color に対応している必要があります。

DLNA

DLNA および DLNA CERTIFIED は Digital Living Network Alliance の商標 / サービスマークです。コンテンツには DLNA CERTIFIED[®] 製品と適合しないものがある可能性があります。

Dolby Digital

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル(FL、FR、C)とサラウンド 2 チャンネル(SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。

このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital EX

Dolby Digital EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット“DOLBY DIGITAL SURROUND EX”を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した 6.1 チャンネルのサラウンドフォーマットです。

サラウンドバックチャンネルを含めた 6.1 チャンネルでの音場再生により、空間表現力や定位感が向上します。

Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Pro Logic II

Dolby Pro Logic II は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。

CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。

サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化(周波数特性 20Hz~20kHz 以上)し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic IIx

Dolby Pro Logic IIx は、Dolby Pro Logic II をさらに改良したマトリクスデコード技術です。2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Movie”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります

Dolby Pro Logic IIz

Dolby Pro Logic IIz は、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2 チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。

リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカを加えることで、映画 / 音楽 / ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。

フロントハイトスピーカは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。

このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

DTS

Digital Theater System の略で、DTS 社が開発した、デジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリットサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えてサラウンドバックチャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声にサラウンドバックチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてコードすることも可能です。

DTS Express

DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps~256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD

ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS 96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS Neo:X

DTS NEO:X デコーダーを使用して、2 チャンネルソースや 5.1/6.1/7.1 チャンネルのサラウンドソースを最大 11.1 チャンネルのサウンドで再生するマトリクスデコード技術です。音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Cinema”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。

F**FLAC**

可逆圧縮方式のフリーの音声ファイルフォーマットです。可逆圧縮のため、原音からの音質の劣化がありません。

FLAC のライセンスについては、次のとおりです。

Copyright (C) 2000,2001,2002,2003,2004,2005,2006,2007,2008,2009 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
 - Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
 - Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
- THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

H

HDCP

機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の1つです。

HDMI

High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を1本のケーブルで接続できます。

I

iTunes

アップル社が提供しているマルチメディアプレーヤーの名称です。

音楽をはじめとしてビデオなどのコンテンツを管理・再生することができます。AAC をはじめとして WAV や MP3 など主要なファイル形式に対応しています。

L

LFE

Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

M

MP3 (MPEG Audio Layer-3)

音声データ圧縮方式の1つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG (Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4

デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、「MPEG-1 Video」、「MPEG-2 Video」、「MPEG-4 Visual」、「MPEG-4 AVC」などがあります。音声の規格には、「MPEG-1 Audio」、「MPEG-2 Audio」、「MPEG-4 AAC」などがあります。

MPEG-2 AAC

MPEG-2 AAC (Advanced Audio Coding) は、MPEG (Moving Picture Experts Group) により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。

高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

【米国におけるパテントナンバー】

08/937,950	5,579,430	5,299,238
5848391	08/678,666	5,299,239
5,291,557	98/03037	5,299,240
5,451,954	97/02875	5,197,087
5 400 433	97/02874	5,490,170
5,222,189	98/03036	5,264,846
5,357,594	5,227,788	5,268,685
5 752 225	5,285,498	5,375,189
5,394,473	5,481,614	5,581,654
5,583,962	5,592,584	05-183,988
5,274,740	5,781,888	5,548,574
5,633,981	08/039,478	08/506,729
5 297 236	08/211,547	08/576,495
4,914,701	5,703,999	5,717,821
5,235,671	08/557,046	08/392,756
07/640,550	08/894,844	

S

sYCC601 color

“x.v.Color”同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

V

vTuner

インターネットラジオの無料オンラインコンテンツサービスです。

本サービスに関するお問い合わせは、下記 vTuner のサイトまでお願い致します。

vTuner ホームページ：

<http://www.radiomarantz.com>

本製品は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の知的財産権により保護されています。当該技術の本製品以外での使用または配布は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の許諾がない限り禁止されています。

W

Windows Media DRM

マイクロソフト社が開発した著作権保護技術です。

コンテンツプロバイダは、自らのコンテンツ (“セキュアコンテンツ”) の完全性を保護するために、本デバイス (“WMDRM”) に内蔵された Windows Media 用デジタル権管理技術を使用し、当該コンテンツに対する自らの知的財産権 (著作権を含む) が悪用されないようにしています。

本デバイスは、セキュアコンテンツを再生するため、WMDRM ソフトウェア (“WM-DRM ソフトウェア”) を使用しています。本デバイス内の WM-DRM ソフトウェアのセキュリティがあやうくなった場合、セキュアコンテンツの所有者 (“セキュアコンテンツオーナー”) は、マイクロソフト社が、セキュアコンテンツをコピー・表示・再生する新たなライセンスを得る WM-DRM ソフトウェアの権利を取り消すよう要請することができます。この取り消しは、保護されていないコンテンツを再生する WM-DRM ソフトウェアの能力には影響がありません。インターネットまたはパソコンからセキュアコンテンツのライセンスをダウンロードするときはいつも、取り消された WM-DRM ソフトウェアのリストがデバイスに送られます。マイクロソフト社は、セキュアコンテンツオーナーに代わって、当該ライセンスとともに、取り消された WM-DRM ソフトウェアのリストをデバイスにダウンロードすることができます。

Windows Media Player Ver.11

マイクロソフト社が無料で提供しているメディアプレーヤーです。

Windows Media Player のバージョン 11 以降で作成されたプレイリストや WMA、DRM WMA、WAV ファイルなどが再生可能です。

WMA (Windows Media Audio)

米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。

WMA データは、Windows Media[®] Player Ver.7、7.1、Windows Media[®] Player for Windows[®] XP、または Windows Media[®] Player 9 Series を使用してエンコード (符号化) することができます。

WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正しく動作しないことがあります。

X

x.v.Color

色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。“x.v.Color” はソニーの登録商標です。

あ行

オートリップシンク

オートリップシンク機能対応のテレビと接続すると、映像と音声のずれを自動的に補正します。

さ行**サンプリング周波数**

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。

1秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

ゾーン 2

本機は、本機が設置されている部屋(メインゾーン)以外の1つの部屋でも本機の再生をおこなうことができます(ゾーン2再生)。ゾーン2再生をおこなう部屋をゾーン2と呼びます。

ゾーン 3

本機は、本機が設置されている部屋(メインゾーン)以外のひとつの部屋でも本機の再生をおこなうことができます(ゾーン3再生)。ゾーン3再生をおこなう部屋をゾーン3と呼びます。

ゾーン 4

本機は、本機が設置されている部屋(メインゾーン)以外のひとつの部屋でも本機の再生をおこなうことができます(ゾーン4再生)。ゾーン4再生をおこなう部屋をゾーン4と呼びます。

た行**ダイナミックレンジ**

機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

低音の位相補正

ブルーレイディスクやDVDなど音楽ソースがもともと持っているサテライトチャンネルの低域成分に対するLFEチャンネルとの時間遅れを調整し、再生時の低音をより豊かに再現(再生)する機能です。お買い上げ時は“0ms”に設定していますが、タイトル毎に値が異なりますので、音楽ソースを再生して、一番効果の高い値に合わせたうえで試聴してください。再生する音楽ソースによっては効果がわかりにくい場合があります。

は行**プログレッシブ(順次走査)**

映像の1フレームを1つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。

ペアリング

ペアリングとは、2台のBluetoothデバイスの接続設定に必要な操作です。ペアリングをおこなうことによって、Bluetooth機器同士が互いにアクセスできるようになります。

ま行**メインゾーン**

本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。

故障かな？と思ったら

□ 各接続は正しいですか

□ 取扱説明書に従って正しく操作していますか

□ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正しく動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。

なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症状	原因/対策	関連ページ
電源が入らない。 または、入れてもすぐに切れる。	<ul style="list-style-type: none"> コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 	37
電源が自動的にスタンバイに切り替わる。	<ul style="list-style-type: none"> スリープタイマーが設定されています。再度電源を入れるか、スリープタイマーの設定を変更してください。 操作がない状態で一定時間が経過すると、“オートスタンバイ”が動作します。“オートスタンバイ”を無効にするには、メニューの“オートスタンバイ”を“オフ”に設定してください。 	101 , 109 143
ディスプレイの表示が消える。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“表示”を“オフ”以外の設定にしてください。 	143
本機が正しく動作しない。	<ul style="list-style-type: none"> マイコンを初期化してください。 	182

【HDMI】

症状	原因/対策	関連ページ
HDMI で接続したときに、音声が出力されない。	<ul style="list-style-type: none"> HDMI 端子の接続を確認してください。 HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定を“AVP”に設定してください。 HDMI の音声信号をテレビから出力するときは、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定を“TV”に設定してください。 	14 , 15 123 123
HDMI で接続したときに、映像が映らない。	<ul style="list-style-type: none"> HDMI 端子の接続を確認してください。 接続した HDMI 端子に合わせて、入力ソースを設定してください。 テレビが著作権保護 (HDCP) に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。 	14 , 15 14 , 15 , 47 16

症状	原因/対策	関連ページ
HDMI コントロール対応機器に次の操作をすると、本機も同じ動作をする。 <ul style="list-style-type: none"> 電源のオン/オフ 音声を出力する機器の切り替え 音量の調節 入力ソースの切り替え 	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“HDMI コントロール”を“オフ”に設定してください。また、本機の電源オフを HDMI コントロール対応機器と連動させない場合は、メニューの“パワーオフコントロール”を“オフ”に設定してください。 	98 , 124 , 125
HDMI ZONE4 機能を使用中にメインゾーンを操作した場合、次の動作をする。 <ul style="list-style-type: none"> プレーヤーの電源がオフ、または再生が一時停止する。 本機の入力ソースが自動で切り替わる。 	<ul style="list-style-type: none"> “HDMI コントロール”の設定が“オン”、および“コントロールモニター”の設定が“モニター1”または“モニター2”になっている。メインゾーンで HDMI コントロール機能を設定していると、ゾーン4の再生に影響を与えることがあります。HDMI ZONE4 機能を使用する場合は、メニューの“HDMI コントロール”の設定を“オフ”または“コントロールモニター”の設定を“ZONE4”にしてください。 ゾーン4の入力ソースが“SOURCE”の場合は、メインゾーンとは別の入力ソースを選択してください。 	98 , 124 -
HDMI ZONE4 機能を使用中、メインゾーンで Dolby TrueHD/DTS HD Master Audio/Dolby Digital/DTS を再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“HDMI オーディオ出力”設定が“AVP”になっているか確認してください。メインゾーンとゾーン4で同じ入力ソースを選択している場合は、ZONE4 ON/OFF ボタンでゾーン4をオフにするか、ゾーン4の入力ソースをメインゾーンとは別の入力ソースに変更してください。 	123
HDMI ZONE4 機能を使用中、映像や音声が出力されない。	<ul style="list-style-type: none"> ゾーン4の電源がオンになっているか確認してください。 ゾーン4の入力ソースを確認してください。 入力機器の出力設定(解像度/音声フォーマット)を確認してください。 フロントパネルの HDMI 7/MHL 端子は、HDMI ZONE4 機能に対応していません。 ゾーン4では入力信号が HDMI 信号のときのみ再生できます。 	109 109 - - -
HDMI ZONE4 機能のみ使用するとき、入力機器を再生すると、メインゾーンで使用しているテレビの電源がオンになる。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“HDMI コントロール”設定が“オン”になっています。HDMI ZONE4 機能を使用する場合は、メニューの“HDMI コントロール”設定を“オフ”にしてください。 	98 , 124

【映像】

症状	原因/対策	関連ページ
映像が映らない。	<ul style="list-style-type: none"> 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続を確認してください。 本機に接続したテレビの入力端子と入力設定を合わせてください。 	14, 20
メニュー画面が表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> メニュー画面は本機と HDMI 接続しているテレビのみに表示されます。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体のディスプレイを見ながら操作してください。 	-

【音声】

症状	原因/対策	関連ページ
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> すべての機器の接続を確認してください。 スピーカーの接続とスピーカー構成の設定を確認してください。 プリアウト端子の接続を確認してください。 音声の接続をしている機器の電源が入っているか確認してください。 主音量を適切な大きさに調節してください。 ミュート(消音)モードを解除してください。 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。 デジタル入力端子を割り当てた端子と入力モードを合わせてください。 本機の PHONES 端子からヘッドホンのプラグを取り外してください。ヘッドホンのプラグを挿入していると、プリアウト端子から音が出なくなります。 	14, 15, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 97, 92, 93, 34, 91, 92, 93, 34, 91, 92, 93 48, 109, 48, 109, 47, 109, 132 158
音量が上がらない。	<ul style="list-style-type: none"> 音量の上限値が低く設定されています。メニューの“音量の上限”で上限値を設定してください。 本機の出力端子に接続している外部機器の電源が切れている可能性があります。接続している外部機器の電源を確認してください。 	119 -
サラウンドスピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> パワーアンプの SURROUND 端子にサラウンドスピーカーを接続しているか確認してください。 	-
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“スピーカー構成”⇒“S. バック”設定が“無し”以外になっているか確認してください。 サウンドモードが“STEREO”および“VIRTUAL”以外になっているか確認してください。 	134 81
フロントハイトスピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“スピーカー構成”⇒“フロントハイト”設定が“無し”以外になっているか確認してください。 	134

症状	原因/対策	関連ページ
フロントワイドスピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“スピーカー構成”⇒“フロントワイド”設定が“無し”以外になっているか確認してください。 	134
サブウーハーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> サブウーハーの接続を確認してください。 サブウーハーの電源を入れてください。 メニューの“スピーカー構成”⇒“サブウーハー”を“2台”または“1台”に設定してください。 メニューの“スピーカー構成”⇒“フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。 	91, 92, 93 - 134 134, 136
DTS 音声が出力されない。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“デコードモード”を“オート”または“DTS”にしてください。 	132
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	<ul style="list-style-type: none"> HDMI で接続してください。 	14, 15
Dolby PLII モードや DTS NEO:X モードが選択できない。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“スピーカー構成”⇒“センター”または“サラウンド”を“無し”以外に設定しているか確認してください。スピーカーシステムが 2.0/2.1 チャンネルの場合は選択できません。 ヘッドホン使用時は、Dolby PLII または DTS NEO:X を選択できません。 	134 -
Audyssey MultEQ [®] XT 32、Audyssey Dynamic EQ [®] および Audyssey Dynamic Volume [®] が選択できない。	<ul style="list-style-type: none"> サラウンドモードを“DIRECT”、“PURE DIRECT”以外に切り替えてください。 ヘッドホン使用時は、Audyssey MultEQ[®] XT 32、Audyssey Dynamic EQ[®] および Audyssey Dynamic Volume[®] を選択できません。 	81 -
Audyssey DSX [®] が選択できない。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“スピーカー構成”⇒“フロントハイト”または“フロントワイド”を“無し”以外に設定しているか確認してください。 メニューの“スピーカー構成”⇒“センター”を“無し”以外に設定しているか確認してください。 サラウンドモードをドルビーリスニングモードまたは DTS リスニングモードに切り替えてください。 ヘッドホン使用時は、Audyssey DSX[®] を選択できません。 	134 134 81 -
Audyssey Dynamic EQ [®] および Audyssey Dynamic Volume [®] が選択できない。	<ul style="list-style-type: none"> Audyssey[®] セットアップを実行してください。 	38, 94

症状	原因/対策	関連ページ
“ラジオステーションサーバーが混雑しています”または“接続が途切れました”と表示され、接続できないラジオステーションがある。	<ul style="list-style-type: none"> 放送局が混雑しているか、現在放送を休止しています。しばらく時間を置いてやり直してください。 	-
再生中に、音が途切れることがある。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークまたは USB メモリーの通信速度が遅いか、通信回線またはラジオステーションが混雑しています。ビットレートの高い放送データを再生している場合や、通信の状況によっては、音が途切れることがあります。 	-
音質が良くない。または再生中にノイズが入る。	<ul style="list-style-type: none"> 再生しているファイルのビットレートが低いです。 	-

【AirPlay】

症状	原因/対策	関連ページ
iTunes または iPhone/iPod touch/iPad 上に AirPlay のアイコン  が表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> 本機とパソコンまたは iPhone/iPod touch/iPad が同一のネットワーク (LAN) に接続されていません。パソコンまたは iPhone/iPod touch/iPad を本機と同一の LAN に接続してください。 iTunes または iPhone/iPod touch/iPad が AirPlay 対応のファームウェアではありません。最新のファームウェアにアップデートしてください。 	36
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> iTunes または iPhone/iPod touch/iPad の音量が最小になっています。音量を適切な値に設定してください。 iTunes または iPhone/iPod touch/iPad を起動したあとに表示される画面で本機を選択していません。iTunes または iPhone/iPod touch/iPad を起動し、表示された画面で AirPlay アイコン  をクリックして、本機を選択してください。 AirPlay の再生をしていません。iTunes の ▶ ボタンをクリックするか、iPhone/iPod touch/iPad の ▶ ボタンを押して再生してください。 	- 79
iPhone/iPod touch/iPad で AirPlay 再生時に音が途切れる。または AirPlay 再生ができない。	<ul style="list-style-type: none"> iPhone/iPod touch/iPad のバックグラウンドで起動しているアプリケーションを終了してから AirPlay 再生をしてください。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> 無線接続で再生している場合は、外部の影響を受けている可能性があります。無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くするなどネットワーク環境を変更してください。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> iPhone/iPod touch/iPad のアプリケーションまたは iTunes を最新のバージョンにアップデートしてください。 	-

【M-XPort】

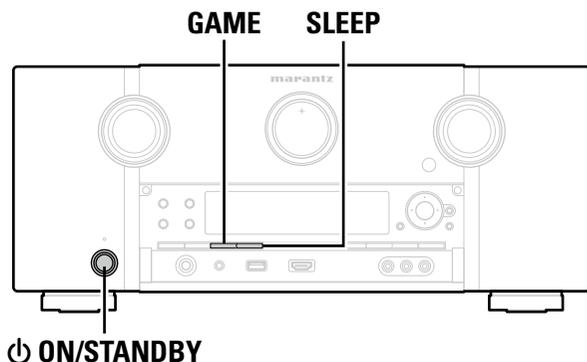
症状	原因/対策	関連ページ
ワイヤレスレシーバー (RX101) を接続時、音声が出力されない。	<ul style="list-style-type: none"> Bluetooth 機器とワイヤレスレシーバー (RX101) の間で、正しくペアリングされているか確認してください。 	32 、 174 、 177

【リモコン】

症状	原因/対策	関連ページ
リモコンを操作しても、正しく動作しない。	<ul style="list-style-type: none"> 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。 リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。 本機のリモコン受光部に強い光 (直射日光、インバーター式蛍光灯の光など) があたっています。受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。 リモコンを操作するゾーンの設定が合っていません。ZONE SELECT ボタンを押して、操作するゾーンを選んでください。 	163 163 163 163 163 39 、 94 、 109

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。



- 1 **ON/STANDBY** を押し、電源を切る。
- 2 **GAME** と **SLEEP** を同時に押しながら、**ON/STANDBY** を押す。
- 3 ディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅したら、2 つのボタンから指を離す。



手順 3 でディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、手順 1 からやり直してください。

保証と修理について

□保証書について

この製品には保証書が添付されています。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

□修理を依頼される時

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただかずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼される時

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼される時のために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

□依頼の際に

連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 …… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 … 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

□補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

□お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただきます場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

□ オーディオ部

- アナログ部
入力感度 / 入力インピーダンス : アンバランス入力 : 200mV/47k Ω
バランス入力 : 400mV/94k Ω
周波数特性 : 10Hz ~ 100kHz : +1, -3dB (DIRECT モード時)
S/N 比 : 105dB (IHF-A, DIRECT モード時)
ひずみ率 : 0.005% (20Hz ~ 20kHz) (DIRECT モード時)
定格出力 : アンバランス プリアウト出力 : 1.2V
バランス プリアウト出力 : 2.4V
- デジタル部
D/A 出力 : 定格出力 — 2V (0dB 再生時)
全高調波ひずみ率 — 0.008% (1kHz, 0dB)
S/N 比 — 102dB
ダイナミックレンジ — 100dB
フォーマット — デジタルオーディオインターフェース
- デジタル入力 :
フォーマット — デジタルオーディオインターフェース
- フォノ・イコライザー部
(PHONO 入力 — MEDIA PLAYER OUT)
入力感度 : 2.5mV
RIAA 偏差 : ± 1dB (20Hz ~ 20kHz)
S/N 比 : 74dB (IHF-A)
定格出力 : 150mV
ひずみ率 : 0.03% (1kHz, 3V 出力時)

□ ビデオ部

- 標準ビデオ端子
入出力レベル / インピーダンス : 1Vp-p, 75 Ω
周波数特性 : 5Hz ~ 10MHz : 0, -3dB
(メニューの“ビデオコンバージョン”設定が“オフ”のとき)
- コンポーネントビデオ端子
入出力レベル / インピーダンス : Y(輝度)信号 : 1Vp-p/75 Ω
PB/CB(青色)信号 : 0.7Vp-p/75 Ω
PR/CR(赤色)信号 : 0.7Vp-p/75 Ω
周波数特性 : 5Hz ~ 60MHz : 0, -3dB
(メニューの“ビデオコンバージョン”設定が“オフ”のとき)

□ チューナー部

(アンテナ入力 — MEDIA PLAYER OUT)

- FM 部
受信周波数範囲 : 76.0MHz ~ 90.0MHz
実用感度 : 1.2 μV (12.8dBf)
S/N 比 : モノ : 70dB (IHF-A, DIRECT モード時)
ステレオ : 67dB (IHF-A, DIRECT モード時)
ひずみ率 : モノ : 0.7% (1kHz, 100% 変調時)
ステレオ : 1.0% (1kHz, 90% 変調時)

□ スイッチングハブ

- 規格 : IEEE 802.3 (10 Base-T) 準拠
IEEE 802.3u (100 Base-TX) 準拠
- ポート数 : 4 ポート

□ 総合

- 電源 : AC 100V, 50/60Hz
- 消費電力 : 90W (電気用品安全法による)
- スタンバイ時の消費電力 : 0.2W
- CEC スタンバイ時の消費電力 : 0.5W
- ネットワークスタンバイ時の消費電力 : 5.1W

•仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
•本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

•本機は国内仕様です。
必ず AC 100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC 100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。



索引

数字	
2.1 チャンネル	93
3D	16
4K	16
5.1 チャンネル	92
6.1 チャンネル	92
A	
A2DP	32, 174
Adobe RGB color/Adobe YCC601 color	174
AirPlay	79, 174
ALAC	174
All Zone Stereo オフ	78
All Zone Stereo オン	78
App Store	174
ARC	13
Audyssey	119
Audyssey DSX [®]	89, 121
Audyssey Dynamic EQ [®]	120, 174
Audyssey Dynamic Surround Expansion	174
Audyssey Dynamic Volume [®]	120, 174
Audyssey LFC [™]	120, 174
Audyssey MultEQ [®] XT 32	119, 174
Audyssey [®] セットアップ	38, 94
B	
Bluetooth	32, 174
C	
Content Type	16

D	
Deep Color	16, 174
DLNA	174
Dolby	
Dolby Digital	86, 174
Dolby Digital EX	86, 174
Dolby Digital Plus	86, 174
Dolby Pro Logic II	86, 175
Dolby Pro Logic IIx	86, 175
Dolby Pro Logic IIz	86, 89, 175
Dolby TrueHD	86, 175
DTS	175
DTS 96/24	86, 175
DTS Digital Surround	175
DTS-ES Discrete 6.1	86, 175
DTS-ES Matrix 6.1	86, 175
DTS Express	86, 175
DTS-HD	86, 175
DTS-HD High Resolution Audio	175
DTS-HD Master Audio	175
DTS Neo:X	86, 89, 175
Dynamic EQ	120
Dynamic Volume	120
E	
EQ 調節	121
F	
FLAC	175
Flickr	71
FM	56
FM 室内アンテナ	31
H	
HDCP	16, 176
HDMI	12, 16, 176
HDMI ZONE4 機能	107
HDMI 音声出力	123
HDMI コントロール	98, 124
HDMI 設定	123
HDMI パススルー	124
Height ゲイン	117

I	
InstaPrevue	100
iPod ブラウズモード	51
i/p スケーラー	125
iTunes	176
L	
LFE	117, 176
M	
M-DAX	118
MP3	176
MPEG	176
MPEG-2 AAC	176
MultEQ [®] XT 32	119
S	
sYCC601 color	176
S. バック	134
T	
TV フォーマット	127
U	
USB 端子の選択	73
V	
vTuner	66, 176
W	
Windows Media DRM	176
Windows Media Player	176
WMA	176
X	
x.v.Color	176

あ	
アスペクト比	126
アップデート	145
アナログ入力	131
アナログビデオ出力	126
い	
一般	141
イルミネーションライト	106
色合い	123
色の濃さ	123
インターネットアクセス	140
う	
ウェブコントロール	102
え	
映像の選択	132
エラーメッセージ (Audyssey [®] セットアップ)	44
エンハンサー	116, 123
お	
オーディオ	115
オーディオディレイ	118
オーディオ入力の選択	132
オートスタンバイ	143
オートプリセットメモリー	59
オートリップシンク	123, 176
お気に入りから削除	76
お気に入りに登録	75
お知らせ POPUP	145
オンスクリーンディスプレイ	127
音量	119, 127
音量の上限	119, 142
音量レベル	142
か	
カーブコピー	121
解像度	126
画質調整	123
き	
距離	135
く	
グラフィック EQ	121
クロスオーバー周波数	136

🔍 け	
ケーブル	
HDMI ケーブル	14, 15
XLR ケーブル	18
イーサネットケーブル	18
オーディオケーブル	18, 34, 35
コンポーネントビデオケーブル	18
スピーカーケーブル	34, 35
同軸ケーブル	18
光伝送ケーブル	18
ビデオケーブル	18
ケーブル接続	140
結露	5
言語	142

🔍 こ	
高音	118, 142
故障かな？と思ったら	178
コントラスト	123
コントロールモニター	124

🔍 さ	
再生	
ALAC	53, 67
CD プレーヤー	49
DSD ダイレクト	81, 87
DVD プレーヤー	48
FLAC	53, 67
Flickr	71
FM	56
iPod (USB)	50
JPEG	53, 67
MP3	53, 64, 67
MPEG-4 AAC	53, 67
NAS	67
Super Audio CD	48
USB メモリー	53
WAV	53, 67
WMA	53, 64, 67
インターネットラジオ	64
オートサラウンド	82
オリジナルリスニングモード	87
ステレオ	87
ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4	109
ダイレクト	81, 87
パソコン	67
ピュアダイレクト	82, 87
ブルーレイディスクプレーヤー	48

再生画面	127
サウンドモード	81, 165
サブウーハー	116
サブウーハー 1 レベル	116
サブウーハー 2 レベル	116
サブウーハーの設定	39
サブウーハーレベル	116
サブウーハーレベルの調節	45
サラウンドバックスピーカー	90, 91
サラウンドパラメーター	116
サンプリング周波数	177

🔍 し	
主音量を調節する	48
使用ソースの選択	131
情報	127, 138, 144
オーディオ	144
ゾーン	144
ビデオ	144
ファームウェア	144
新機能の追加	146
診断	140

🔍 す	
ステージウィドス	121
ステージハイト	121
スピーカー	133
接続	91
設置	89
設定	38, 94
スピーカーの構成	134
スピーカーの選択方法	121
スライドショー	76
スライドショーの再生間隔	76
スリープタイマー	101, 109

🔍 せ	
接続	
7.1CH IN	33
CD プレーヤー	29
DC OUT 端子	97
DVD プレーヤー	15, 22
FM	31
HDMI	12
iPod (USB)	27
RS-232C	97
USB メモリー	27
衛星チューナー	21
外部のパワーアンプ	34
ケーブルテレビチューナー	21
ゲーム機	15, 24
サブウーハー	93
スピーカー	91
セットアップボックス	15, 21
テレビ	14, 20
電源コード	37
ビデオカメラ	15, 25
ブルーレイディスクプレーヤー	15, 23
ホームネットワーク (LAN)	36
メディアプレーヤー	15, 26
モバイル機器	15
リモートコントロール端子	96
レコードプレーヤー	30
ワイヤレスレシーバー	32
接続の設定	139
セットアップロック	146
センターゲイン	117
センター幅	117

🔍 そ	
ソースレベル	131
ゾーン	126
ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4	107, 160, 177
ゾーン 2 の設定	142
ゾーン 3 の設定	142
ゾーン名の変更	143
ゾーンモードの設定	39, 94
測定結果の確認	46

🔍 た	
ダイアログエンハンサー	116
ダイナミックレンジ	177
ダイナミックレンジ圧縮	116
ダイレクトチューニング	58
ダウンミックス	177

🔍 ち	
チャンネル	142
チャンネルインジケーター	143
チューニングモード	57

🔍 て	
低音	118, 136, 142
低音の位相補正	116, 177
ディスプレイ	159
ディスプレイの明るさ	143
ディメンション	117
テキスト検索	73
デコードモード	132
デジタル入力	131
デュアルバックアップメモリー機能	104
電源オン時の音量	119, 142

🔍 と	
登録商標	164
トーンコントロール	118
トリガーアウト 1/2	143

🔍 に	
入力信号	168
入力ソース	128
入力ソース名の変更	131
入力ソースを選ぶ	47
入力端子の割り当て	129
入力モード	132

🔍 ね	
ネットワーク	46, 137, 138

🔍 の	
ノイズ除去	123

は	
パーティカルストレッチ	124
ハイパスフィルター	142
バイリンガルモード	119
バススルーソース	124
パノラマ	117
パワーオフコントロール	125

ひ	
ピクチャーモード	77、123
左レベル	142
ビデオ	122
ビデオコンバージョン	10、125
ビデオ出力	124
ビデオ出力の設定	125
ビデオセレクト	132
ビデオモード	125
表示方法	119

ふ	
ファームウェア	145
フォーマット	127
付属品	5
ブライトネス	123
プリセットコード	147、187
プリセットスキップ	62
プリセットネーム	61
プリセットメモリー	60
フレンドリーネームの編集	138
プログレッシブ	177
プログレッシブモード	126
フロントキーロック機能	104
フロントディスプレイ	143
フロントハイト	134
フロントハイトスピーカー	90、91
フロントパネル	157
フロントワイド	134
フロントワイドスピーカー	90、91

へ	
ペアリング	177
ヘッドホン	158
編集	138

ほ	
ホームシアターEQ	116
本機の電源を入れる	47

ま	
マイコンの初期化	182
マニュアルセットアップ	134

み	
右レベル	142
ミュートイング	48
ミュートイングレベル	119、142

め	
メインゾーン	177
メニュー一覧	110
メンテナンスモード	140

も	
モード	118
文字	114
文字入力	114

よ	
抑制量	120

ら	
ラウドネスマネージメント	116
ランダム	52、74

り	
リアパネル	161
リスニングポイント	38
リスニングモード	81
リピート	52、74
リファレンスレベルオフセット	120
リモートロック機能	105
リモコン	147、162
学習機能	153
乾電池の入れかた	163
機器を操作する	151
使用するゾーンを指定する	155
接続機器を操作する	150
バックライトを設定する	155
プリセットコード登録	147

る	
ルーターアクセス	140

れ	
レベル	135

プリセットコード表

AVP

M	marantz	0000
----------	---------	------

TVグループ (1***)

A	Acer	1141
	Admiral	1009, 1089, 1002
	Aiko	1059
	Aiwa	1117, 1118
	Akai	1001
	Amtron	1023
	Anam	1113
	Anam National	1023, 1069, 1092
	AOC	1003, 1049, 1024, 1127
	Audiovox	1023
B	Bell & Howell	1009, 1025
	Benq	1104, 1142
	Broksonic	1097, 1098, 1113, 1003
C	Celebrity	1001
	Citizen	1003, 1023, 1059, 1063, 1026, 1013
	Colortyme	1003, 1043
	Contec/Cony	1045, 1047, 1023, 1113
	Craig	1023, 1113, 1020, 1022
	Crown	1023, 1067
	Curtis Mathes	1003, 1110, 1025, 1062, 1026, 1103, 1013
D	Daewoo	1003, 1059, 1024, 1084, 1101, 1013, 1035, 1036
	Daytron	1003, 1013, 1016
	Dimensia	1110, 1103
	Dumont	1010, 1003, 1153
E	Electroband	1001
	Electrohome	1003, 1133, 1001, 1069
	Emerson	1003, 1020, 1044, 1038, 1045, 1048, 1055, 1023, 1025, 1061, 1022, 1094, 1096, 1099, 1013, 1113, 1101, 1015, 1021
	Envision	1003
F	Fisher	1051, 1025, 1091, 1160
	Fujitsu	1038, 1124, 1125, 1155
	Funai	1038, 1023, 1113
G	Gateway	1150
	GE	1110, 1003, 1085, 1046, 1054, 1133, 1018, 1069, 1022, 1103, 1113, 1136, 1153
	Goldstar	1045, 1024, 1112, 1080, 1100, 1013, 1003, 1030, 1154
H	Hallmark	1003
	Hisense	1116

	Hitachi	1003, 1012, 1031, 1032, 1037, 1041, 1045, 1047, 1065, 1068, 1082, 1088, 1094, 1139, 1140, 1145, 1159
I	Infinity	1067
J	Janeil	1134
	JBL	1067
	JC Penney	1003, 1046, 1047, 1054, 1133, 1110, 1019, 1112, 1024, 1063, 1018, 1026, 1083, 1085, 1100, 1103, 1013, 1154
	Jensen	1003
	JVC	1045, 1047, 1050, 1060, 1065, 1028, 1029
K	Kawasho	1003, 1001
	Kenwood	1003
	Kloss Novabeam	1056, 1023, 1057, 1134
	KTV	1023, 1073, 1099, 1013, 1113, 1033, 1034
L	LG	1024, 1030
M	M.Wards	1002, 1009, 1038
	Magnavox	1003, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1081, 1067, 1106
	marantz	1000, 1003, 1122, 1067, 1031
	Mitsubishi	1003, 1051, 1133, 1122, 1024, 1115
	Motorola	1069, 1014
N	NEC	1003, 1043, 1024, 1069, 1012
	NET-TV	1137, 1150
O	Orion	1020, 1096
P	Panasonic	1017, 1067, 1069, 1111, 1095
	Philips	1003, 1045, 1052, 1054, 1056, 1057, 1058, 1063, 1069, 1067, 1011
	Philips Magnavox	1106, 1067
	Pioneer	1003, 1018, 1070, 1071, 1037, 1094, 1145, 1147, 1149
	Plasmsync	1135
	Portland	1003, 1059, 1024, 1013
	Price Club	1026
	Prism	1018
	Proscan	1110, 1085, 1103, 1004, 1005, 1006, 1007, 1008
	Proton	1003, 1045
Q	Quasar	1069, 1073, 1111, 1010, 1153
R	Radio Shack	1025, 1103, 1113, 1024
	Radio Shack/Realistic	1003, 1045, 1023, 1110, 1025, 1015, 1100, 1013

	RCA	1110, 1003, 1049, 1024, 1069, 1075, 1079, 1085, 1087, 1088, 1093, 1094, 1101, 1103, 1085, 1113, 1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1153, 1014
	Realistic	1025, 1103
	Runco	1010, 1153
S	Sampo	1150
	Sampo	1150
	Samsung	1003, 1045, 1024, 1062, 1026, 1078, 1083, 1090, 1100, 1013, 1105, 1040, 1114, 1157, 1120, 1121, 1148, 1146
	Sansui	1119
	Sanyo	1003, 1051, 1025, 1072, 1077, 1091, 1156, 1157, 1158
	Sharp	1003, 1045, 1055, 1015, 1064, 1066, 1076, 1089, 1013, 1014, 1123
	Signature	1009
	Sony	1001, 1102, 1108
	Soundesign	1003, 1038, 1023, 1063, 1113
	Starlite	1023
	Supre-Macy	1134
	Sylvania	1003, 1042, 1052, 1053, 1063, 1056, 1057, 1067, 1089, 1151, 1039
	Symphonic	1044, 1023, 1039
T	Tandy	1014
	Tatung	1069
	Technics	1018
	Techwood	1003, 1018
	Teknika	1003, 1009, 1038, 1045, 1047, 1063, 1023, 1059, 1024, 1063, 1026, 1111, 1013, 1113
	Telecaption	1074
	Toshiba	1042, 1025, 1074, 1026, 1098, 1003, 1107, 1019, 1136, 1111, 1135
	Totevision	1013
U	Universal	1046, 1054
V	Video Concepts	1113
	Viewsonic	1130, 1128, 1006, 1131, 1129, 1109, 1143, 1150, 1022, 1145, 1138
	Wards	1003, 1009, 1044, 1038, 1046, 1052, 1054, 1056, 1110, 1057, 1024, 1015, 1067, 1086, 1103
W	White Westinghouse	1101, 1001
Y	Yamaha	1003, 1024
Z	Zenith	1132, 1010, 1003, 1009, 1144, 1153

DVDグループ (2***)

A	Aiwa	2036, 2037
	Apex	2017, 2034, 2018, 2019, 2021, 2012
B	Bluray	2064
	BOSE	2038, 2039, 2063
D	Denon	2047, 2048
F	Funai	2049
G	GE	2020, 2029, 2033, 2009
H	Harman Kardon	2061
	Hitachi	2031, 2012, 2008
J	JVC	2006, 2010, 2040, 2041, 2042, 2043
K	Kenwood	2054, 2053
	Koss	2058
M	Magnavox	2023, 2025, 2011, 2007
	marantz	2000, 2025, 2065
	Mitsubishi	2011, 2015
O	Onkyo	2062
	Oritron	2030, 2009
P	Panasonic	2003, 2015, 2016, 2055
	Philips	2007, 2011, 2058
	Pioneer	2002, 2014, 2056
	Proscan	2020, 2032, 2009
R	RCA	2020, 2005, 2009, 2035, 2057
S	Sampo	2041
	Samsung	2008, 2022, 2024, 2027, 2012
	Sanyo	2050, 2052
	Sharp	2044, 2045
	Sherwood	2051
	Sony	2001, 2013, 2059
T	Toshiba	2004, 2026, 2028, 2008
Y	Yamaha	2046, 2060
Z	Zenith	2010

CDグループ (3***)

A	AIWA	3001, 3002, 3003
	AKAI	3004, 3005, 3006
	AUDIO	3007
	AUDIO LABS	3008
C	CALIFORNIA	3008
	CARVER	3010, 3011, 3009
	CASIO	3012, 3020
	CURTIS	3020, 3012
D	Denon	3013
E	EMERSON	3014
F	FISHER	3011, 3015, 3016, 3017, 3018

G	GE	3019
	GENEXXA	3014, 3021, 3020
H	HARMON	3022, 3023, 3051
	HITACHI	3020
I	INKEL	3024
J	JC PENNEY	3012, 3020, 3025
	JVC	3026, 3027
K	KARDON	3022, 3051, 3023
	KENWOOD	3028, 3029, 3030, 3031, 3032, 3033
	KRELL	3010
L	LUXMAN	3035, 3036, 3037, 3038
	LX I	3012, 3020, 3014
M	MAGNAVOX	3010, 3039, 3040
	marantz	3000, 3010, 3041, 3042, 3043
	MATHES	3012, 3020
	MCS	3012, 3020
	MGA	3023
	MISSION	3010
	MITSUBISHI	3023, 3044
N	NAD	3034, 3045
	NAKAMICHI	3046, 3047, 3048
	NEC MCS	3025
	NIKKO	3007, 3016
O	ONKYO	3049, 3050, 3051, 3052, 3055, 3102, 3103
	OPTIMUS	3011, 3014, 3020, 3028, 3053, 3054, 3056, 3057, 3058, 3059
P	PANASONIC	3008, 3060, 3061
	PHILIPS	3009, 3010, 3010, 3040
	PIONEER	3020, 3021, 3062, 3063, 3064
Q	QUASAR	3008
R	RCA	3011, 3014, 3065, 3066, 3067, 3068, 3069
	REALISTIC	3011, 3014, 3020, 3042, 3054, 3057
	ROTEL	3010
	RS ORIGINAL	3070
S	SAE	3010, 3083
	SAMSUNG	3071
	SANSUI	3014, 3068, 3072, 3073
	SANYO	3011, 3018, 3074, 3075, 3076
	SCOTT	3014
	SEARS	3012, 3014, 3020, 3028, 3042
	SHARP	3028, 3042, 3077
	SHERWOOD	3042, 3056, 3070, 3078, 3024
	SHURE	3025

SONY	3039, 3079, 3080, 3081, 3082, 3097, 3098, 3099, 3100, 3101
SYLVANIA	3010
SYMPHONIC	3083
T TEAC	3016, 3042, 3057, 3083, 3084, 3085, 3086
TECHNICA	3007, 3008, 3061, 3087, 3088
THETA DIGITAL	3040
TOSHIBA	3045
V VICTOR	3026
Y YAMAHA	3007, 3089, 3090, 3091, 3092
Z ZENITH	3016, 3093, 3094, 3095, 3096

CBL/SATグループ (4***)

A Alphastar	4027
Amstrad	4046, 4047, 4050
Apple TV	4068
Atsky	4048
B BSkyB	4021, 4045, 4046
C Chaparral	4039
D Direct Tv	4001, 4016, 4044
DISH Network	4030
Drake	4026
E Echostar	4007, 4017, 4018, 4019, 4020, 4062, 4063, 4064
Eurosky	4056, 4047
Express Vu	4017
F Foxtel	4051
Freesat	4056
Fujitsu	4025
G GE	4002, 4008, 4009
General Instruments	4036, 4037
Gradiente	4044, 4057
H Hitachi	4001, 4015
Hughes Network	4001, 4016
Humax	4049, 4050, 4051, 4052, 4053
J Janeil	4025
JVC	4017
L LG Smart TV	4069
M marantz	4000
Mitsubishi	4001
N NETGEAR Neo TV	4072
Nokia	4058, 4059, 4060, 4061
O Optima	4048
P Panasonic	4004, 4010
Philips	4031, 4044, 4057, 4035
Proscan	4002, 4008, 4009, 4011
R Radio Shack	4036, 4037
RCA	4002, 4008, 4009, 4029
Realistic	4040

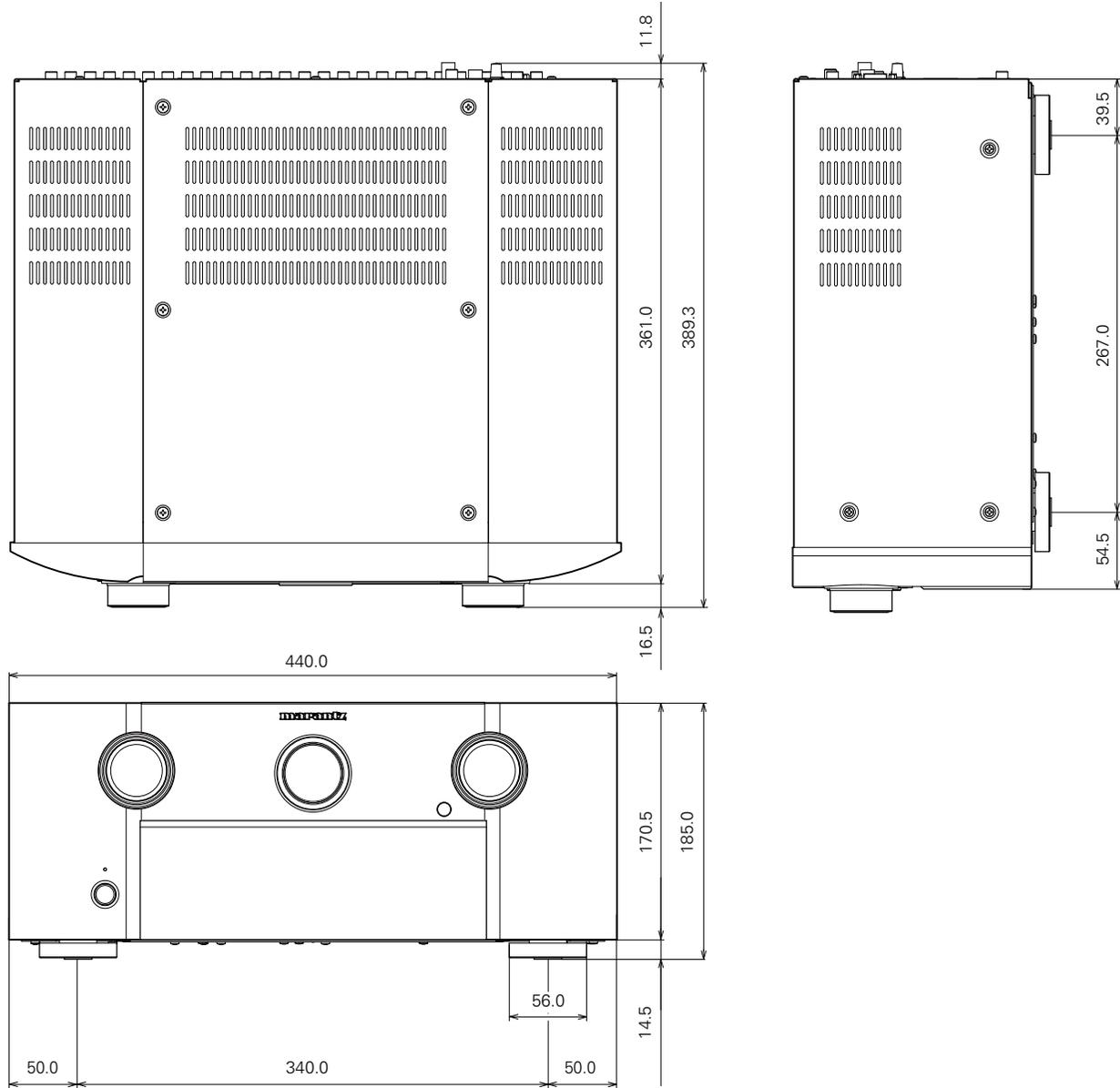
Roku XDS	4073
Rural Cable	4036
S Samsung	4022, 4027, 4042, 4043, 4054, 4055, 4050
Schneider	4041, 4043
SKY	4044, 4045, 4057
Skyplus	4048
Skysat	4041, 4047, 4056
Sony	4003, 4012, 4014, 4065, 4066, 4067, 4070
Star Choice	4032
Star Trak	4024
STS	4038
SuperDish	4028
T Teac	4049
Thomson	4046, 4056
Toshiba	4001, 4034
U Universum	4056
Uniden	4005, 4006, 4013
V Video Pall	4025
W Western Digital WD TV	4071
Z Zenith	4033, 4025, 4023

BDグループ (5***)

D Denon	5034, 5035, 5036
H Hitachi	5031, 5032, 5033
I Integra	5013
J JVC	5014, 5015, 5017, 5018, 5019, 5020
L LG	5010, 5011
M marantz	5000, 5026, 5027
Mitsubishi	5024, 5025
O Onkyo	5013
P Panasonic	5001, 5002, 5003
Philips	5004
Pioneer	5005
R RCA	5012
S Samsung	5005
Sharp	5028, 5029, 5030
Sony	5007, 5008, 5009, 5016
T Toshiba	5012
Y Yamaha	5021, 5022, 5023

寸法

単位：mm



質量：13.9kg

marantz®

お客様ご相談センター

☎ 0570 (666) 112

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

IP電話をご利用の場合など、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。その場合は 03 (3570) 5138 におかけください。

受付時間 9:30 ~ 17:30
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)

〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル

修理に関するお問い合わせは、
添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」をご覧ください。

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

当社の最新情報をインターネット上でご覧ください。

<http://www.marantz.jp>